

あいさつ

八女市では、「かけがえのない命が輝くまちづくり」を目指し、様々な人権問題の解決に向けて各種の事業を進めてまいりました。

しかしながら、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者等に対する人権問題は依然として存在しており解決には至っておりません。

近年では、情報化の進展に伴うインターネットによる人権侵害や犯罪被害者、性的少数者、新型コロナウイルス感染者等への新たな人権問題も発生しております。

このような人権問題に関する事件が後を絶たない状況の中、市民一人ひとりが人権・同和問題を自分の問題として捉え、正しい知識を身につけること、他人の人権をも相互に尊重していくことが求められております。

また、国は、平成28年に個別の人権問題解決のための、「障害者差別解消法」、「ヘイトスピーチ解消法」及び「部落差別解消推進法」を施行しました。

こうしたことから市民の意識を把握し、今後の人権問題に関する施策をさらに推進していくため、「八女市人権問題に関する市民意識調査」を実施いたしました。

本意識調査の結果を踏まえ、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に基づき、これまで取り組んできました人権施策の検証を行い、より効果的な人権教育及び啓発に努めてまいり所存です。

本意識調査の実施にあたり、御協力いただいた市民の方々はもとより、多大な御尽力をいただきました関係機関、公益社団法人福岡県人権研究所のみなさまに厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

八女市長 三田村 統之

目次

一	調査の概要	1
二	調査結果の分析	4
I	人権問題全般について	4
問 1	人権が尊重されている社会と思うか	4
問 2	関心がある人権問題	8
問 3	差別された事柄	14
問 4	人権が侵害された時の対処	19
問 5	疑問に思う風習や習慣	23
問 6	人権問題に関する研修	28
問 7	障害者差別解消法について	32
問 8	ヘイトスピーチ解消法について	36
問 9	部落差別解消推進法について	40
問 10	児童虐待防止法及び高齢者虐待防止法について	44
	<人権全般に関するまとめ>	48
II	同和問題について	49
問 1 1	同和問題について知った時期	49
問 1 2	同和問題に関する知識や情報提供者について	53
問 1 3	同和地区住民の人権問題について	59
問 1 4	同和地区出身者との結婚について	65
問 1 5	同和問題を解決するための施策や取組について	70
	<同和問題に関するまとめ>	75
III	さまざまな人権問題について	76
問 1 6	女性の人権問題について	76
問 1 7	子どもの人権問題について	81
問 1 8	高齢者の人権問題について	86
問 1 9	障がい者の人権問題について	91
問 2 0	外国人の人権問題について	96
問 2 1	インターネット上の人権侵害について	102
問 2 2	性的少数者の人権問題について	108
	<さまざまな人権問題に関するまとめ>	114

IV	市が行っている啓発活動について	116
問 2 3	広報八女人権のページ「なぜなぜ人権」について	116
問 2 4	人権問題に関する知識や情報を得る手段	120
問 2 5	今後の行政施策で重要と思うもの	125
	<人権問題や人権行政への意見や要望（自由記述）>	130
V	クロス分析	139
問 5 × 問 1 4	…<疑問に思う風習や習慣> × <結婚問題>	139
問 6 × 問 1 4	…<人権問題に関する研修> × <結婚問題>	141
問 6 × 問 1 5	…<人権問題に関する研修> × <同和問題解決の施策や取組>	143
問 1 1 × 問 1 4	…<同和問題を知った時期> × <結婚問題>	146
問 1 2 × 問 1 4	…<同和問題の情報提供者> × <結婚問題>	148
問 2 3 × 問 1 4	…<「なぜなぜ人権」を読んだ経験> × <結婚問題>	150
問 1 2 × 問 1 5	…<同和問題の情報提供者> × <同和問題解決の施策や取組>	152

資料

- 令和 2 年度「八女市人権問題に関する市民意識調査」調査票

一 調査の概要

1 調査の目的

八女市民の人権・同和問題に関する意識を把握し、人権教育・啓発事業等の人権施策の効果的な推進を図るとともに、今後の本市が取り組むべき人権・同和行政のあり方を検討する上での基礎資料を得るために実施するものである。

2 調査対象

令和2（2020）年6月1日現在の住民基本台帳データファイルから、無作為に抽出した18歳以上の3,000名を対象にした。

3 調査方法

郵送による配布・回収法

4 回収状況

対象者3,000名に対して回収数は1,343票、回収率44.7%であった。

5 調査期間

令和2（2020）年6月23日（火）～7月31日（金）

6 調査機関

八女市市民部 人権・同和政策・男女共同参画推進課

7 調査委託先

公益社団法人 福岡県人権研究所

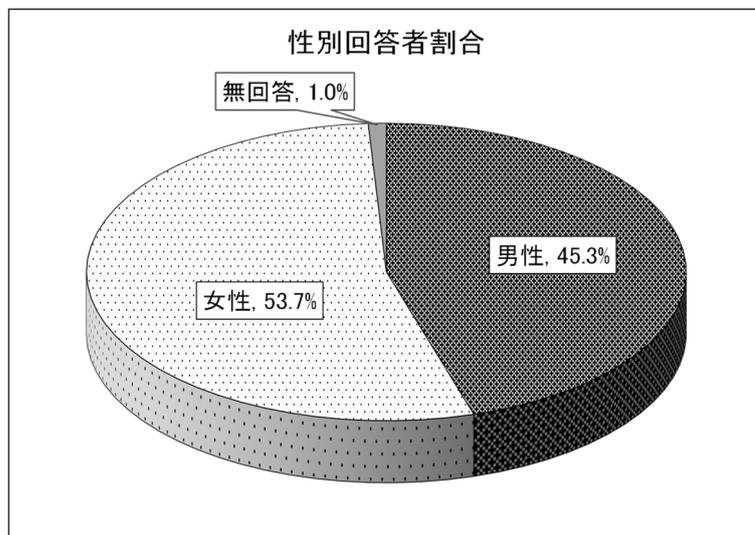
8 有効回答者の概要

ア 性別

有効回答者 1,343 名中、女性が 722 名 (53.7%)、男性が 608 名 (45.3%)、性別無回答者が 13 名 (1.0%) であり、女性の回答傾向が、全体の数字に影響を与えていると言える。

なお、比較の対象とした平成 28 年に実施された「人権問題に関する県民意識調査」では、女性が 54.7% に対し男性が 40.8% となっている。

	回答者数	割合
男性	608	45.3%
女性	722	53.7%
無回答	13	1.0%
合計	1343	100.0%

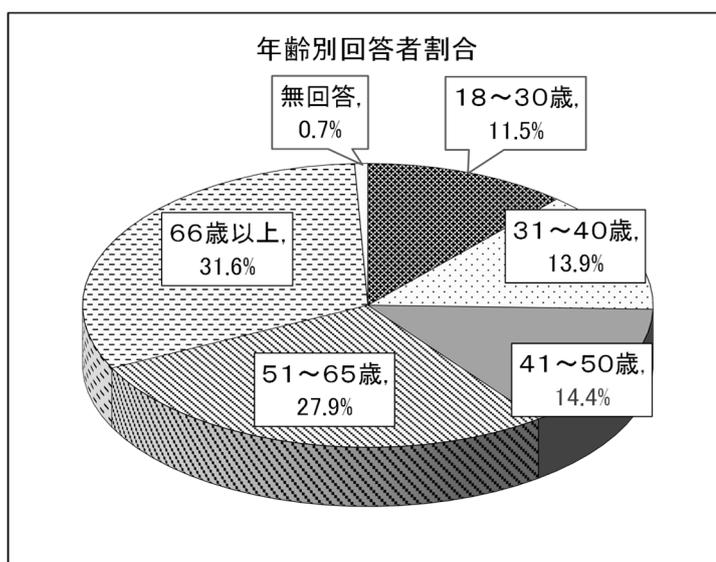


イ 年齢

年齢別回答者数は、「18～30歳」が 155 名 (11.5%)、「31歳～40歳」が 187 名 (13.9%)、「41～50歳」が 193 名 (14.4%)、「51歳～65歳」が 374 名 (27.9%)、「66歳以上」が 424 名 (31.6%)、年齢無回答者が 10 名 (0.7%) となっており、51歳以上の回答者の割合が 59.5% に上り、その回答傾向が、全体の数字に大きな影響を与えていると言える。また、人権・同和教育が広く行われていなかった時代に学生生活を送った「66歳以上」の回答者が、3割以上存在することにも留意する必要がある。

なお、比較の対象とした平成 28 年に実施された「人権問題に関する県民意識調査」では、「50歳以上」が 61.7%、「60歳以上」が 43.3% となっている。

	回答者数	割合
18～30歳	155	11.5%
31～40歳	187	13.9%
41～50歳	193	14.4%
51～65歳	374	27.9%
66歳以上	424	31.6%
無回答	10	0.7%
合計	1343	100.0%



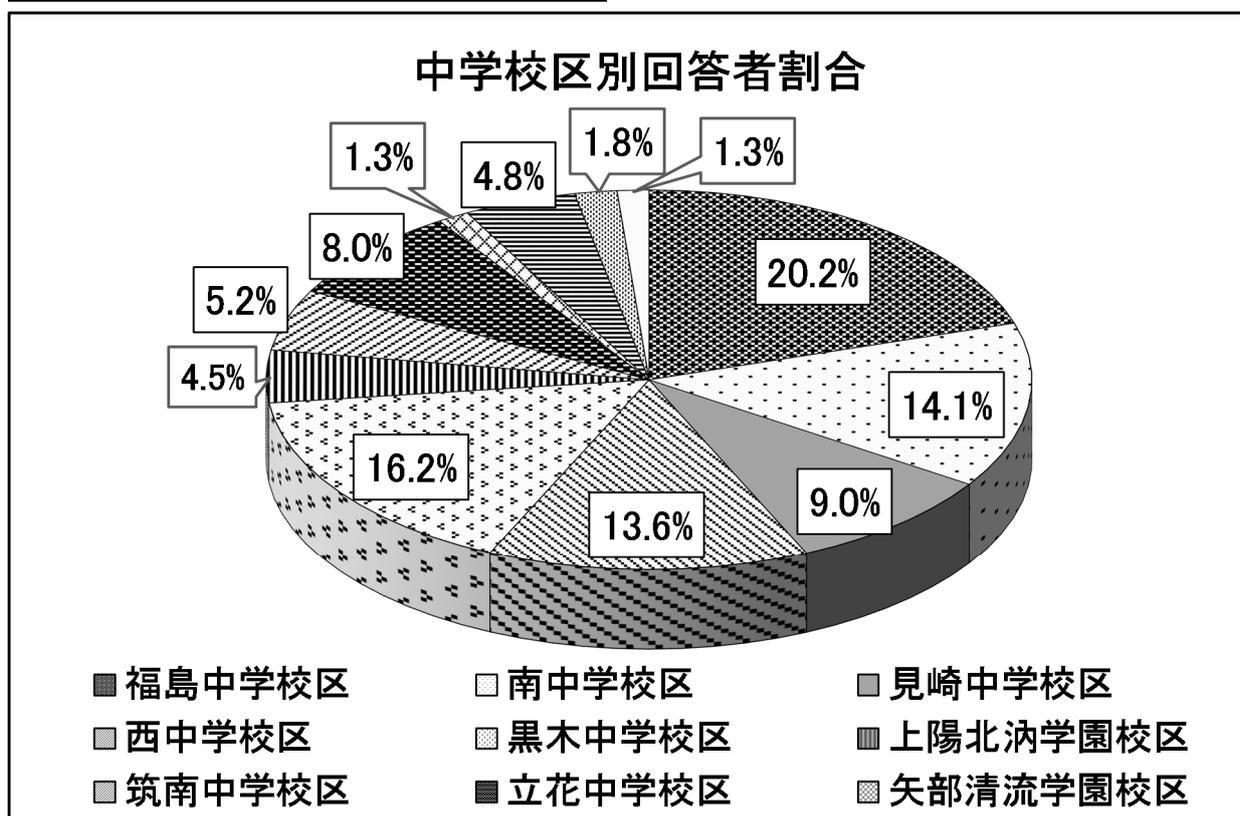
ウ 居住する中学校区

中学校区別の回答者総数が100名未満であった校区が、矢部清流学園校区の18名、上陽北浜学園校区の60名、星野中学校区の64名、筑南中学校区の70名の4校区存在するが、これらの中学校区別の数字については、回答者総数を考慮しながら、他と比較していく必要がある。特に、矢部清流学園校区については、参考として見るのが適切であろう。

また、回答者がその校区に一定年数以上居住しているとは限らないこともあり、前回調査との比較において、設問によって大きな増減が見られた校区もあったため、校区別の考察については、今後の教育や啓発の取り組みにおいて特に必要と思われる設問においてのみ行うこととした。

	回答者数	割合
福島中学校区	271	20.2%
南中学校区	189	14.1%
見崎中学校区	121	9.0%
西中学校区	182	13.6%
黒木中学校区	218	16.2%
上陽北浜学園校区	60	4.5%
筑南中学校区	70	5.2%
立花中学校区	108	8.0%
矢部清流学園校区	18	1.3%
星野中学校区	64	4.8%
分からない	24	1.8%
無回答	18	1.3%
合計	1343	100.0%

※調査は無作為抽出のため、校区の居住人口が少ないところは回答者数も少なくなっています。



二 調査結果の分析

I 人権問題全般についておたずねします

問1 今の日本は、人権が尊重されている社会だと思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

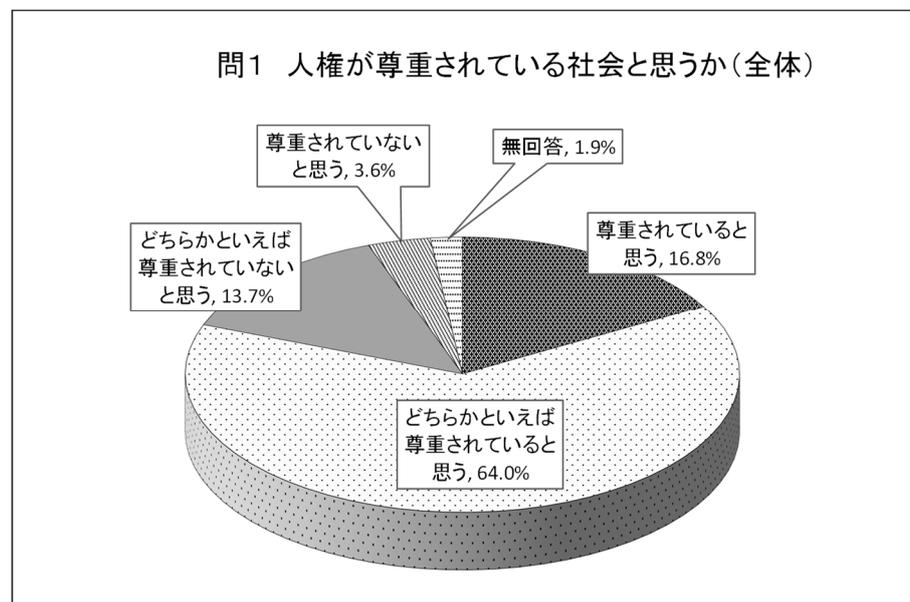
「尊重されていると思う」と回答した者の割合は16.8%（前回調査16.9%・以下前回）である。この数字は、平成28年に福岡県が実施した「人権問題に関する県民意識調査（以下県民意識調査）」の同様の質問で、「尊重されていると感じる」と回答した者の割合22.1%より5.3ポイント（前回調査と平成23年県民意識調査の比較では3.4ポイント・以下前回比較）低くなっている。

しかし、「尊重されていないと思う」と回答した者の割合は3.6%（前回3.7%）で、「県民意識調査」の同様の質問で、「尊重されているとは感じない」と回答した者の割合14.5%より10.9ポイント（前回比較11.3ポイント）低くなっている。

性別の回答傾向を比べてみると、「尊重されていると思う」と回答した男性が、19.6%であったのに対し女性は14.7%と、4.9ポイント（前回8.5ポイント）男性の方が高くなっているのに対し、「どちらかといえば尊重されていないと思う」では3.4ポイント（前回4.2ポイント）、女性の回答率が男性の回答率より高くなっている。

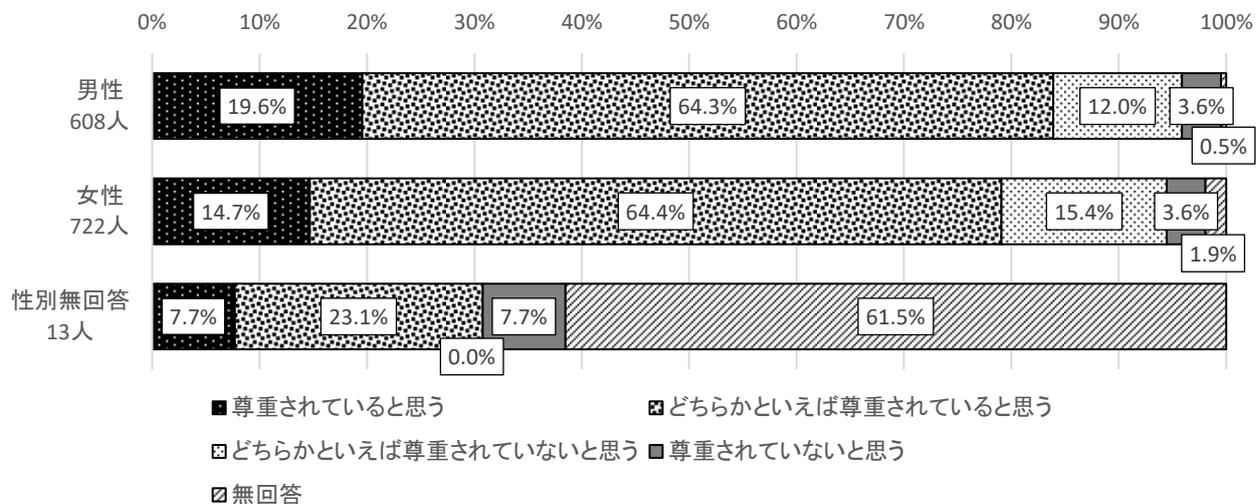
前回の調査から一定の改善が見られるものの、男女共同参画社会の実現を考える上で、参考にすべき数字であろう。

年齢別傾向を見ていくと、「尊重されていると思う」と「どちらかといえば尊重されていると思う」を合計した割合が、「18～30歳」の74.8%（前回73.9%）から「66歳以上」の87.0%（前回80.7%）まで、徐々に増加していることが分かる。この傾向は、前回調査と同様ではあるが、高齢者虐待や高齢者の孤立など、高齢者の人権が問題とされることが多い現在において、「66歳以上」の数字が、前回調査より6.3ポイント増加していることは注目に値する。

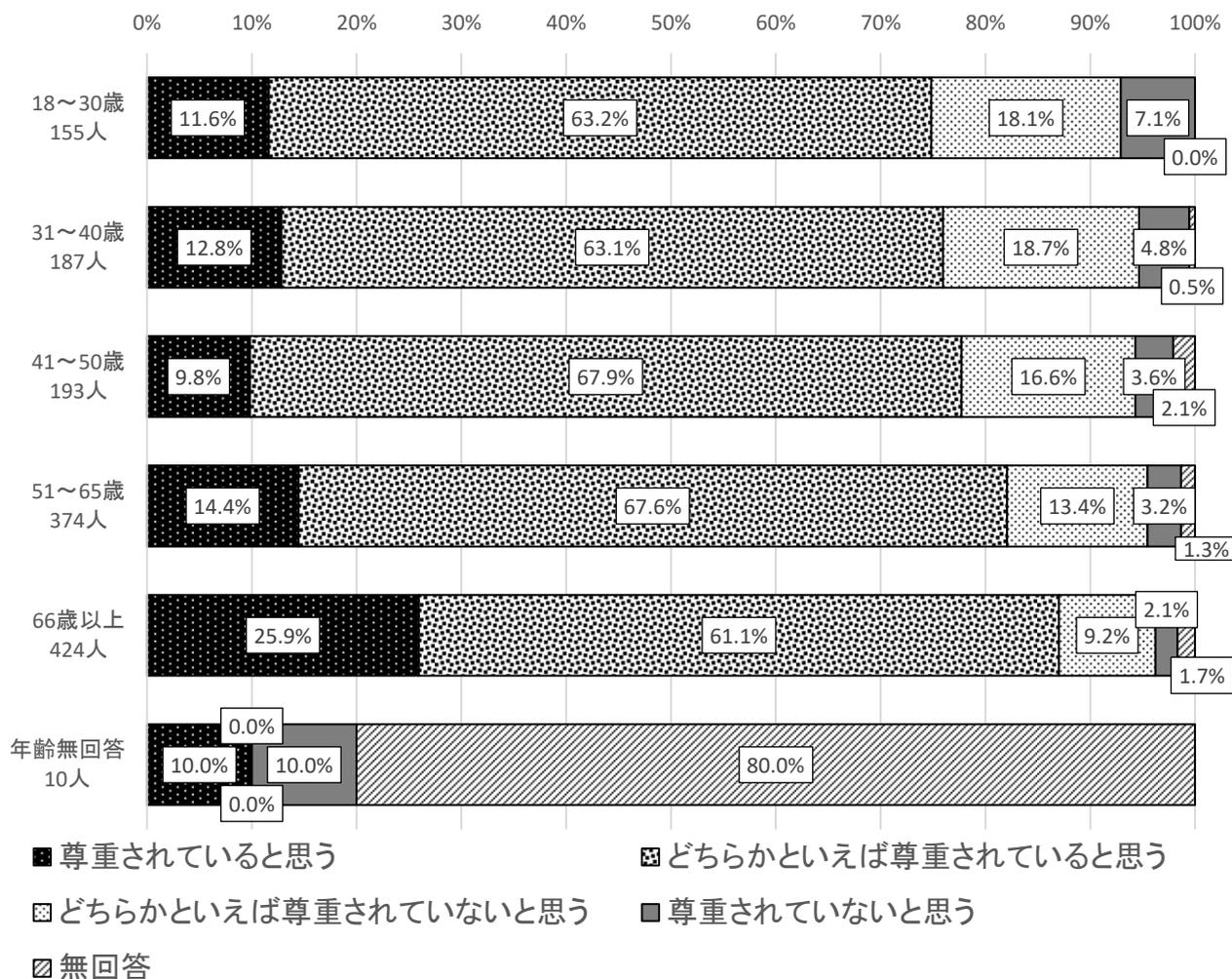


問 1			人権が尊重されている社会と思うか				
			尊重されている と思う	どちらかといえ ば尊重されてい ると思う	どちらかといえ ば尊重されてい ないと思う	尊重されていな いと思う	無回答
性別	男性	回答人数	119	391	73	22	3
	608人	性別 内の割合	19.6%	64.3%	12.0%	3.6%	0.5%
		問 1 内の割合	52.7%	45.5%	39.7%	44.9%	12.0%
女性	女性	回答人数	106	465	111	26	14
	722人	性別 内の割合	14.7%	64.4%	15.4%	3.6%	1.9%
		問 1 内の割合	46.9%	54.1%	60.3%	53.1%	56.0%
性別 無回答	性別	回答人数	1	3	0	1	8
	無回答	性別 内の割合	7.7%	23.1%	0.0%	7.7%	61.5%
	13人	問 1 内の割合	0.4%	0.3%	0.0%	2.0%	32.0%
年齢	18～30歳	回答人数	18	98	28	11	0
	155人	年齢 内の割合	11.6%	63.2%	18.1%	7.1%	0.0%
		問 1 内の割合	8.0%	11.4%	15.2%	22.4%	0.0%
	31～40歳	回答人数	24	118	35	9	1
	187人	年齢 内の割合	12.8%	63.1%	18.7%	4.8%	0.5%
		問 1 内の割合	10.6%	13.7%	19.0%	18.4%	4.0%
	41～50歳	回答人数	19	131	32	7	4
	193人	年齢 内の割合	9.8%	67.9%	16.6%	3.6%	2.1%
		問 1 内の割合	8.4%	15.3%	17.4%	14.3%	16.0%
	51～65歳	回答人数	54	253	50	12	5
374人	年齢 内の割合	14.4%	67.6%	13.4%	3.2%	1.3%	
	問 1 内の割合	23.9%	29.5%	27.2%	24.5%	20.0%	
66歳以上	回答人数	110	259	39	9	7	
	424人	年齢 内の割合	25.9%	61.1%	9.2%	2.1%	1.7%
		問 1 内の割合	48.7%	30.2%	21.2%	18.4%	28.0%
年齢 無回答	年齢	回答人数	1	0	0	1	8
	無回答	年齢 内の割合	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	80.0%
	10人	問 1 内の割合	0.4%	0.0%	0.0%	2.0%	32.0%
校区	福島中	回答人数	57	178	26	9	1
	271人	校区 内の割合	21.0%	65.7%	9.6%	3.3%	0.4%
		問 1 内の割合	25.2%	20.7%	14.1%	18.4%	4.0%
	南中	回答人数	32	120	29	5	3
	189人	校区 内の割合	16.9%	63.5%	15.3%	2.6%	1.6%
		問 1 内の割合	14.2%	14.0%	15.8%	10.2%	12.0%
	見崎中	回答人数	19	77	20	4	1
	121人	校区 内の割合	15.7%	63.6%	16.5%	3.3%	0.8%
		問 1 内の割合	8.4%	9.0%	10.9%	8.2%	4.0%
	西中	回答人数	26	123	22	11	0
	182人	校区 内の割合	14.3%	67.6%	12.1%	6.0%	0.0%
		問 1 内の割合	11.5%	14.3%	12.0%	22.4%	0.0%
	黒木中	回答人数	31	145	31	6	5
	218人	校区 内の割合	14.2%	66.5%	14.2%	2.8%	2.3%
		問 1 内の割合	13.7%	16.9%	16.8%	12.2%	20.0%
	上陽北浜学園	回答人数	7	40	10	2	1
	60人	校区 内の割合	11.7%	66.7%	16.7%	3.3%	1.7%
		問 1 内の割合	3.1%	4.7%	5.4%	4.1%	4.0%
	筑南中	回答人数	10	44	13	2	1
	70人	校区 内の割合	14.3%	62.9%	18.6%	2.9%	1.4%
	問 1 内の割合	4.4%	5.1%	7.1%	4.1%	4.0%	
立花中	回答人数	19	69	15	3	2	
108人	校区 内の割合	17.6%	63.9%	13.9%	2.8%	1.9%	
	問 1 内の割合	8.4%	8.0%	8.2%	6.1%	8.0%	
矢部清流学園	回答人数	7	7	3	1	0	
18人	校区 内の割合	38.9%	38.9%	16.7%	5.6%	0.0%	
	問 1 内の割合	3.1%	0.8%	1.6%	2.0%	0.0%	
星野中	回答人数	13	35	12	3	1	
64人	校区 内の割合	20.3%	54.7%	18.8%	4.7%	1.6%	
	問 1 内の割合	5.8%	4.1%	6.5%	6.1%	4.0%	
校区不明	回答人数	4	15	3	2	0	
24人	校区 内の割合	16.7%	62.5%	12.5%	8.3%	0.0%	
	問 1 内の割合	1.8%	1.7%	1.6%	4.1%	0.0%	
校区 無回答	校区	回答人数	1	6	0	1	10
	無回答	校区 内の割合	5.6%	33.3%	0.0%	5.6%	55.6%
	18人	問 1 内の割合	0.4%	0.7%	0.0%	2.0%	40.0%
合計	回答人数	226	859	184	49	25	
1343人	合計に対する割合	16.8%	64.0%	13.7%	3.6%	1.9%	

問1 人権が尊重されている社会と思うか(性別)



問1 人権が尊重されている社会と思うか(年齢別)



問1 人権が尊重されている社会と思うか(校区別)



問2 日本の社会には、基本的人権にかかわるさまざまな人権問題があります。次の中から、あなたが関心を寄せるものすべてに○をつけてください。

複数回答の設問である。八つの課題への関心度をまとめてみると以下のようになった。

1 「インターネットによる人権侵害に関する問題」	802名(59.7%)	県民意識調査 43.2%
2 「障がい者の人権に関する問題」	614名(45.7%)	県民意識調査 56.3%
3 「女性の人権に関する問題」	550名(41.0%)	県民意識調査 41.5%
4 「子どもの人権に関する問題」	500名(37.2%)	県民意識調査 40.8%
5 「高齢者の人権に関する問題」	424名(31.6%)	県民意識調査 46.6%
6 「同和問題」	367名(27.3%)	県民意識調査 28.2%
7 「外国人の人権に関する問題」	272名(20.3%)	県民意識調査 16.3%
8 「性的少数者の人権に関する問題」	260名(19.4%)	県民意識調査 12.9%・14.4% ^(※1)

県民意識調査と比べ、5.0ポイント以上の差があった課題をみると、「インターネットによる人権侵害」に対する関心で16.5ポイント、「性的少数者の人権」に対する関心で5.0～6.5ポイント（※1:県民意識調査の前者は性的指向に関する人権問題・後者は性自認に関する人権問題）、八女市調査の方が高くなっているが、「障がい者の人権」に対する関心で10.6ポイント、「高齢者の人権」に対する関心で17.0ポイント、県民意識調査の方が高くなっている。

また、「インターネットによる人権侵害」に対する関心は、前回比較でも10.8ポイント、県民意識調査よりも高くなっていたが、同じく前回比較で6.6ポイント県民意識調査よりも高かった「高齢者の人権」に対する関心が、今回逆に17.0ポイントも低くなっていることには、問1で人権が「尊重されていると思う」「どちらかと言えば尊重されていると思う」と回答した「66歳以上」の数字が、前回調査より6.3ポイント増加していたことが関連している可能性がある。

この他、前回比較では、「同和問題」への関心が八女市の方が6.9ポイント低くなっていたが、今回は0.9ポイント差に縮まっていたのに対し、9.6ポイント高かった「子どもの人権」への関心が、逆に3.6ポイント低くなっていただけでなく、10.1ポイント高かった「女性の人権」に対する関心も、0.5ポイント低くなっているなど、前回比較とは大きな違いが生まれている。

調査時期のマスコミ報道等の影響を受けやすい設問ではあるが、前回比較とのこのような相違点については、留意する必要がある。

いずれの問題にも「関心がない」と回答した者は4.8%（前回3.4%）で、県民意識調査（4.4%）とほぼ同じ割合である。

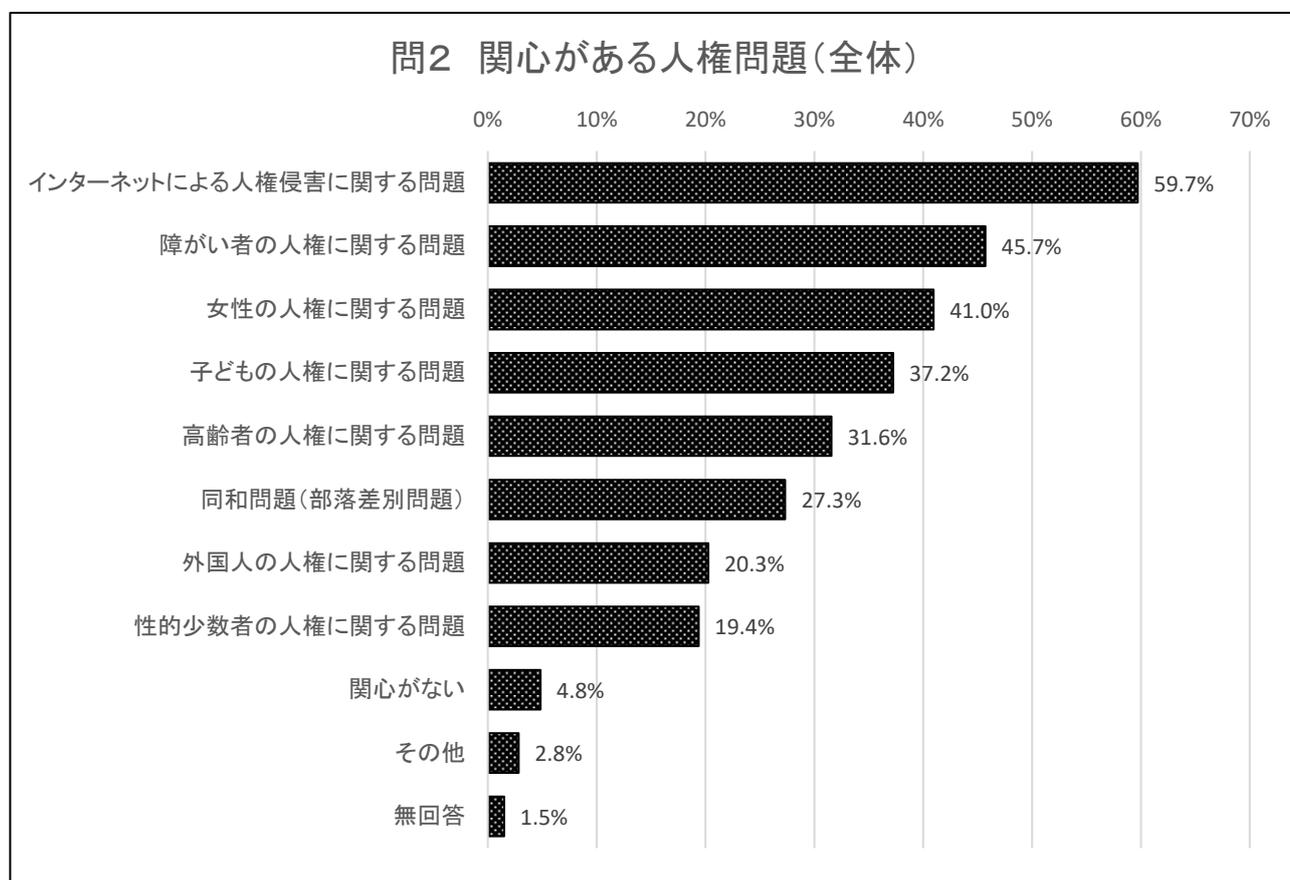
5.0ポイント以上、性別による回答傾向の違いが見られたのは、男性の方が多かった「同和問題」（女性—22.9%、男性—32.9%）と、女性の方が多かった「子どもの人権」（女性—41.6%、男性—32.6%）、「女性の人権」（女性—51.7%、男性—28.9%）、「性的少数者の人権」（女性—22.0%、男性—16.6%）であった。

特に「女性の人権」を選んだ者の割合で22.8ポイント（前回27.5ポイント）の差が生まれていることは、前回調査と比べ改善が見えるとは言え、大きな課題であることは間違いない。

また、日常生活に密着した子どもの人権に対する関心は女性の方が高く、社会生活の公的場面で会うことの多い「同和問題」に対する関心は、男性の方が10.0ポイント（前回6.2ポイント）高かったことは、日常生活の中で子どもの世話は女性が主に担当し、家計の中心となる労働は男性が担うという、従来型の役割意識や性的分業がまだ残っていることと繋がっていると思われる。

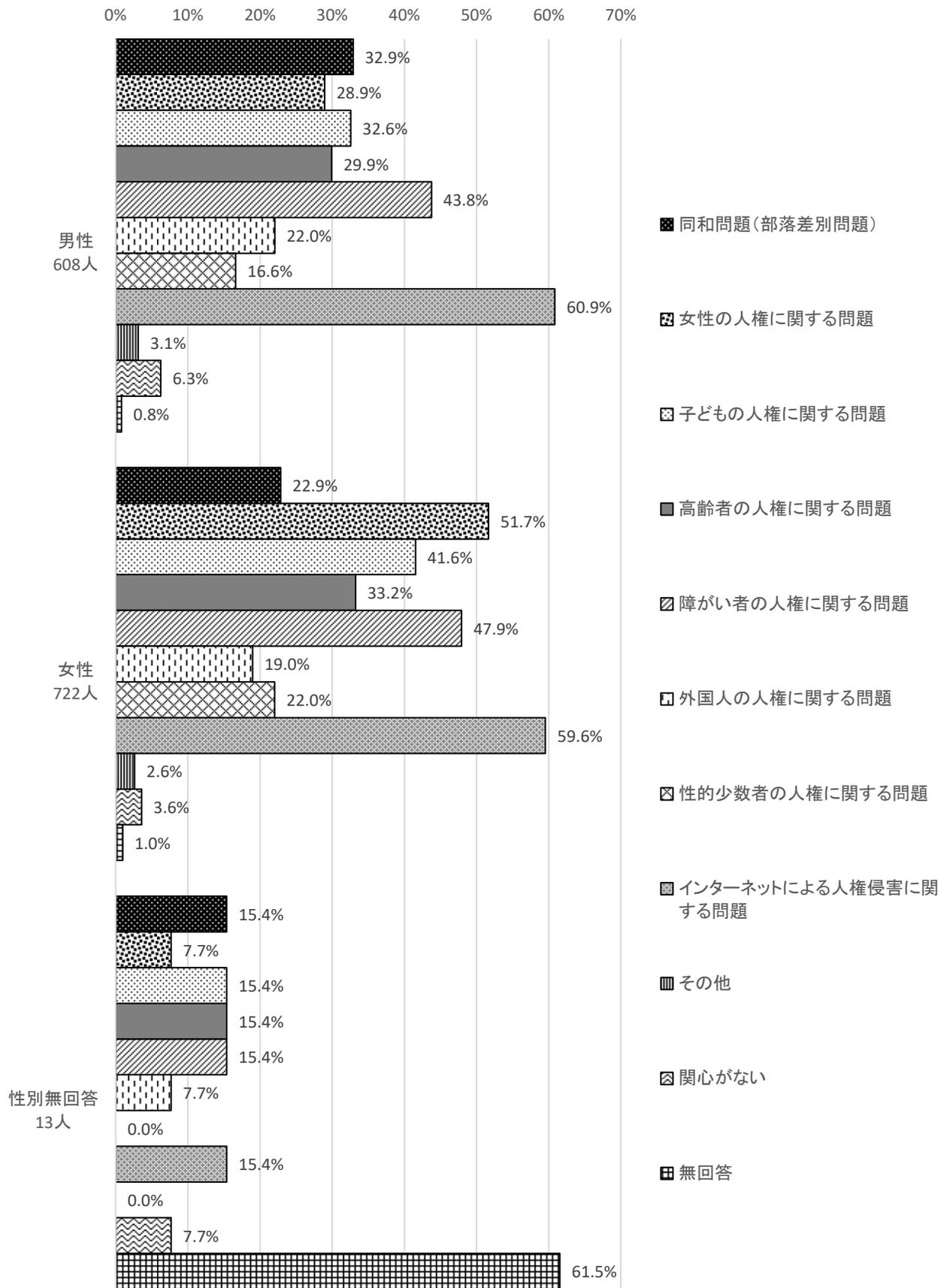
年齢別傾向を見ていくと、八つの人権課題の内、「女性の人権」「子どもの人権」に対しては「31～40歳」が、「同和問題」「障がい者の人権」「インターネットによる人権侵害」に対しては「41～50歳」が、「外国人の人権」「性的少数者の人権」に対しては「18～30歳」が、「高齢者の人権」に対しては「66歳以上」の年代が、最も高い関心を示していた。

また、人権問題に「関心がない」と回答した者の割合は、前回調査では「20～30歳」の8.3%が最大だったが、今回調査では「66歳以上」の7.3%が最大で、「51～65歳」の5.1%がそれに次ぎ、「18～30歳」は4.5%に止まっていた。

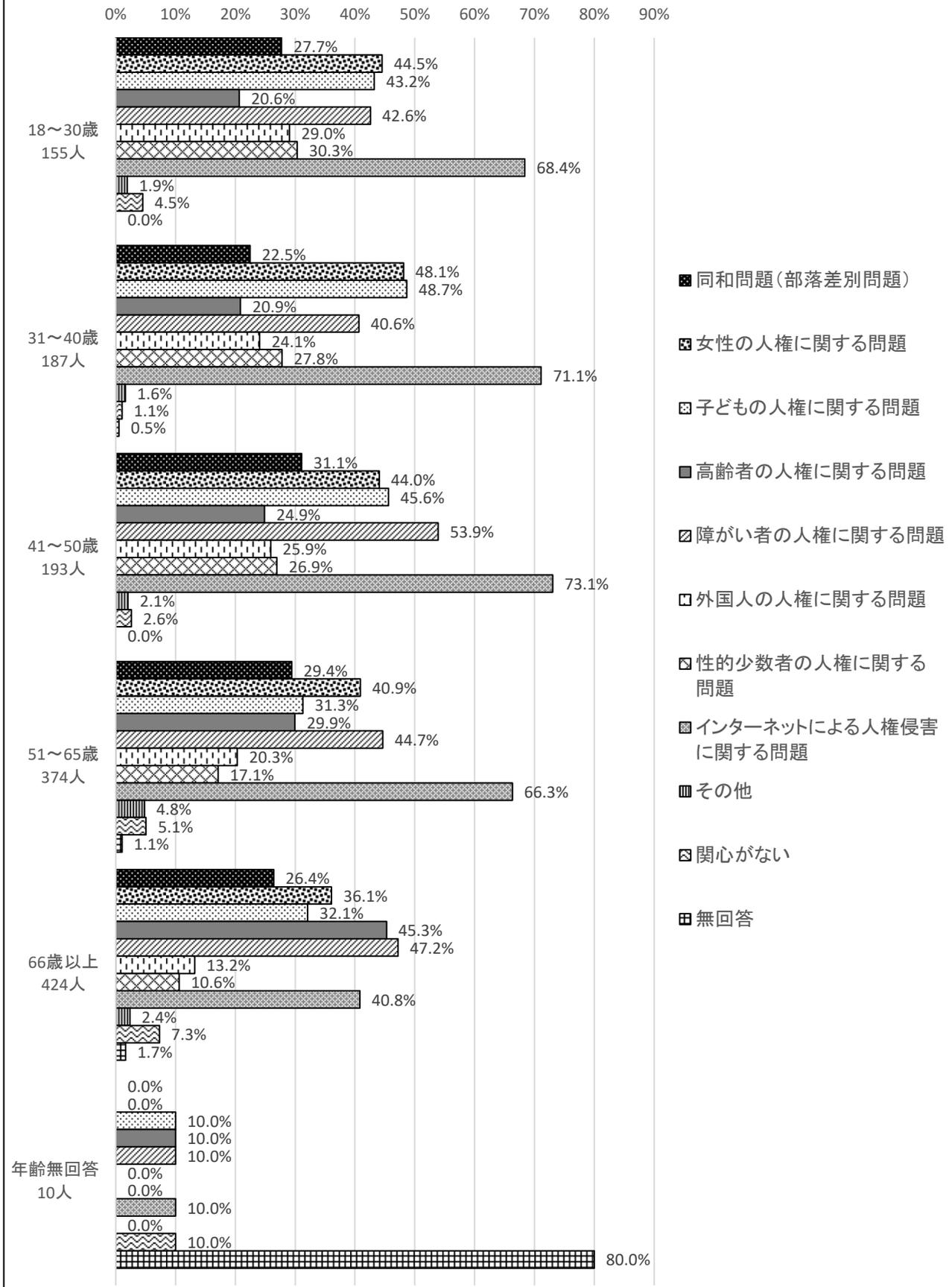


問2 複数回答			関心がある人権問題										
			同和問題 (部落差別問題)	女性の人権に関する問題	子どもの人権に関する問題	高齢者の人権に関する問題	障がい者の人権に関する問題	外国人の人権に関する問題	性的少数者の人権に関する問題	インターネットによる人権侵害に関する問題	その他	関心が無い	無回答
性別	男性 608人	回答人数	200	176	198	182	266	134	101	370	19	38	5
		性別 内の割合	32.9%	28.9%	32.6%	29.9%	43.8%	22.0%	16.6%	60.9%	3.1%	6.3%	0.8%
		問2 内の割合	54.5%	32.0%	39.6%	42.9%	43.3%	49.3%	38.8%	46.1%	50.0%	58.5%	25.0%
	女性 722人	回答人数	165	373	300	240	346	137	159	430	19	26	7
		性別 内の割合	22.9%	51.7%	41.6%	33.2%	47.9%	19.0%	22.0%	59.6%	2.6%	3.6%	1.0%
		問2 内の割合	45.0%	67.8%	60.0%	56.6%	56.4%	50.4%	61.2%	53.6%	50.0%	40.0%	35.0%
性別 無回答 13人	回答人数	2	1	2	2	2	1	0	2	0	1	8	
	性別 内の割合	15.4%	7.7%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	0.0%	15.4%	0.0%	7.7%	61.5%	
	問2 内の割合	0.5%	0.2%	0.4%	0.5%	0.3%	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%	1.5%	40.0%	
年齢	18~30歳 155人	回答人数	43	69	67	32	66	45	47	106	3	7	0
		年齢 内の割合	27.7%	44.5%	43.2%	20.6%	42.6%	29.0%	30.3%	68.4%	1.9%	4.5%	0.0%
		問2 内の割合	11.7%	12.5%	13.4%	7.5%	10.7%	16.5%	18.1%	13.2%	7.9%	10.8%	0.0%
	31~40歳 187人	回答人数	42	90	91	39	76	45	52	133	3	2	1
		年齢 内の割合	22.5%	48.1%	48.7%	20.9%	40.6%	24.1%	27.8%	71.1%	1.6%	1.1%	0.5%
		問2 内の割合	11.4%	16.4%	18.2%	9.2%	12.4%	16.5%	20.0%	16.6%	7.9%	3.1%	5.0%
	41~50歳 193人	回答人数	60	85	88	48	104	50	52	141	4	5	0
		年齢 内の割合	31.1%	44.0%	45.6%	24.9%	53.9%	25.9%	26.9%	73.1%	2.1%	2.6%	0.0%
		問2 内の割合	16.3%	15.5%	17.6%	11.3%	16.9%	18.4%	20.0%	17.6%	10.5%	7.7%	0.0%
	51~65歳 374人	回答人数	110	153	117	112	167	76	64	248	18	19	4
		年齢 内の割合	29.4%	40.9%	31.3%	29.9%	44.7%	20.3%	17.1%	66.3%	4.8%	5.1%	1.1%
		問2 内の割合	30.0%	27.8%	23.4%	26.4%	27.2%	27.9%	24.6%	30.9%	47.4%	29.2%	20.0%
	66歳以上 424人	回答人数	112	153	136	192	200	56	45	173	10	31	7
		年齢 内の割合	26.4%	36.1%	32.1%	45.3%	47.2%	13.2%	10.6%	40.8%	2.4%	7.3%	1.7%
		問2 内の割合	30.5%	27.8%	27.2%	45.3%	32.6%	20.6%	17.3%	21.6%	26.3%	47.7%	35.0%
	年齢 無回答 10人	回答人数	0	0	1	1	1	0	0	1	0	1	8
		年齢 内の割合	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	80.0%
		問2 内の割合	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	40.0%
校区	福島中 271人	回答人数	73	103	102	83	136	53	53	167	8	6	2
		校区 内の割合	26.9%	38.0%	37.6%	30.6%	50.2%	19.6%	19.6%	61.6%	3.0%	2.2%	0.7%
		問2 内の割合	19.9%	18.7%	20.4%	19.6%	22.1%	19.5%	20.4%	20.8%	21.1%	9.2%	10.0%
	南中 189人	回答人数	51	84	69	63	88	35	36	112	5	9	0
		校区 内の割合	27.0%	44.4%	36.5%	33.3%	46.6%	18.5%	19.0%	59.3%	2.6%	4.8%	0.0%
		問2 内の割合	13.9%	15.3%	13.8%	14.9%	14.3%	12.9%	13.8%	14.0%	13.2%	13.8%	0.0%
	見崎中 121人	回答人数	34	57	48	42	53	26	18	72	1	7	0
		校区 内の割合	28.1%	47.1%	39.7%	34.7%	43.8%	21.5%	14.9%	59.5%	0.8%	5.8%	0.0%
		問2 内の割合	9.3%	10.4%	9.6%	9.9%	8.6%	9.6%	6.9%	9.0%	2.6%	10.8%	0.0%
	西中 182人	回答人数	51	77	73	57	80	37	37	114	8	7	2
		校区 内の割合	28.0%	42.3%	40.1%	31.3%	44.0%	20.3%	20.3%	62.6%	4.4%	3.8%	1.1%
		問2 内の割合	13.9%	14.0%	14.6%	13.4%	13.0%	13.6%	14.2%	14.2%	21.1%	10.8%	10.0%
	黒木中 218人	回答人数	66	90	81	76	103	51	43	129	7	11	5
		校区 内の割合	30.3%	41.3%	37.2%	34.9%	47.2%	23.4%	19.7%	59.2%	3.2%	5.0%	2.3%
		問2 内の割合	18.0%	16.4%	16.2%	17.9%	16.8%	18.8%	16.5%	16.1%	18.4%	16.9%	25.0%
	上陽北浜学園 60人	回答人数	20	20	23	22	32	11	11	31	2	4	1
		校区 内の割合	33.3%	33.3%	38.3%	36.7%	53.3%	18.3%	18.3%	51.7%	3.3%	6.7%	1.7%
		問2 内の割合	5.4%	3.6%	4.6%	5.2%	5.2%	4.0%	4.2%	3.9%	5.3%	6.2%	5.0%
	筑南中 70人	回答人数	18	31	29	18	31	13	16	44	2	5	0
		校区 内の割合	25.7%	44.3%	41.4%	25.7%	44.3%	18.6%	22.9%	62.9%	2.9%	7.1%	0.0%
		問2 内の割合	4.9%	5.6%	5.8%	4.2%	5.0%	4.8%	6.2%	5.5%	5.3%	7.7%	0.0%
	立花中 108人	回答人数	24	47	34	28	41	21	17	64	0	4	1
		校区 内の割合	22.2%	43.5%	31.5%	25.9%	38.0%	19.4%	15.7%	59.3%	0.0%	3.7%	0.9%
		問2 内の割合	6.5%	8.5%	6.8%	6.6%	6.7%	7.7%	6.5%	8.0%	0.0%	6.2%	5.0%
矢部清流学園 18人	回答人数	5	10	9	8	9	7	7	11	1	1	0	
	校区 内の割合	27.8%	55.6%	50.0%	44.4%	50.0%	38.9%	38.9%	61.1%	5.6%	5.6%	0.0%	
	問2 内の割合	1.4%	1.8%	1.8%	1.9%	1.5%	2.6%	2.7%	1.4%	2.6%	1.5%	0.0%	
星野中 64人	回答人数	18	18	16	19	30	9	11	39	3	4	0	
	校区 内の割合	28.1%	28.1%	25.0%	29.7%	46.9%	14.1%	17.2%	60.9%	4.7%	6.3%	0.0%	
	問2 内の割合	4.9%	3.3%	3.2%	4.5%	4.9%	3.3%	4.2%	4.9%	7.9%	6.2%	0.0%	
校区不明 24人	回答人数	5	10	10	5	9	9	9	13	1	5	0	
	校区 内の割合	20.8%	41.7%	41.7%	20.8%	37.5%	37.5%	37.5%	54.2%	4.2%	20.8%	0.0%	
	問2 内の割合	1.4%	1.8%	2.0%	1.2%	1.5%	3.3%	3.5%	1.6%	2.6%	7.7%	0.0%	
校区 無回答 18人	回答人数	2	3	6	3	2	0	2	6	0	2	9	
	校区 内の割合	11.1%	16.7%	33.3%	16.7%	11.1%	0.0%	11.1%	33.3%	0.0%	11.1%	50.0%	
	問2 内の割合	0.5%	0.5%	1.2%	0.7%	0.3%	0.0%	0.8%	0.7%	0.0%	3.1%	45.0%	
合計 1343人	回答人数	367	550	500	424	614	272	260	802	38	65	20	
	合計に対する割合	27.3%	41.0%	37.2%	31.6%	45.7%	20.3%	19.4%	59.7%	2.8%	4.8%	1.5%	

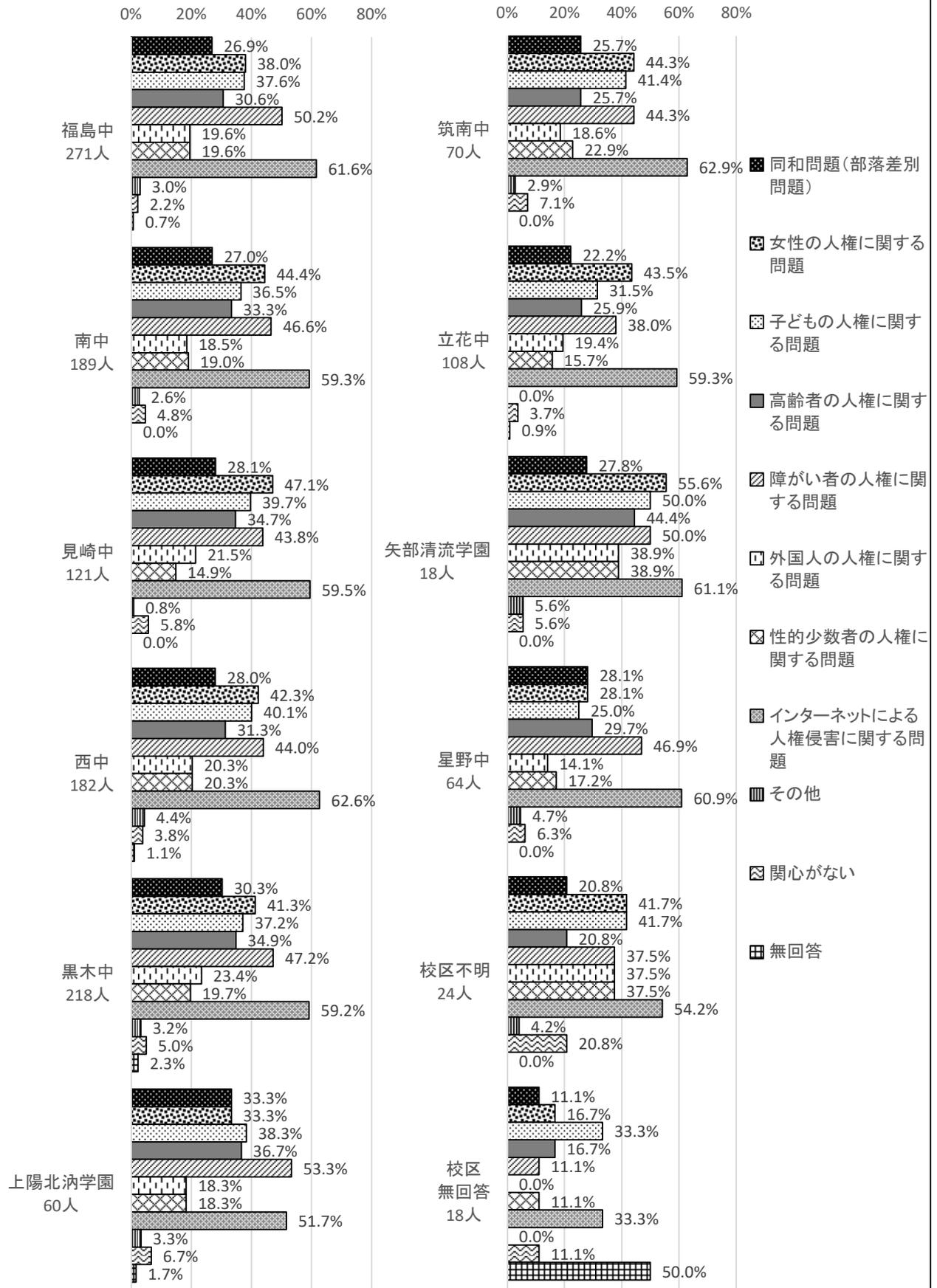
問2 関心がある人権問題(性別)



問2 関心がある人権問題(年齢別)



問2 関心がある人権問題(校区別)



問3 あなたは、「差別をされた」と思ったことがありますか。ある場合、どのような事柄について差別をされたのか、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

「差別されたことはない」と回答した者の割合は44.2%（前回45.0%）、性別で見ると女性39.9%（前回40.1%）に対し、男性49.3%（前回51.6%）で、男性の方が9.4ポイント高かった。

年代別に見ると、「差別されたことはない」と回答した者の割合が最も高かったのは「66歳以上」の55.7%（前回54.5%）で、最も少なかったのは「31～40歳」の34.8%（前回29.5%）だった。この数字には、何が差別に当たるのかという知識の有無、言い換えれば人権教育や啓発を受けてきた世代とそうでない世代の違いや、社会的関わりの濃淡や社会的立場の高低も影響していると思われる。

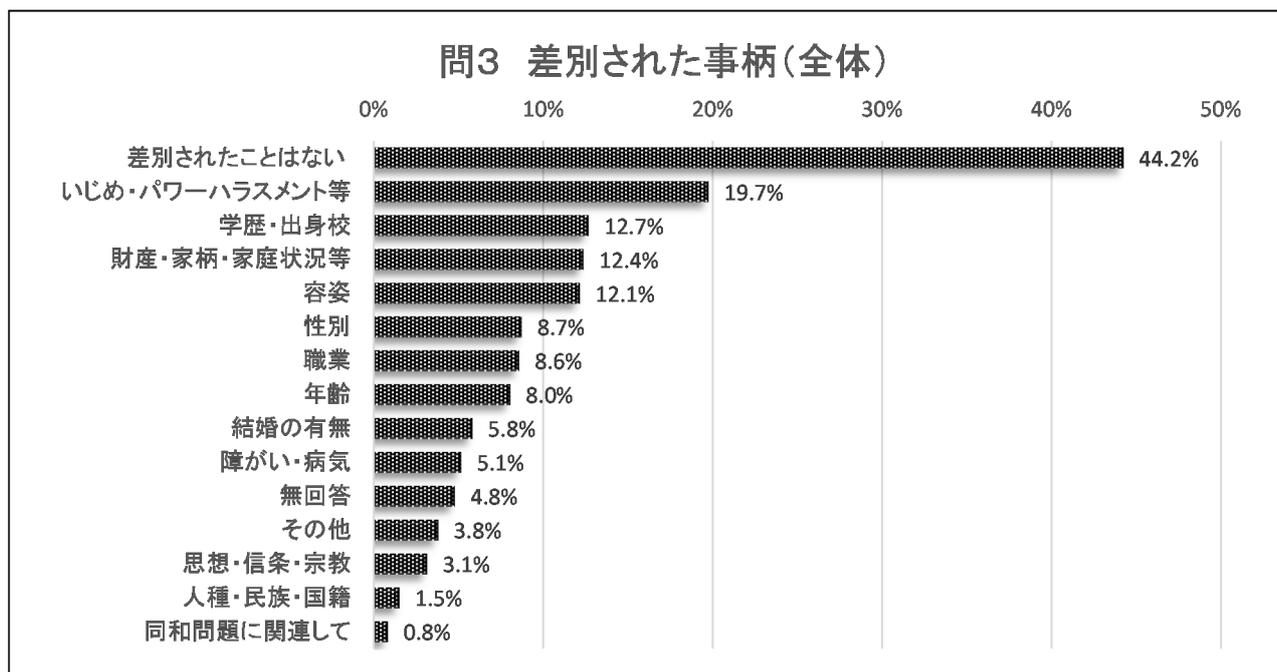
県民意識調査の同様の設問に対し「人権を侵害されたことはない」と回答した者の割合は54.9%（前回56.1%）で、八女市より10.7ポイント（前回比較11.1ポイント）高かったが、人権意識が高くなればなるほど、人権侵害を見抜く力が生まれてくることを考慮して評価する必要があると思われる。

「差別をされた」内容として、選択者が10%を超えたのは、前回と同じく「いじめ・パワーハラスメント」の19.7%（前回15.7%）、「学歴・出身校」の12.7%（前回12.8%）、「財産・家柄・家庭状況」の12.4%（前回13.0%）、「容姿」の12.1%（前回11.2%）の四つであった。

この他、「性別」を選んだ者の割合が、男性では2.3%（前回2.0%）であったのに対し、女性では14.3%（前回13.6%）に上っていた。

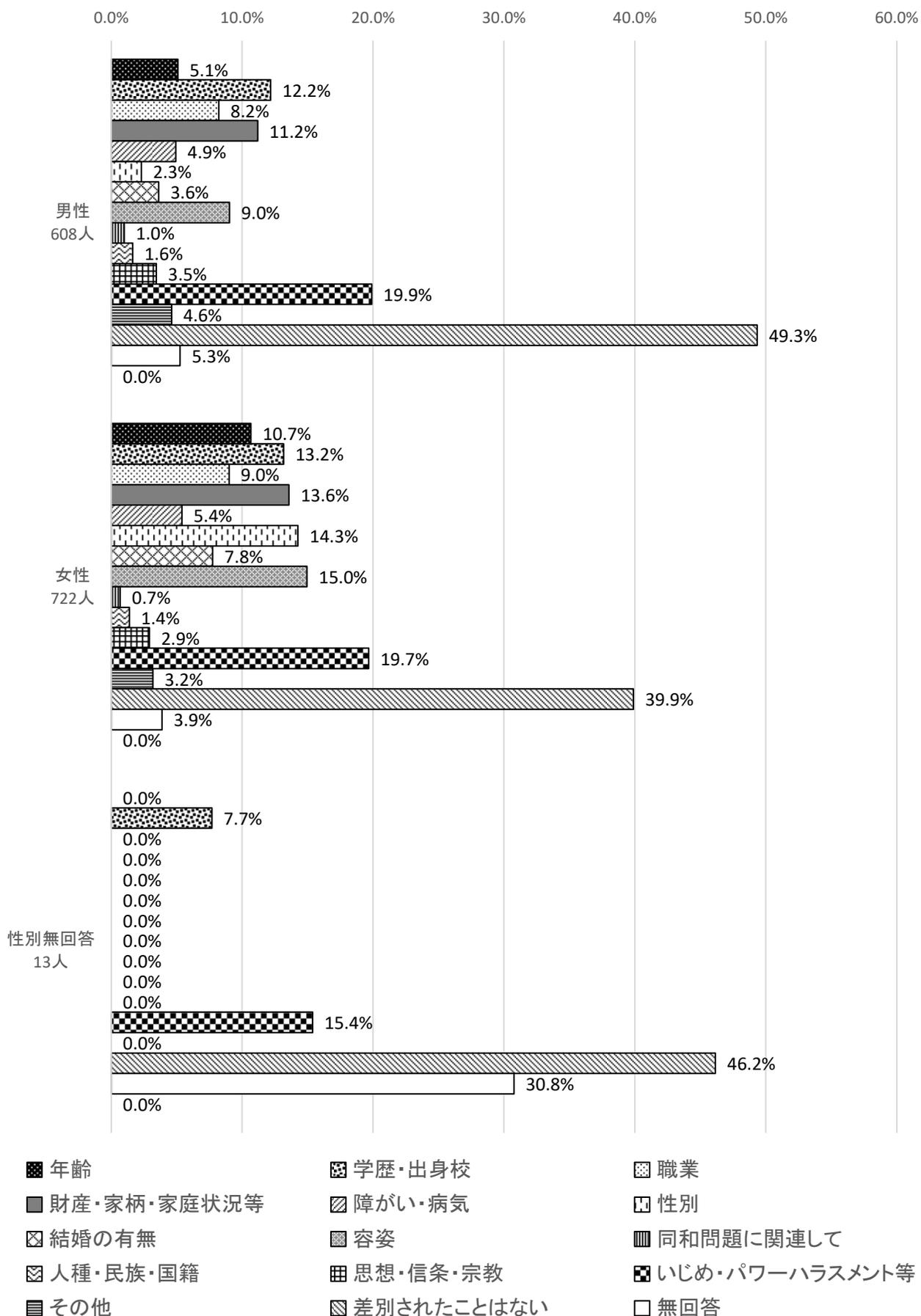
また、年齢別では「31～40歳」で「結婚の有無」が12.3%（前回12.0%）、「31～40歳」「41～50歳」「51～65歳」で「職業」が、それぞれ10.2%（前回7.2%）、10.4%（前回11.5%）、11.2%（前回8.8%）と10%を上回っていた。

なお、「同和問題に関連して」を選んだ者は、全体で11名・0.8%（前回9名・0.7%）で、40歳以下の年代では1名（前回1名）であった。

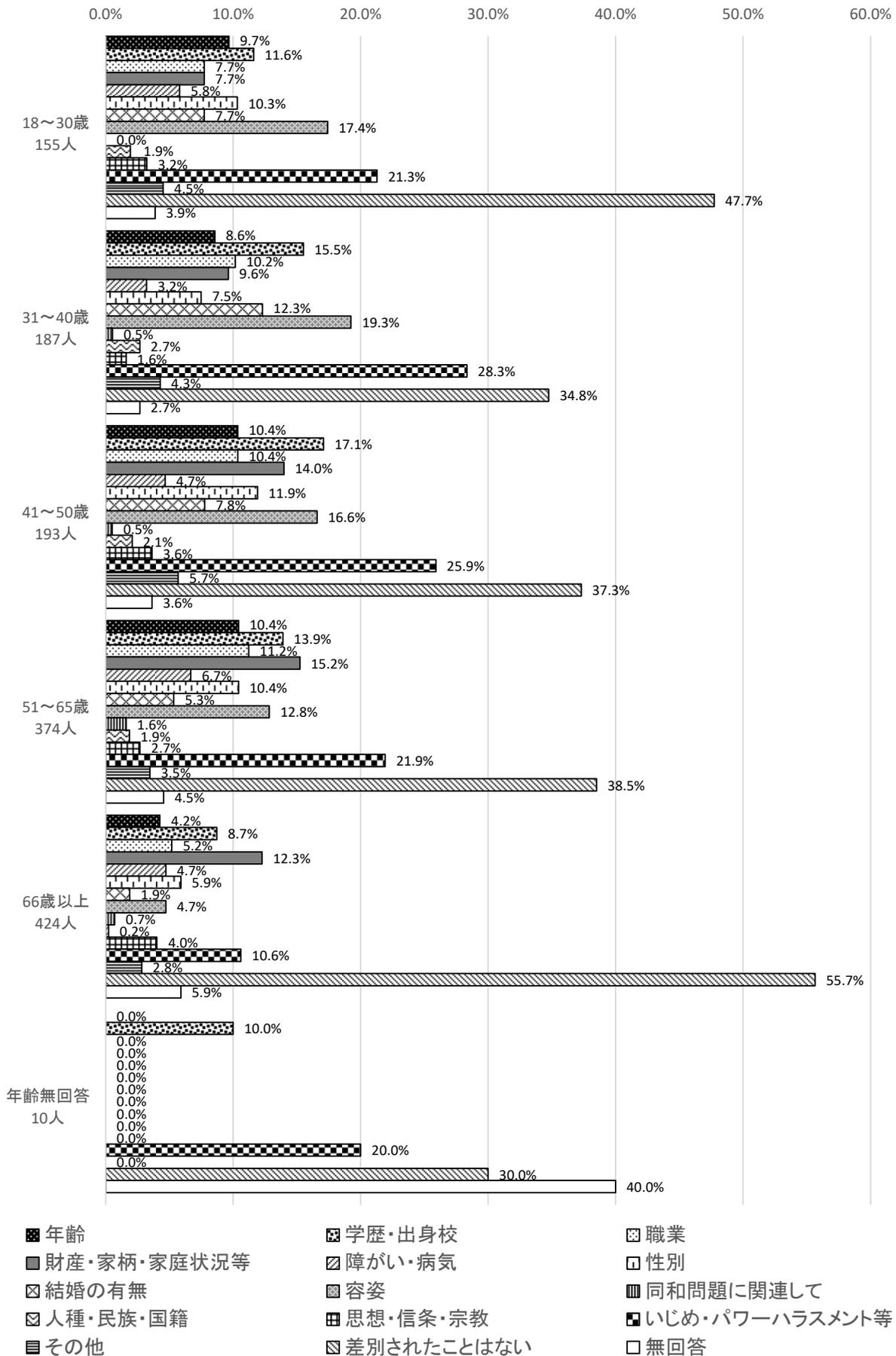


問3 複数回答		差別された事柄														
		年齢	学歴・ 出身校	職業	財産・ 家柄・ 家庭状 況等	障がい・ 病気	性別	結婚の 有無	容姿	同和問 題に関 連して	人種・ 民族・ 国籍	思想・ 信条・ 宗教	いじめ・ パワー ハラス メント 等	その他	差別さ れたこ とはな い	無回答
性別 男性 608人	回答人数	31	74	50	68	30	14	22	55	6	10	21	121	28	300	32
	性別 内の割合	5.1%	12.2%	8.2%	11.2%	4.9%	2.3%	3.6%	9.0%	1.0%	1.6%	3.5%	19.9%	4.6%	49.3%	5.3%
	問3 内の割合	28.7%	43.5%	43.5%	41.0%	43.5%	12.0%	28.2%	33.7%	54.5%	50.0%	50.0%	45.7%	54.9%	50.5%	50.0%
女性 722人	回答人数	77	95	65	98	39	103	56	108	5	10	21	142	23	288	28
	性別 内の割合	10.7%	13.2%	9.0%	13.6%	5.4%	14.3%	7.8%	15.0%	0.7%	1.4%	2.9%	19.7%	3.2%	39.9%	3.9%
	問3 内の割合	71.3%	55.9%	56.5%	59.0%	56.5%	88.0%	71.8%	66.3%	45.5%	50.0%	50.0%	53.6%	45.1%	48.5%	43.8%
性別 無回答 13人	回答人数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	4
	性別 内の割合	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	46.2%	30.8%
	問3 内の割合	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.0%	6.3%
年齢 18～30歳 155人	回答人数	15	18	12	12	9	16	12	27	0	3	5	33	7	74	6
	年齢 内の割合	9.7%	11.6%	7.7%	7.7%	5.8%	10.3%	7.7%	17.4%	0.0%	1.9%	3.2%	21.3%	4.5%	47.7%	3.9%
	問3 内の割合	13.9%	10.6%	10.4%	7.2%	13.0%	13.7%	15.4%	16.6%	0.0%	15.0%	11.9%	12.5%	13.7%	12.5%	9.4%
31～40歳 187人	回答人数	16	29	19	18	6	14	23	36	1	5	3	53	8	65	5
	年齢 内の割合	8.6%	15.5%	10.2%	9.6%	3.2%	7.5%	12.3%	19.3%	0.5%	2.7%	1.6%	28.3%	4.3%	34.8%	2.7%
	問3 内の割合	14.8%	17.1%	16.5%	10.8%	8.7%	12.0%	29.5%	22.1%	9.1%	25.0%	7.1%	20.0%	15.7%	10.9%	7.8%
41～50歳 193人	回答人数	20	33	20	27	9	23	15	32	1	4	7	50	11	72	7
	年齢 内の割合	10.4%	17.1%	10.4%	14.0%	4.7%	11.9%	7.8%	16.6%	0.5%	2.1%	3.6%	25.9%	5.7%	37.3%	3.6%
	問3 内の割合	18.5%	19.4%	17.4%	16.3%	13.0%	19.7%	19.2%	19.6%	9.1%	20.0%	16.7%	18.9%	21.6%	12.1%	10.9%
51～65歳 374人	回答人数	39	52	42	57	25	39	20	48	6	7	10	82	13	144	17
	年齢 内の割合	10.4%	13.9%	11.2%	15.2%	6.7%	10.4%	5.3%	12.8%	1.6%	1.9%	2.7%	21.9%	3.5%	38.5%	4.5%
	問3 内の割合	36.1%	30.6%	36.5%	34.3%	36.2%	33.3%	25.6%	29.4%	54.5%	35.0%	23.8%	30.9%	25.5%	24.2%	26.6%
66歳以上 424人	回答人数	18	37	22	52	20	25	8	20	3	1	17	45	12	236	25
	年齢 内の割合	4.2%	8.7%	5.2%	12.3%	4.7%	5.9%	1.9%	4.7%	0.7%	0.2%	4.0%	10.6%	2.8%	55.7%	5.9%
	問3 内の割合	16.7%	21.8%	19.1%	31.3%	29.0%	21.4%	10.3%	12.3%	27.3%	5.0%	40.5%	17.0%	23.5%	39.7%	39.1%
年齢 無回答 10人	回答人数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	4
	年齢 内の割合	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	30.0%	40.0%
	問3 内の割合	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.5%	6.3%
校区 福島中 271人	回答人数	20	39	19	31	12	26	14	28	3	1	8	48	10	125	5
	校区 内の割合	7.4%	14.4%	7.0%	11.4%	4.4%	9.6%	5.2%	10.3%	1.1%	4.4%	3.0%	17.7%	3.7%	46.1%	1.8%
	問3 内の割合	18.5%	22.9%	16.5%	18.7%	17.4%	22.2%	17.9%	17.2%	27.3%	5.0%	19.0%	18.1%	19.6%	21.0%	7.8%
南中 189人	回答人数	17	28	21	25	16	12	13	32	2	0	5	40	7	72	11
	校区 内の割合	9.0%	14.8%	11.1%	13.2%	8.5%	6.3%	6.9%	16.9%	1.1%	0.0%	2.6%	21.2%	3.7%	38.1%	5.8%
	問3 内の割合	15.7%	16.5%	18.3%	15.1%	23.2%	10.3%	16.7%	19.6%	18.2%	0.0%	11.9%	15.1%	13.7%	12.1%	17.2%
見崎中 121人	回答人数	7	10	11	11	4	13	2	9	0	4	4	20	1	61	6
	校区 内の割合	5.8%	8.3%	9.1%	9.1%	3.3%	10.7%	1.7%	7.4%	0.0%	3.3%	3.3%	16.5%	0.8%	50.4%	5.0%
	問3 内の割合	6.5%	5.9%	9.6%	6.6%	5.8%	11.1%	2.6%	5.5%	0.0%	20.0%	9.5%	7.5%	2.0%	10.3%	9.4%
西中 182人	回答人数	19	21	19	19	11	16	10	20	2	4	5	38	6	81	8
	校区 内の割合	10.4%	11.5%	10.4%	10.4%	6.0%	8.8%	5.5%	11.0%	1.1%	2.2%	2.7%	20.9%	3.3%	44.5%	4.4%
	問3 内の割合	17.6%	12.4%	16.5%	11.4%	15.9%	13.7%	12.8%	12.3%	18.2%	20.0%	11.9%	14.3%	11.8%	13.6%	12.5%
黒木中 218人	回答人数	23	27	18	32	11	18	18	28	1	4	8	49	7	92	14
	校区 内の割合	10.6%	12.4%	8.3%	14.7%	5.0%	8.3%	8.3%	12.8%	0.5%	1.8%	3.7%	22.5%	3.2%	42.2%	6.4%
	問3 内の割合	21.3%	15.9%	15.7%	19.3%	15.9%	15.4%	23.1%	17.2%	9.1%	20.0%	19.0%	18.5%	13.7%	15.5%	21.9%
上陽北浜学園 60人	回答人数	2	3	2	6	3	5	4	5	0	2	2	15	5	28	3
	校区 内の割合	3.3%	5.0%	3.3%	10.0%	5.0%	8.3%	6.7%	8.3%	0.0%	3.3%	3.3%	25.0%	8.3%	46.7%	5.0%
	問3 内の割合	1.9%	1.8%	1.7%	3.6%	4.3%	4.3%	5.1%	3.1%	0.0%	10.0%	4.8%	5.7%	9.8%	4.7%	4.7%
筑南中 70人	回答人数	4	6	7	14	4	9	2	8	1	1	1	14	6	31	2
	校区 内の割合	5.7%	8.6%	10.0%	20.0%	5.7%	12.9%	2.9%	11.4%	1.4%	1.4%	1.4%	20.0%	8.6%	44.3%	2.9%
	問3 内の割合	3.7%	3.5%	6.1%	8.4%	5.8%	7.7%	2.6%	4.9%	9.1%	5.0%	2.4%	5.3%	11.8%	5.2%	3.1%
立花中 108人	回答人数	6	14	8	11	5	10	10	16	1	3	2	17	2	49	8
	校区 内の割合	5.6%	13.0%	7.4%	10.2%	4.6%	9.3%	9.3%	14.8%	0.9%	2.8%	1.9%	15.7%	1.9%	45.4%	7.4%
	問3 内の割合	5.6%	8.2%	7.0%	6.6%	7.2%	8.5%	12.8%	9.8%	9.1%	15.0%	4.8%	6.4%	3.9%	8.2%	12.5%
矢部清流学園 18人	回答人数	2	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	2	2	8	2
	校区 内の割合	11.1%	0.0%	0.0%	16.7%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	44.4%	11.1%
	問3 内の割合	1.9%	0.0%	0.0%	1.8%	1.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	3.9%	1.3%	3.1%
星野中 64人	回答人数	4	17	5	10	1	4	2	9	1	0	5	10	3	27	1
	校区 内の割合	6.3%	26.6%	7.8%	15.6%	1.6%	6.3%	3.1%	14.1%	1.6%	0.0%	7.8%	15.6%	4.7%	42.2%	1.6%
	問3 内の割合	3.7%	10.0%	4.3%	6.0%	1.4%	3.4%	2.6%	5.5%	9.1%	0.0%	11.9%	3.8%	5.9%	4.5%	1.6%
校区不明 24人	回答人数	3	3	4	3	1	2	2	7	0	1	2	9	1	12	0
	校区 内の割合	12.5%	12.5%	16.7%	12.5%	4.2%	8.3%	8.3%	29.2%	0.0%	4.2%	8.3%	37.5%	4.2%	50.0%	0.0%
	問3 内の割合	2.8%	1.8%	3.5%	1.8%	1.4%	1.7%	2.6%	4.3%	0.0%	5.0%	4.8%	3.4%	2.0%	2.0%	0.0%
校区 無回答 18人	回答人数	1	2	1	1	0	1	1	1	0	0	0	3	1	8	4
	校区 内の割合	5.6%	11.1%	5.6%	5.6%	0.0%	5.6%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	5.6%	44.4%	22.2%
	問3 内の割合	0.9%	1.2%	0.9%	0.6%	0.0%	0.9%	1.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.0%	1.3%	6.3%
合計 1343人	回答人数	108	170	115	166	69	117	78	163	11	20	42	265	51	594	64
	合計に対する割合	8.0%	12.7%	8.6%	12.4%	5.1%	8.7%	5.8%	12.1%	0.8%	1.5%	3.1%	19.7%	3.8%	44.2%	4.8%

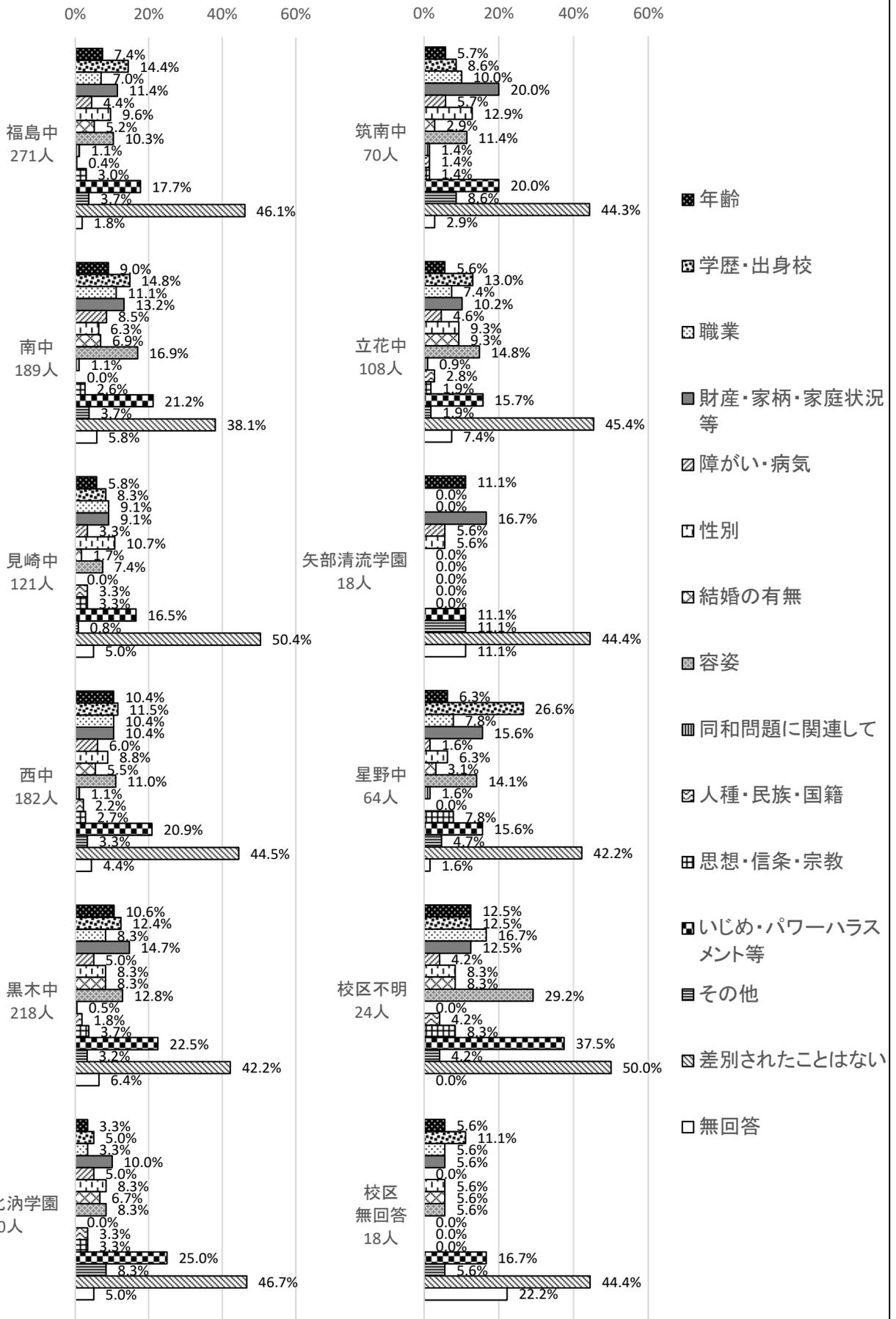
問3 差別された事柄(性別)



問3 差別された事柄(年齢別)



問3 差別された事柄(校区別)



問4 あなたは、自分の人権が侵害された場合、どのように対処しますか。次の中から、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

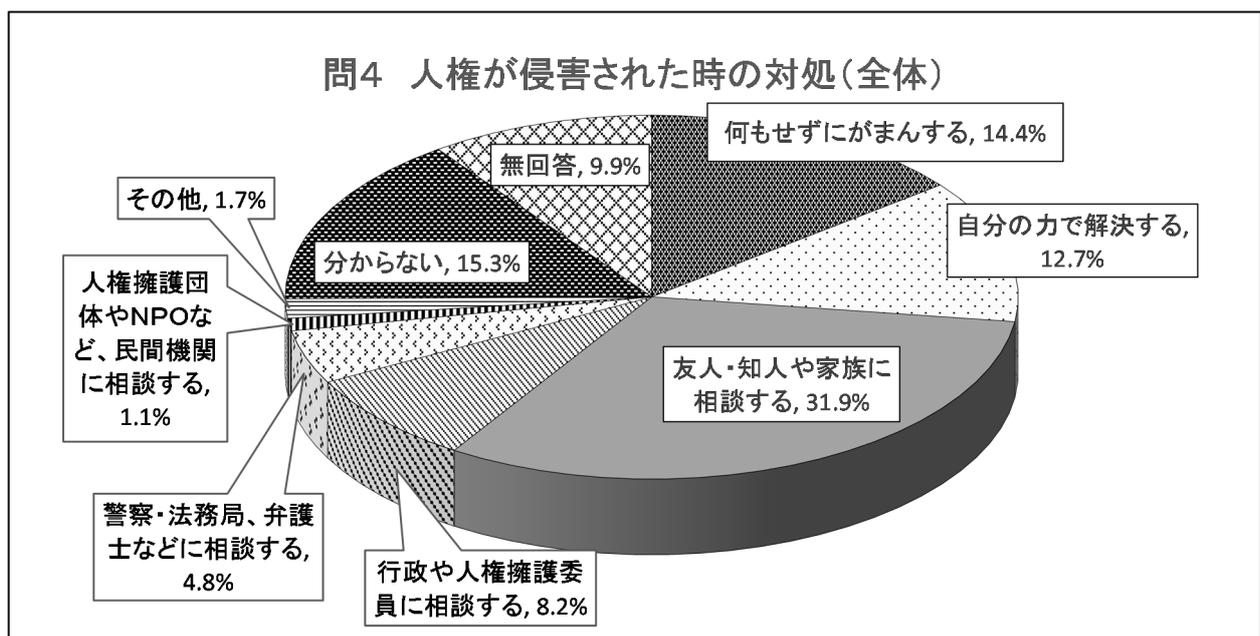
最も多かった回答が「友人・知人や家族に相談する」の31.9%(前回37.7%)、次いで「何もせずにごまんする」14.4%(前回11.5%)、「自分の力で解決する」12.7%(前回15.6%)であった。この数字から、出来事の軽重はあるにせよ、人権侵害事案に遭遇したとき、公的機関に相談する者は多いとは言えないことが分かる。したがって、行政等が把握する人権侵害事象は、実際に起こっている問題の一部に過ぎないという認識を持つ必要がある。前回調査と比べ、「友人・知人や家族に相談する」と回答した者の割合が5.8ポイント減少しているが、その分、前は10.3%であった「分からない」と回答した者の割合が今回は15.3%で、5.0ポイント増加している。

性別の回答傾向を見ると、女性の割合が高かったのが「友人・知人や家族に相談する」(女性—42.1%・前回50.2%、男性—19.9%・前回23.6%)で、男性の割合が高かったのが「自分の力で解決する」(女性—8.0%・前回8.6%、男性—18.4%・前回24.0%)であった。

女性は私的な範囲で問題を解決しようとする傾向があるのに対し、男性は、自力で問題解決を図ろうとする傾向があることが分かるが、前回調査と比べ、女性の「友人・知人や家族に相談する」と回答した者の割合が8.1ポイント、男性の「自分の力で解決する」と回答した者の割合が5.6ポイント減少し、性別の回答傾向の差が縮まっていることが分かる。

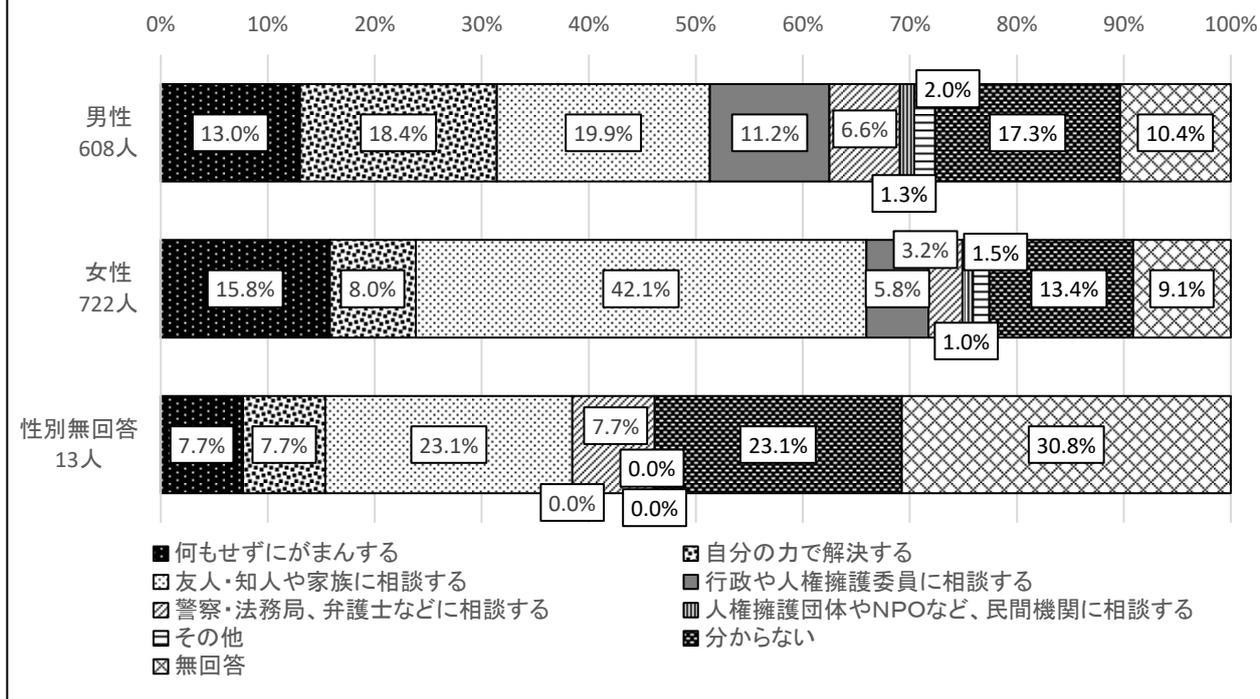
年齢別傾向を見ると、行政や警察などの公的機関に相談する者の割合が、「51～65歳」「66歳以上」で増加傾向にあることが分かる。これとは逆に、「友人・知人や家族に相談する」を選んだ者の割合は、年齢が進むに連れて減少する傾向にある。

これらの傾向を考えれば、自分で解決できないような人権侵害事案の当事者となった時、具体的にどのような対処法があるのかについて、女性や若年層を中心にした啓発・情報提供が必要と思われる。

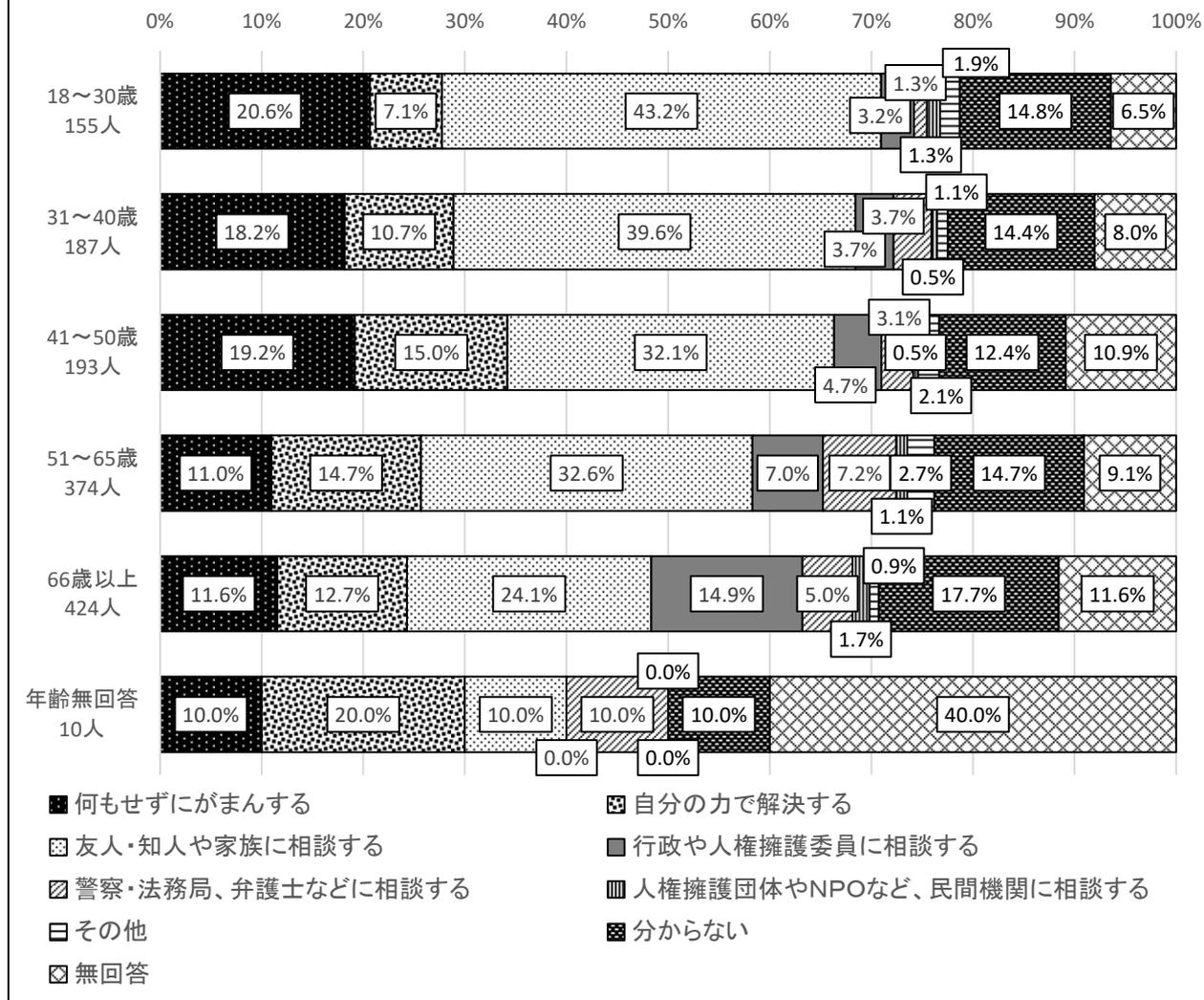


問4		人権が侵害された場合の対処									
		何もせず にがまん する	自分の力 で解決す る	友人・知 人や家族 に相談す る	行政や人 権擁護委 員に相談 する	警察・法 務局、弁 護士など に相談す る	人権擁護 団体やN POなど、 民間機関 に相談す る	その他	分からな い	無回答	
性別	男性 608人	回答人数 79	112	121	68	40	8	12	105	63	
	性別 内の割合	13.0%	18.4%	19.9%	11.2%	6.6%	1.3%	2.0%	17.3%	10.4%	
	問4 内の割合	40.7%	65.5%	28.3%	61.8%	62.5%	53.3%	52.2%	51.2%	47.4%	
女性 722人	回答人数	114	58	304	42	23	7	11	97	66	
	性別 内の割合	15.8%	8.0%	42.1%	5.8%	3.2%	1.0%	1.5%	13.4%	9.1%	
	問4 内の割合	58.8%	33.9%	71.0%	38.2%	35.9%	46.7%	47.8%	47.3%	49.6%	
性別 無回答 13人	回答人数	1	1	3	0	1	0	0	3	4	
	性別 内の割合	7.7%	7.7%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	23.1%	30.8%	
	問4 内の割合	0.5%	0.6%	0.7%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.5%	3.0%	
年齢	18～30歳 155人	回答人数	32	11	67	5	2	2	3	23	10
	年齢 内の割合	20.6%	7.1%	43.2%	3.2%	1.3%	1.3%	1.9%	14.8%	6.5%	
	問4 内の割合	16.5%	6.4%	15.7%	4.5%	3.1%	13.3%	13.0%	11.2%	7.5%	
31～40歳 187人	回答人数	34	20	74	7	7	1	2	27	15	
	年齢 内の割合	18.2%	10.7%	39.6%	3.7%	3.7%	0.5%	1.1%	14.4%	8.0%	
	問4 内の割合	17.5%	11.7%	17.3%	6.4%	10.9%	6.7%	8.7%	13.2%	11.3%	
41～50歳 193人	回答人数	37	29	62	9	6	1	4	24	21	
	年齢 内の割合	19.2%	15.0%	32.1%	4.7%	3.1%	0.5%	2.1%	12.4%	10.9%	
	問4 内の割合	19.1%	17.0%	14.5%	8.2%	9.4%	6.7%	17.4%	11.7%	15.8%	
51～65歳 374人	回答人数	41	55	122	26	27	4	10	55	34	
	年齢 内の割合	11.0%	14.7%	32.6%	7.0%	7.2%	1.1%	2.7%	14.7%	9.1%	
	問4 内の割合	21.1%	32.2%	28.5%	23.6%	42.2%	26.7%	43.5%	26.8%	25.6%	
66歳以上 424人	回答人数	49	54	102	63	21	7	4	75	49	
	年齢 内の割合	11.6%	12.7%	24.1%	14.9%	5.0%	1.7%	0.9%	17.7%	11.6%	
	問4 内の割合	25.3%	31.6%	23.8%	57.3%	32.8%	46.7%	17.4%	36.6%	36.8%	
年齢 無回答 10人	回答人数	1	2	1	0	1	0	0	1	4	
	年齢 内の割合	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	40.0%	
	問4 内の割合	0.5%	1.2%	0.2%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.5%	3.0%	
校区	福島中 271人	回答人数	35	31	84	25	22	2	8	45	19
	校区 内の割合	12.9%	11.4%	31.0%	9.2%	8.1%	0.7%	3.0%	16.6%	7.0%	
	問4 内の割合	18.0%	18.1%	19.6%	22.7%	34.4%	13.3%	34.8%	22.0%	14.3%	
南中 189人	回答人数	33	15	57	15	12	1	3	28	25	
	校区 内の割合	17.5%	7.9%	30.2%	7.9%	6.3%	0.5%	1.6%	14.8%	13.2%	
	問4 内の割合	17.0%	8.8%	13.3%	13.6%	18.8%	6.7%	13.0%	13.7%	18.8%	
見崎中 121人	回答人数	15	19	42	8	4	0	4	17	12	
	校区 内の割合	12.4%	15.7%	34.7%	6.6%	3.3%	0.0%	3.3%	14.0%	9.9%	
	問4 内の割合	7.7%	11.1%	9.8%	7.3%	6.3%	0.0%	17.4%	8.3%	9.0%	
西中 182人	回答人数	22	28	53	18	8	7	1	24	21	
	校区 内の割合	12.1%	15.4%	29.1%	9.9%	4.4%	3.8%	0.5%	13.2%	11.5%	
	問4 内の割合	11.3%	16.4%	12.4%	16.4%	12.5%	46.7%	4.3%	11.7%	15.8%	
黒木中 218人	回答人数	39	27	78	19	5	1	2	28	19	
	校区 内の割合	17.9%	12.4%	35.8%	8.7%	2.3%	0.5%	0.9%	12.8%	8.7%	
	問4 内の割合	20.1%	15.8%	18.2%	17.3%	7.8%	6.7%	8.7%	13.7%	14.3%	
上陽北浜学園 60人	回答人数	8	10	16	6	1	0	1	10	8	
	校区 内の割合	13.3%	16.7%	26.7%	10.0%	1.7%	0.0%	1.7%	16.7%	13.3%	
	問4 内の割合	4.1%	5.8%	3.7%	5.5%	1.6%	0.0%	4.3%	4.9%	6.0%	
筑南中 70人	回答人数	9	11	25	3	1	1	1	14	5	
	校区 内の割合	12.9%	15.7%	35.7%	4.3%	1.4%	1.4%	1.4%	20.0%	7.1%	
	問4 内の割合	4.6%	6.4%	5.8%	2.7%	1.6%	6.7%	4.3%	6.8%	3.8%	
立花中 108人	回答人数	19	10	36	9	3	0	2	20	9	
	校区 内の割合	17.6%	9.3%	33.3%	8.3%	2.8%	0.0%	1.9%	18.5%	8.3%	
	問4 内の割合	9.8%	5.8%	8.4%	8.2%	4.7%	0.0%	8.7%	9.8%	6.8%	
矢部清流学園 18人	回答人数	2	1	7	0	3	1	0	3	1	
	校区 内の割合	11.1%	5.6%	38.9%	0.0%	16.7%	5.6%	0.0%	16.7%	5.6%	
	問4 内の割合	1.0%	0.6%	1.6%	0.0%	4.7%	6.7%	0.0%	1.5%	0.8%	
星野中 64人	回答人数	10	13	18	4	2	0	1	9	7	
	校区 内の割合	15.6%	20.3%	28.1%	6.3%	3.1%	0.0%	1.6%	14.1%	10.9%	
	問4 内の割合	5.2%	7.6%	4.2%	3.6%	3.1%	0.0%	4.3%	4.4%	5.3%	
校区不明 24人	回答人数	1	4	7	1	2	2	0	5	2	
	校区 内の割合	4.2%	16.7%	29.2%	4.2%	8.3%	8.3%	0.0%	20.8%	8.3%	
	問4 内の割合	0.5%	2.3%	1.6%	0.9%	3.1%	13.3%	0.0%	2.4%	1.5%	
校区 無回答 18人	回答人数	1	2	5	2	1	0	0	2	5	
	校区 内の割合	5.6%	11.1%	27.8%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	11.1%	27.8%	
	問4 内の割合	0.5%	1.2%	1.2%	1.8%	1.6%	0.0%	0.0%	1.0%	3.8%	
合計 1343人	回答人数	194	171	428	110	64	15	23	205	133	
	合計に対する割合	14.4%	12.7%	31.9%	8.2%	4.8%	1.1%	1.7%	15.3%	9.9%	

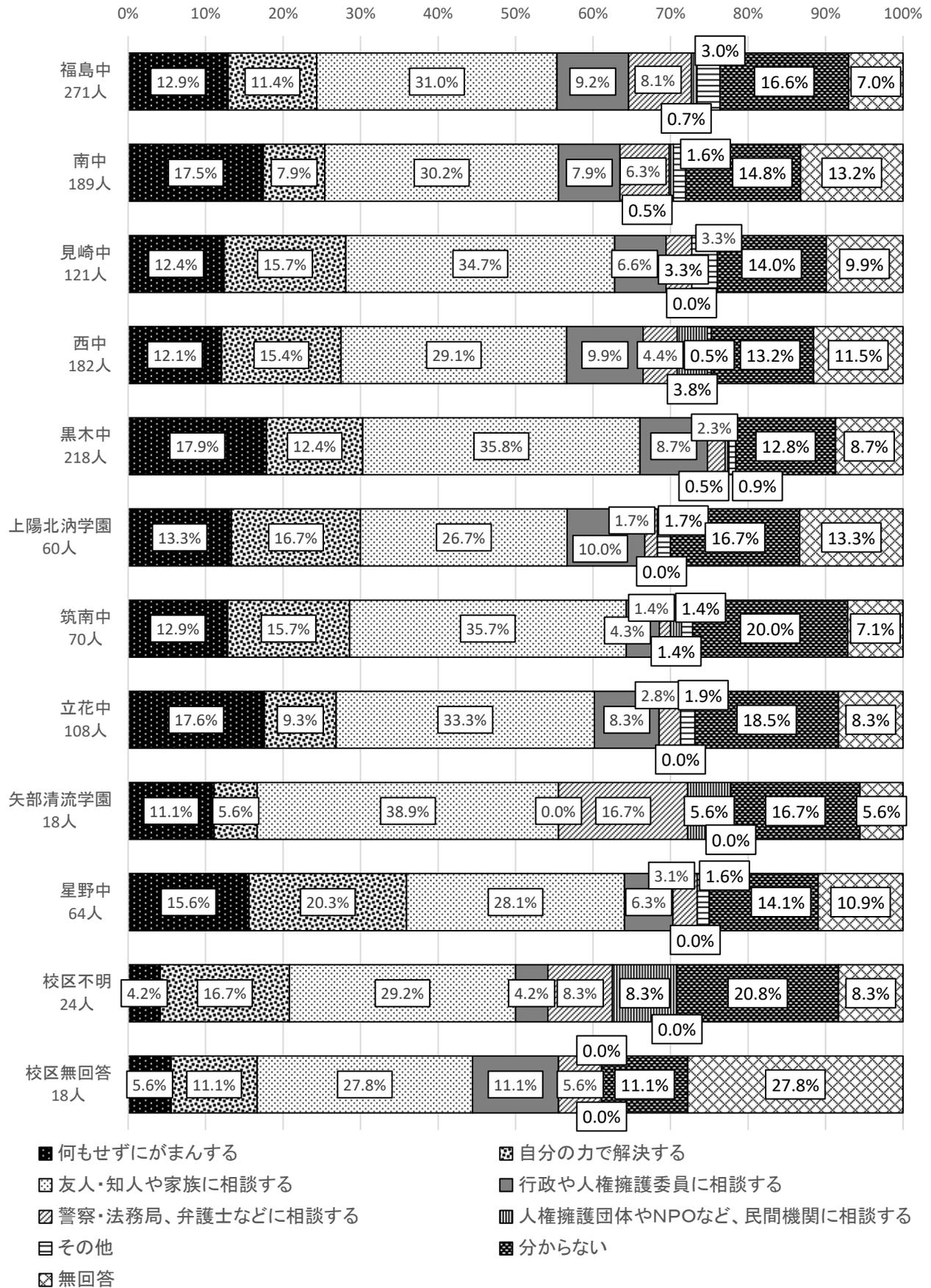
問4 人権が侵害された時の対処(性別)



問4 人権が侵害された時の対処(年齢別)



問4 人権が侵害された時の対処(校区別)



問5 次の風習や習慣のうち、あなたが疑問に思うものすべてに○をつけてください。

五つの風習・習慣の内、市民の三分の一以上の人が「疑問に思う」と回答したものは、前回調査と同じく、「結婚相手の『家柄』を問題にする」こと 46.2% (前回 43.0%)、「『血液型』で人を判断する」こと 39.9% (前回 39.7%) の二つであった。

同和問題との関連で言えば、「結婚相手の『家柄』を問題にする」ことを疑問に思う市民が全体で4割を超え、「18～30歳」の年代で56.8% (前回 59.9%) と最大の数字となっただけでなく、「41～50歳」の年代でも、前回調査を6.8ポイント上回る56.5% (前回 49.7%) となっていることは、結婚差別の解消に向けた明るい材料と言えるが、その一方で、「疑問に思うものはない」と回答した者も、性別や年代にそれほど関わりなく20.4% (前回 20.0%) 存在しており、五つの風習や習慣が、決して解消傾向にあるわけではないことを示している。

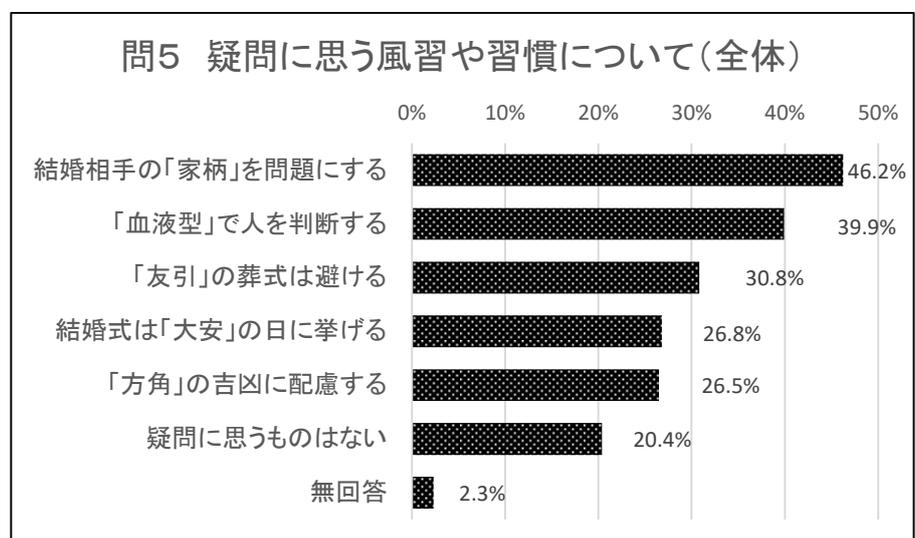
性別の回答傾向で5.0ポイント以上の差があったものは、前回調査では三つ存在し、「大安」で5.3ポイント、「友引」で8.5ポイント、「方角」で6.1ポイント、いずれも男性の方が「疑問に思う」者の割合が多かったのだが、今回は一つしか存在せず、「結婚相手の『家柄』を問題にする」ことを選んだ割合が、女性の方が7.8ポイント(女性49.9%・男性42.1%、前回女性44.9%・男性42.4%)高くなっていただけであった。

五つの風習・習慣について「疑問に思う」を選んだ者の割合が最も高かった年代と、最も低かった年代を挙げると以下のようにになっている。

「大安」	最高「18～30歳」31.0%	最低「31～40歳」22.5%
「友引」	最高「66歳以上」38.2%	最低「31～40歳」20.9%
「血液型」	最高「18～30歳」46.5%	最低「66歳以上」34.9%
「方角」	最高「51～65歳」29.7%	最低「31～40歳」21.4%
「家柄」	最高「18～30歳」56.8%	最低「66歳以上」33.3%

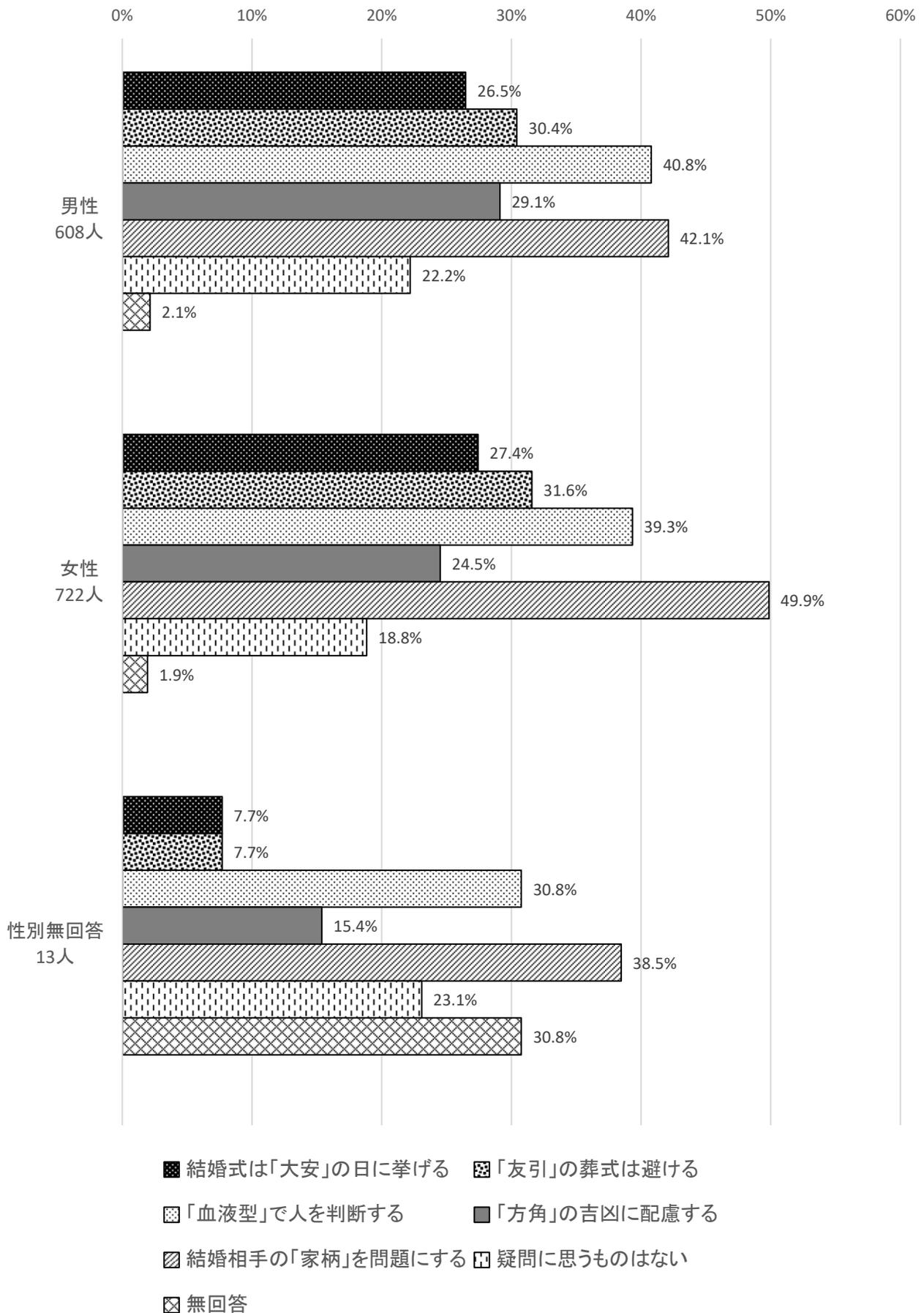
それ自身に合理的根拠がない伝統や風習を無批判に受容する態度は、直接的な人権侵害に繋がるものではないにしても、差別と結びつきやすいということから、このような風習や習慣は、従来の啓発の中でその不合理さを繰り返し訴えてきたはずのものである。

ところが、「18～30歳」の年代が、そのような不合理に疑問を持って接している様子がうかがえる反面、「血液型」と「家柄」に関するものを除く風習や習慣は、「31～40歳」の年代で疑問に思う者が最小という結果が出ており、この事実は、今後の啓発を考える上で留意すべき点であろう。

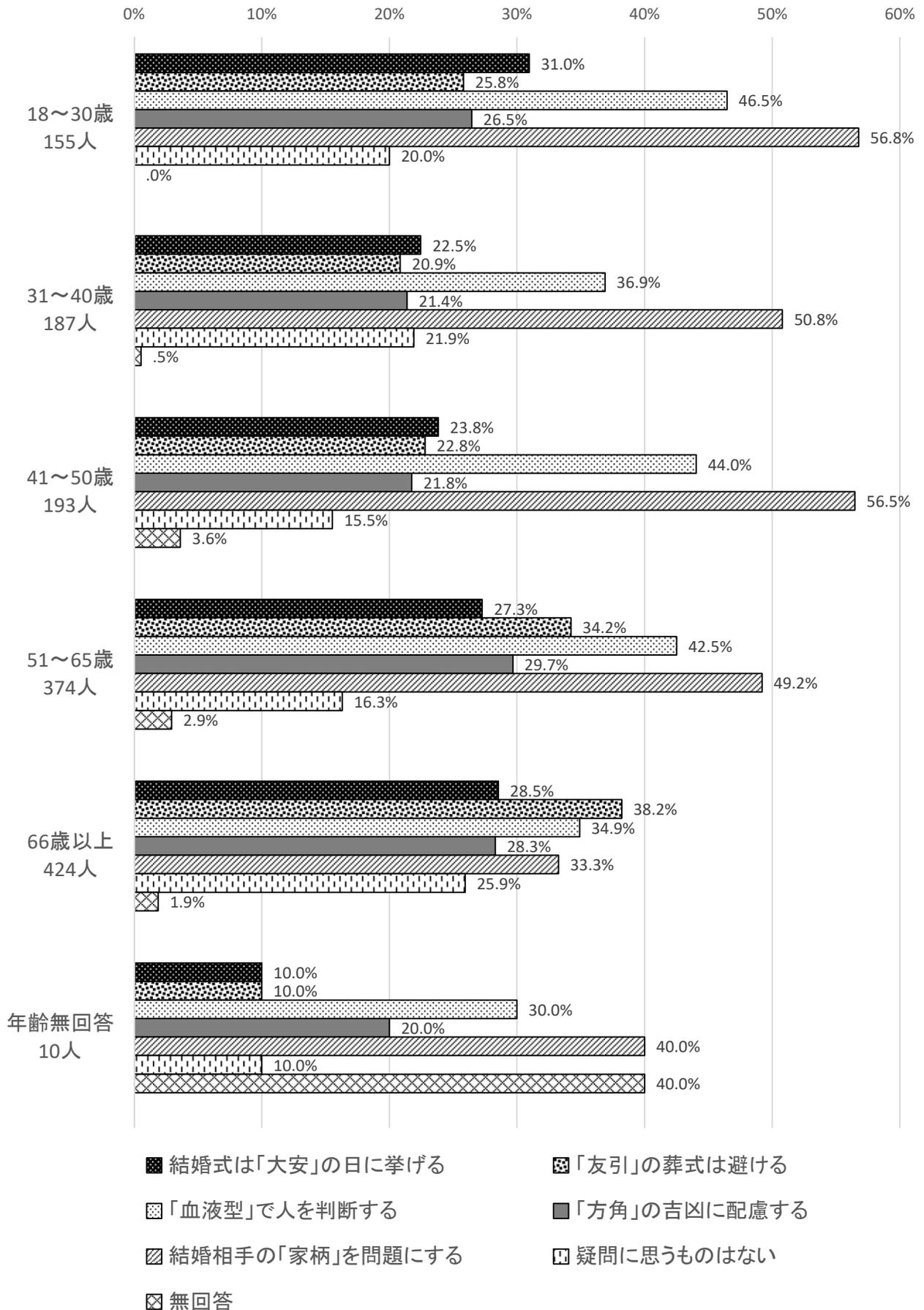


問5 複数回答			疑問に思う風習や習慣について						
			結婚式は「大安」の日に挙げる	「友引」の葬式は避ける	「血液型」で人を判断する	「方角」の吉凶に配慮する	結婚相手の「家柄」を問題にする	疑問に思うものはない	無回答
性別	男性	回答人数	161	185	248	177	256	135	13
	608人	性別 内の割合	26.5%	30.4%	40.8%	29.1%	42.1%	22.2%	2.1%
		問5 内の割合	44.7%	44.7%	46.3%	49.7%	41.2%	49.3%	41.9%
女性	回答人数	198	228	284	177	360	136	14	
	722人	性別 内の割合	27.4%	31.6%	39.3%	24.5%	49.9%	18.8%	1.9%
		問5 内の割合	55.0%	55.1%	53.0%	49.7%	58.0%	49.6%	45.2%
性別 無回答	回答人数	1	1	4	2	5	3	4	
	13人	性別 内の割合	7.7%	7.7%	30.8%	15.4%	38.5%	23.1%	30.8%
		問5 内の割合	0.3%	0.2%	0.7%	0.6%	0.8%	1.1%	12.9%
年齢	18～30歳	回答人数	48	40	72	41	88	31	0
	155人	年齢 内の割合	31.0%	25.8%	46.5%	26.5%	56.8%	20.0%	0.0%
		問5 内の割合	13.3%	9.7%	13.4%	11.5%	14.2%	11.3%	0.0%
	31～40歳	回答人数	42	39	69	40	95	41	1
	187人	年齢 内の割合	22.5%	20.9%	36.9%	21.4%	50.8%	21.9%	0.5%
		問5 内の割合	11.7%	9.4%	12.9%	11.2%	15.3%	15.0%	3.2%
	41～50歳	回答人数	46	44	85	42	109	30	7
	193人	年齢 内の割合	23.8%	22.8%	44.0%	21.8%	56.5%	15.5%	3.6%
		問5 内の割合	12.8%	10.6%	15.9%	11.8%	17.6%	10.9%	22.6%
	51～65歳	回答人数	102	128	159	111	184	61	11
374人	年齢 内の割合	27.3%	34.2%	42.5%	29.7%	49.2%	16.3%	2.9%	
	問5 内の割合	28.3%	30.9%	29.7%	31.2%	29.6%	22.3%	35.5%	
66歳以上	回答人数	121	162	148	120	141	110	8	
424人	年齢 内の割合	28.5%	38.2%	34.9%	28.3%	33.3%	25.9%	1.9%	
	問5 内の割合	33.6%	39.1%	27.6%	33.7%	22.7%	40.1%	25.8%	
年齢 無回答	回答人数	1	1	3	2	4	1	4	
10人	年齢 内の割合	10.0%	10.0%	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%	40.0%	
	問5 内の割合	0.3%	0.2%	0.6%	0.6%	0.6%	0.4%	12.9%	
校区	福島中	回答人数	90	86	118	96	121	54	5
	271人	校区 内の割合	33.2%	31.7%	43.5%	35.4%	44.6%	19.9%	1.8%
		問5 内の割合	25.0%	20.8%	22.0%	27.0%	19.5%	19.7%	16.1%
	南中	回答人数	37	45	63	39	93	41	4
	189人	校区 内の割合	19.6%	23.8%	33.3%	20.6%	49.2%	21.7%	2.1%
		問5 内の割合	10.3%	10.9%	11.8%	11.0%	15.0%	15.0%	12.9%
	見崎中	回答人数	31	32	53	31	66	20	2
	121人	校区 内の割合	25.6%	26.4%	43.8%	25.6%	54.5%	16.5%	1.7%
		問5 内の割合	8.6%	7.7%	9.9%	8.7%	10.6%	7.3%	6.5%
	西中	回答人数	50	61	79	50	77	36	4
	182人	校区 内の割合	27.5%	33.5%	43.4%	27.5%	42.3%	19.8%	2.2%
		問5 内の割合	13.9%	14.7%	14.7%	14.0%	12.4%	13.1%	12.9%
	黒木中	回答人数	59	78	90	52	101	54	3
	218人	校区 内の割合	27.1%	35.8%	41.3%	23.9%	46.3%	24.8%	1.4%
		問5 内の割合	16.4%	18.8%	16.8%	14.6%	16.3%	19.7%	9.7%
	上陽北浜学園	回答人数	21	19	26	20	29	14	1
	60人	校区 内の割合	35.0%	31.7%	43.3%	33.3%	48.3%	23.3%	1.7%
		問5 内の割合	5.8%	4.6%	4.9%	5.6%	4.7%	5.1%	3.2%
	筑南中	回答人数	15	20	24	15	30	16	0
	70人	校区 内の割合	21.4%	28.6%	34.3%	21.4%	42.9%	22.9%	0.0%
	問5 内の割合	4.2%	4.8%	4.5%	4.2%	4.8%	5.8%	0.0%	
立花中	回答人数	21	32	43	25	46	18	4	
108人	校区 内の割合	19.4%	29.6%	39.8%	23.1%	42.6%	16.7%	3.7%	
	問5 内の割合	5.8%	7.7%	8.0%	7.0%	7.4%	6.6%	12.9%	
矢部清流学園	回答人数	5	5	7	3	10	1	1	
18人	校区 内の割合	27.8%	27.8%	38.9%	16.7%	55.6%	5.6%	5.6%	
	問5 内の割合	1.4%	1.2%	1.3%	0.8%	1.6%	0.4%	3.2%	
星野中	回答人数	22	25	16	17	29	14	2	
64人	校区 内の割合	34.4%	39.1%	25.0%	26.6%	45.3%	21.9%	3.1%	
	問5 内の割合	6.1%	6.0%	3.0%	4.8%	4.7%	5.1%	6.5%	
校区不明	回答人数	6	8	9	3	13	6	0	
24人	校区 内の割合	25.0%	33.3%	37.5%	12.5%	54.2%	25.0%	0.0%	
	問5 内の割合	1.7%	1.9%	1.7%	0.8%	2.1%	2.2%	0.0%	
校区 無回答	回答人数	3	3	8	5	6	0	5	
18人	校区 内の割合	16.7%	16.7%	44.4%	27.8%	33.3%	0.0%	27.8%	
	問5 内の割合	0.8%	0.7%	1.5%	1.4%	1.0%	0.0%	16.1%	
合計	回答人数	360	414	536	356	621	274	31	
1343人	合計に対する割合	26.8%	30.8%	39.9%	26.5%	46.2%	20.4%	2.3%	

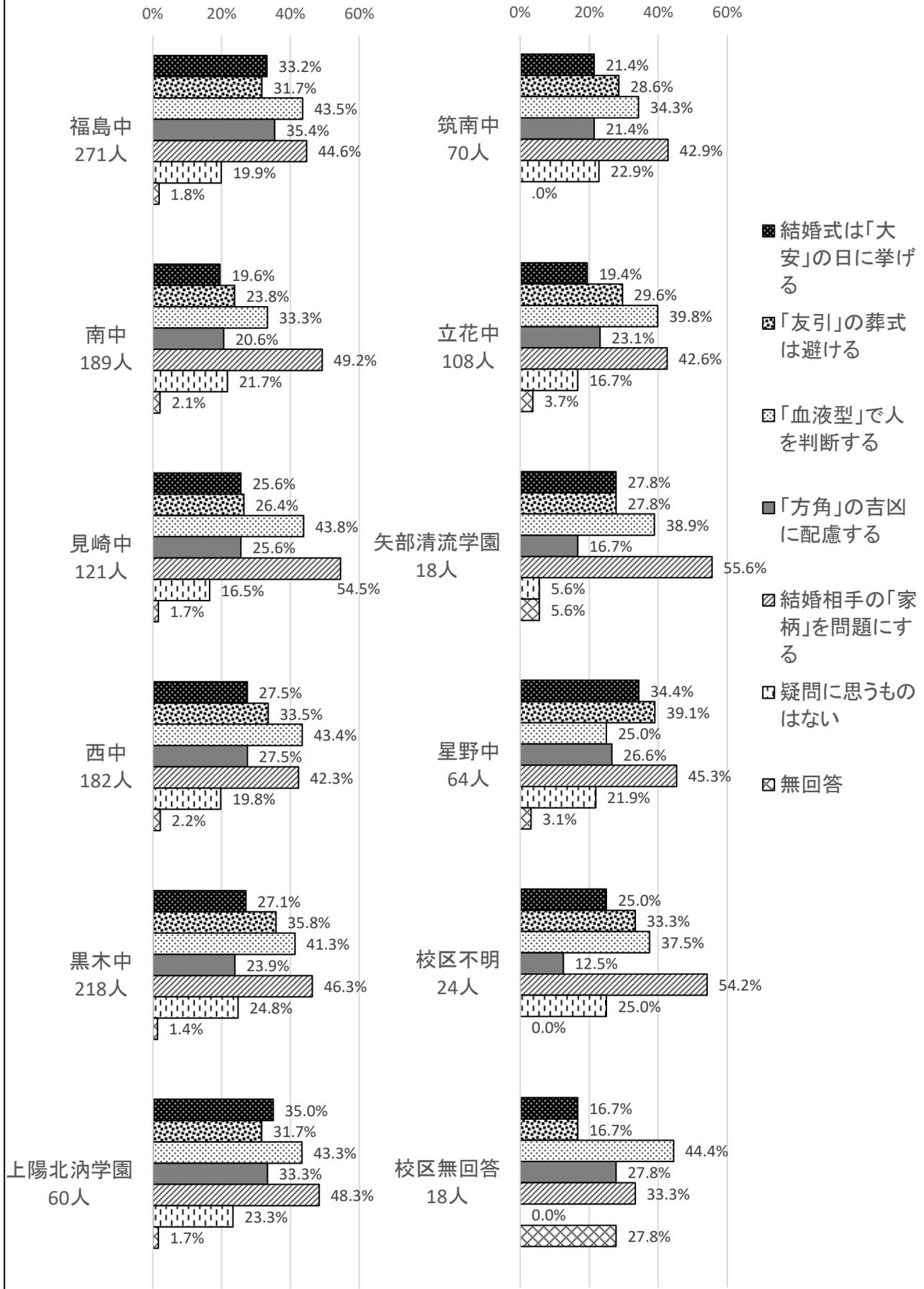
問5 疑問に思う風習や習慣について(性別)



問5 疑問に思う風習や習慣について(年齢別)



問5 疑問に思う風習や習慣について(校区别)



問6 あなたは、この5年間に、仕事の中で人権問題に関する研修を受けたことがありますか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

「研修を全く受けたことがない」と回答した者の割合が、全体で45.4%に上っている。性別の回答傾向を見ると、男性の46.5%、女性の44.5%が「研修を全く受けたことがない」と回答しており、性別による差はほとんどない。

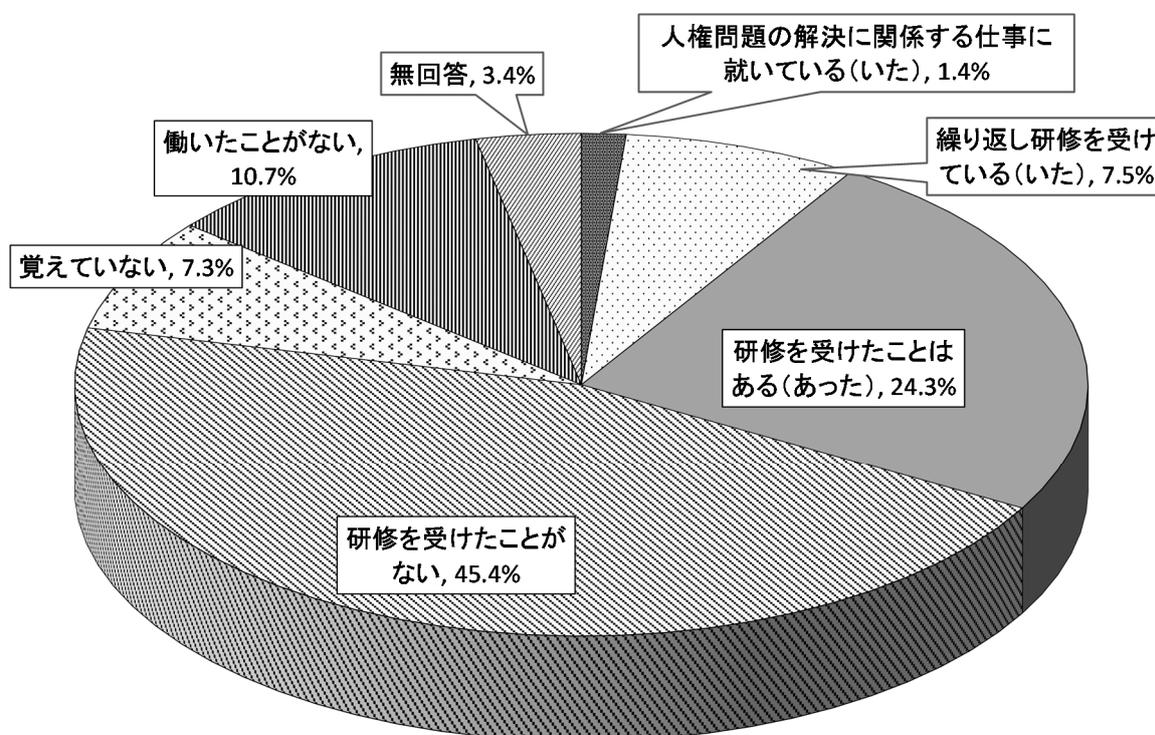
年齢別で最大であったのは「31～40歳」の49.2%だったが、「41～50歳」でも46.6%、「51～65歳」でも47.9%の市民が「研修を全く受けたことがない」と回答している。

「研修を全く受けたことがない」と回答した者の割合に、「覚えていない」「働いたことがない」「無回答」の割合を加えると66.8%となることから、仕事を通して人権研修を受けたことがあると自覚している市民は約3分の1であることが分かる。

一方、「人権問題の解決に関係する仕事に就いている(いた)」と回答した1.4%と、「繰り返し研修を受けている(いた)」と回答した7.5%を合計しても8.9%に過ぎず、職場研修を通し、さまざまな人権課題について学習する機会を持つ者は1割に満たない。

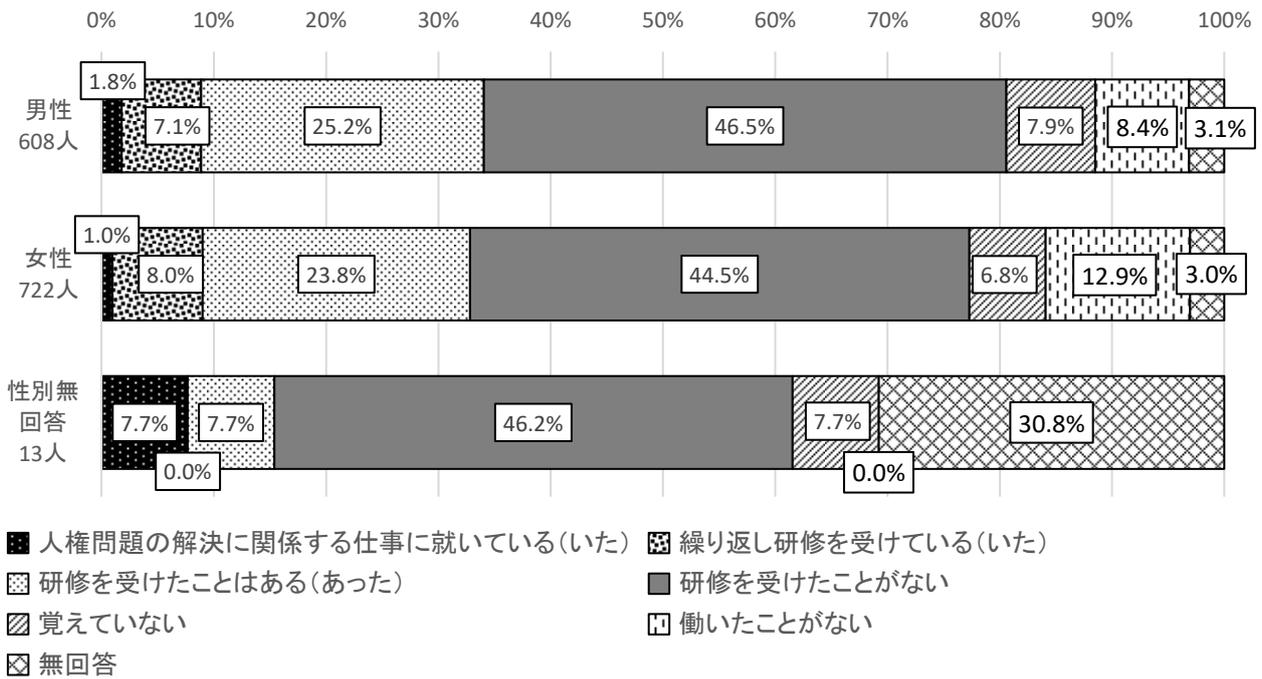
各事業所に対し、新規採用時から継続的に、同和問題を始めとするさまざまな人権課題に関する研修を実施するよう促すとともに、一次産業従事者や自営業者、非正規雇用者や専業主婦層等にも対応した、多様な啓発の取り組みが求められていると言える。

問6 人権問題に関する研修について(全体)

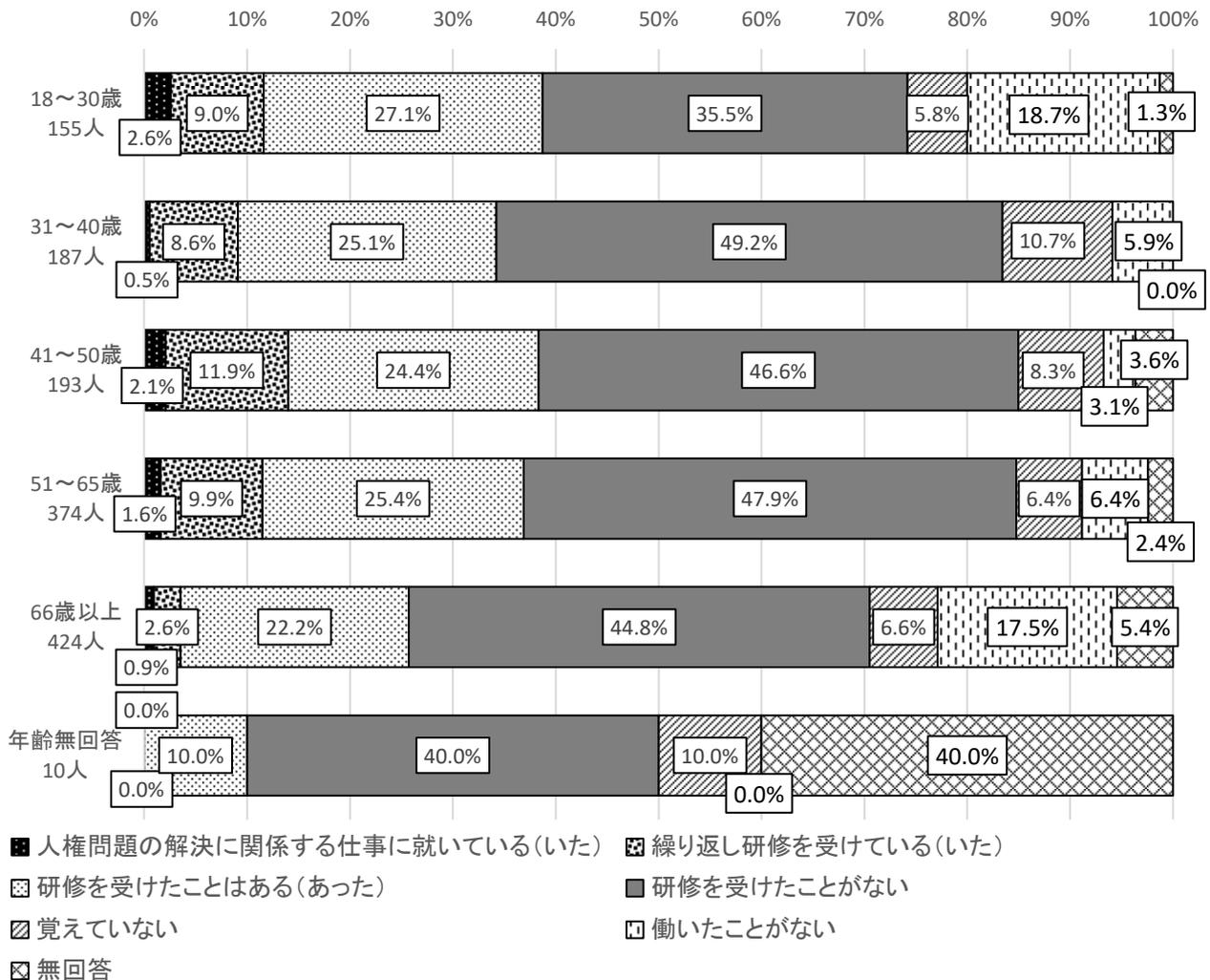


問6			人権問題に関する研修					
			人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)	繰り返し研修を受けている (いた)	研修を受けたことはある (あった)	研修を受けたことがない	覚えていない	働いたことがない
性別 男性 608人	回答人数	11	43	153	283	48	51	19
	性別 内の割合	1.8%	7.1%	25.2%	46.5%	7.9%	8.4%	3.1%
	問6 内の割合	57.9%	42.6%	46.9%	46.4%	49.0%	35.4%	42.2%
女性 722人	回答人数	7	58	172	321	49	93	22
	性別 内の割合	1.0%	8.0%	23.8%	44.5%	6.8%	12.9%	3.0%
	問6 内の割合	36.8%	57.4%	52.8%	52.6%	50.0%	64.6%	48.9%
性別 無回答 13人	回答人数	1	0	1	6	1	0	4
	性別 内の割合	7.7%	0.0%	7.7%	46.2%	7.7%	0.0%	30.8%
	問6 内の割合	5.3%	0.0%	0.3%	1.0%	1.0%	0.0%	8.9%
年齢 18~30歳 155人	回答人数	4	14	42	55	9	29	2
	年齢 内の割合	2.6%	9.0%	27.1%	35.5%	5.8%	18.7%	1.3%
	問6 内の割合	21.1%	13.9%	12.9%	9.0%	9.2%	20.1%	4.4%
31~40歳 187人	回答人数	1	16	47	92	20	11	0
	年齢 内の割合	0.5%	8.6%	25.1%	49.2%	10.7%	5.9%	0.0%
	問6 内の割合	5.3%	15.8%	14.4%	15.1%	20.4%	7.6%	0.0%
41~50歳 193人	回答人数	4	23	47	90	16	6	7
	年齢 内の割合	2.1%	11.9%	24.4%	46.6%	8.3%	3.1%	3.6%
	問6 内の割合	21.1%	22.8%	14.4%	14.8%	16.3%	4.2%	15.6%
51~65歳 374人	回答人数	6	37	95	179	24	24	9
	年齢 内の割合	1.6%	9.9%	25.4%	47.9%	6.4%	6.4%	2.4%
	問6 内の割合	31.6%	36.6%	29.1%	29.3%	24.5%	16.7%	20.0%
66歳以上 424人	回答人数	4	11	94	190	28	74	23
	年齢 内の割合	0.9%	2.6%	22.2%	44.8%	6.6%	17.5%	5.4%
	問6 内の割合	21.1%	10.9%	28.8%	31.1%	28.6%	51.4%	51.1%
年齢 無回答 10人	回答人数	0	0	1	4	1	0	4
	年齢 内の割合	0.0%	0.0%	10.0%	40.0%	10.0%	0.0%	40.0%
	問6 内の割合	0.0%	0.0%	0.3%	0.7%	1.0%	0.0%	8.9%
校区 福島中 271人	回答人数	5	25	63	122	21	31	4
	校区 内の割合	1.8%	9.2%	23.2%	45.0%	7.7%	11.4%	1.5%
	問6 内の割合	26.3%	24.8%	19.3%	20.0%	21.4%	21.5%	8.9%
南中 189人	回答人数	3	16	44	84	13	23	6
	校区 内の割合	1.6%	8.5%	23.3%	44.4%	6.9%	12.2%	3.2%
	問6 内の割合	15.8%	15.8%	13.5%	13.8%	13.3%	16.0%	13.3%
見崎中 121人	回答人数	1	4	29	63	9	12	3
	校区 内の割合	0.8%	3.3%	24.0%	52.1%	7.4%	9.9%	2.5%
	問6 内の割合	5.3%	4.0%	8.9%	10.3%	9.2%	8.3%	6.7%
西中 182人	回答人数	2	14	47	81	9	19	10
	校区 内の割合	1.1%	7.7%	25.8%	44.5%	4.9%	10.4%	5.5%
	問6 内の割合	10.5%	13.9%	14.4%	13.3%	9.2%	13.2%	22.2%
黒木中 218人	回答人数	5	19	54	99	14	23	4
	校区 内の割合	2.3%	8.7%	24.8%	45.4%	6.4%	10.6%	1.8%
	問6 内の割合	26.3%	18.8%	16.6%	16.2%	14.3%	16.0%	8.9%
上陽北浜学園 60人	回答人数	0	3	16	26	6	6	3
	校区 内の割合	0.0%	5.0%	26.7%	43.3%	10.0%	10.0%	5.0%
	問6 内の割合	0.0%	3.0%	4.9%	4.3%	6.1%	4.2%	6.7%
筑南中 70人	回答人数	0	3	21	30	6	7	3
	校区 内の割合	0.0%	4.3%	30.0%	42.9%	8.6%	10.0%	4.3%
	問6 内の割合	0.0%	3.0%	6.4%	4.9%	6.1%	4.9%	6.7%
立花中 108人	回答人数	3	7	19	59	7	10	3
	校区 内の割合	2.8%	6.5%	17.6%	54.6%	6.5%	9.3%	2.8%
	問6 内の割合	15.8%	6.9%	5.8%	9.7%	7.1%	6.9%	6.7%
矢部清流学園 18人	回答人数	0	2	8	4	1	2	1
	校区 内の割合	0.0%	11.1%	44.4%	22.2%	5.6%	11.1%	5.6%
	問6 内の割合	0.0%	2.0%	2.5%	0.7%	1.0%	1.4%	2.2%
星野中 64人	回答人数	0	5	19	25	7	5	3
	校区 内の割合	0.0%	7.8%	29.7%	39.1%	10.9%	7.8%	4.7%
	問6 内の割合	0.0%	5.0%	5.8%	4.1%	7.1%	3.5%	6.7%
校区不明 24人	回答人数	0	2	5	8	5	4	0
	校区 内の割合	0.0%	8.3%	20.8%	33.3%	20.8%	16.7%	0.0%
	問6 内の割合	0.0%	2.0%	1.5%	1.3%	5.1%	2.8%	0.0%
校区 無回答 18人	回答人数	0	1	1	9	0	2	5
	校区 内の割合	0.0%	5.6%	5.6%	50.0%	0.0%	11.1%	27.8%
	問6 内の割合	0.0%	1.0%	0.3%	1.5%	0.0%	1.4%	11.1%
合計 1343人	回答人数	19	101	326	610	98	144	45
	合計に対する割合	1.4%	7.5%	24.3%	45.4%	7.3%	10.7%	3.4%

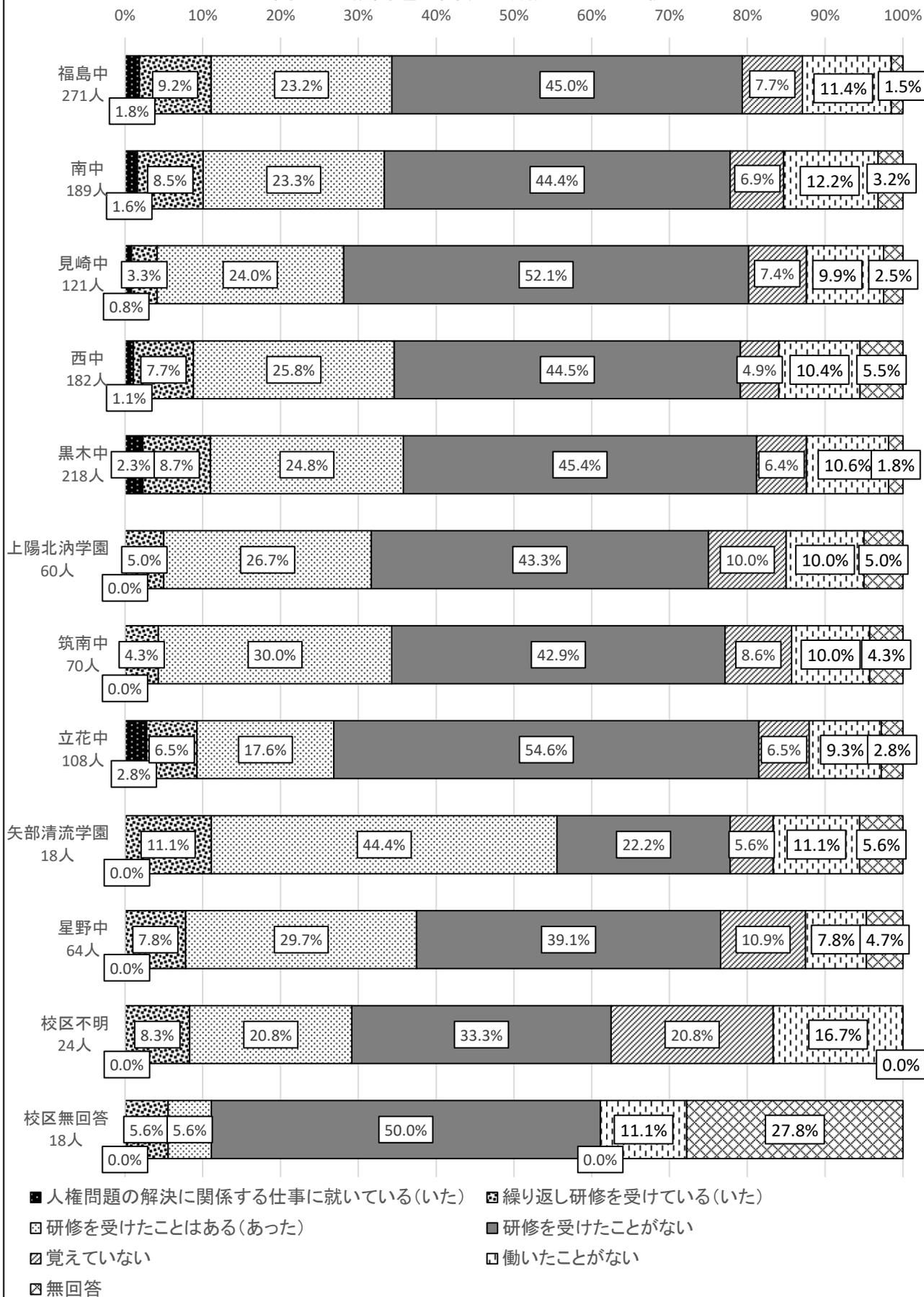
問6 人権問題に関する研修について(性別)



問6 人権問題に関する研修について(年齢別)



問6 人権問題に関する研修について(校区別)

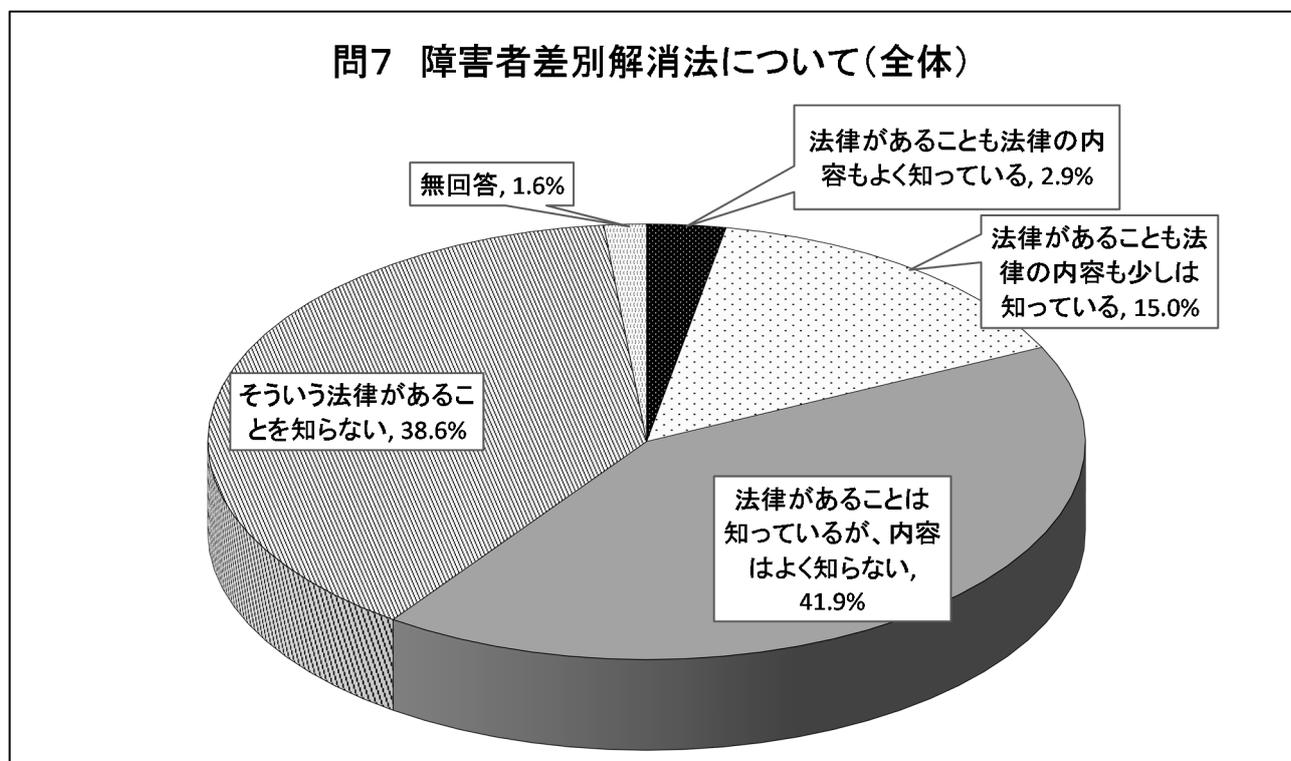


問7 2016年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」について、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」と回答した者の割合が41.9%で、「そういう法律があることを知らない」と回答した者の割合が38.6%で、ほぼ8割の市民が法律を知っておらず、障害者差別解消法の認知度は2割に満たない状況である。

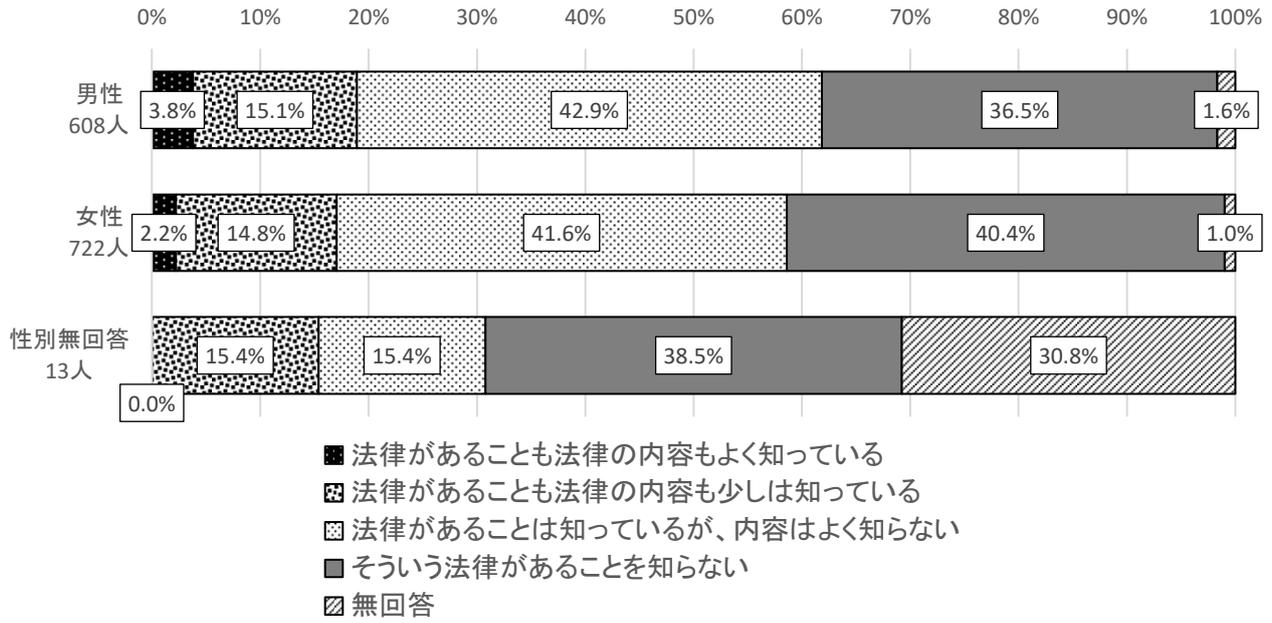
性別の回答傾向や、年齢別、中学校区別の回答傾向を見ても、「よく知らない」「あることを知らない」を合計した割合では、ほぼ同様の結果である。

障害者差別解消法は、障害者差別解消のための「不均等待遇の禁止」と「合理的配慮の提供」という二つの具体的アクションを広く市民にも求める法律であるため、法律内容の認知そのものが、障害者差別解消の実現に深く関わっている。したがって、この状況を早急に克服するための、教育や啓発に取り組むことが重要であると思われる。

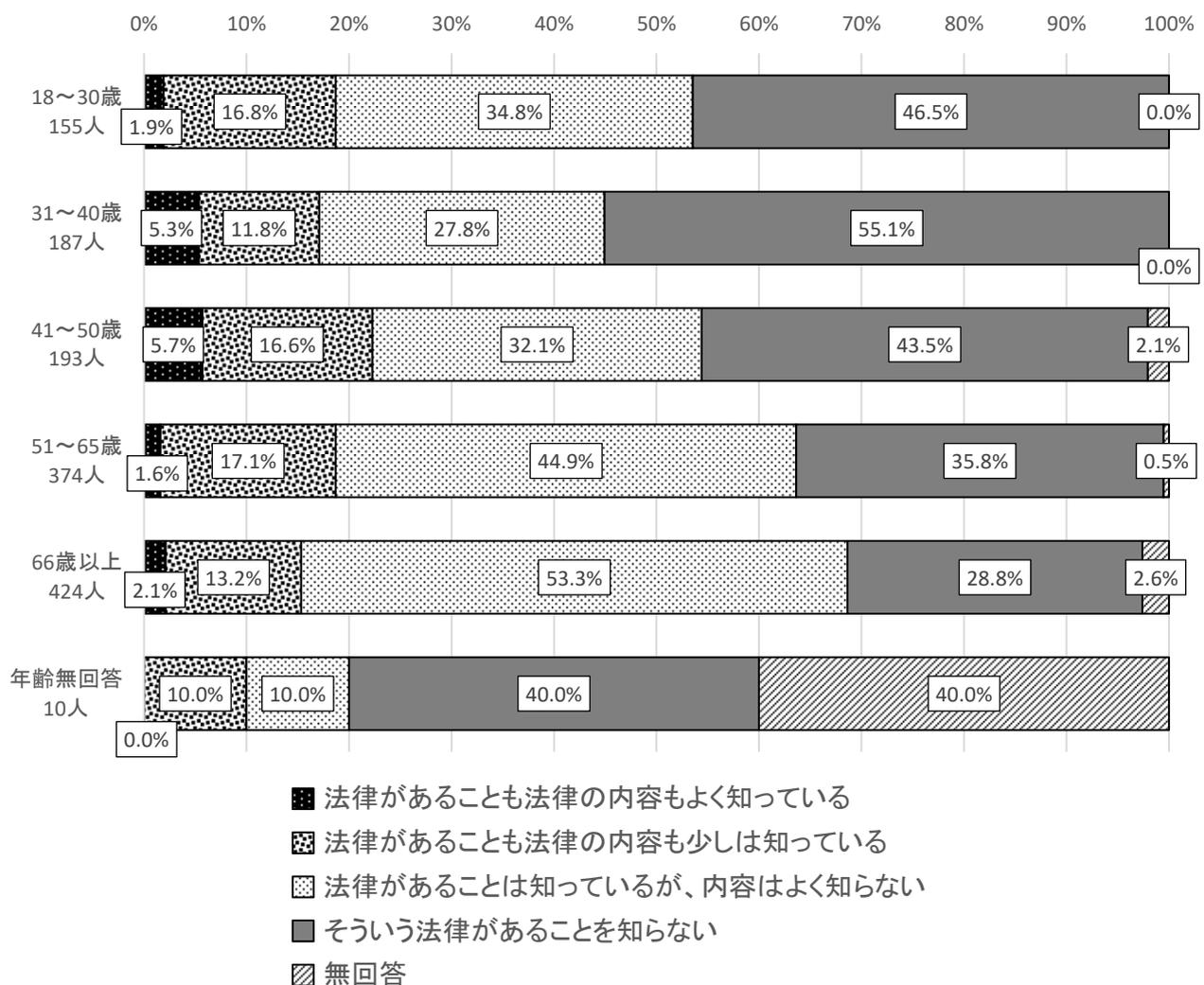


問7		障害者差別解消法について					
		法律があることも法律の内容もよく知っている	法律があることも法律の内容も少しは知っている	法律があることは知っているが、内容はよく知らない	そういう法律があることを知らない	無回答	
性別	男性	回答人数	23	92	261	222	10
	608人	性別 内の割合	3.8%	15.1%	42.9%	36.5%	1.6%
		問7 内の割合	59.0%	45.8%	46.4%	42.8%	47.6%
女性	回答人数	16	107	300	292	7	
	722人	性別 内の割合	2.2%	14.8%	41.6%	40.4%	1.0%
		問7 内の割合	41.0%	53.2%	53.3%	56.3%	33.3%
性別 無回答	回答人数	0	2	2	5	4	
	13人	性別 内の割合	0.0%	15.4%	15.4%	38.5%	30.8%
		問7 内の割合	0.0%	1.0%	0.4%	1.0%	19.0%
年齢	18～30歳	回答人数	3	26	54	72	0
	155人	年齢 内の割合	1.9%	16.8%	34.8%	46.5%	0.0%
		問7 内の割合	7.7%	12.9%	9.6%	13.9%	0.0%
31～40歳	回答人数	10	22	52	103	0	
	187人	年齢 内の割合	5.3%	11.8%	27.8%	55.1%	0.0%
		問7 内の割合	25.6%	10.9%	9.2%	19.8%	0.0%
41～50歳	回答人数	11	32	62	84	4	
	193人	年齢 内の割合	5.7%	16.6%	32.1%	43.5%	2.1%
		問7 内の割合	28.2%	15.9%	11.0%	16.2%	19.0%
51～65歳	回答人数	6	64	168	134	2	
	374人	年齢 内の割合	1.6%	17.1%	44.9%	35.8%	0.5%
		問7 内の割合	15.4%	31.8%	29.8%	25.8%	9.5%
66歳以上	回答人数	9	56	226	122	11	
	424人	年齢 内の割合	2.1%	13.2%	53.3%	28.8%	2.6%
		問7 内の割合	23.1%	27.9%	40.1%	23.5%	52.4%
年齢 無回答	回答人数	0	1	1	4	4	
	10人	年齢 内の割合	0.0%	10.0%	10.0%	40.0%	40.0%
		問7 内の割合	0.0%	0.5%	0.2%	0.8%	19.0%
校区	福島中	回答人数	8	48	100	114	1
	271人	校区 内の割合	3.0%	17.7%	36.9%	42.1%	0.4%
		問7 内の割合	20.5%	23.9%	17.8%	22.0%	4.8%
南中	回答人数	6	21	83	76	3	
	189人	校区 内の割合	3.2%	11.1%	43.9%	40.2%	1.6%
		問7 内の割合	15.4%	10.4%	14.7%	14.6%	14.3%
見崎中	回答人数	3	19	60	39	0	
	121人	校区 内の割合	2.5%	15.7%	49.6%	32.2%	0.0%
		問7 内の割合	7.7%	9.5%	10.7%	7.5%	0.0%
西中	回答人数	9	24	73	72	4	
	182人	校区 内の割合	4.9%	13.2%	40.1%	39.6%	2.2%
		問7 内の割合	23.1%	11.9%	13.0%	13.9%	19.0%
黒木中	回答人数	4	39	90	82	3	
	218人	校区 内の割合	1.8%	17.9%	41.3%	37.6%	1.4%
		問7 内の割合	10.3%	19.4%	16.0%	15.8%	14.3%
上陽北浜学園	回答人数	2	7	30	21	0	
	60人	校区 内の割合	3.3%	11.7%	50.0%	35.0%	0.0%
		問7 内の割合	5.1%	3.5%	5.3%	4.0%	0.0%
筑南中	回答人数	2	8	34	24	2	
	70人	校区 内の割合	2.9%	11.4%	48.6%	34.3%	2.9%
		問7 内の割合	5.1%	4.0%	6.0%	4.6%	9.5%
立花中	回答人数	2	17	43	43	3	
	108人	校区 内の割合	1.9%	15.7%	39.8%	39.8%	2.8%
		問7 内の割合	5.1%	8.5%	7.6%	8.3%	14.3%
矢部清流学園	回答人数	0	5	6	6	1	
	18人	校区 内の割合	0.0%	27.8%	33.3%	33.3%	5.6%
		問7 内の割合	0.0%	2.5%	1.1%	1.2%	4.8%
星野中	回答人数	3	9	27	25	0	
	64人	校区 内の割合	4.7%	14.1%	42.2%	39.1%	0.0%
		問7 内の割合	7.7%	4.5%	4.8%	4.8%	0.0%
校区不明	回答人数	0	2	8	14	0	
	24人	校区 内の割合	0.0%	8.3%	33.3%	58.3%	0.0%
		問7 内の割合	0.0%	1.0%	1.4%	2.7%	0.0%
校区 無回答	回答人数	0	2	9	3	4	
	18人	校区 内の割合	0.0%	11.1%	50.0%	16.7%	22.2%
		問7 内の割合	0.0%	1.0%	1.6%	0.6%	19.0%
合計	回答人数	39	201	563	519	21	
	1343人	合計に対する割合	2.9%	15.0%	41.9%	38.6%	1.6%

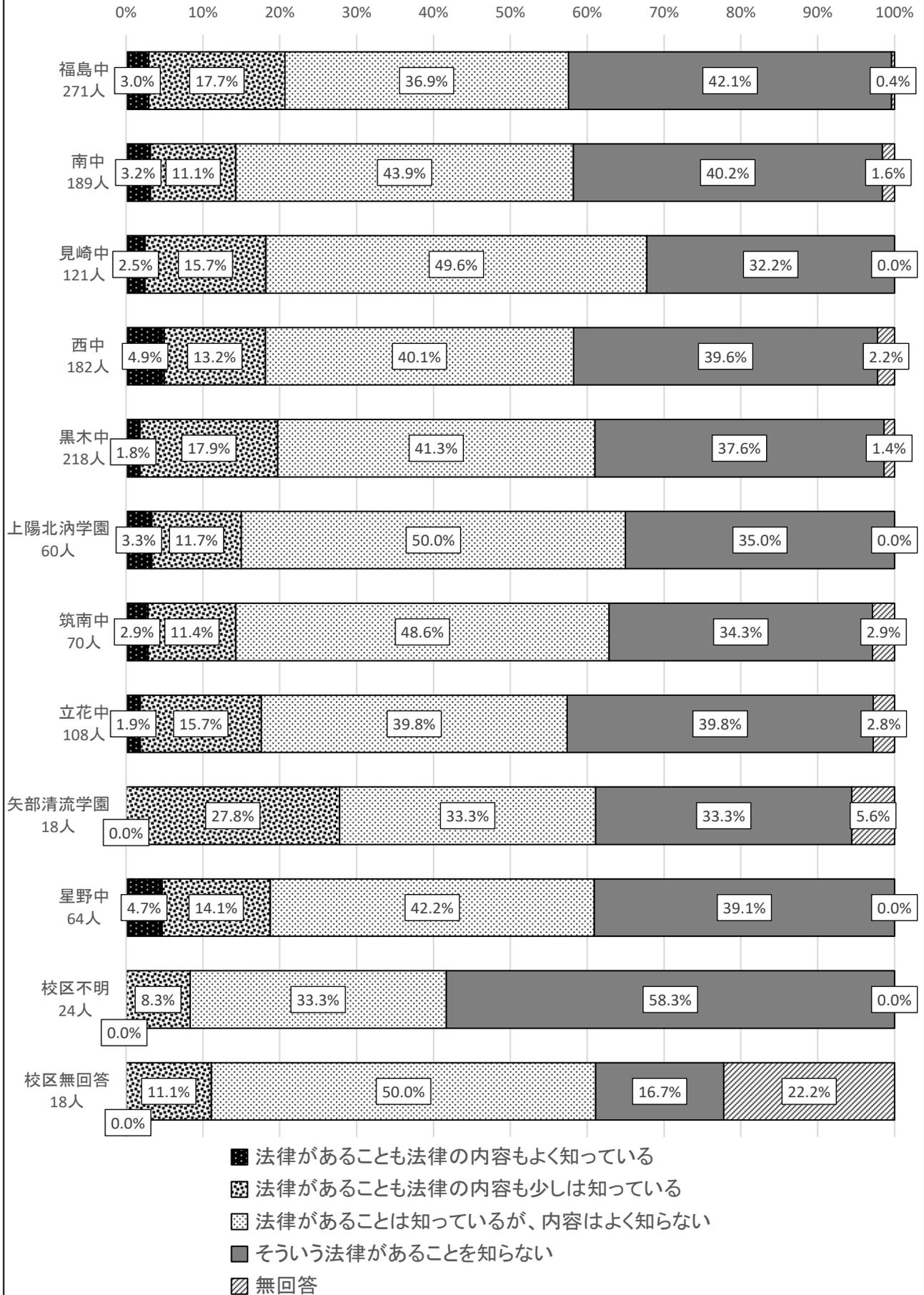
問7 障害者差別解消法について(性別)



問7 障害者差別解消法について(年齢別)



問7 障害者差別解消法について(校区別)

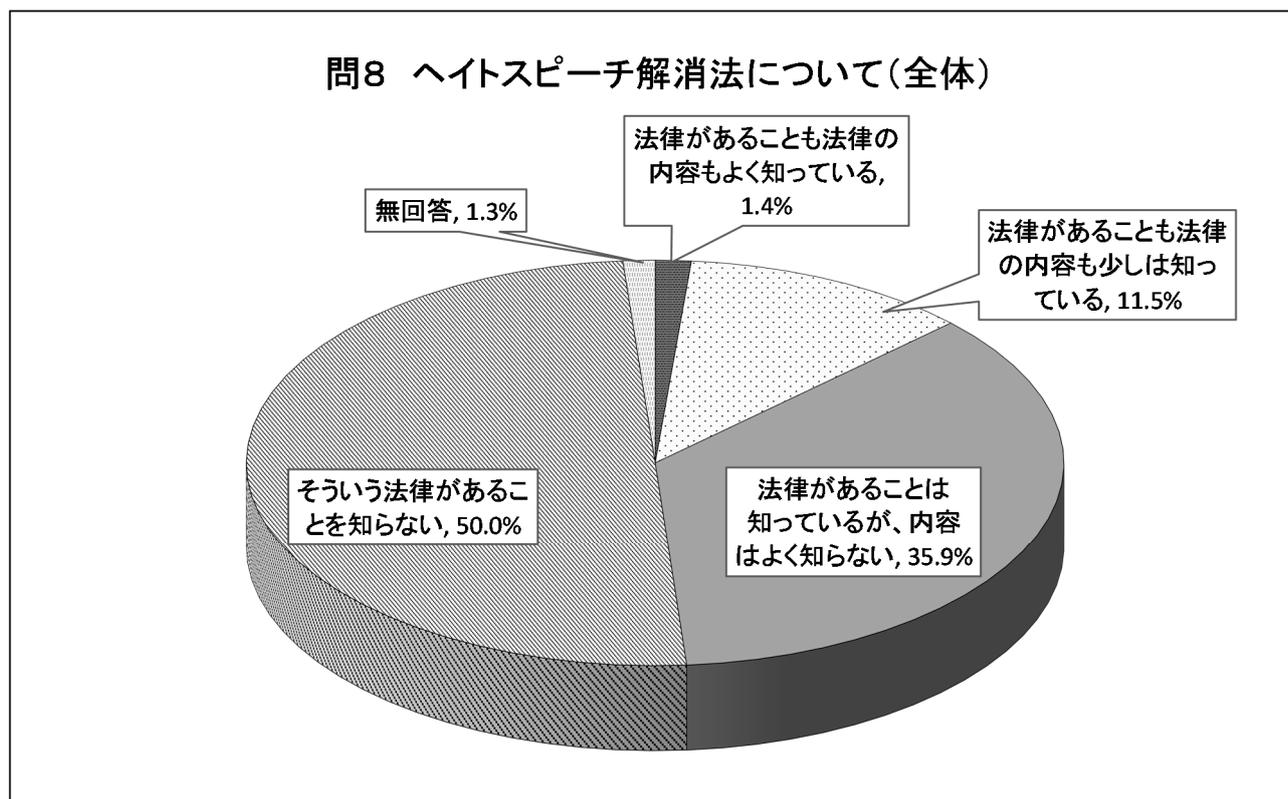


問8 同じく2016年に施行された「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」について、あてはまるもの一つ選んで○をつけてください。

「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」と回答した者の割合が35.9%で、「そういう法律があることを知らない」と回答した者の割合が50.0%で、8割以上の市民が法律を知っておらず、ヘイトスピーチ解消法の認知度は1割をわずかに超えるという状況である。

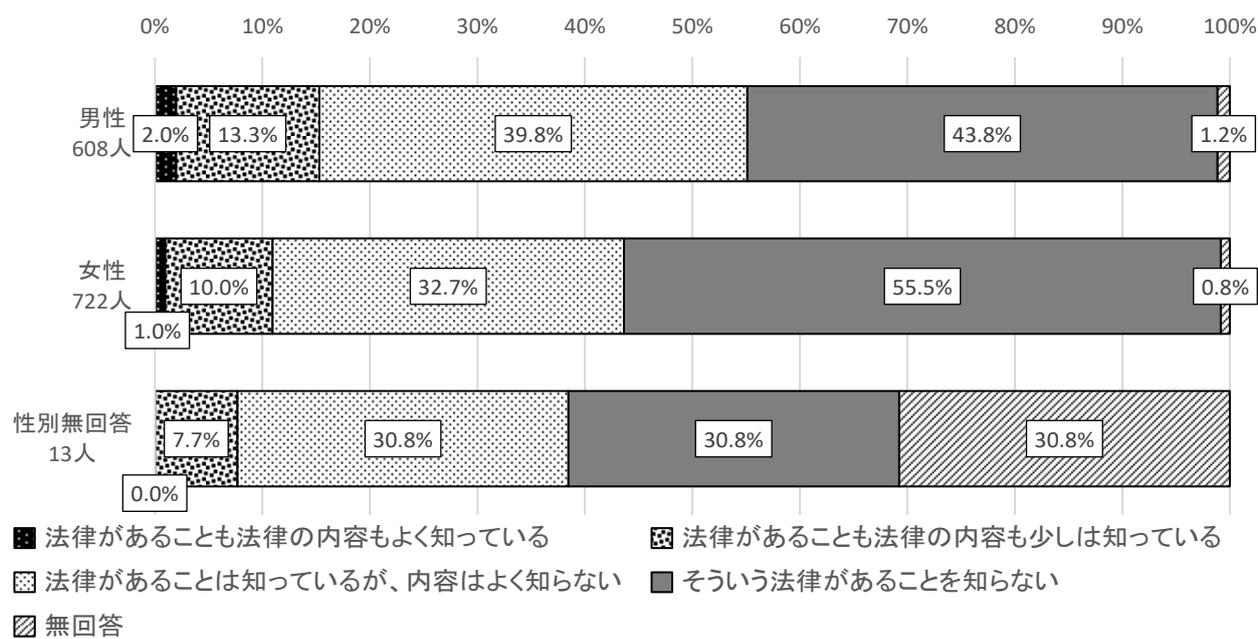
性別の回答傾向や、年齢別、中学校区別の回答傾向を見ても、「よく知らない」「あることを知らない」を合計した割合では、ほぼ同様の結果である。

ヘイトスピーチ解消法については、対象となるヘイトスピーチそのものを身近に感じる地域とそうでない地域とがあることから、問題の切実性に地域差が存在しており、そのことも認知度に影響していると思われるが、差別解消三法をセットにして教育や啓発に取り組むことで、個人人権課題には固有の差別解消法を制定して解決を目指すという、政府政策の大きな方向性や展望を伝えていくことが大切である。

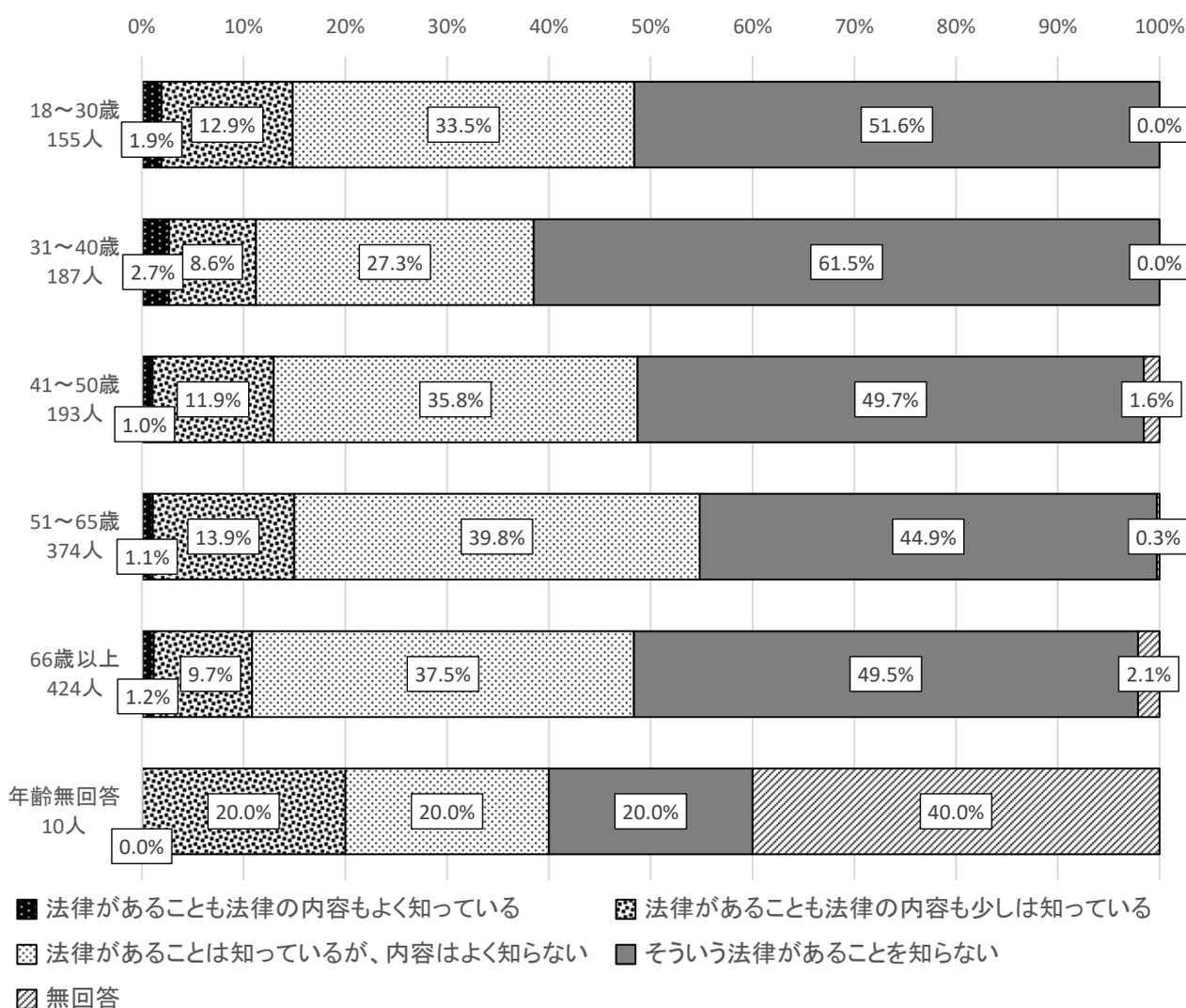


問8		ヘイトスピーチ解消法について					
		法律があることも法律の内容もよく知っている	法律があることも法律の内容も少しは知っている	法律があることは知っているが、内容はよく知らない	そういう法律があることを知らない	無回答	
性別	男性	回答人数	12	81	242	266	7
	608人	性別 内の割合	2.0%	13.3%	39.8%	43.8%	1.2%
		問8 内の割合	63.2%	52.6%	50.2%	39.6%	41.2%
女性	回答人数	7	72	236	401	6	
	722人	性別 内の割合	1.0%	10.0%	32.7%	55.5%	0.8%
		問8 内の割合	36.8%	46.8%	49.0%	59.8%	35.3%
性別 無回答	回答人数	0	1	4	4	4	
	13人	性別 内の割合	0.0%	7.7%	30.8%	30.8%	30.8%
		問8 内の割合	0.0%	0.6%	0.8%	0.6%	23.5%
年齢	18~30歳	回答人数	3	20	52	80	0
	155人	年齢 内の割合	1.9%	12.9%	33.5%	51.6%	0.0%
		問8 内の割合	15.8%	13.0%	10.8%	11.9%	0.0%
31~40歳	回答人数	5	16	51	115	0	
	187人	年齢 内の割合	2.7%	8.6%	27.3%	61.5%	0.0%
		問8 内の割合	26.3%	10.4%	10.6%	17.1%	0.0%
41~50歳	回答人数	2	23	69	96	3	
	193人	年齢 内の割合	1.0%	11.9%	35.8%	49.7%	1.6%
		問8 内の割合	10.5%	14.9%	14.3%	14.3%	17.6%
51~65歳	回答人数	4	52	149	168	1	
	374人	年齢 内の割合	1.1%	13.9%	39.8%	44.9%	0.3%
		問8 内の割合	21.1%	33.8%	30.9%	25.0%	5.9%
66歳以上	回答人数	5	41	159	210	9	
	424人	年齢 内の割合	1.2%	9.7%	37.5%	49.5%	2.1%
		問8 内の割合	26.3%	26.6%	33.0%	31.3%	52.9%
年齢 無回答	回答人数	0	2	2	2	4	
	10人	年齢 内の割合	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%
		問8 内の割合	0.0%	1.3%	0.4%	0.3%	23.5%
校区	福島中	回答人数	6	36	103	125	1
	271人	校区 内の割合	2.2%	13.3%	38.0%	46.1%	0.4%
		問8 内の割合	31.6%	23.4%	21.4%	18.6%	5.9%
南中	回答人数	4	17	55	110	3	
	189人	校区 内の割合	2.1%	9.0%	29.1%	58.2%	1.6%
		問8 内の割合	21.1%	11.0%	11.4%	16.4%	17.6%
見崎中	回答人数	0	10	57	54	0	
	121人	校区 内の割合	0.0%	8.3%	47.1%	44.6%	0.0%
		問8 内の割合	0.0%	6.5%	11.8%	8.0%	0.0%
西中	回答人数	3	25	57	94	3	
	182人	校区 内の割合	1.6%	13.7%	31.3%	51.6%	1.6%
		問8 内の割合	15.8%	16.2%	11.8%	14.0%	17.6%
黒木中	回答人数	3	32	81	99	3	
	218人	校区 内の割合	1.4%	14.7%	37.2%	45.4%	1.4%
		問8 内の割合	15.8%	20.8%	16.8%	14.8%	17.6%
上陽北浜学園	回答人数	0	6	24	30	0	
	60人	校区 内の割合	0.0%	10.0%	40.0%	50.0%	0.0%
		問8 内の割合	0.0%	3.9%	5.0%	4.5%	0.0%
筑南中	回答人数	0	9	26	34	1	
	70人	校区 内の割合	0.0%	12.9%	37.1%	48.6%	1.4%
		問8 内の割合	0.0%	5.8%	5.4%	5.1%	5.9%
立花中	回答人数	1	10	38	58	1	
	108人	校区 内の割合	0.9%	9.3%	35.2%	53.7%	0.9%
		問8 内の割合	5.3%	6.5%	7.9%	8.6%	5.9%
矢部清流学園	回答人数	0	1	8	8	1	
	18人	校区 内の割合	0.0%	5.6%	44.4%	44.4%	5.6%
		問8 内の割合	0.0%	0.6%	1.7%	1.2%	5.9%
星野中	回答人数	2	2	21	39	0	
	64人	校区 内の割合	3.1%	3.1%	32.8%	60.9%	0.0%
		問8 内の割合	10.5%	1.3%	4.4%	5.8%	0.0%
校区不明	回答人数	0	5	6	13	0	
	24人	校区 内の割合	0.0%	20.8%	25.0%	54.2%	0.0%
		問8 内の割合	0.0%	3.2%	1.2%	1.9%	0.0%
校区 無回答	回答人数	0	1	6	7	4	
	18人	校区 内の割合	0.0%	5.6%	33.3%	38.9%	22.2%
		問8 内の割合	0.0%	0.6%	1.2%	1.0%	23.5%
合計	回答人数	19	154	482	671	17	
	1343人	合計に対する割合	1.4%	11.5%	35.9%	50.0%	1.3%

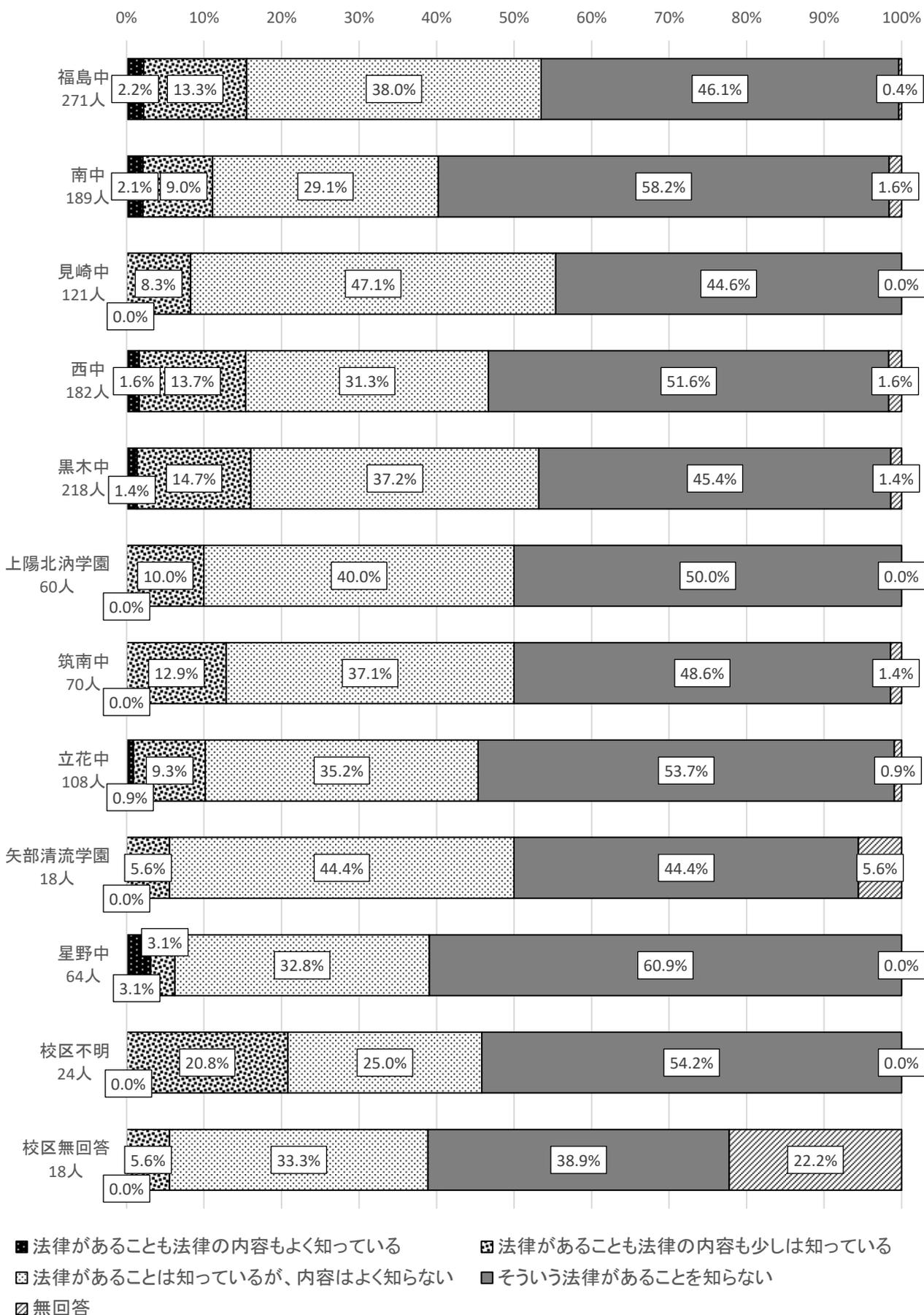
問8 ヘイトスピーチ解消法について(性別)



問8 ヘイトスピーチ解消法について(年齢別)



問8 ヘイトスピーチ解消法について(校区别)



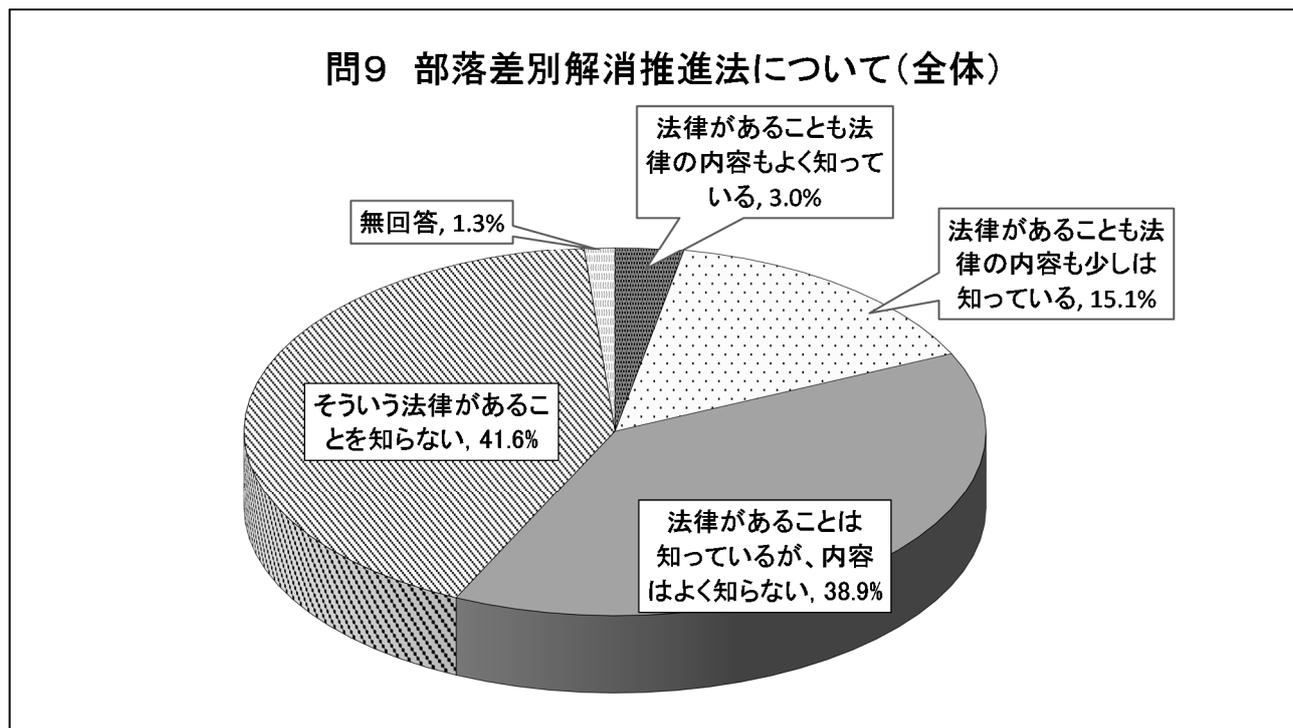
問9 同じく2016年に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」について、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」と回答した者の割合が38.9%で、「そういう法律があることを知らない」と回答した者の割合が41.6%で、ほぼ8割の市民が法律を知っておらず、部落差別解消推進法の認知度は2割に満たない状況である。

性別の回答傾向や、年齢別、中学校区別の回答傾向を見ても、「よく知らない」「あることを知らない」を合計した割合では、ほぼ同様の結果である。

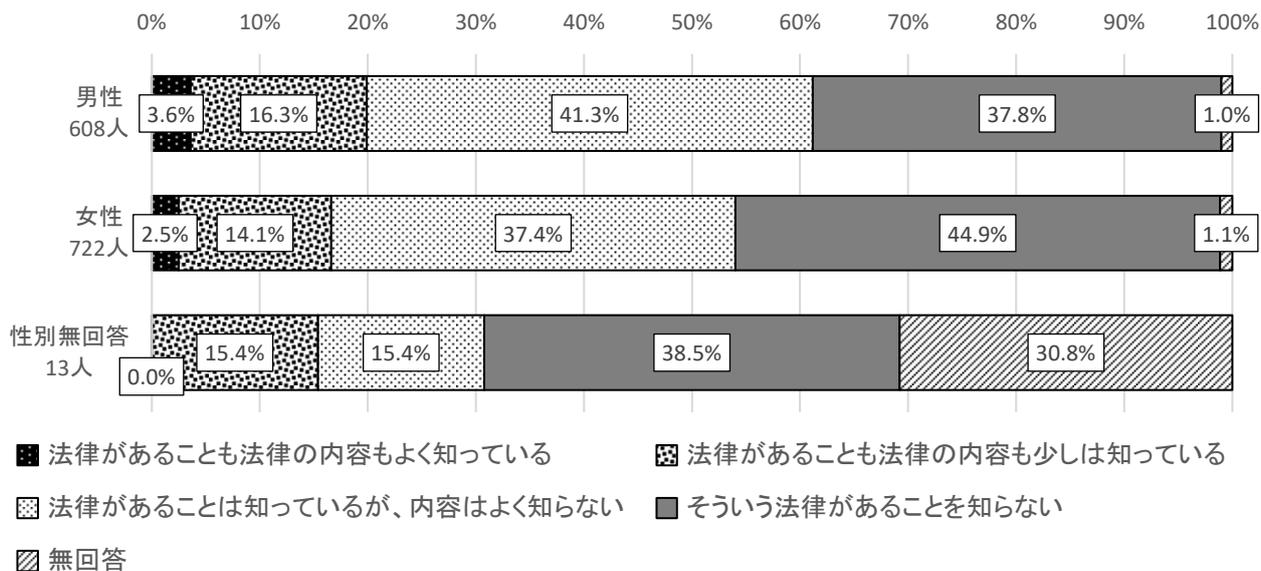
部落差別解消推進法は、部落差別がなお存在していることや、その解消が行政の責務であることを改めて確認した、部落差別解消のために制定された初の恒久法で、部落差別解消の取り組みの画期となるものだけに、これまで部落問題解決のための諸施策に継続的に取り組んできた自治体の市民には、2019年に施行された「福岡県部落差別解消推進条例」、八女市において施行した「部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃をめざす人権擁護条例」とともに、ぜひ知っておいてもらいたい法律である。

したがって、部落問題の現状と課題とともに、恒久法制定の意義について知ってもらうための教育や啓発に取り組むことが重要であると思われる。

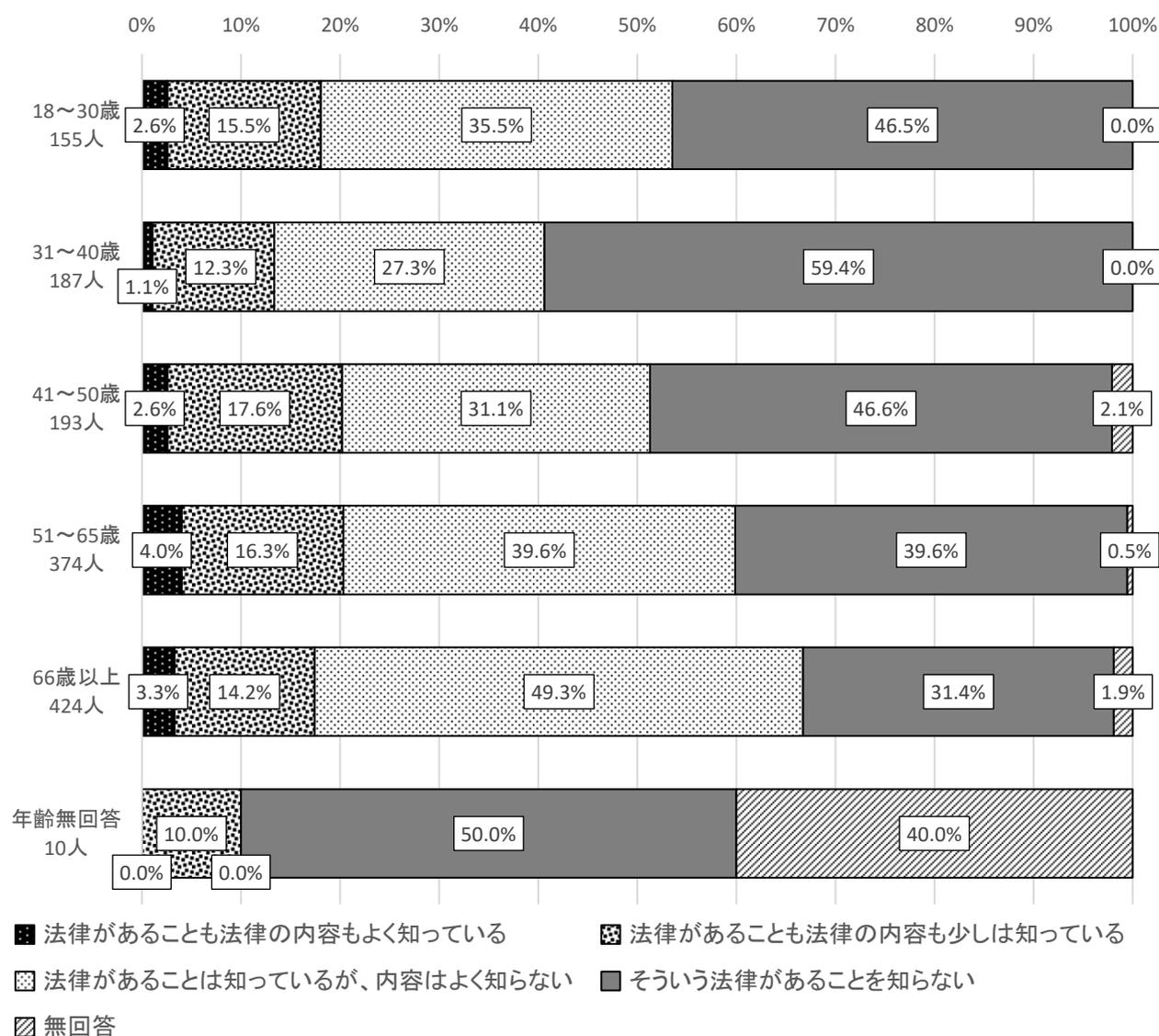


問9			部落差別解消推進法について				
			法律があることも法律の内容もよく知っている	法律があることも法律の内容も少しは知っている	法律があることは知っているが、内容はよく知らない	そういう法律があることを知らない	無回答
性別	男性 608人	回答人数	22	99	251	230	6
		性別 内の割合	3.6%	16.3%	41.3%	37.8%	1.0%
		問9 内の割合	55.0%	48.8%	48.0%	41.1%	33.3%
性別	女性 722人	回答人数	18	102	270	324	8
		性別 内の割合	2.5%	14.1%	37.4%	44.9%	1.1%
		問9 内の割合	45.0%	50.2%	51.6%	58.0%	44.4%
性別	無回答 13人	回答人数	0	2	2	5	4
		性別 内の割合	0.0%	15.4%	15.4%	38.5%	30.8%
		問9 内の割合	0.0%	1.0%	0.4%	0.9%	22.2%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	4	24	55	72	0
		年齢 内の割合	2.6%	15.5%	35.5%	46.5%	0.0%
		問9 内の割合	10.0%	11.8%	10.5%	12.9%	0.0%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	2	23	51	111	0
		年齢 内の割合	1.1%	12.3%	27.3%	59.4%	0.0%
		問9 内の割合	5.0%	11.3%	9.8%	19.9%	0.0%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	5	34	60	90	4
		年齢 内の割合	2.6%	17.6%	31.1%	46.6%	2.1%
		問9 内の割合	12.5%	16.7%	11.5%	16.1%	22.2%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	15	61	148	148	2
		年齢 内の割合	4.0%	16.3%	39.6%	39.6%	0.5%
		問9 内の割合	37.5%	30.0%	28.3%	26.5%	11.1%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	14	60	209	133	8
		年齢 内の割合	3.3%	14.2%	49.3%	31.4%	1.9%
		問9 内の割合	35.0%	29.6%	40.0%	23.8%	44.4%
年齢	無回答 10人	回答人数	0	1	0	5	4
		年齢 内の割合	0.0%	10.0%	0.0%	50.0%	40.0%
		問9 内の割合	0.0%	0.5%	0.0%	0.9%	22.2%
校区	福島中 271人	回答人数	11	47	102	111	0
		校区 内の割合	4.1%	17.3%	37.6%	41.0%	0.0%
		問9 内の割合	27.5%	23.2%	19.5%	19.9%	0.0%
校区	南中 189人	回答人数	4	25	76	82	2
		校区 内の割合	2.1%	13.2%	40.2%	43.4%	1.1%
		問9 内の割合	10.0%	12.3%	14.5%	14.7%	11.1%
校区	見崎中 121人	回答人数	1	16	51	52	1
		校区 内の割合	0.8%	13.2%	42.1%	43.0%	0.8%
		問9 内の割合	2.5%	7.9%	9.8%	9.3%	5.6%
校区	西中 182人	回答人数	9	26	63	82	2
		校区 内の割合	4.9%	14.3%	34.6%	45.1%	1.1%
		問9 内の割合	22.5%	12.8%	12.0%	14.7%	11.1%
校区	黒木中 218人	回答人数	7	40	89	78	4
		校区 内の割合	3.2%	18.3%	40.8%	35.8%	1.8%
		問9 内の割合	17.5%	19.7%	17.0%	14.0%	22.2%
校区	上陽北浜学園 60人	回答人数	0	8	27	25	0
		校区 内の割合	0.0%	13.3%	45.0%	41.7%	0.0%
		問9 内の割合	0.0%	3.9%	5.2%	4.5%	0.0%
校区	筑南中 70人	回答人数	1	12	31	25	1
		校区 内の割合	1.4%	17.1%	44.3%	35.7%	1.4%
		問9 内の割合	2.5%	5.9%	5.9%	4.5%	5.6%
校区	立花中 108人	回答人数	3	16	39	48	2
		校区 内の割合	2.8%	14.8%	36.1%	44.4%	1.9%
		問9 内の割合	7.5%	7.9%	7.5%	8.6%	11.1%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	0	3	7	7	1
		校区 内の割合	0.0%	16.7%	38.9%	38.9%	5.6%
		問9 内の割合	0.0%	1.5%	1.3%	1.3%	5.6%
校区	星野中 64人	回答人数	4	6	25	29	0
		校区 内の割合	6.3%	9.4%	39.1%	45.3%	0.0%
		問9 内の割合	10.0%	3.0%	4.8%	5.2%	0.0%
校区	校区不明 24人	回答人数	0	3	7	13	1
		校区 内の割合	0.0%	12.5%	29.2%	54.2%	4.2%
		問9 内の割合	0.0%	1.5%	1.3%	2.3%	5.6%
校区	無回答 18人	回答人数	0	1	6	7	4
		校区 内の割合	0.0%	5.6%	33.3%	38.9%	22.2%
		問9 内の割合	0.0%	0.5%	1.1%	1.3%	22.2%
合計	1343人	回答人数	40	203	523	559	18
		合計に対する割合	3.0%	15.1%	38.9%	41.6%	1.3%

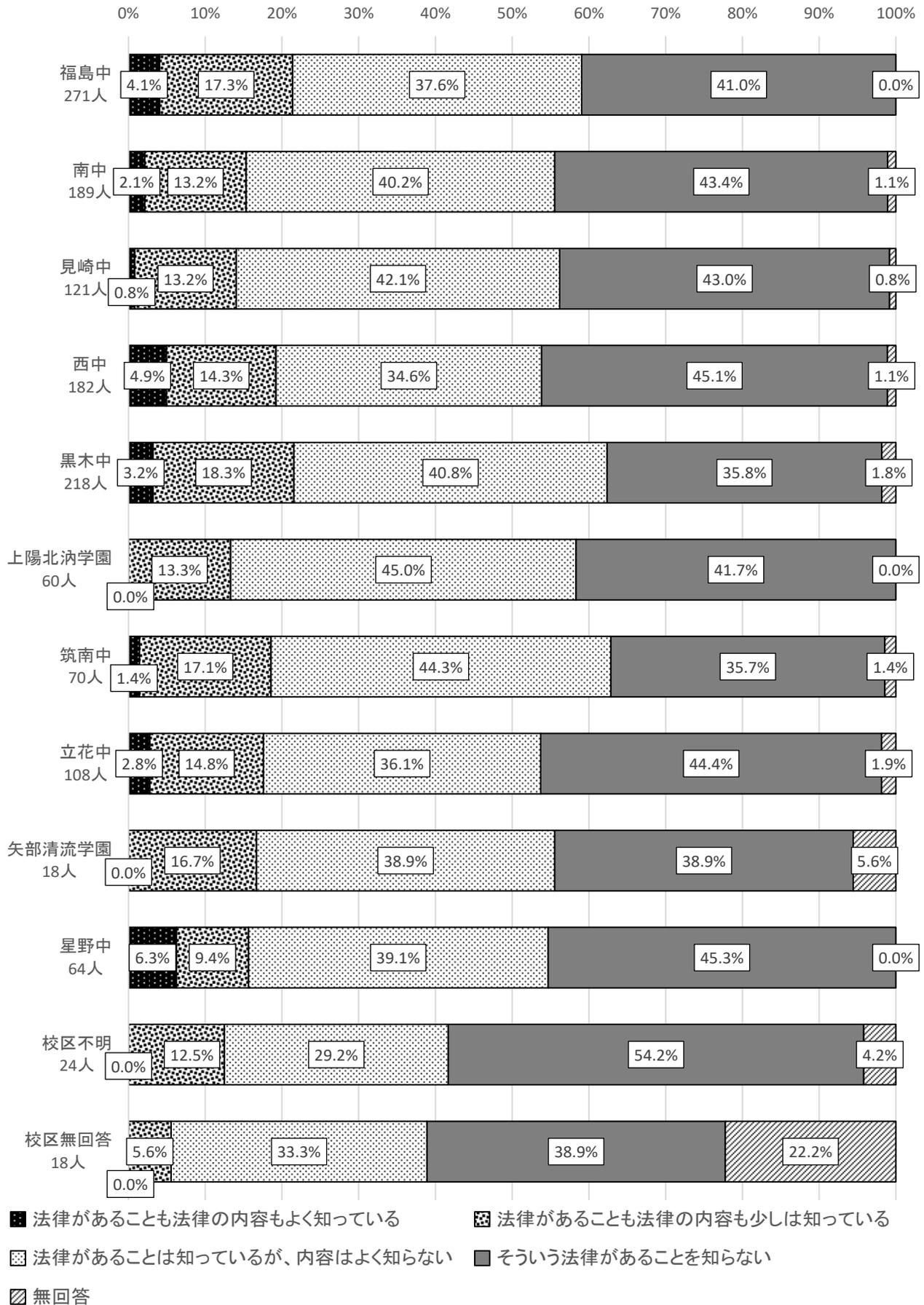
問9 部落差別解消推進法について(性別)



問9 部落差別解消推進法について(年齢別)



問9 部落差別解消推進法について(校別)



問10 2000年に施行された「児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）」及び2006年に施行された「高齢者に対する虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」には、虐待を発見した者は、関係機関に速やかに連絡しなければならないとする「通告義務」が定められていますが、このことを知っていますか。

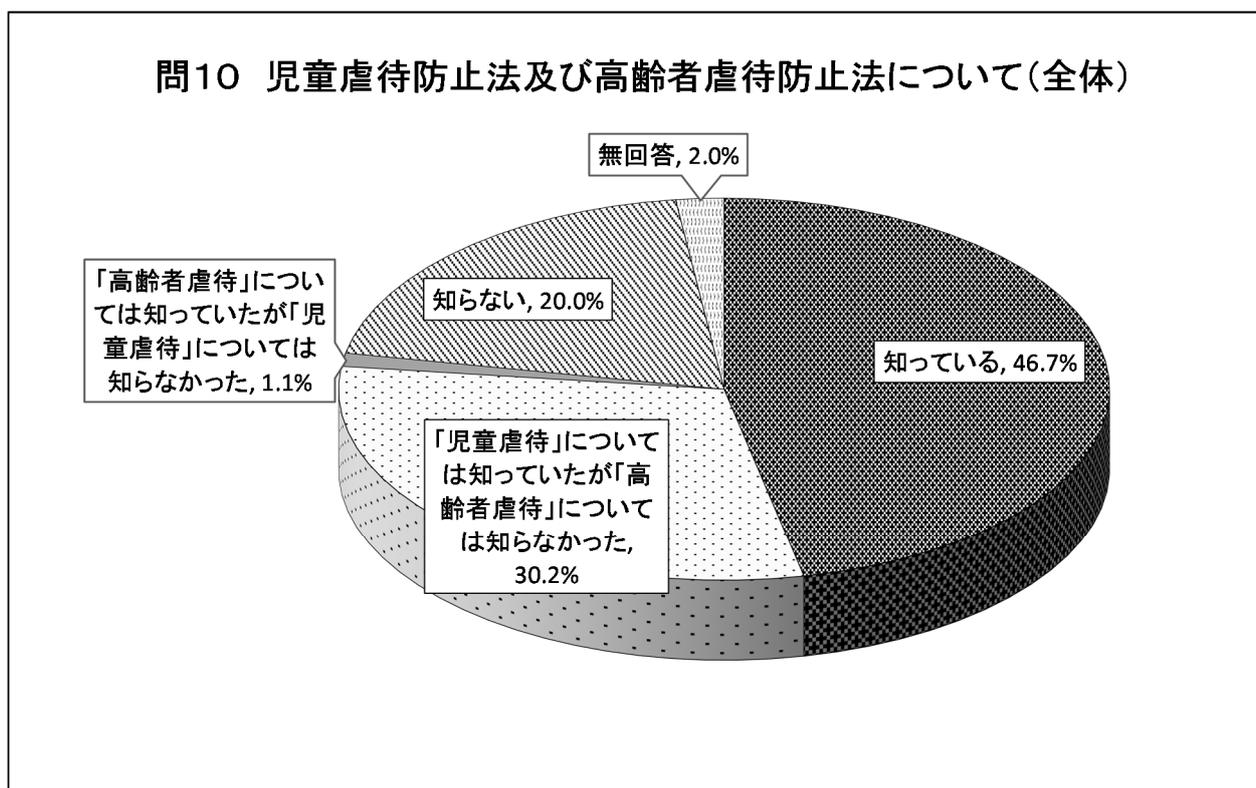
「知っている」と回答した者の割合が46.7%で、「知らない」と回答した者の割合は20.0%であった。また、「『高齢者虐待』については知らなかった」と回答した者の割合が30.2%であったのに対し、「『児童虐待』については知らなかった」と回答した者の割合は1.1%であった。つまり、児童虐待に関する「通告義務」についての認知度が8割近くに上るのに対し、高齢者虐待に関する「通告義務」についての認知度は5割を下回っているということになる。

この認知度の差に関しては、近年、児童虐待事件に関する報道が続いたこと等、マスコミ報道の影響があるのではないかとと思われる。

性別の回答傾向を見ると、「知っている」と回答した者の割合が、女性51.5%に対し男性41.3%と、女性の方が10.2ポイント高くなっており、「知らない」と回答した者の割合が、男性24.0%に対し女性16.6%と、男性の方が7.4ポイント高くなっていた。性別による、日常生活の中での「子ども」や「高齢者」との関わりの濃淡が反映した結果であると思われる。

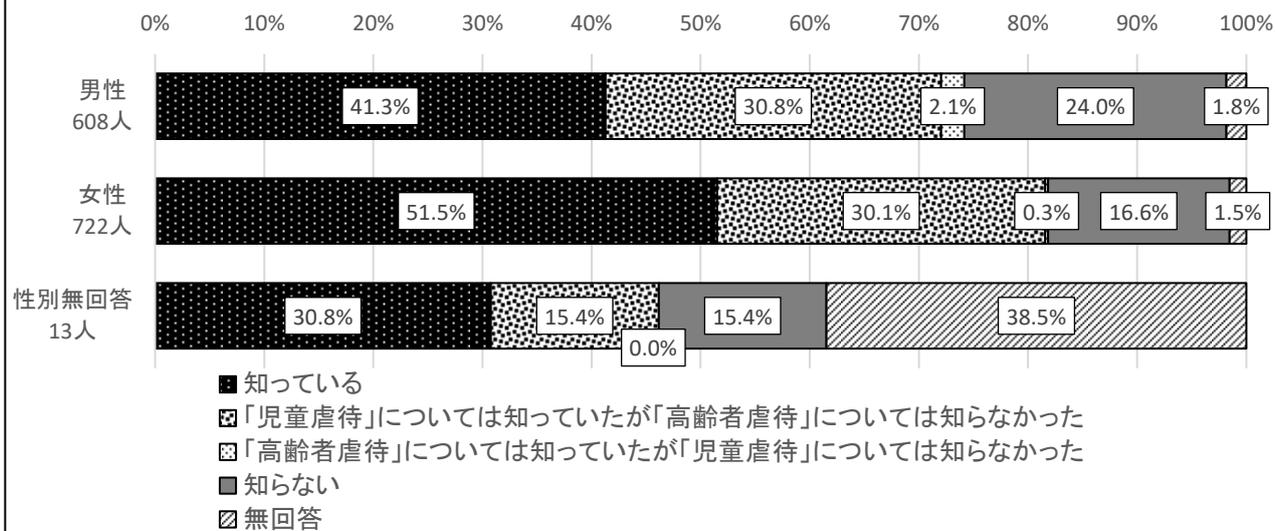
年齢別の回答傾向を見ると、「知らない」と回答した者の割合が「51～65歳」の年代で16.8%と、最小であったのに対し、「31～40歳」の年代で24.1%と、最大になっていた。

「31～40歳」の年代の、知識・興味・関心の在り方に関して、類似の状況が多く見られることに、留意する必要があると言える。

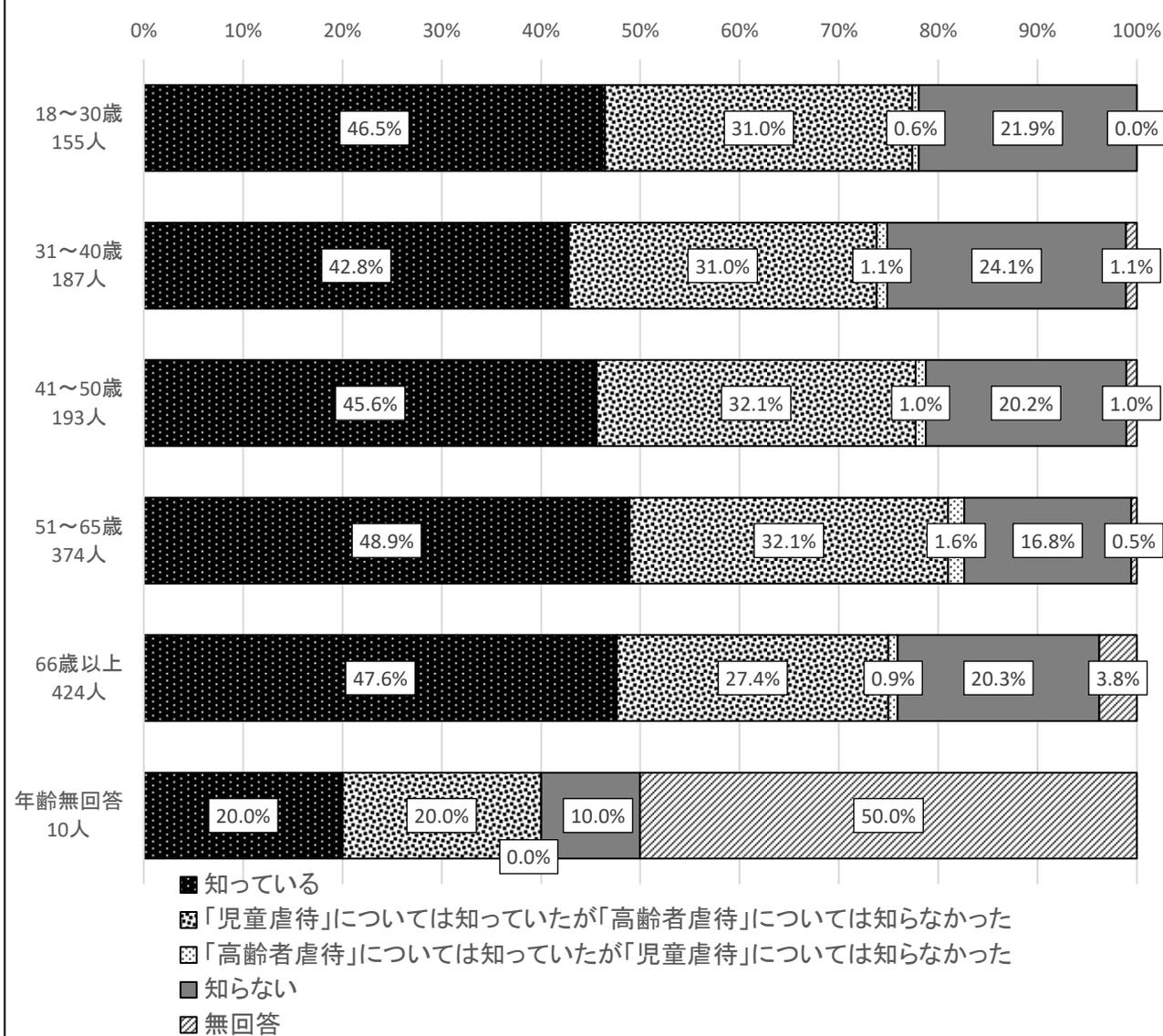


問10		児童虐待防止法及び高齢者虐待防止法について				
		知っている	「児童虐待」については知っていたが「高齢者虐待」については知らなかった	「高齢者虐待」については知っていたが「児童虐待」については知らなかった	知らない	無回答
性別 男性 608人	回答人数	251	187	13	146	11
	性別 内の割合	41.3%	30.8%	2.1%	24.0%	1.8%
	問10 内の割合	40.0%	46.1%	86.7%	54.5%	40.7%
女性 722人	回答人数	372	217	2	120	11
	性別 内の割合	51.5%	30.1%	.3%	16.6%	1.5%
	問10 内の割合	59.3%	53.4%	13.3%	44.8%	40.7%
性別 無回答 13人	回答人数	4	2	0	2	5
	性別 内の割合	30.8%	15.4%	0.0%	15.4%	38.5%
	問10 内の割合	0.6%	0.5%	0.0%	0.7%	18.5%
年齢 18～30歳 155人	回答人数	72	48	1	34	0
	年齢 内の割合	46.5%	31.0%	0.6%	21.9%	0.0%
	問10 内の割合	11.5%	11.8%	6.7%	12.7%	0.0%
31～40歳 187人	回答人数	80	58	2	45	2
	年齢 内の割合	42.8%	31.0%	1.1%	24.1%	1.1%
	問10 内の割合	12.8%	14.3%	13.3%	16.8%	7.4%
41～50歳 193人	回答人数	88	62	2	39	2
	年齢 内の割合	45.6%	32.1%	1.0%	20.2%	1.0%
	問10 内の割合	14.0%	15.3%	13.3%	14.6%	7.4%
51～65歳 374人	回答人数	183	120	6	63	2
	年齢 内の割合	48.9%	32.1%	1.6%	16.8%	0.5%
	問10 内の割合	29.2%	29.6%	40.0%	23.5%	7.4%
66歳以上 424人	回答人数	202	116	4	86	16
	年齢 内の割合	47.6%	27.4%	0.9%	20.3%	3.8%
	問10 内の割合	32.2%	28.6%	26.7%	32.1%	59.3%
年齢 無回答 10人	回答人数	2	2	0	1	5
	年齢 内の割合	20.0%	20.0%	0.0%	10.0%	50.0%
	問10 内の割合	0.3%	0.5%	0.0%	0.4%	18.5%
校区 福島中 271人	回答人数	127	89	1	53	1
	校区 内の割合	46.9%	32.8%	0.4%	19.6%	0.4%
	問10 内の割合	20.3%	21.9%	6.7%	19.8%	3.7%
南中 189人	回答人数	77	69	1	38	4
	校区 内の割合	40.7%	36.5%	0.5%	20.1%	2.1%
	問10 内の割合	12.3%	17.0%	6.7%	14.2%	14.8%
見崎中 121人	回答人数	57	43	3	18	0
	校区 内の割合	47.1%	35.5%	2.5%	14.9%	0.0%
	問10 内の割合	9.1%	10.6%	20.0%	6.7%	0.0%
西中 182人	回答人数	88	54	1	34	5
	校区 内の割合	48.4%	29.7%	0.5%	18.7%	2.7%
	問10 内の割合	14.0%	13.3%	6.7%	12.7%	18.5%
黒木中 218人	回答人数	107	52	4	48	7
	校区 内の割合	49.1%	23.9%	1.8%	22.0%	3.2%
	問10 内の割合	17.1%	12.8%	26.7%	17.9%	25.9%
上陽北浜学園 60人	回答人数	29	19	1	10	1
	校区 内の割合	48.3%	31.7%	1.7%	16.7%	1.7%
	問10 内の割合	4.6%	4.7%	6.7%	3.7%	3.7%
筑南中 70人	回答人数	34	23	1	10	2
	校区 内の割合	48.6%	32.9%	1.4%	14.3%	2.9%
	問10 内の割合	5.4%	5.7%	6.7%	3.7%	7.4%
立花中 108人	回答人数	51	30	1	25	1
	校区 内の割合	47.2%	27.8%	0.9%	23.1%	0.9%
	問10 内の割合	8.1%	7.4%	6.7%	9.3%	3.7%
矢部清流学園 18人	回答人数	9	3	0	6	0
	校区 内の割合	50.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%
	問10 内の割合	1.4%	0.7%	0.0%	2.2%	0.0%
星野中 64人	回答人数	30	14	1	18	1
	校区 内の割合	46.9%	21.9%	1.6%	28.1%	1.6%
	問10 内の割合	4.8%	3.4%	6.7%	6.7%	3.7%
校区不明 24人	回答人数	10	7	1	6	0
	校区 内の割合	41.7%	29.2%	4.2%	25.0%	0.0%
	問10 内の割合	1.6%	1.7%	6.7%	2.2%	0.0%
校区 無回答 18人	回答人数	8	3	0	2	5
	校区 内の割合	44.4%	16.7%	0.0%	11.1%	27.8%
	問10 内の割合	1.3%	0.7%	0.0%	0.7%	18.5%
合計 1343人	回答人数	627	406	15	268	27
	合計に対する割合	46.7%	30.2%	1.1%	20.0%	2.0%

問10 児童虐待防止法及び高齢者虐待防止法について(性別)

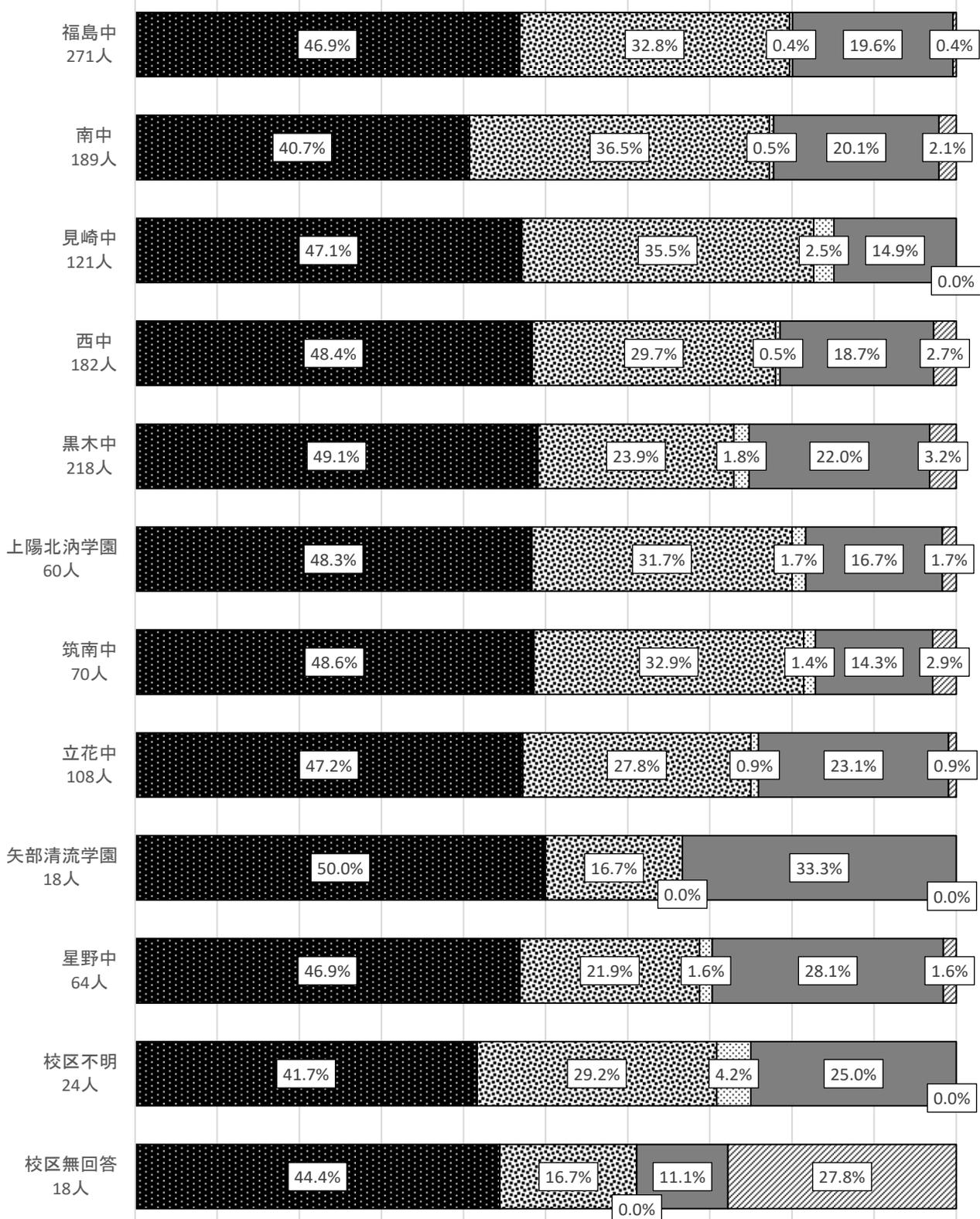


問10 児童虐待防止法及び高齢者虐待防止法について(年齢別)



問10 児童虐待防止法及び高齢者虐待防止法について(校区別)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 知っている
- ▣ 「児童虐待」については知っていたが「高齢者虐待」については知らなかった
- ▤ 「高齢者虐待」については知っていたが「児童虐待」については知らなかった
- 知らない
- ▨ 無回答

＜ 人権全般に関するまとめ ＞

- ① 今の日本は人権が尊重されている社会だと思う割合を見ると、「尊重されていると思う」と回答した男性が 19.6%であったのに対し女性は 14.7%と、4.9 ポイント（前回 8.5 ポイント）男性の方が高くなっているのに対し、「どちらかといえば尊重されていないと思う」では 3.4 ポイント（前回 4.2 ポイント）、女性の回答率が男性の回答率より高くなっている。前回の調査から一定の改善が見られるものの、男女共同参画社会の実現を考える上で、参考にすべき数字であろう。
- ② 人権侵害を受けたと感じた時に、「友人・知人や家族に相談する」と回答した市民が 31.9%と最も多く、次いで「何もせずにながまんする」14.4%、「自分の力で解決する」12.7%（前回 15.6%）であった。この数字から、出来事の軽重はあるにせよ、人権侵害事案に遭遇したとき、公的機関に相談する者は多いとは言えないことが分かる。前回調査と比べ、「友人・知人や家族に相談する」と回答した者の割合が 5.8 ポイント減少しているが、その分、「分からない」と回答した者の割合が 5.0 ポイント増加している。

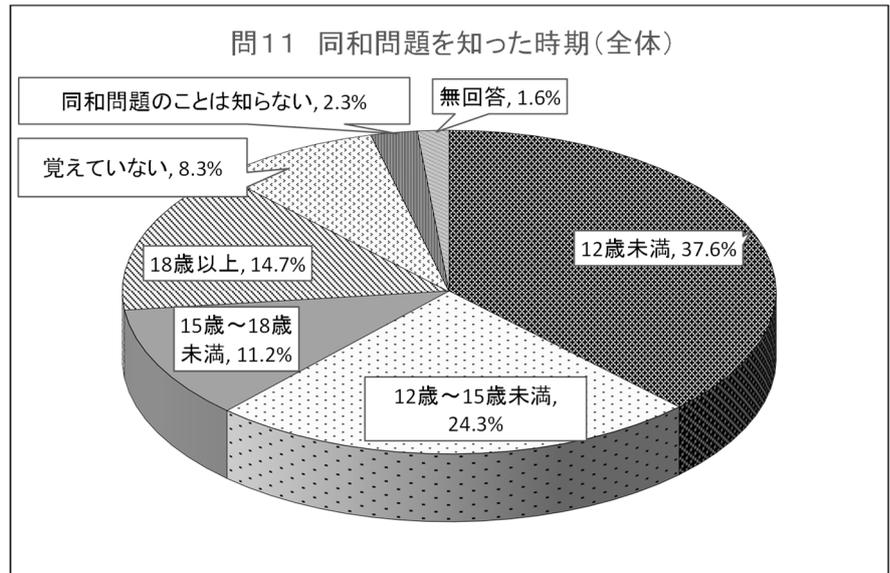
性別の回答傾向を見ると、女性の割合が高かったのが「友人・知人や家族に相談する」（女性—42.1%・前回 50.2%、男性—19.9%・前回 23.6%）で、前回調査と比べ、女性の「友人・知人や家族に相談する」と回答した者の割合が 8.1 ポイント減少し、性別の回答傾向の差は縮まっているが、女性は私的な範囲で問題を解決しようとする傾向があることが分かる。したがって、行政等が把握する人権侵害事象は、実際に起こっている問題の一部に過ぎず、特に女性が被害者となる場合において、氷山の一角であることを認識することが大事である。
- ③ 「結婚相手の『家柄』を問題にする」ことを疑問に思う市民が全体で 4 割を超え、「18～30 歳」の年代で 56.8%（前回 59.9%）と最大の数字となっただけでなく、「41～50 歳」の年代でも、前回調査を 6.8 ポイント上回る 56.5%（前回 49.7%）となっていることは、結婚差別の解消に向けた明るい材料と言える。しかし、その一方で、「疑問に思うものはない」と回答した者も、性別や年代にそれほど関わりなく 20.4%（前回 20.0%）存在しており、差別や偏見の土壌となりやすい五つの風習や習慣が、決して解消傾向にあるわけではないという実態がある。
- ④ この 5 年間において、仕事を通して「研修を全く受けたことがない」と回答した者の割合が、全体で 45.4%に上っている。一方、職場研修を通し、さまざまな人権課題について学習する機会を持つ者は 1 割に満たない。したがって、各事業所に対し、新規採用時から継続的に、同和問題をはじめとするさまざまな人権課題に関する研修を実施するよう促すとともに、一次産業従事者や自営業者、非正規雇用者や専業主婦層等にも対応した、多様な啓発の取り組みを行う必要がある。
- ⑤ 「障害者差別解消法」を含む人権三法は、差別解消や人権問題解決のために、市民自身に認知しておいてもらいたい法律であるが、認知度は十分な状況とは言えない。教育や啓発の継続的取り組みを通し、法の存在意義や目的の周知徹底を行っていくことが大切である。

Ⅱ 同和問題についておたずねします

問 11 あなたが同和問題について知ったのはいつ頃ですか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

「12歳未満」と回答した者の割合が37.6%（前回33.6%）、「12歳～15歳未満」と回答した者の割合が24.3%（前回23.7%）で、合わせると61.9%（前回57.3%）の者が中学校在学中までに同和問題と出会ったことになる。

性別の回答傾向を見ると、「12歳未満」と回答した者の割合が、女性42.0%（前回38.3%）に対し男性32.7%（前回28.5%）と、女性の方が9.3ポイント（前回9.8ポイント）高くなっているが、「15歳～18歳未満」と回答した者の割合では、男性14.8%（前回13.3%）に対し女性8.4%（前回9.4%）と、男性の方が6.4ポイント（前回3.9ポイント）高くなっている。



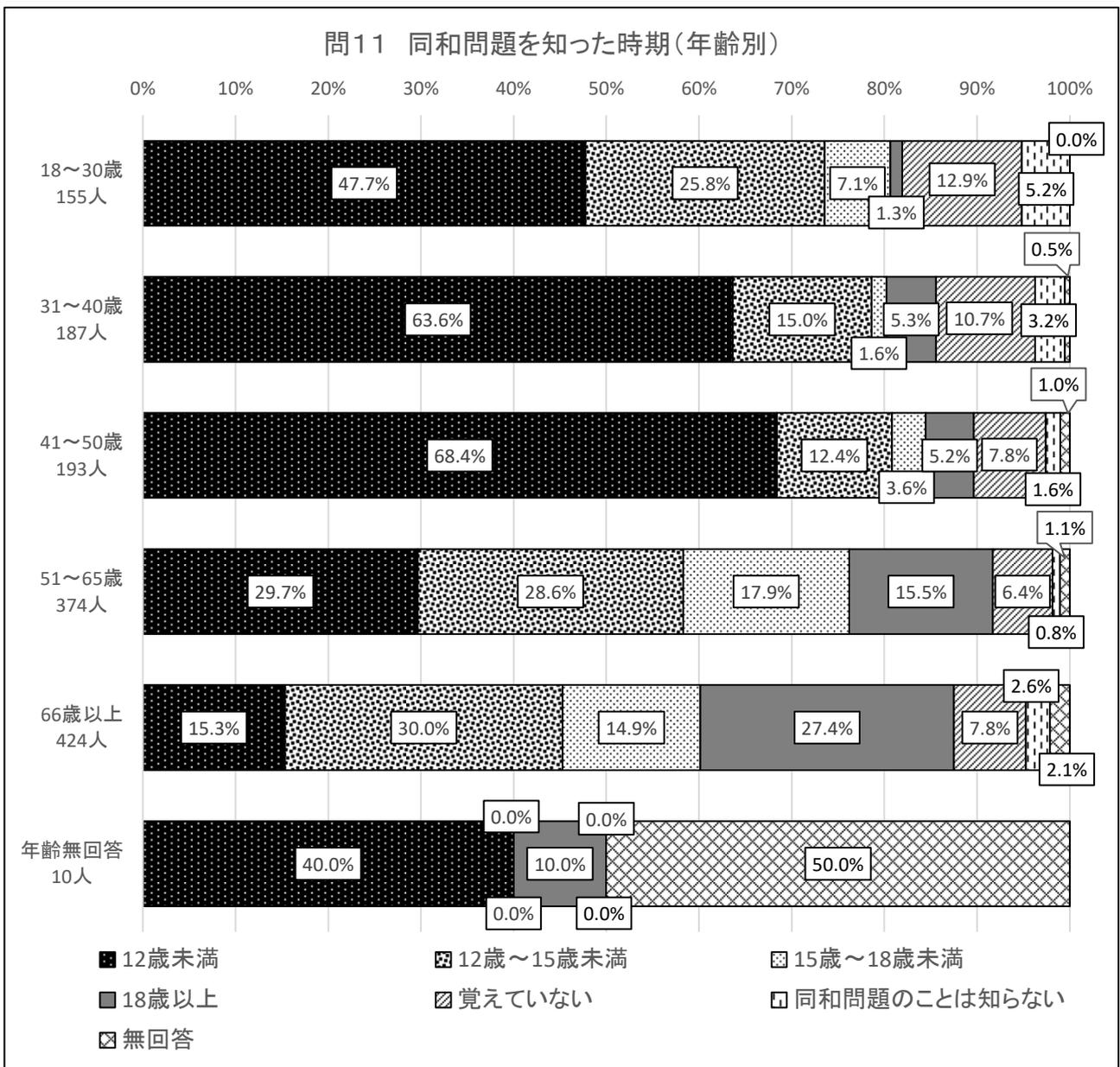
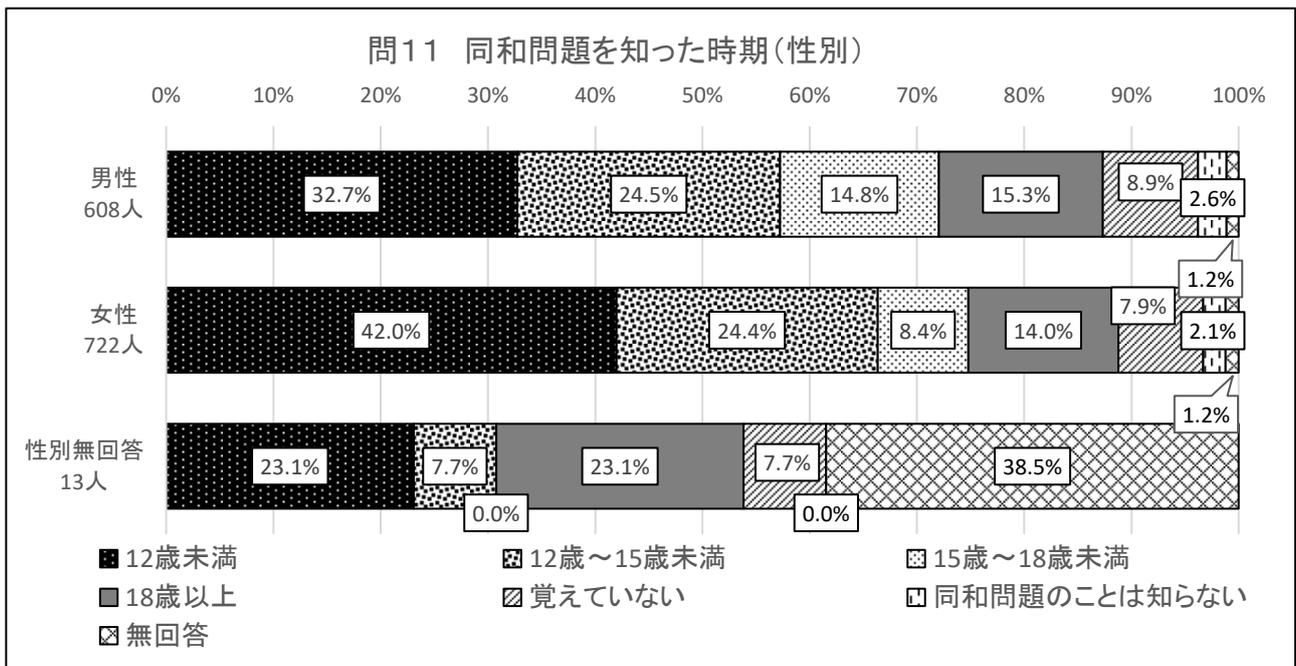
年齢別の回答傾向を見ると、中学校在学中までに同和問題と出会った者の割合が、「18～30歳」73.5%（前回71.9%）、「31～40歳」78.6%（前回77.8%）、「41～50歳」80.8%（前回74.4%）、「51～65歳」58.3%（前回49.0%）、「66歳以上」45.3%（前回43.1%）と、前回調査と比べ各年代で増加してきており、人権・同和教育を受けて育った世代が徐々に増えてきていることが明らかである。

しかし、「12歳未満」と回答した者の割合が、「41～50歳」の68.4%（前回49.3%）を最大として、「18～30歳」では47.7%（前回56.0%）にまで低下している反面、「12歳～15歳未満」と回答した者の割合が、「41～50歳」の12.4%（前回25.1%）から、「18～30歳」の25.8%（前回15.9%）にまで上昇してきているという実態がある。その評価は別として、学校教育において部落問題を取り上げる時期が、全体としては小学校から中学校に変化してきているということなのだろう。

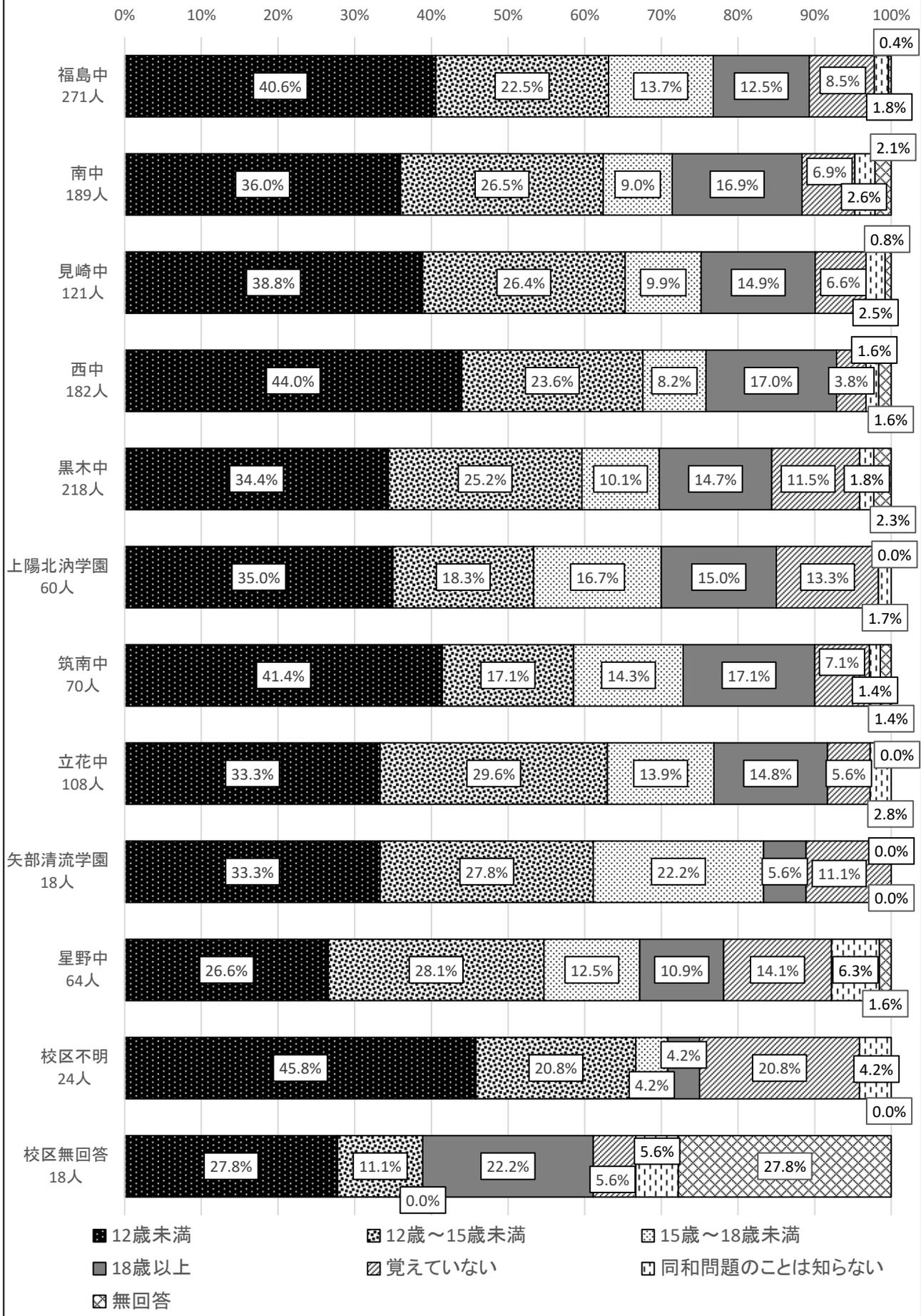
さらに、「18～30歳」では、「覚えていない」と回答した者の割合が12.9%（前回8.9%）、「同和問題のことは知らない」と回答した者の割合が5.2%（前回9.6%）存在しており、同和問題についてよく知らない若い世代が一定割合見られることは、これからの教育や啓発を考える上で大きな課題と言える。

中学校区別を見ると、中学校在学中までに同和問題と出会った者の割合が西中学校区では、67.6%（前回56.6%）で、全体より5.7ポイント、見崎中学校区では65.2%（前回62.7%）で、全体より3.3ポイント高くなっている。

問 1 1		同和問題について知った時期							
		12歳未満（小学生の頃）	12歳～15歳未満（中学生の頃）	15歳～18歳未満（中学校を卒業して、または、高校生の頃）	18歳以上（大人になって）	覚えていない	同和問題のことは知らない	無回答	
性別	男性	回答人数	199	149	90	93	54	16	7
	608人	性別 内の割合	32.7%	24.5%	14.8%	15.3%	8.9%	2.6%	1.2%
		問11 内の割合	39.4%	45.7%	59.6%	47.2%	48.2%	51.6%	33.3%
女性	回答人数	303	176	61	101	57	15	9	
	722人	性別 内の割合	42.0%	24.4%	8.4%	14.0%	7.9%	2.1%	1.2%
		問11 内の割合	60.0%	54.0%	40.4%	51.3%	50.9%	48.4%	42.9%
性別	無回答	回答人数	3	1	0	3	1	0	5
	13人	性別 内の割合	23.1%	7.7%	0.0%	23.1%	7.7%	0.0%	38.5%
		問11 内の割合	0.6%	0.3%	0.0%	1.5%	0.9%	0.0%	23.8%
年齢	18～30歳	回答人数	74	40	11	2	20	8	0
	155人	年齢 内の割合	47.7%	25.8%	7.1%	1.3%	12.9%	5.2%	0.0%
		問11 内の割合	14.7%	12.3%	7.3%	1.0%	17.9%	25.8%	0.0%
31～40歳	回答人数	119	28	3	10	20	6	1	
	187人	年齢 内の割合	63.6%	15.0%	1.6%	5.3%	10.7%	3.2%	0.5%
		問11 内の割合	23.6%	8.6%	2.0%	5.1%	17.9%	19.4%	4.8%
41～50歳	回答人数	132	24	7	10	15	3	2	
	193人	年齢 内の割合	68.4%	12.4%	3.6%	5.2%	7.8%	1.6%	1.0%
		問11 内の割合	26.1%	7.4%	4.6%	5.1%	13.4%	9.7%	9.5%
51～65歳	回答人数	111	107	67	58	24	3	4	
	374人	年齢 内の割合	29.7%	28.6%	17.9%	15.5%	6.4%	0.8%	1.1%
		問11 内の割合	22.0%	32.8%	44.4%	29.4%	21.4%	9.7%	19.0%
66歳以上	回答人数	65	127	63	116	33	11	9	
	424人	年齢 内の割合	15.3%	30.0%	14.9%	27.4%	7.8%	2.6%	2.1%
		問11 内の割合	12.9%	39.0%	41.7%	58.9%	29.5%	35.5%	42.9%
年齢	無回答	回答人数	4	0	0	1	0	0	5
	10人	年齢 内の割合	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	50.0%
		問11 内の割合	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	23.8%
校区	福島中	回答人数	110	61	37	34	23	5	1
	271人	校区 内の割合	40.6%	22.5%	13.7%	12.5%	8.5%	1.8%	0.4%
		問11 内の割合	21.8%	18.7%	24.5%	17.3%	20.5%	16.1%	4.8%
南中	回答人数	68	50	17	32	13	5	4	
	189人	校区 内の割合	36.0%	26.5%	9.0%	16.9%	6.9%	2.6%	2.1%
		問11 内の割合	13.5%	15.3%	11.3%	16.2%	11.6%	16.1%	19.0%
見崎中	回答人数	47	32	12	18	8	3	1	
	121人	校区 内の割合	38.8%	26.4%	9.9%	14.9%	6.6%	2.5%	0.8%
		問11 内の割合	9.3%	9.8%	7.9%	9.1%	7.1%	9.7%	4.8%
西中	回答人数	80	43	15	31	7	3	3	
	182人	校区 内の割合	44.0%	23.6%	8.2%	17.0%	3.8%	1.6%	1.6%
		問11 内の割合	15.8%	13.2%	9.9%	15.7%	6.3%	9.7%	14.3%
黒木中	回答人数	75	55	22	32	25	4	5	
	218人	校区 内の割合	34.4%	25.2%	10.1%	14.7%	11.5%	1.8%	2.3%
		問11 内の割合	14.9%	16.9%	14.6%	16.2%	22.3%	12.9%	23.8%
上陽北浜学園	回答人数	21	11	10	9	8	1	0	
	60人	校区 内の割合	35.0%	18.3%	16.7%	15.0%	13.3%	1.7%	0.0%
		問11 内の割合	4.2%	3.4%	6.6%	4.6%	7.1%	3.2%	0.0%
筑南中	回答人数	29	12	10	12	5	1	1	
	70人	校区 内の割合	41.4%	17.1%	14.3%	17.1%	7.1%	1.4%	1.4%
		問11 内の割合	5.7%	3.7%	6.6%	6.1%	4.5%	3.2%	4.8%
立花中	回答人数	36	32	15	16	6	3	0	
	108人	校区 内の割合	33.3%	29.6%	13.9%	14.8%	5.6%	2.8%	0.0%
		問11 内の割合	7.1%	9.8%	9.9%	8.1%	5.4%	9.7%	0.0%
矢部清流学園	回答人数	6	5	4	1	2	0	0	
	18人	校区 内の割合	33.3%	27.8%	22.2%	5.6%	11.1%	0.0%	0.0%
		問11 内の割合	1.2%	1.5%	2.6%	0.5%	1.8%	0.0%	0.0%
星野中	回答人数	17	18	8	7	9	4	1	
	64人	校区 内の割合	26.6%	28.1%	12.5%	10.9%	14.1%	6.3%	1.6%
		問11 内の割合	3.4%	5.5%	5.3%	3.6%	8.0%	12.9%	4.8%
校区不明	回答人数	11	5	1	1	5	1	0	
	24人	校区 内の割合	45.8%	20.8%	4.2%	4.2%	20.8%	4.2%	0.0%
		問11 内の割合	2.2%	1.5%	0.7%	0.5%	4.5%	3.2%	0.0%
校区	無回答	回答人数	5	2	0	4	1	1	5
	18人	校区 内の割合	27.8%	11.1%	0.0%	22.2%	5.6%	5.6%	27.8%
		問11 内の割合	1.0%	0.6%	0.0%	2.0%	0.9%	3.2%	23.8%
合計	回答人数	505	326	151	197	112	31	21	
	1343人	合計に対する割合	37.6%	24.3%	11.2%	14.7%	8.3%	2.3%	1.6%



問11 同和問題を知った時期(校区別)



問 12 あなたは、同和問題に関する知識や情報を、何を通して得ましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

予断や偏見が含まれやすい「家族や親族を通して」と回答した者の割合が 20.4% (前回 23.6%)、「友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して」と回答した者の割合が 19.1% (前回 24.0%) と減少しているのに対し、予断や偏見を含まない「学校教育を通して」と回答した者の割合が 56.2% (前回 52.1%) と増加しており、「同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない」と回答した者の割合も 6.3% (前回 8.5%) とやや減少している。

性別の回答傾向を見ると、その差は縮まってはいるが、「学校教育を通して」と回答した者の割合は、女性 60.8% (前回 59.3%) に対し男性 51.5% (前回 44.6%) と、女性の方が 9.3 ポイント (前回 14.7 ポイント) 高く、「友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して」と回答した者は、男性 21.9% (前回 29.1%) に対し女性 16.8% (前回 19.6%) と、男性の方が 5.1 ポイント (前回 9.5 ポイント) 高かった。

また年齢別に「家族や親族を通して」・「友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して」・「学校教育を通して」・「研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙を通して」・「同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない」と回答した者の割合を比べてみると下記のようなになる。() 内は前回調査の数字。下線部は、前回調査と比べ 5.0 ポイント以上の増減が見られるもの。

「18～30 歳」	<u>学校教育 81.3% (75.2%)</u> ・啓発 16.1% (14.0%) 家族や親族 11.0% (9.6%)・友人や知人 1.3% (5.1%) 知識がない 8.4% (12.7%)
「31～40 歳」	<u>学校教育 84.0% (80.7%)</u> ・啓発 14.4% (24.1%) 家族や親族 12.8% (10.8%)・友人や知人 5.9% (9.6%) 知識がない 5.3% (8.4%)
「41～50 歳」	<u>学校教育 82.4% (74.9%)</u> ・啓発 30.1% (26.7%) 家族や親族 15.5% (19.4%)・友人や知人 11.9% (12.0%) 知識がない 3.1% (6.3%)
「51～65 歳」	<u>学校教育 58.8% (52.8%)</u> ・啓発 35.3% (38.8%) <u>家族や親族 24.6% (31.5%)</u> ・ <u>友人や知人 23.5% (30.0%)</u> 知識がない 2.7% (5.8%)
「66 歳以上」	<u>学校教育 21.2% (20.9%)</u> ・啓発 41.3% (35.4%) 家族や親族 25.9% (29.1%)・友人や知人 30.9% (35.9%) 知識がない 10.6% (11.1%)

この結果から以下のようなことが分かる。

- ① 同和問題に関する知識や情報を、主に学校教育から得たと回答した者の割合は、各年代とも大きく増え、「同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない」と回答した者の割合は、各年代とも減少している。
- ② 知識や情報を主に学校教育から得る割合が増えることで、家族や親族・友人や知人、職

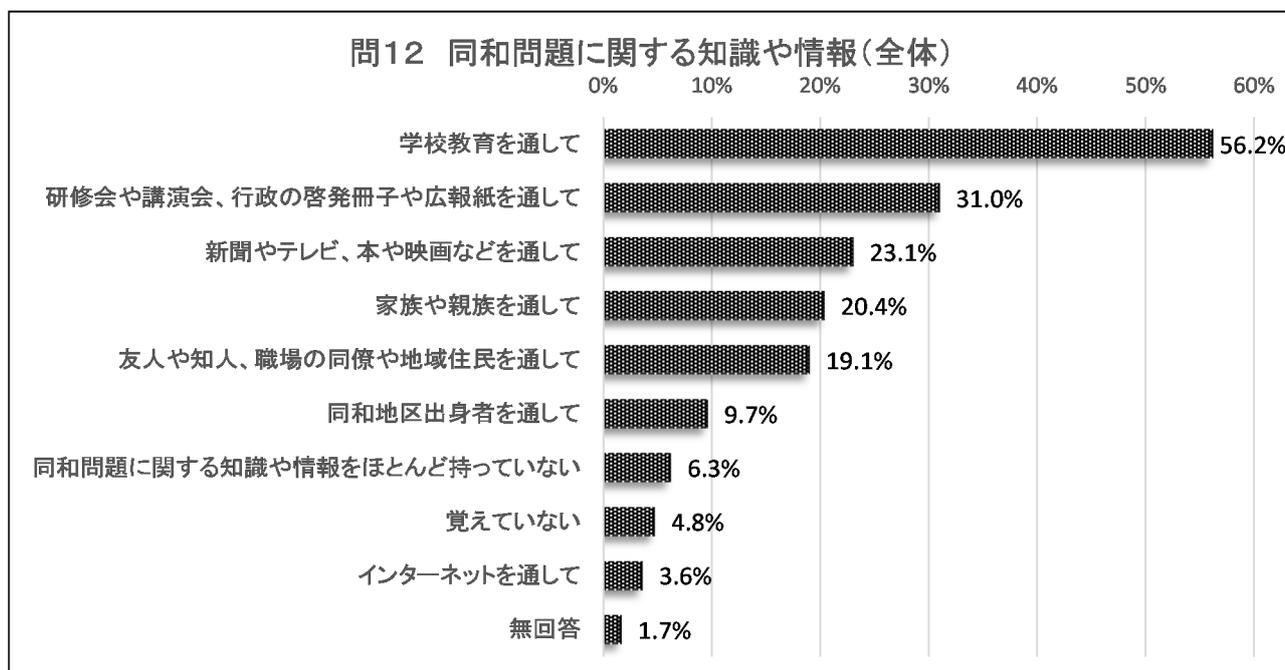
場の同僚や地域住民から得る割合は減少する傾向にある。特に後者において、減少傾向が顕著である。

- ③ 知識や情報を行政の啓発事業から得ている割合が、「31～40歳」の年代で9.7ポイントも減少しているが、「66歳以上」の年代では、5.9ポイント増加している。ここにも、今回の調査に特徴的な「31～40歳」の年代の後退傾向が見られる。

同和教育の広がりによって、同和問題に関する予断や偏見が、私的關係の中で受け継がれてくるといった悪循環を断つことができるようになってきていることは確かである。しかし、同和問題解決のための同和教育から、多くの人権課題を対象とする人権教育への移行により、同和問題に関する知識を学校教育の中で得る機会が減少している可能性がある。

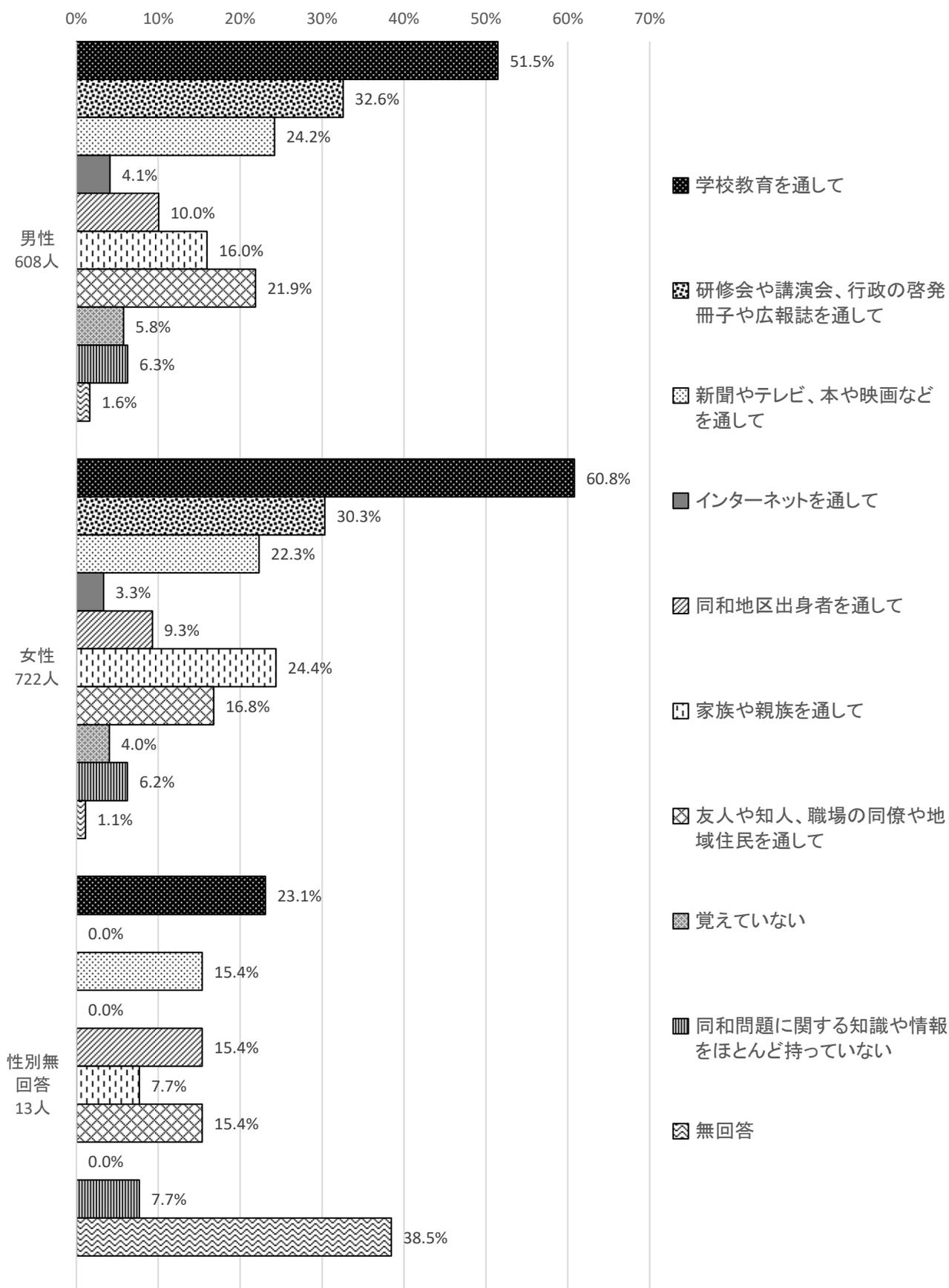
一方、いったん就労すると、若い年代ほど行政の啓発事業に触れる機会や時間が少なく、現役世代に新しい情報を伝えるためには、職場での研修の充実や、啓発行事の実施場所や時間帯等に関し、さまざまな工夫が必要であると思われる。また、同和問題に関する知識を持っていないと回答した市民に対し、どのように同和問題を伝えていくのか、改めて問い直すことも大切である。

中学校区別で、「同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない」と回答した者の割合が少なかったのは、「矢部清流学園校区」の0.0%、「見崎中学校区」の2.5%、「上陽北浜学園校区」の3.3%で、前回調査では4校区存在した10.0%を超えた校区は、今回は「星野中学校区」の10.9%（前回10.5%）だけであった。

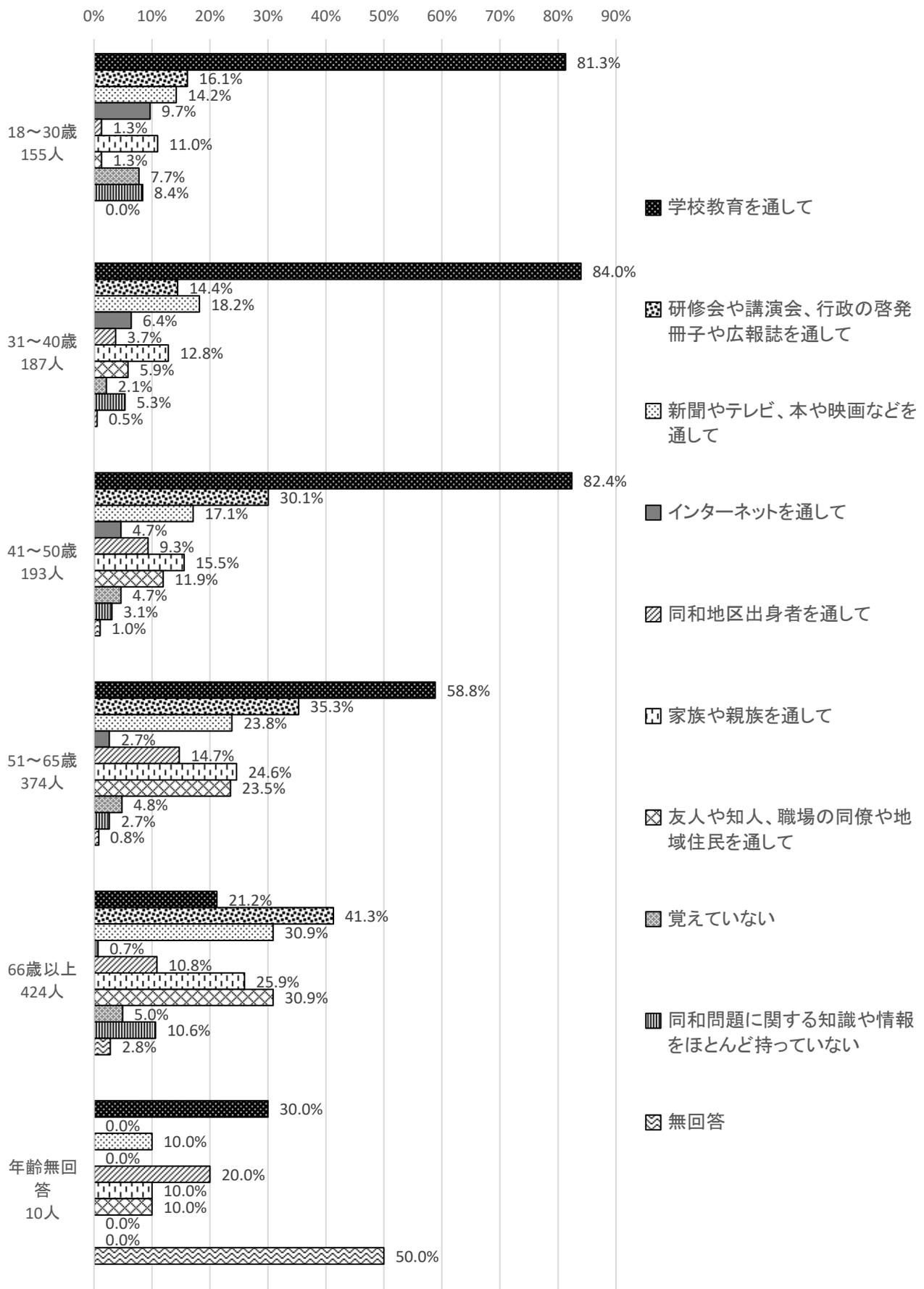


問12 複数回答		同和問題に関する知識や情報									
		学校教育を通して	研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙を通して	新聞やテレビ、本や映画などを通して	インターネットを通して	同和地区出身者を通して	家族や親族を通して	友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して	覚えていない	同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない	無回答
性別 男性 608人	回答人数	313	198	147	25	61	97	133	35	38	10
	性別 内の割合	51.5%	32.6%	24.2%	4.1%	10.0%	16.0%	21.9%	5.8%	6.3%	1.6%
	問12 内の割合	41.5%	47.5%	47.4%	51.0%	46.9%	35.4%	52.0%	54.7%	45.2%	43.5%
女性 722人	回答人数	439	219	161	24	67	176	121	29	45	8
	性別 内の割合	60.8%	30.3%	22.3%	3.3%	9.3%	24.4%	16.8%	4.0%	6.2%	1.1%
	問12 内の割合	58.1%	52.5%	51.9%	49.0%	51.5%	64.2%	47.3%	45.3%	53.6%	34.8%
性別 無回答 13人	回答人数	3	0	2	0	2	1	2	0	1	5
	性別 内の割合	23.1%	0.0%	15.4%	0.0%	15.4%	7.7%	15.4%	0.0%	7.7%	38.5%
	問12 内の割合	0.4%	0.0%	0.6%	0.0%	1.5%	0.4%	0.8%	0.0%	1.2%	21.7%
年齢 18～30歳 155人	回答人数	126	25	22	15	2	17	2	12	13	0
	年齢 内の割合	81.3%	16.1%	14.2%	9.7%	1.3%	11.0%	1.3%	7.7%	8.4%	0.0%
	問12 内の割合	16.7%	6.0%	7.1%	30.6%	1.5%	6.2%	0.8%	18.8%	15.5%	0.0%
31～40歳 187人	回答人数	157	27	34	12	7	24	11	4	10	1
	年齢 内の割合	84.0%	14.4%	18.2%	6.4%	3.7%	12.8%	5.9%	2.1%	5.3%	0.5%
	問12 内の割合	20.8%	6.5%	11.0%	24.5%	5.4%	8.8%	4.3%	6.3%	11.9%	4.3%
41～50歳 193人	回答人数	159	58	33	9	18	30	23	9	6	2
	年齢 内の割合	82.4%	30.1%	17.1%	4.7%	9.3%	15.5%	11.9%	4.7%	3.1%	1.0%
	問12 内の割合	21.1%	13.9%	10.6%	18.4%	13.8%	10.9%	9.0%	14.1%	7.1%	8.7%
51～65歳 374人	回答人数	220	132	89	10	55	92	88	18	10	3
	年齢 内の割合	58.8%	35.3%	23.8%	2.7%	14.7%	24.6%	23.5%	4.8%	2.7%	0.8%
	問12 内の割合	29.1%	31.7%	28.7%	20.4%	42.3%	33.6%	34.4%	28.1%	11.9%	13.0%
66歳以上 424人	回答人数	90	175	131	3	46	110	131	21	45	12
	年齢 内の割合	21.2%	41.3%	30.9%	0.7%	10.8%	25.9%	30.9%	5.0%	10.6%	2.8%
	問12 内の割合	11.9%	42.0%	42.3%	6.1%	35.4%	40.1%	51.2%	32.8%	53.6%	52.2%
年齢 無回答 10人	回答人数	3	0	1	0	2	1	1	0	0	5
	年齢 内の割合	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	問12 内の割合	0.4%	0.0%	0.3%	0.0%	1.5%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	21.7%
校区 福島中 271人	回答人数	154	85	70	11	30	60	55	17	11	3
	校区 内の割合	56.8%	31.4%	25.8%	4.1%	11.1%	22.1%	20.3%	6.3%	4.1%	1.1%
	問12 内の割合	20.4%	20.4%	22.6%	22.4%	23.1%	21.9%	21.5%	26.6%	13.1%	13.0%
南中 189人	回答人数	105	48	40	3	14	37	37	6	14	3
	校区 内の割合	55.6%	25.4%	21.2%	1.6%	7.4%	19.6%	19.6%	3.2%	7.4%	1.6%
	問12 内の割合	13.9%	11.5%	12.9%	6.1%	10.8%	13.5%	14.5%	9.4%	16.7%	13.0%
見崎中 121人	回答人数	73	38	24	2	14	27	23	6	3	0
	校区 内の割合	60.3%	31.4%	19.8%	1.7%	11.6%	22.3%	19.0%	5.0%	2.5%	0.0%
	問12 内の割合	9.7%	9.1%	7.7%	4.1%	10.8%	9.9%	9.0%	9.4%	3.6%	0.0%
西中 182人	回答人数	101	64	39	6	25	45	26	3	13	3
	校区 内の割合	55.5%	35.2%	21.4%	3.3%	13.7%	24.7%	14.3%	1.6%	7.1%	1.6%
	問12 内の割合	13.4%	15.3%	12.6%	12.2%	19.2%	16.4%	10.2%	4.7%	15.5%	13.0%
黒木中 218人	回答人数	130	63	49	15	17	41	44	11	15	5
	校区 内の割合	59.6%	28.9%	22.5%	6.9%	7.8%	18.8%	20.2%	5.0%	6.9%	2.3%
	問12 内の割合	17.2%	15.1%	15.8%	30.6%	13.1%	15.0%	17.2%	17.2%	17.9%	21.7%
上陽北学園 60人	回答人数	30	24	23	1	5	11	10	4	2	0
	校区 内の割合	50.0%	40.0%	38.3%	1.7%	8.3%	18.3%	16.7%	6.7%	3.3%	0.0%
	問12 内の割合	4.0%	5.8%	7.4%	2.0%	3.8%	4.0%	3.9%	6.3%	2.4%	0.0%
筑南中 70人	回答人数	36	26	17	2	5	13	16	5	5	2
	校区 内の割合	51.4%	37.1%	24.3%	2.9%	7.1%	18.6%	22.9%	7.1%	7.1%	2.9%
	問12 内の割合	4.8%	6.2%	5.5%	4.1%	3.8%	4.7%	6.3%	7.8%	6.0%	8.7%
立花中 108人	回答人数	58	40	22	3	9	25	24	2	9	0
	校区 内の割合	53.7%	37.0%	20.4%	2.8%	8.3%	23.1%	22.2%	1.9%	8.3%	0.0%
	問12 内の割合	7.7%	9.6%	7.1%	6.1%	6.9%	9.1%	9.4%	3.1%	10.7%	0.0%
矢部清流学園 18人	回答人数	13	7	4	0	0	0	2	1	0	0
	校区 内の割合	72.2%	38.9%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%
	問12 内の割合	1.7%	1.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	1.6%	0.0%	0.0%
星野中 64人	回答人数	32	20	16	3	7	6	13	9	7	2
	校区 内の割合	50.0%	31.3%	25.0%	4.7%	10.9%	9.4%	20.3%	14.1%	10.9%	3.1%
	問12 内の割合	4.2%	4.8%	5.2%	6.1%	5.4%	2.2%	5.1%	14.1%	8.3%	8.7%
校区不明 24人	回答人数	18	1	3	3	0	5	2	0	3	0
	校区 内の割合	75.0%	4.2%	12.5%	12.5%	0.0%	20.8%	8.3%	0.0%	12.5%	0.0%
	問12 内の割合	2.4%	0.2%	1.0%	6.1%	0.0%	1.8%	0.8%	0.0%	3.6%	0.0%
校区 無回答 18人	回答人数	5	1	3	0	4	4	4	0	2	5
	校区 内の割合	27.8%	5.6%	16.7%	0.0%	22.2%	22.2%	22.2%	0.0%	11.1%	27.8%
	問12 内の割合	0.7%	0.2%	1.0%	0.0%	3.1%	1.5%	1.6%	0.0%	2.4%	21.7%
合計 1343人	回答人数	755	417	310	49	130	274	256	64	84	23
	合計に対する割合	56.2%	31.0%	23.1%	3.6%	9.7%	20.4%	19.1%	4.8%	6.3%	1.7%

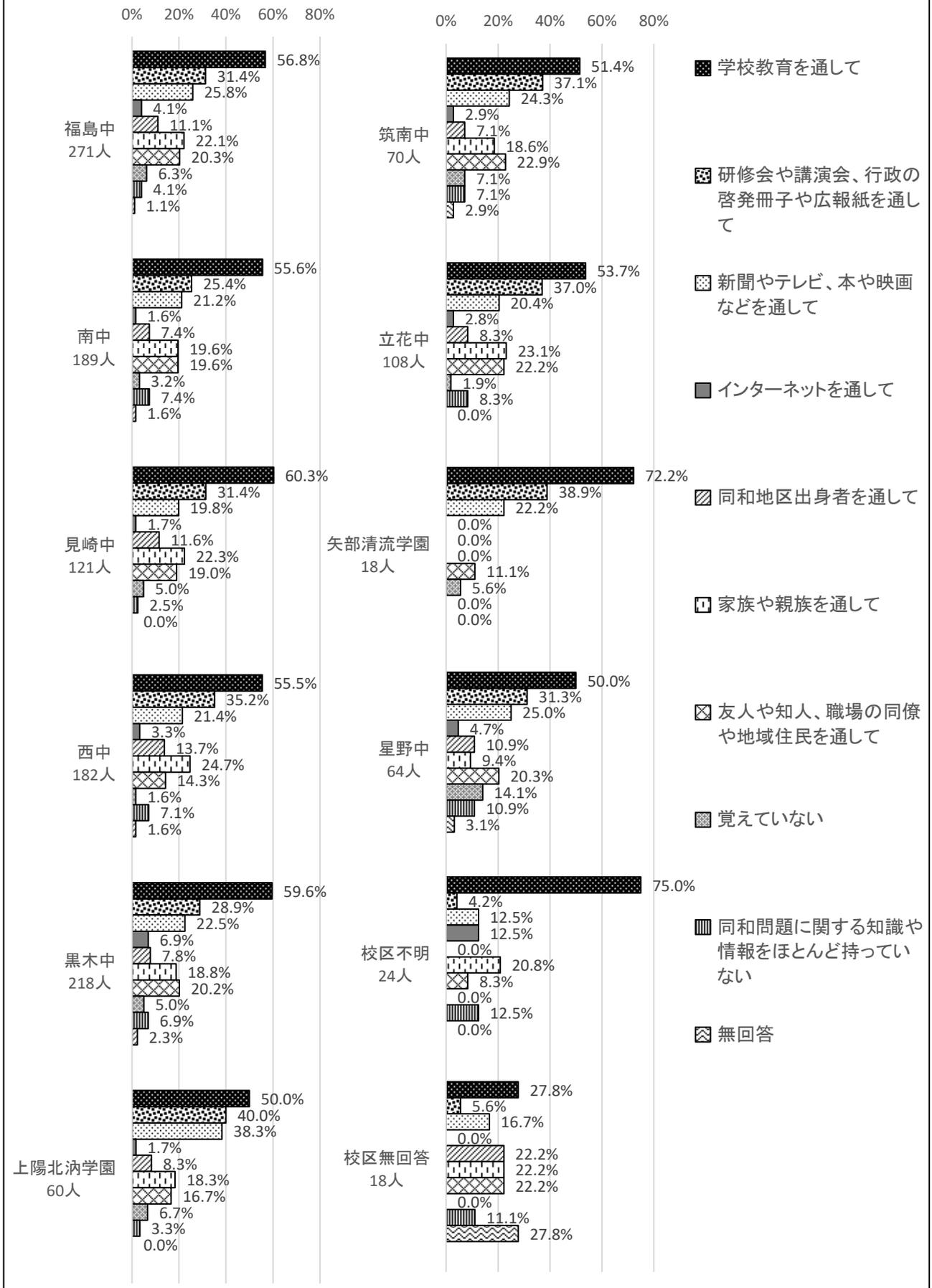
問12 同和問題に関する知識や情報(性別)



問12 同和問題に関する知識や情報(年齢別)



問12 同和問題に関する知識や情報(校区別)



問 13 同和地区住民の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

「結婚に際して不利な取り扱いを受ける」を選んだ者の割合が 53.6% (前回 59.7%・県民意識調査の同様の選択肢 56.9%) と最も多く、次いで「就職に際して不利な取り扱いを受ける」の 41.1% (前回 40.3%・県民意識調査の同様の選択肢 46.1%)、「地域社会の付き合いの中で不公平な取り扱いを受ける」の 37.4% (前回 39.2%・県民意識調査に同様の選択肢なし) となっている。

いずれも、同和問題解決のための取り組みが始まった頃から、教育や啓発を通して課題とされ続けてきたものばかりであり、これまでの取り組みが市民の問題意識となって定着した結果と言えるだろう。

これに対して、近年新たな課題として取り上げられるようになってきた「同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書き」を選んだ者の割合は 31.2% (前回 27.7%・県民意識調査 16.8%)、「土地や住居等の取引の中で」は 32.8% (前回 28.8%・県民意識調査 21.0%)、「インターネット上に部落差別を助長するような情報や書き込み」は 24.3% (前回 20.0%・県民意識調査 15.5%) と、前回よりも市民の認知度が高まり、県民意識調査の結果を上回る数字になっているが、上記三項目に比べると、まだ市民の認知度が低い状態にあることが分かる。

性別の回答傾向を見ると、七つの課題全てで女性の選択割合の方が高くなっており、しかも 5.0 ポイント以上の差があったものが五つ (前は六つの課題中二つ) 存在していた。具体的には、「結婚に際して周囲の理解が得られない」(女性 57.5%・男性 49.5%) の 8.0 ポイント (前回 6.8 ポイント)、「就職に際して不利な取り扱いを受ける」(女性 45.7%・男性 36.2%) の 9.5 ポイント (前回 5.8 ポイント)、「仕事をする上で不利な取り扱いを受ける」(女性 36.0%・男性 25.2%) の 10.8 ポイント (前回、同様の選択肢なし)、「地域社会の付き合いの中で不公平な取り扱いを受ける」(女性 42.8%・男性 31.1%) の 11.7 ポイント (前回 4.8 ポイント)、「同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書き」(女性 34.1%・男性 28.5%) の 5.6 ポイント (前回 2.4 ポイント) である。

七つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「就職に際して不利な取り扱いを受ける場合」60.0% (全体 41.1%)、「仕事をする上で不利な取り扱いを受ける場合」48.4% (全体 30.8%)、「同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書き」41.3% (全体 31.2%)、「41～50 歳」が最大値を示していたのが、「結婚に際して周囲の理解が得られない場合」62.7% (全体 53.6%)、「地域社会の付き合いの中で不公平な取り扱いを受ける場合」50.8% (全体 37.4%)、「土地や住居等の取引の中で、人権侵害調査」40.4% (全体 32.8%)、「インターネット上に部落差別を助長するような情報や書き込み」36.3% (全体 24.3%) で、それ以外の年代が最大値を示していたものはなかった。また、「66 歳以上」の年代が、全ての課題において最小値となっていた。

人権・同和教育の受講の有無や記憶の鮮明度、職場研修や啓発等による知識・情報の蓄積度の違いから生まれている結果ではないかと思われる。

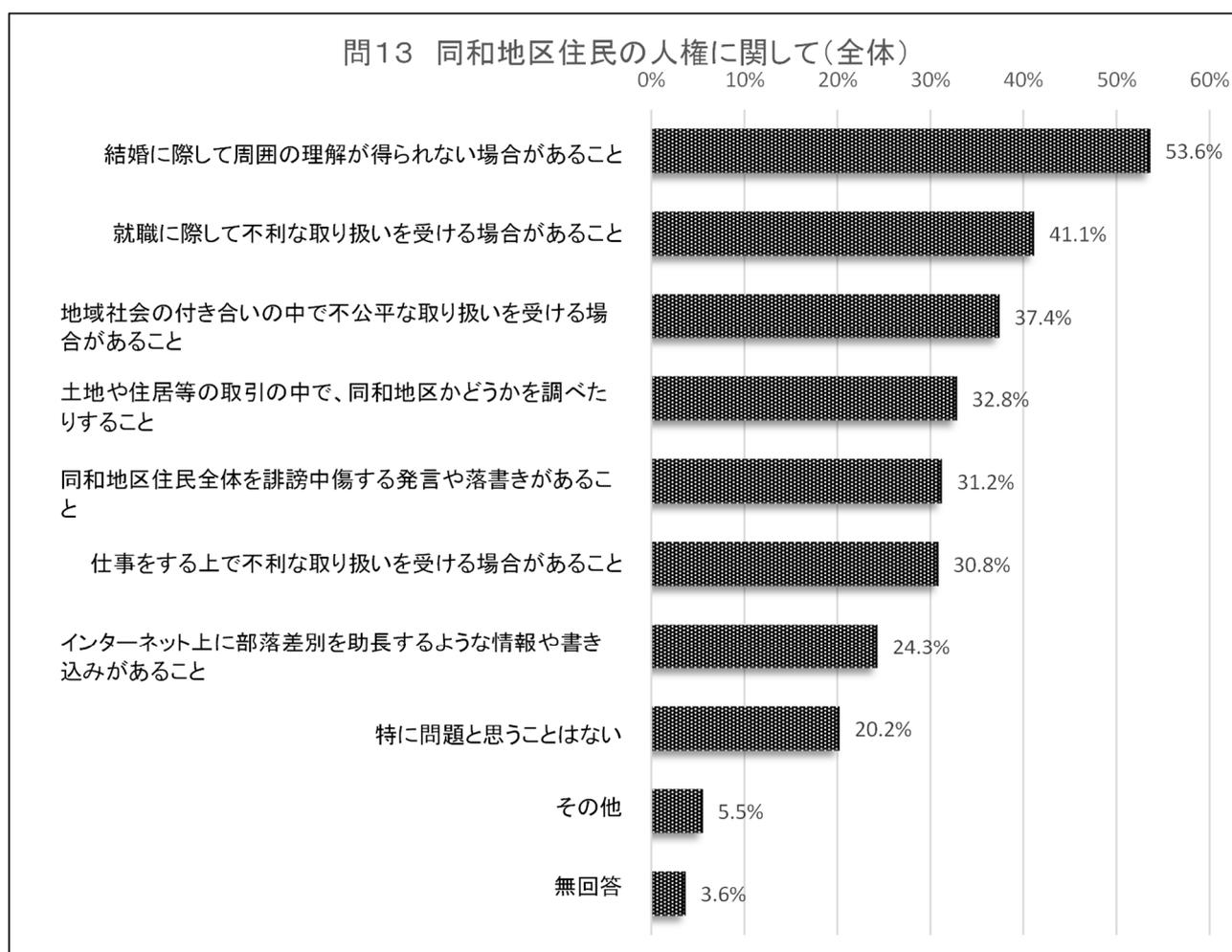
「特に問題と思うことはない」を選んだ者は、前回とほぼ同じ 20.2% (前回 21.6%・県民意識調査に同様の選択肢なし) 存在しているが、問 2 で、「同和問題」に関心があると回

答した者の割合は27.3%（男性32.9%・女性22.9%）で、男性の方が10.0ポイント多かったにもかかわらず、「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は、男性23.5%（前回25.0%）に対し、女性17.2%（前回18.9%）と、男性の方が6.3ポイント（前回6.1ポイント）高くなっている。女性に比べ、男性の方が、関心がない者も多いという結果である。

年齢別回答傾向を見ると、人権・同和教育が一切行われていなかった頃に学生生活を送った世代である「66歳以上」の31.8%（前回37.9%）が「特に問題と思うことはない」を選んでおり、最低であった「31～40歳」の11.8%（前回12.7%）と比べると、20.0ポイント（前回25.2ポイント）も高くなっている。

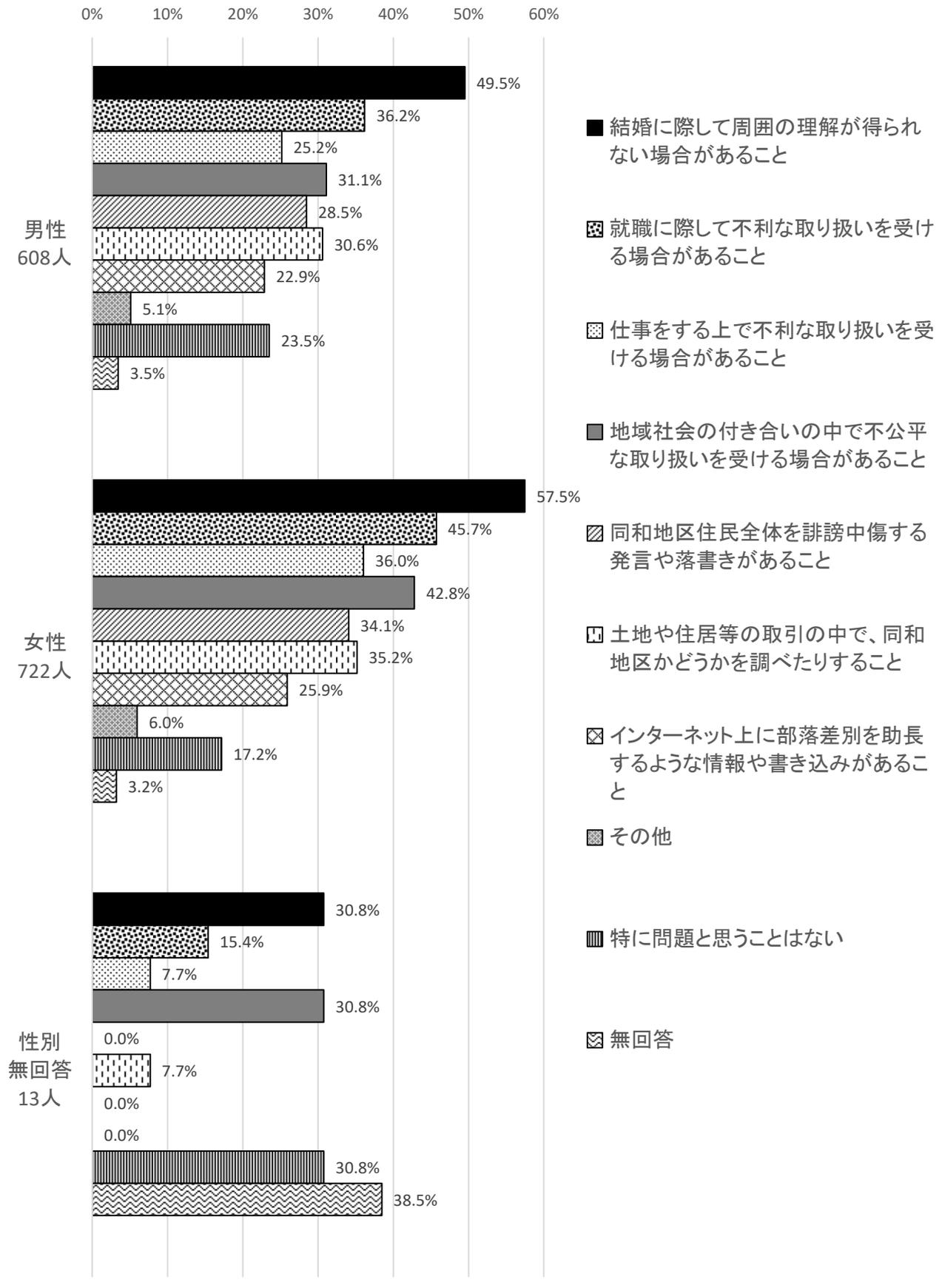
また、「18～30歳」の年代も、「特に問題と思うことはない」を選んだ者が13.5%（前回13.4%）存在してはいるが、全体の20.2%（前回21.6%）よりも6.7ポイント（前回8.2ポイント）低くなっており、決して部落問題に関する知識・関心が若い世代で後退しているというわけではない。

中学校区別の回答傾向を見ると、「特に問題と思うことはない」を選んだ者の割合が低かったのが「立花中学校区」の15.7%（前回21.0%）「矢部清流学園校区」の16.7%（前回20.9%）で、高かったのが「筑南中学校区」の30.0%（前回34.2%）であった。

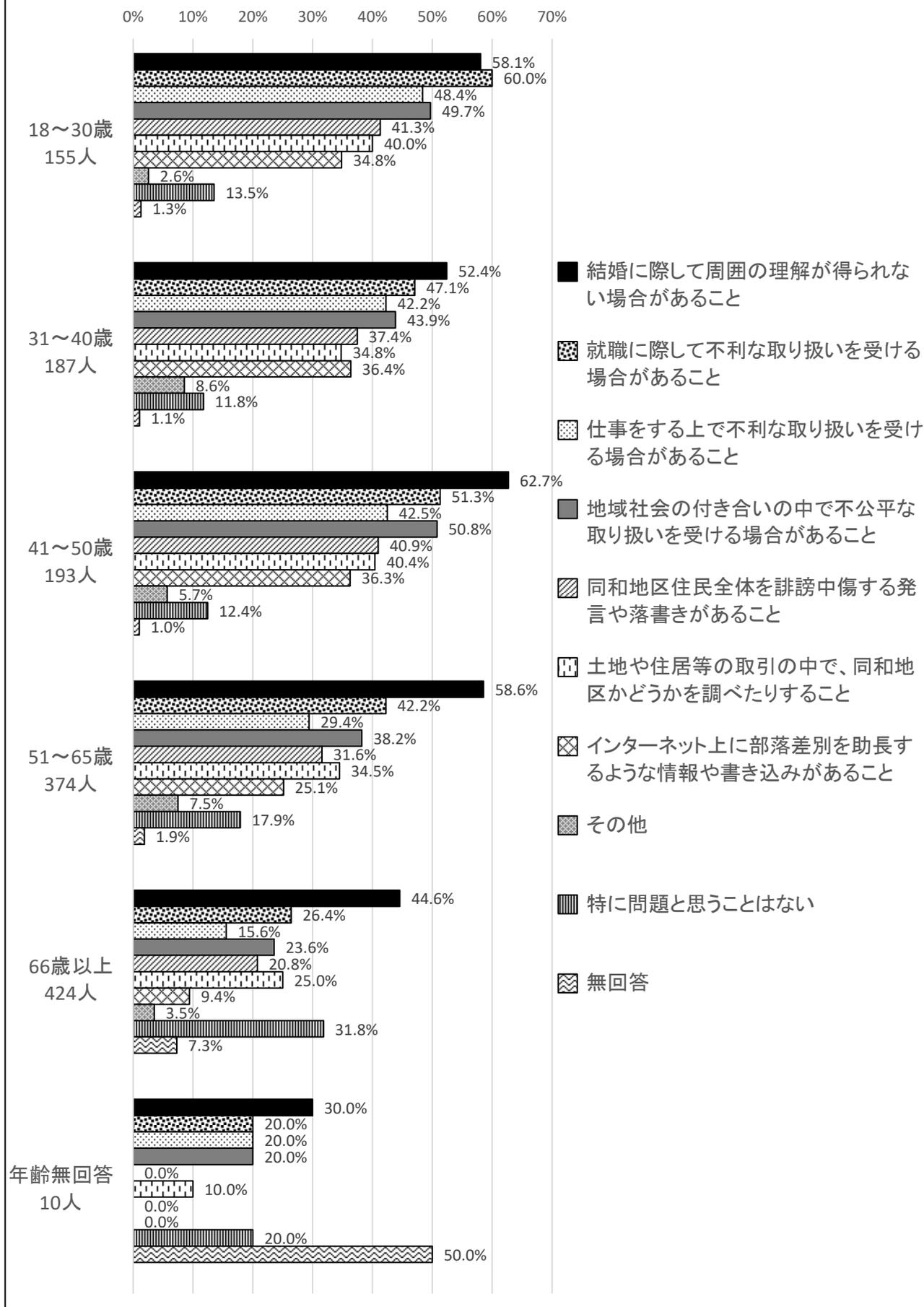


問13 複数回答			同和地区住民の人権問題									
			結婚に際して周囲の理解が得られない場合があること	就職に際して不利な取り扱いを受ける場合があること	仕事をすすんで不利な取り扱いを受ける場合があること	地域社会の付き合いの中で不公平な取り扱いを受ける場合があること	同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書きがあること	土地や住居等の取引の中で、同和地区かどうかを調べたりすること	インターネット上に部落差別を助長するような情報や書き込みがあること	その他	特に問題と思うことはない	無回答
性別	男性 608人	回答人数	301	220	153	189	173	186	139	31	143	21
		性別 内の割合	49.5%	36.2%	25.2%	31.1%	28.5%	30.6%	22.9%	5.1%	23.5%	3.5%
		問13 内の割合	41.8%	39.9%	37.0%	37.6%	41.3%	42.2%	42.6%	41.9%	52.8%	42.9%
性別	女性 722人	回答人数	415	330	260	309	246	254	187	43	124	23
		性別 内の割合	57.5%	45.7%	36.0%	42.8%	34.1%	35.2%	25.9%	6.0%	17.2%	3.2%
		問13 内の割合	57.6%	59.8%	62.8%	61.6%	58.7%	57.6%	57.4%	58.1%	45.8%	46.9%
性別	無回答 13人	回答人数	4	2	1	4	0	1	0	0	4	5
		性別 内の割合	30.8%	15.4%	7.7%	30.8%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	30.8%	38.5%
		問13 内の割合	0.6%	0.4%	0.2%	0.8%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.5%	10.2%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	90	93	75	77	64	62	54	4	21	2
		年齢 内の割合	58.1%	60.0%	48.4%	49.7%	41.3%	40.0%	34.8%	2.6%	13.5%	1.3%
		問13 内の割合	12.5%	16.8%	18.1%	15.3%	15.3%	14.1%	16.6%	5.4%	7.7%	4.1%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	98	88	79	82	70	65	68	16	22	2
		年齢 内の割合	52.4%	47.1%	42.2%	43.9%	37.4%	34.8%	36.4%	8.6%	11.8%	1.1%
		問13 内の割合	13.6%	15.9%	19.1%	16.3%	16.7%	14.7%	20.9%	21.6%	8.1%	4.1%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	121	99	82	98	79	78	70	11	24	2
		年齢 内の割合	62.7%	51.3%	42.5%	50.8%	40.9%	40.4%	36.3%	5.7%	12.4%	1.0%
		問13 内の割合	16.8%	17.9%	19.8%	19.5%	18.9%	17.7%	21.5%	14.9%	8.9%	4.1%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	219	158	110	143	118	129	94	28	67	7
		年齢 内の割合	58.6%	42.2%	29.4%	38.2%	31.6%	34.5%	25.1%	7.5%	17.9%	1.9%
		問13 内の割合	30.4%	28.6%	26.6%	28.5%	28.2%	29.3%	28.8%	37.8%	24.7%	14.3%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	189	112	66	100	88	106	40	15	135	31
		年齢 内の割合	44.6%	26.4%	15.6%	23.6%	20.8%	25.0%	9.4%	3.5%	31.8%	7.3%
		問13 内の割合	26.3%	20.3%	15.9%	19.9%	21.0%	24.0%	12.3%	20.3%	49.8%	63.3%
年齢	無回答 10人	回答人数	3	2	2	2	0	1	0	0	2	5
		年齢 内の割合	30.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	50.0%
		問13 内の割合	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.7%	10.2%
校区	福島中 271人	回答人数	154	114	79	111	88	92	70	18	46	7
		校区 内の割合	56.8%	42.1%	29.2%	41.0%	32.5%	33.9%	25.8%	6.6%	17.0%	2.6%
		問13 内の割合	21.4%	20.7%	19.1%	22.1%	21.0%	20.9%	21.5%	24.3%	17.0%	14.3%
校区	南中 189人	回答人数	101	84	69	76	66	65	51	10	46	5
		校区 内の割合	53.4%	44.4%	36.5%	40.2%	34.9%	34.4%	27.0%	5.3%	24.3%	2.6%
		問13 内の割合	14.0%	15.2%	16.7%	15.1%	15.8%	14.7%	15.6%	13.5%	17.0%	10.2%
校区	見崎中 121人	回答人数	69	57	48	53	42	38	36	8	21	2
		校区 内の割合	57.0%	47.1%	39.7%	43.8%	34.7%	31.4%	29.8%	6.6%	17.4%	1.7%
		問13 内の割合	9.6%	10.3%	11.6%	10.6%	10.0%	8.6%	11.0%	10.8%	7.7%	4.1%
校区	西中 182人	回答人数	96	74	52	64	53	61	44	11	36	7
		校区 内の割合	52.7%	40.7%	28.6%	35.2%	29.1%	33.5%	24.2%	6.0%	19.8%	3.8%
		問13 内の割合	13.3%	13.4%	12.6%	12.7%	12.6%	13.8%	13.5%	14.9%	13.3%	14.3%
校区	黒木中 218人	回答人数	109	84	62	78	55	66	49	10	42	10
		校区 内の割合	50.0%	38.5%	28.4%	35.8%	25.2%	30.3%	22.5%	4.6%	19.3%	4.6%
		問13 内の割合	15.1%	15.2%	15.0%	15.5%	13.1%	15.0%	15.0%	13.5%	15.5%	20.4%
校区	上陽北浜学園 60人	回答人数	38	30	26	29	22	25	16	3	12	2
		校区 内の割合	63.3%	50.0%	43.3%	48.3%	36.7%	41.7%	26.7%	5.0%	20.0%	3.3%
		問13 内の割合	5.3%	5.4%	6.3%	5.8%	5.3%	5.7%	4.9%	4.1%	4.4%	4.1%
校区	筑南中 70人	回答人数	30	22	16	22	26	15	12	4	21	3
		校区 内の割合	42.9%	31.4%	22.9%	31.4%	37.1%	21.4%	17.1%	5.7%	30.0%	4.3%
		問13 内の割合	4.2%	4.0%	3.9%	4.4%	6.2%	3.4%	3.7%	5.4%	7.7%	6.1%
校区	立花中 108人	回答人数	64	39	25	29	32	41	22	3	17	4
		校区 内の割合	59.3%	36.1%	23.1%	26.9%	29.6%	38.0%	20.4%	2.8%	15.7%	3.7%
		問13 内の割合	8.9%	7.1%	6.0%	5.8%	7.6%	9.3%	6.7%	4.1%	6.3%	8.2%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	10	8	8	10	8	7	8	0	3	0
		校区 内の割合	55.6%	44.4%	44.4%	55.6%	44.4%	38.9%	44.4%	0.0%	16.7%	0.0%
		問13 内の割合	1.4%	1.4%	1.9%	2.0%	1.9%	1.6%	2.5%	0.0%	1.1%	0.0%
校区	星野中 64人	回答人数	33	22	16	17	19	16	11	7	14	4
		校区 内の割合	51.6%	34.4%	25.0%	26.6%	29.7%	25.0%	17.2%	10.9%	21.9%	6.3%
		問13 内の割合	4.6%	4.0%	3.9%	3.4%	4.5%	3.6%	3.4%	9.5%	5.2%	8.2%
校区	校区不明 24人	回答人数	10	14	10	8	6	11	5	0	5	0
		校区 内の割合	41.7%	58.3%	41.7%	33.3%	25.0%	45.8%	20.8%	0.0%	20.8%	0.0%
		問13 内の割合	1.4%	2.5%	2.4%	1.6%	1.4%	2.5%	1.5%	0.0%	1.8%	0.0%
校区	無回答 18人	回答人数	6	4	3	5	2	4	2	0	8	5
		校区 内の割合	33.3%	22.2%	16.7%	27.8%	11.1%	22.2%	11.1%	0.0%	44.4%	27.8%
		問13 内の割合	0.8%	0.7%	0.7%	1.0%	0.5%	0.9%	0.6%	0.0%	3.0%	10.2%
合計	1343人	回答人数	720	552	414	502	419	441	326	74	271	49
		合計に対する割合	53.6%	41.1%	30.8%	37.4%	31.2%	32.8%	24.3%	5.5%	20.2%	3.6%

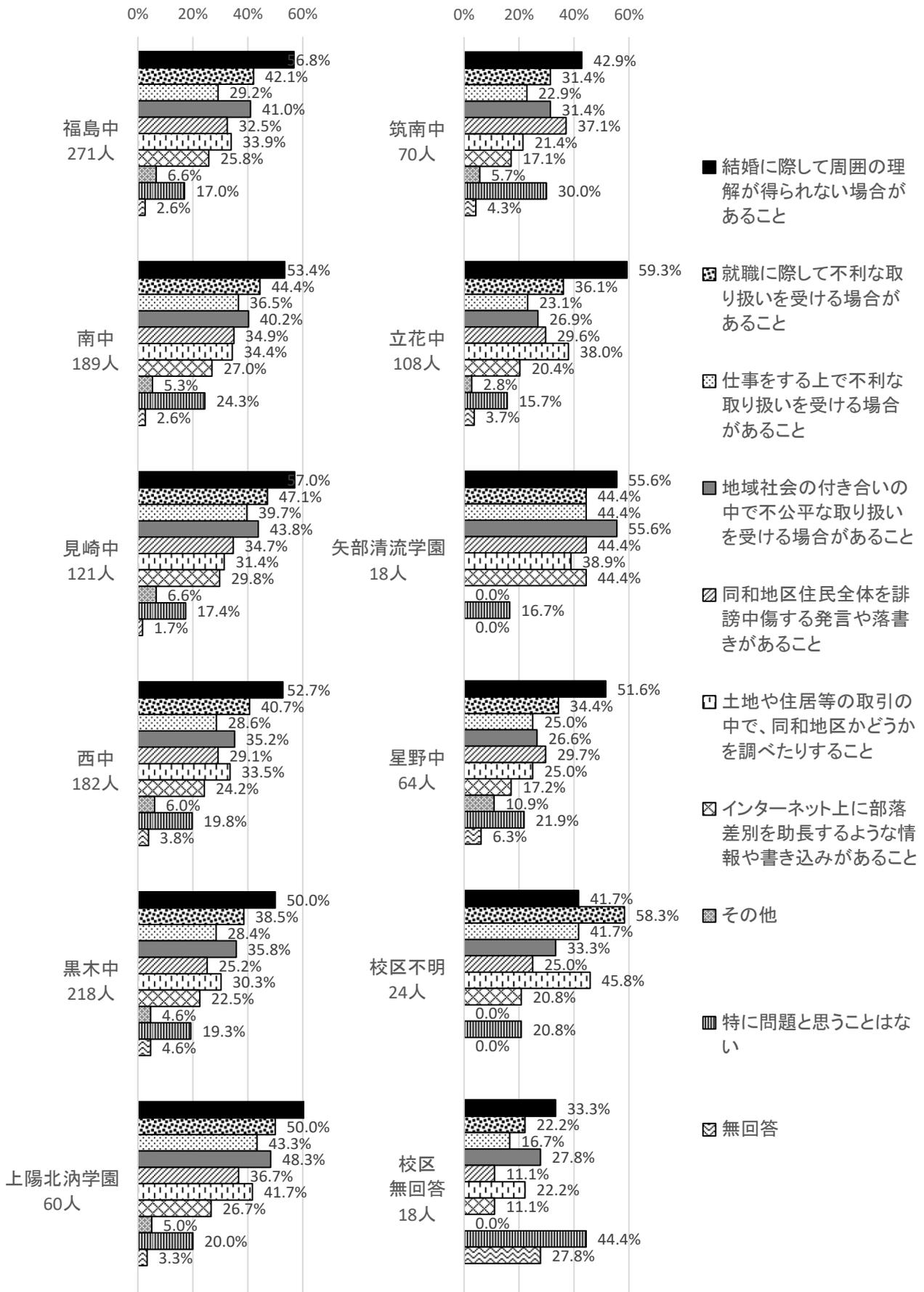
問13 同和地区住民の人権に関して(性別)



問13 同和地区住民の人権に関して(年齢別)



問13 同和地区住民の人権について(校区別)



問 14 「同和地区出身ではない者が同和地区出身者と結婚しようとする、周囲から反対される」という出来事について、あなたの考えと最も近いものを一つ選んで○をつけてください。

「何も気にしない」を選んだ者の割合が最も多く、63.5%（前回 57.8%）と過半数に達しており、前回よりも 5.7 ポイント増加している。一方、「やめてほしい」を選んだ者の割合は 3.3%（前回 2.8%）、「よく分からない」を選んだ者の割合は 19.1%（前回 18.0%）と、ほぼ前回と同じであったのに対し、「反対はしないが、心情的には反対である」を選んだ者の割合は 11.5%（前回 17.1%）と、前回より 5.6 ポイント減少しており、これが、「何も気にしない」の増加に繋がっていることが分かる。

この結果に対し、県民意識調査の「自身の子どもが、同和地区の人と結婚しようとしたとき」の態度を問う設問に対する、平成 23 年及び平成 28 年調査の結果は、以下のようになっている。

子どもの意志を尊重する	平成 23 年調査 44.1%	→平成 28 年調査 47.2%
わからない	平成 23 年調査 16.8%	→平成 28 年調査 16.7%
反対だが仕方ない	平成 23 年調査 26.4%	→平成 28 年調査 24.2%
絶対に認めない	平成 23 年調査 3.4%	→平成 28 年調査 3.5%
家族や親類の反対があれば認めない	平成 23 年調査 4.3%	→平成 28 年調査 4.2%

八女市調査の「何も気にしない」を選んだ者の割合と「反対はしないが、心情的には反対である」を選んだ者の割合を、県民意識調査の「子どもの意志を尊重する」を選んだ者の割合及び「反対だが仕方ない」を選んだ者の割合と比べて見ると、八女市民の意識の高さは明らかである上に、県民意識調査の数字がこの 5 年間、ほとんど変化していないのに対し、八女市調査の数字には、大きな改善が見られるという大きな違いが存在している。

性別の回答傾向を見ると、「何も気にしない」を選んだ男性の割合が 66.0%（前回 62.6%）であったのに対し、女性は 62.0%（前回 54.1%）で、男性の方が 4.0 ポイント（前回 8.5 ポイント）高くなっているが、その差は、前回の半分以下となっている。その分、女性は「よく分からない」を選んだ割合が 4.3 ポイント（前回 6.3 ポイント）男性より高くなっている。

年齢別の回答傾向を見ると、「何も気にしない」を選んだ者の割合は、「18～30 歳」の 77.4%（前回 74.5%）が最大で、年齢が上がるとともに減少し、「66 歳以上」の 54.2%（前回 49.1%）が最低となっているが、どの年代においても「何も気にしない」を選んだ者の割合は増加している。

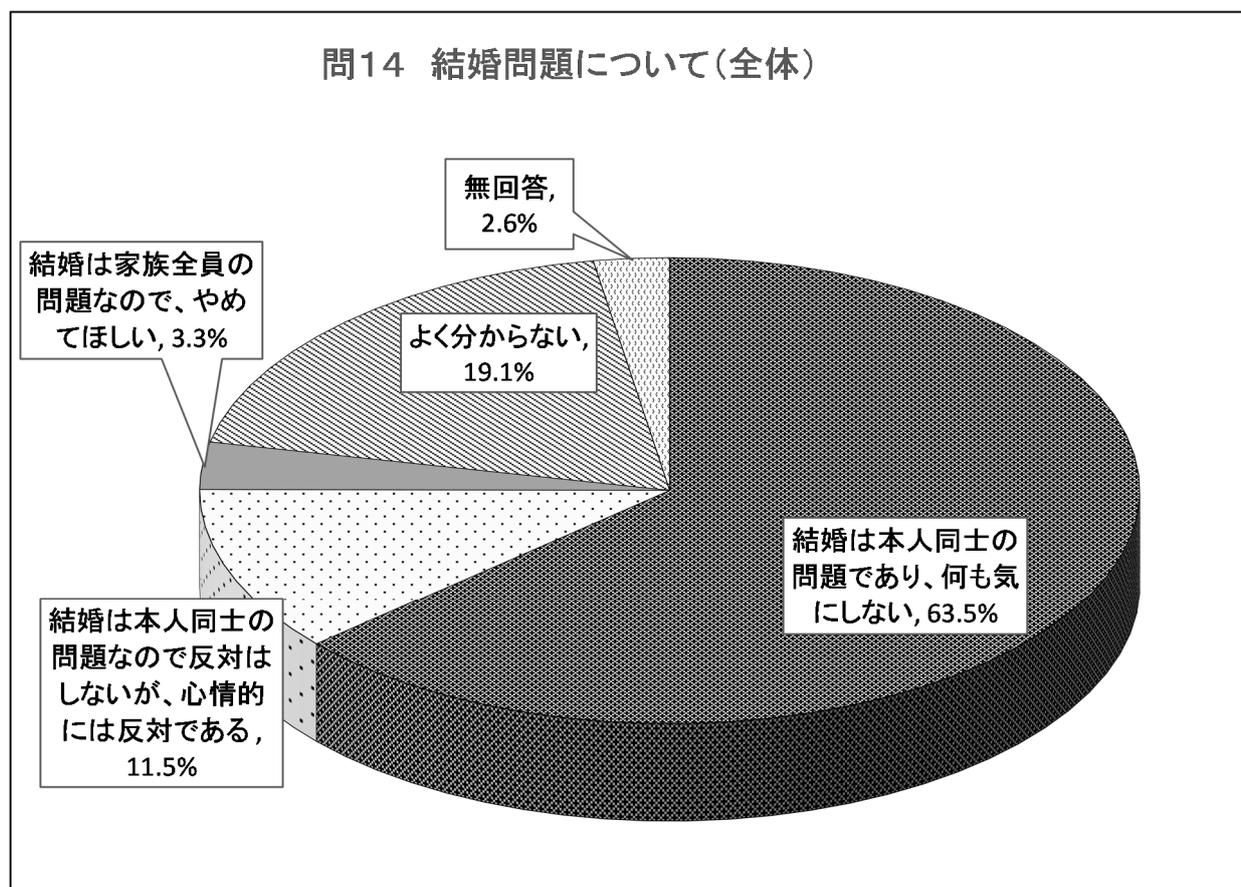
これは、八女市の教育・啓発の成果であるとともに、時代とともに結婚観が変化し、誰と結婚するかは当事者が決めることという考え方が、一定の広がりを持ってきた結果でもあると思われる。

それでも、「反対はしないが、心情的には反対である」11.5%、「やめてほしい」3.3%と、いった、部落差別を含む考えを選んだ者の割合を合わせると 14.8%（前回 19.9%）に達することや、状況によっては部落差別をする側に立つ可能性を持つ「よく分からない」を選

んだ者も 19.1% (前回 18.0%) 存在する以上、結婚に反対されたり、スムーズに結婚できたとしても、その後の結婚生活に部落問題が影響したりする可能性は、十分に残されていると言える。

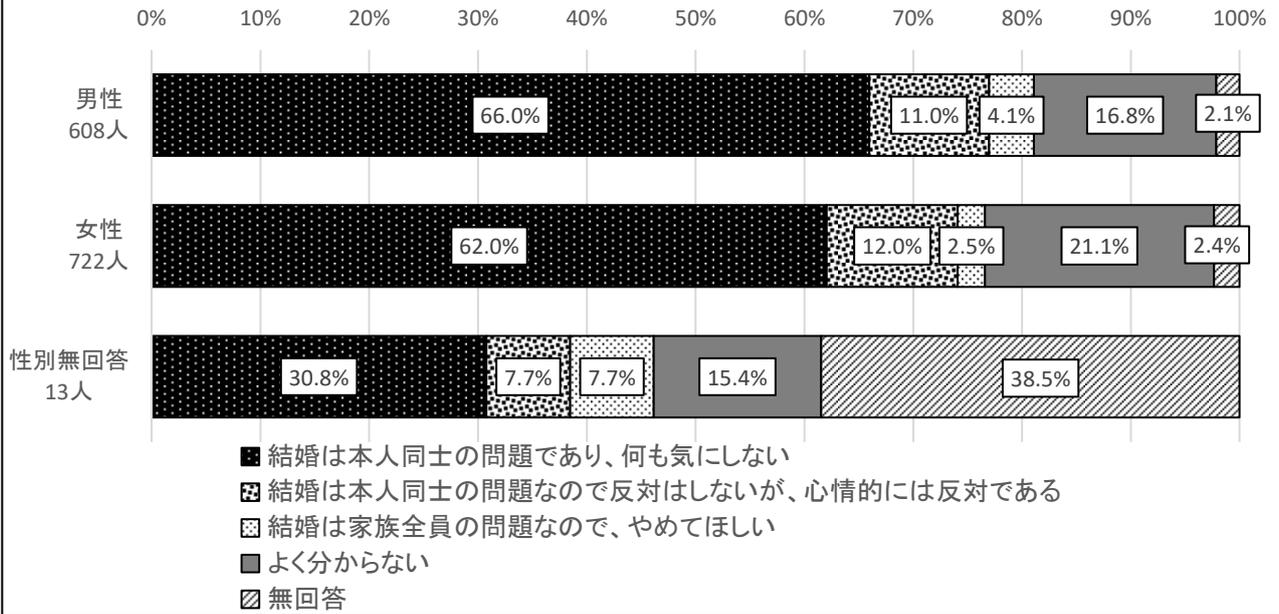
さらに、「18～30 歳」の年代にも「反対はしないが、心情的には反対である」と回答した者が 4.5% (前回 3.8%)、「やめてほしい」と回答した者が 2.6% (前回 0.0%) 存在していたことは、今後の教育や啓発を考える上で見逃してはならない課題である。

中学校区別の回答傾向を見ると、「何も気にしない」を選んだ者の割合が高かったのが、「矢部清流学園校区」の 83.3% (前回 58.1%)・「上陽北浜学園校区」の 71.7% (前回 53.0%) で、低かったのが「西中学校区」の 59.3% (前回 51.9%)・「立花中学校区」の 57.4% (前回 59.7%)・「星野中学校区」の 54.7% (前回 68.4%) であった。

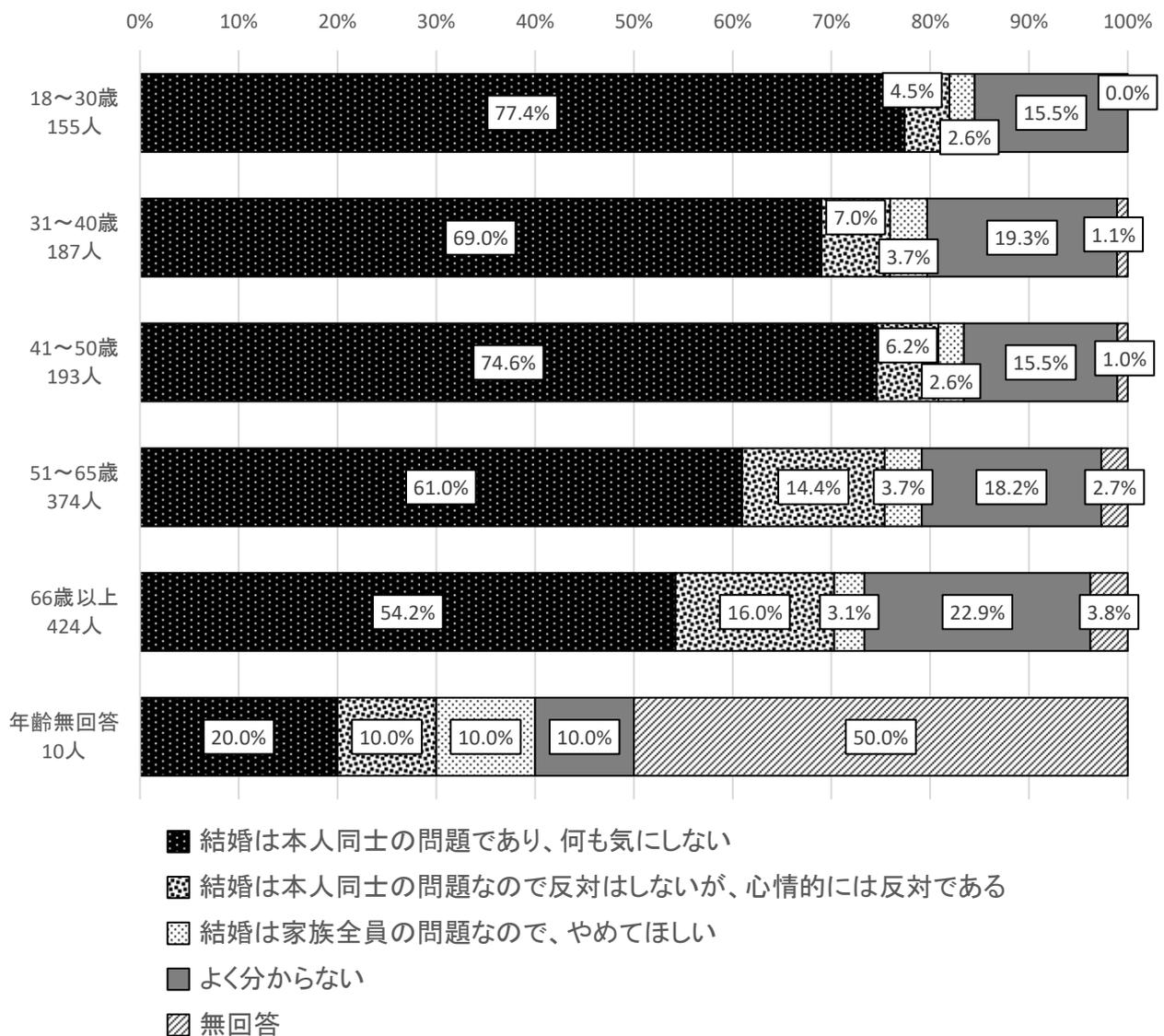


問 1 4			結婚問題について				
			結婚は本人同士の問 題であり、何も気に しない	結婚は本人同士の問 題なので反対はしな いが、心情的には反 対である	結婚は家族全員の問 題なので、やめてほ しい	よく分からない	無回答
性別 男性 608人	回答人数	401	67	25	102	13	
	性別 内の割合	66.0%	11.0%	4.1%	16.8%	2.1%	
	問14 内の割合	47.0%	43.2%	56.8%	39.8%	37.1%	
女性 722人	回答人数	448	87	18	152	17	
	性別 内の割合	62.0%	12.0%	2.5%	21.1%	2.4%	
	問14 内の割合	52.5%	56.1%	40.9%	59.4%	48.6%	
性別 無回答 13人	回答人数	4	1	1	2	5	
	性別 内の割合	30.8%	7.7%	7.7%	15.4%	38.5%	
	問14 内の割合	0.5%	0.6%	2.3%	0.8%	14.3%	
年齢 18～30歳 155人	回答人数	120	7	4	24	0	
	年齢 内の割合	77.4%	4.5%	2.6%	15.5%	0.0%	
	問14 内の割合	14.1%	4.5%	9.1%	9.4%	0.0%	
31～40歳 187人	回答人数	129	13	7	36	2	
	年齢 内の割合	69.0%	7.0%	3.7%	19.3%	1.1%	
	問14 内の割合	15.1%	8.4%	15.9%	14.1%	5.7%	
41～50歳 193人	回答人数	144	12	5	30	2	
	年齢 内の割合	74.6%	6.2%	2.6%	15.5%	1.0%	
	問14 内の割合	16.9%	7.7%	11.4%	11.7%	5.7%	
51～65歳 374人	回答人数	228	54	14	68	10	
	年齢 内の割合	61.0%	14.4%	3.7%	18.2%	2.7%	
	問14 内の割合	26.7%	34.8%	31.8%	26.6%	28.6%	
66歳以上 424人	回答人数	230	68	13	97	16	
	年齢 内の割合	54.2%	16.0%	3.1%	22.9%	3.8%	
	問14 内の割合	27.0%	43.9%	29.5%	37.9%	45.7%	
年齢 無回答 10人	回答人数	2	1	1	1	5	
	年齢 内の割合	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	50.0%	
	問14 内の割合	0.2%	0.6%	2.3%	0.4%	14.3%	
校区 福島中 271人	回答人数	174	36	13	45	3	
	校区 内の割合	64.2%	13.3%	4.8%	16.6%	1.1%	
	問14 内の割合	20.4%	23.2%	29.5%	17.6%	8.6%	
南中 189人	回答人数	127	16	2	36	8	
	校区 内の割合	67.2%	8.5%	1.1%	19.0%	4.2%	
	問14 内の割合	14.9%	10.3%	4.5%	14.1%	22.9%	
見崎中 121人	回答人数	80	15	0	24	2	
	校区 内の割合	66.1%	12.4%	0.0%	19.8%	1.7%	
	問14 内の割合	9.4%	9.7%	0.0%	9.4%	5.7%	
西中 182人	回答人数	108	28	6	35	5	
	校区 内の割合	59.3%	15.4%	3.3%	19.2%	2.7%	
	問14 内の割合	12.7%	18.1%	13.6%	13.7%	14.3%	
黒木中 218人	回答人数	136	24	10	41	7	
	校区 内の割合	62.4%	11.0%	4.6%	18.8%	3.2%	
	問14 内の割合	15.9%	15.5%	22.7%	16.0%	20.0%	
上陽北浜学園 60人	回答人数	43	4	1	12	0	
	校区 内の割合	71.7%	6.7%	1.7%	20.0%	0.0%	
	問14 内の割合	5.0%	2.6%	2.3%	4.7%	0.0%	
筑南中 70人	回答人数	48	5	2	13	2	
	校区 内の割合	68.6%	7.1%	2.9%	18.6%	2.9%	
	問14 内の割合	5.6%	3.2%	4.5%	5.1%	5.7%	
立花中 108人	回答人数	62	17	4	24	1	
	校区 内の割合	57.4%	15.7%	3.7%	22.2%	0.9%	
	問14 内の割合	7.3%	11.0%	9.1%	9.4%	2.9%	
矢部清流学園 18人	回答人数	15	0	1	2	0	
	校区 内の割合	83.3%	0.0%	5.6%	11.1%	0.0%	
	問14 内の割合	1.8%	0.0%	2.3%	0.8%	0.0%	
星野中 64人	回答人数	35	7	4	16	2	
	校区 内の割合	54.7%	10.9%	6.3%	25.0%	3.1%	
	問14 内の割合	4.1%	4.5%	9.1%	6.3%	5.7%	
校区不明 24人	回答人数	18	1	0	5	0	
	校区 内の割合	75.0%	4.2%	0.0%	20.8%	0.0%	
	問14 内の割合	2.1%	0.6%	0.0%	2.0%	0.0%	
校区 無回答 18人	回答人数	7	2	1	3	5	
	校区 内の割合	38.9%	11.1%	5.6%	16.7%	27.8%	
	問14 内の割合	0.8%	1.3%	2.3%	1.2%	14.3%	
合計 1343人	回答人数	853	155	44	256	35	
	合計に対する割合	63.5%	11.5%	3.3%	19.1%	2.6%	

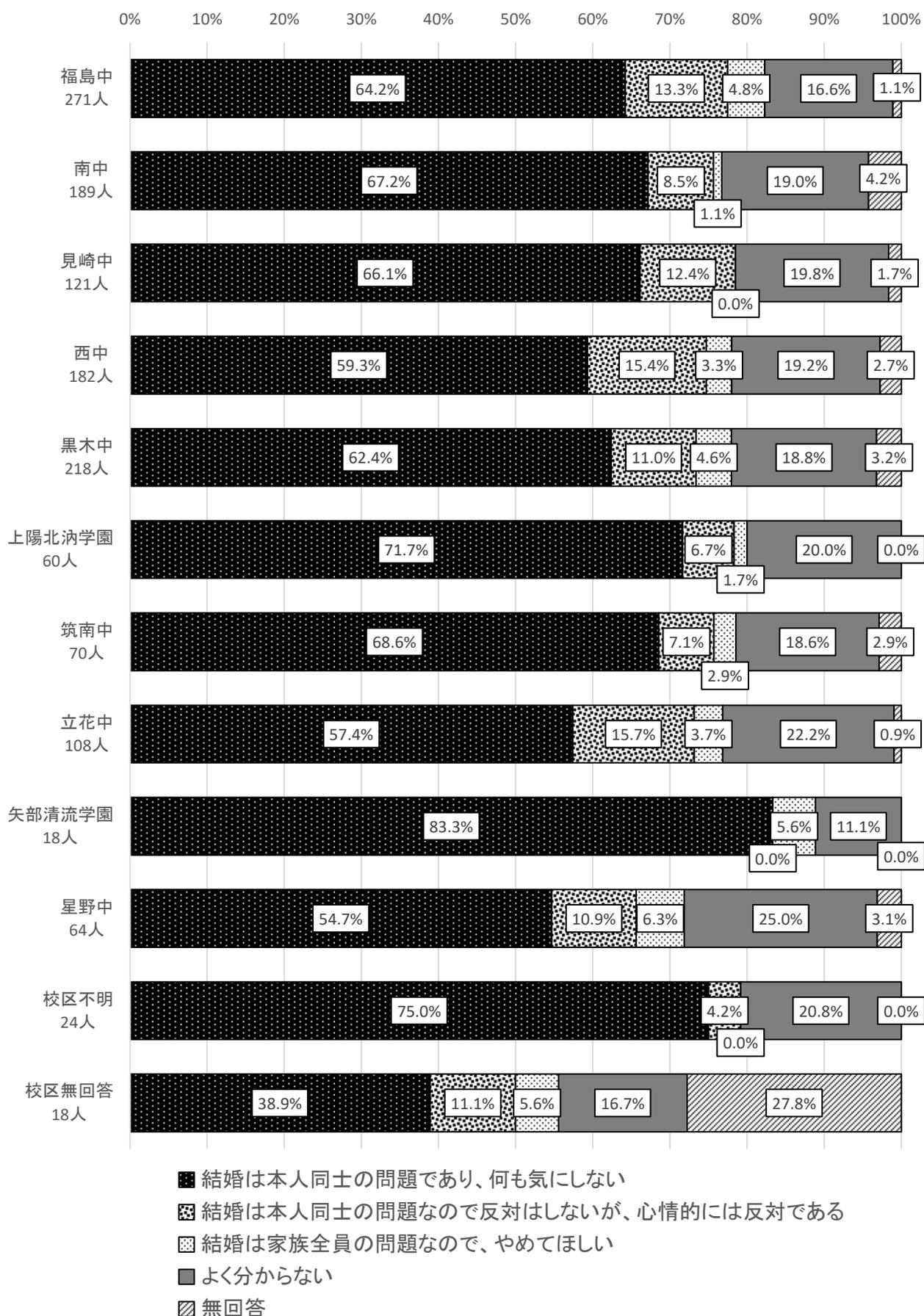
問14 結婚問題について(性別)



問14 結婚問題について(年齢別)



問14 結婚問題について(校区別)



問 15 あなたは、同和問題を解決するためには、どのような施策や取組が重要だと思いますか。重要だと思うものすべてに○をつけてください。

選んだ者の割合が最も多かったのは「同和問題に関する教育で正しい知識を教える」の49.3%（前回51.6%・県民意識調査「人権を大切にする教育活動・啓発活動を積極的に行う」42.7%）、次いで「そっとしておく方がよい」の28.7%（前回34.7%・県民意識調査「そっとしておけば自然になくなる」25.5%）で、「よく分からない」と回答した住民の割合は12.8%（前回13.3%・県民意識調査「わからない」12.8%）であった。

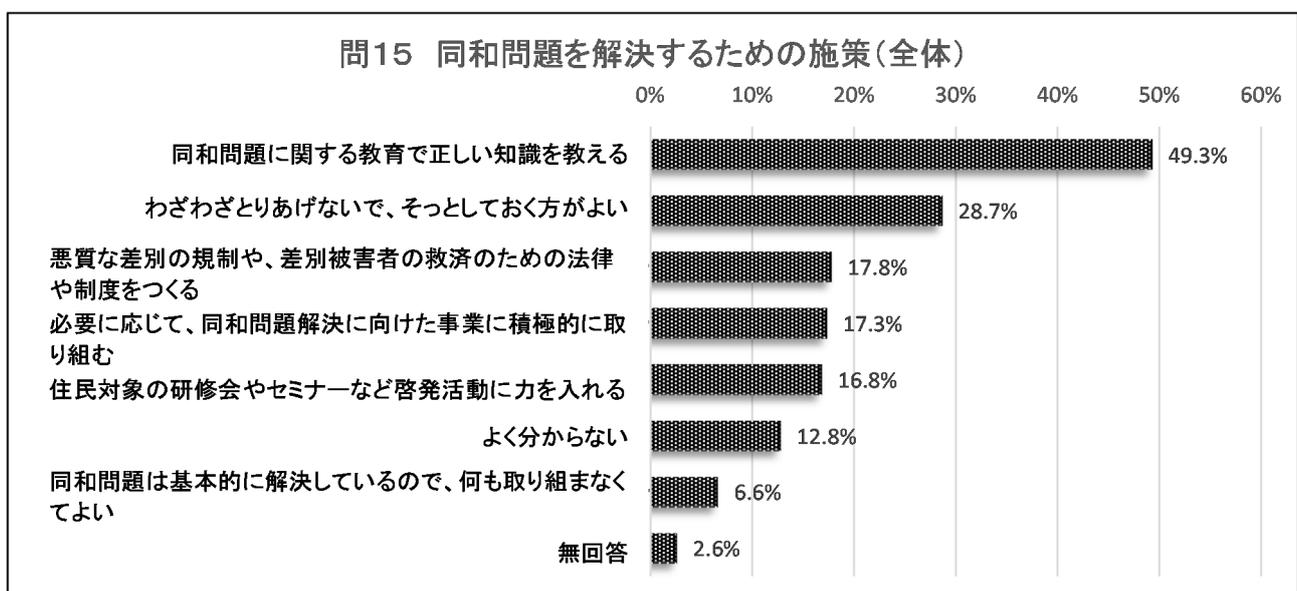
いわゆる「寝た子を起こすな」論に当たる「そっとしておく方がよい」が6.0ポイント減少している点は、成果と言えるが、それ以外の選択傾向に大きな変化は見られない。

性別による回答傾向を見ると、「同和問題に関する教育で正しい知識を教える」を選んだ者の割合は、女性53.7%（前回53.3%）に対し男性は44.7%（前回50.8%）で、女性の方が9.0ポイント（前回2.5ポイント）多かったが、それ以外の項目について大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、前回調査では「同和問題に関する教育で正しい知識を教える」を選んだ者の割合が、「20～30歳」の64.3%から、「66歳以上」の41.2%まで、年齢とともに減少してきていたが、今回調査では「18～30歳」56.1%・「31～40歳」56.7%・「41～50歳」59.6%と、50歳以下の年代では、ほぼ同様の数字で推移していた。

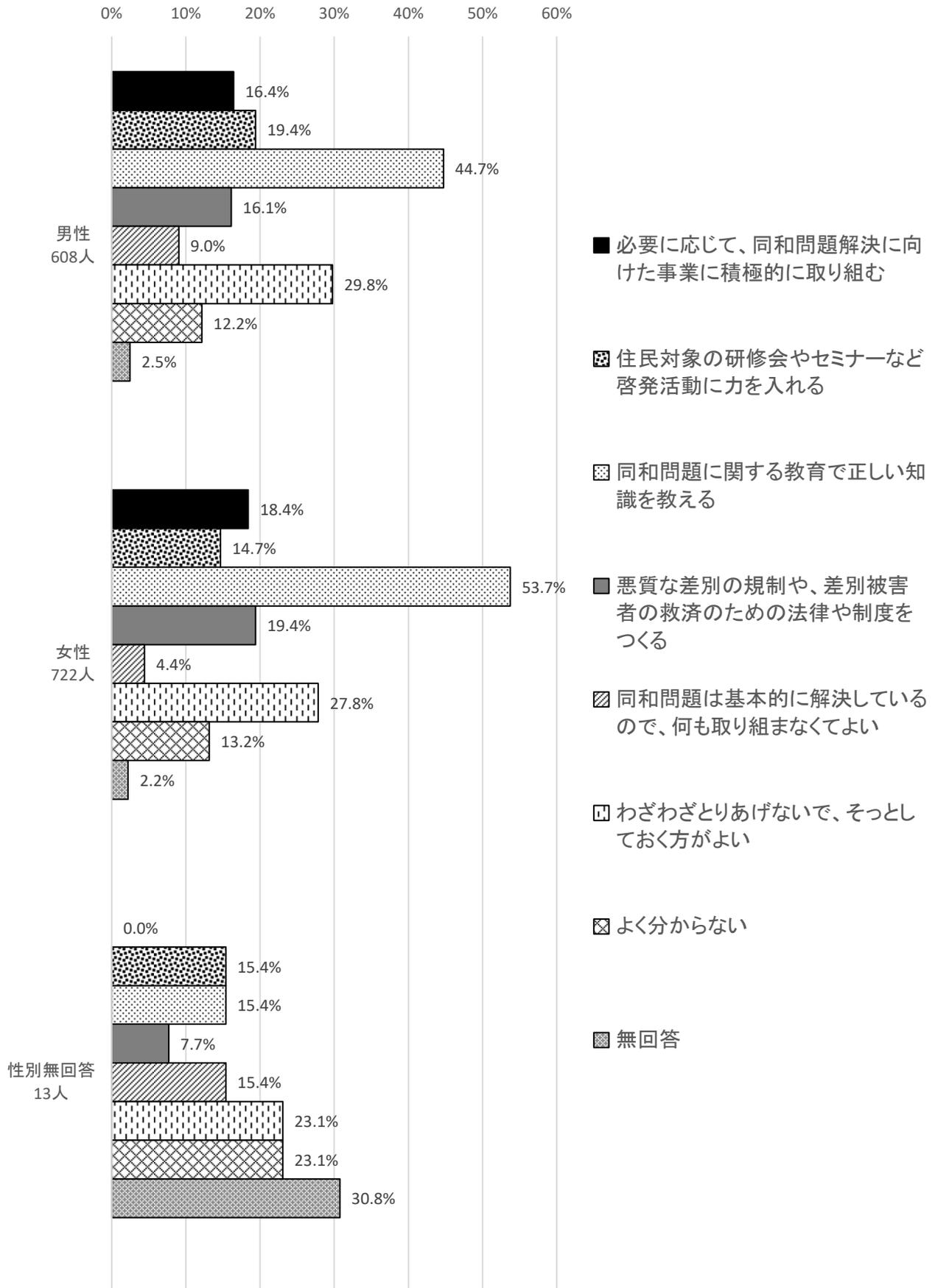
一方、前回調査では、「そっとしておく方がよい」を選んだ者の割合が、「20～30歳」の20.4%から、「66歳以上」の46.0%まで、年齢とともに増加してきていたが、今回調査では「18～30歳」で「そっとしておく方がよい」を選んだ者の割合が9.7%に減少しており、最大値の「66歳以上」でも39.6%にとどまっていた。「寝た子を起こすな」論の減少が、各年代に共通して起こっていることが分かる結果である。

中学校区別で、「そっとしておく方がよい」を選んだ者の割合が高かったのが「筑南中学校区」の35.7%（前回42.5%）・「南中学校区」の34.4%（前回40.1%）で、低かったのが「西中学校区」の23.1%（前回36.4%）・「矢部清流学園校区」の22.2%（前回23.3%）・「上陽北浜学園校区」の23.3%（前回29.4%）であった。

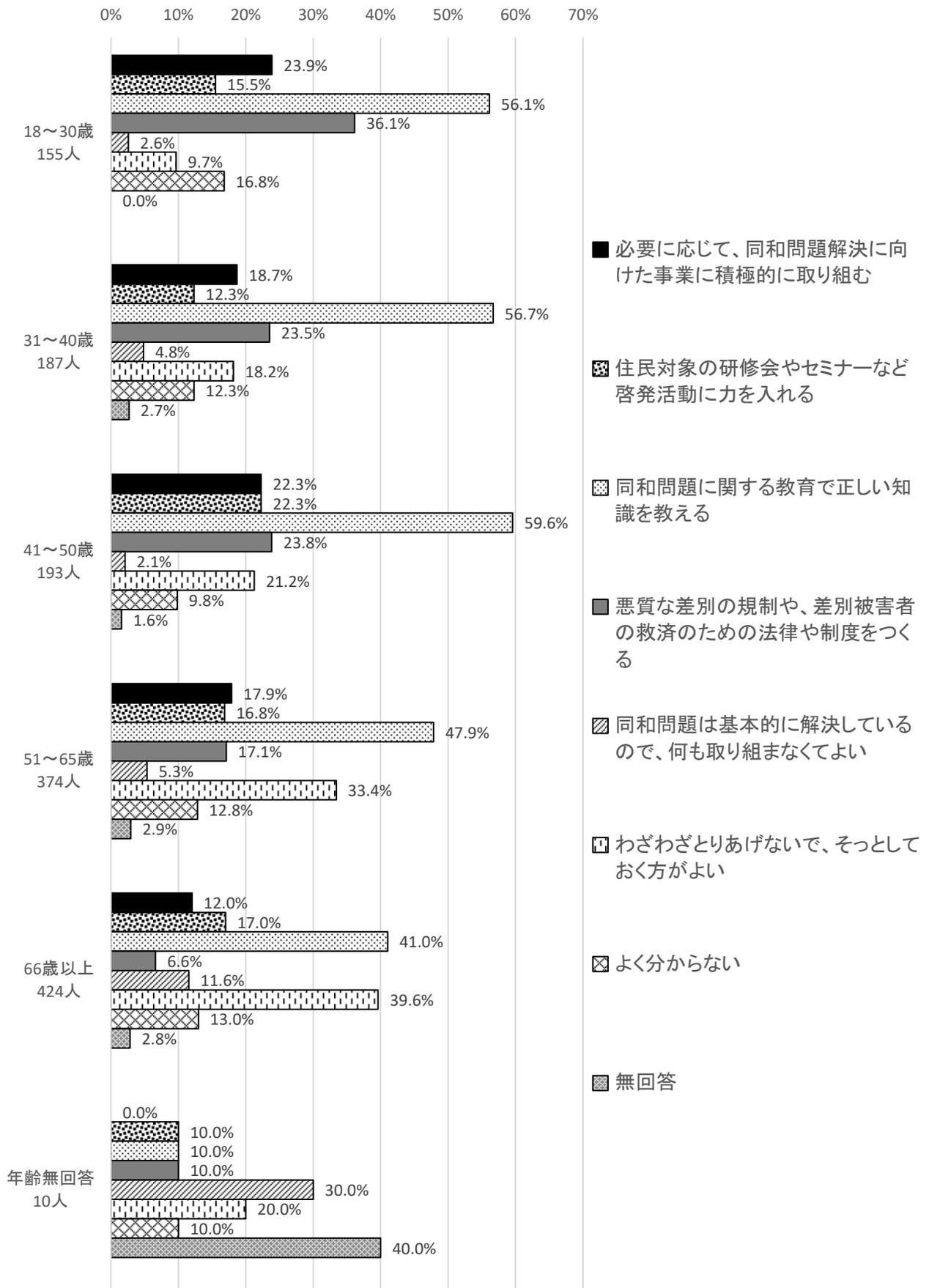


問15 複数回答			同和問題を解決するための施策や取り組み							
			必要に応じて、同和問題解決に向けた事業に積極的に取り組む	住民対象の研修会やセミナーなど啓発活動に力を入れる	同和問題に関する教育で正しい知識を教える	悪質な差別の規制や、差別被害者の救済のための法律や制度をつくる	同和問題は基本的に解決しているの、何も取り組まなくてよい	わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい	よく分からない	無回答
性別	男性 608人	回答人数	100	118	272	98	55	181	74	15
		性別 内の割合	16.4%	19.4%	44.7%	16.1%	9.0%	29.8%	12.2%	2.5%
		問15 内の割合	42.9%	52.2%	41.1%	41.0%	61.8%	47.0%	43.0%	42.9%
性別	女性 722人	回答人数	133	106	388	140	32	201	95	16
		性別 内の割合	18.4%	14.7%	53.7%	19.4%	4.4%	27.8%	13.2%	2.2%
		問15 内の割合	57.1%	46.9%	58.6%	58.6%	36.0%	52.2%	55.2%	45.7%
性別	無回答 13人	回答人数	0	2	2	1	2	3	3	4
		性別 内の割合	0.0%	15.4%	15.4%	7.7%	15.4%	23.1%	23.1%	30.8%
		問15 内の割合	0.0%	0.9%	0.3%	0.4%	2.2%	0.8%	1.7%	11.4%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	37	24	87	56	4	15	26	0
		年齢 内の割合	23.9%	15.5%	56.1%	36.1%	2.6%	9.7%	16.8%	0.0%
		問15 内の割合	15.9%	10.6%	13.1%	23.4%	4.5%	3.9%	15.1%	0.0%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	35	23	106	44	9	34	23	5
		年齢 内の割合	18.7%	12.3%	56.7%	23.5%	4.8%	18.2%	12.3%	2.7%
		問15 内の割合	15.0%	10.2%	16.0%	18.4%	10.1%	8.8%	13.4%	14.3%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	43	43	115	46	4	41	19	3
		年齢 内の割合	22.3%	22.3%	59.6%	23.8%	2.1%	21.2%	9.8%	1.6%
		問15 内の割合	18.5%	19.0%	17.4%	19.2%	4.5%	10.6%	11.0%	8.6%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	67	63	179	64	20	125	48	11
		年齢 内の割合	17.9%	16.8%	47.9%	17.1%	5.3%	33.4%	12.8%	2.9%
		問15 内の割合	28.8%	27.9%	27.0%	26.8%	22.5%	32.5%	27.9%	31.4%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	51	72	174	28	49	168	55	12
		年齢 内の割合	12.0%	17.0%	41.0%	6.6%	11.6%	39.6%	13.0%	2.8%
		問15 内の割合	21.9%	31.9%	26.3%	11.7%	55.1%	43.6%	32.0%	34.3%
年齢	無回答 10人	回答人数	0	1	1	1	3	2	1	4
		年齢 内の割合	0.0%	10.0%	10.0%	10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	40.0%
		問15 内の割合	0.0%	0.4%	0.2%	0.4%	3.4%	0.5%	0.6%	11.4%
校区	福島中 271人	回答人数	42	42	141	51	22	80	28	8
		校区 内の割合	15.5%	15.5%	52.0%	18.8%	8.1%	29.5%	10.3%	3.0%
		問15 内の割合	18.0%	18.6%	21.3%	21.3%	24.7%	20.8%	16.3%	22.9%
校区	南中 189人	回答人数	30	26	88	33	11	65	27	3
		校区 内の割合	15.9%	13.8%	46.6%	17.5%	5.8%	34.4%	14.3%	1.6%
		問15 内の割合	12.9%	11.5%	13.3%	13.8%	12.4%	16.9%	15.7%	8.6%
校区	見崎中 121人	回答人数	24	23	59	22	7	33	17	5
		校区 内の割合	19.8%	19.0%	48.8%	18.2%	5.8%	27.3%	14.0%	4.1%
		問15 内の割合	10.3%	10.2%	8.9%	9.2%	7.9%	8.6%	9.9%	14.3%
校区	西中 182人	回答人数	34	39	100	29	11	42	19	4
		校区 内の割合	18.7%	21.4%	54.9%	15.9%	6.0%	23.1%	10.4%	2.2%
		問15 内の割合	14.6%	17.3%	15.1%	12.1%	12.4%	10.9%	11.0%	11.4%
校区	黒木中 218人	回答人数	43	44	105	37	13	63	26	4
		校区 内の割合	19.7%	20.2%	48.2%	17.0%	6.0%	28.9%	11.9%	1.8%
		問15 内の割合	18.5%	19.5%	15.9%	15.5%	14.6%	16.4%	15.1%	11.4%
校区	上陽北学園 60人	回答人数	16	14	30	12	3	14	10	2
		校区 内の割合	26.7%	23.3%	50.0%	20.0%	5.0%	23.3%	16.7%	3.3%
		問15 内の割合	6.9%	6.2%	4.5%	5.0%	3.4%	3.6%	5.8%	5.7%
校区	筑南中 70人	回答人数	9	8	27	14	2	25	10	0
		校区 内の割合	12.9%	11.4%	38.6%	20.0%	2.9%	35.7%	14.3%	0.0%
		問15 内の割合	3.9%	3.5%	4.1%	5.9%	2.2%	6.5%	5.8%	0.0%
校区	立花中 108人	回答人数	14	11	50	14	10	33	17	1
		校区 内の割合	13.0%	10.2%	46.3%	13.0%	9.3%	30.6%	15.7%	0.9%
		問15 内の割合	6.0%	4.9%	7.6%	5.9%	11.2%	8.6%	9.9%	2.9%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	5	6	14	1	0	4	2	0
		校区 内の割合	27.8%	33.3%	77.8%	5.6%	0.0%	22.2%	11.1%	0.0%
		問15 内の割合	2.1%	2.7%	2.1%	0.4%	0.0%	1.0%	1.2%	0.0%
校区	星野中 64人	回答人数	9	8	34	16	4	16	12	3
		校区 内の割合	14.1%	12.5%	53.1%	25.0%	6.3%	25.0%	18.8%	4.7%
		問15 内の割合	3.9%	3.5%	5.1%	6.7%	4.5%	4.2%	7.0%	8.6%
校区	校区不明 24人	回答人数	4	2	9	9	3	5	2	1
		校区 内の割合	16.7%	8.3%	37.5%	37.5%	12.5%	20.8%	8.3%	4.2%
		問15 内の割合	1.7%	0.9%	1.4%	3.8%	3.4%	1.3%	1.2%	2.9%
校区	無回答 18人	回答人数	3	3	5	1	3	5	2	4
		校区 内の割合	16.7%	16.7%	27.8%	5.6%	16.7%	27.8%	11.1%	22.2%
		問15 内の割合	1.3%	1.3%	0.8%	0.4%	3.4%	1.3%	1.2%	11.4%
合計 1343人	回答人数	233	226	662	239	89	385	172	35	
	合計に対する割合	17.3%	16.8%	49.3%	17.8%	6.6%	28.7%	12.8%	2.6%	

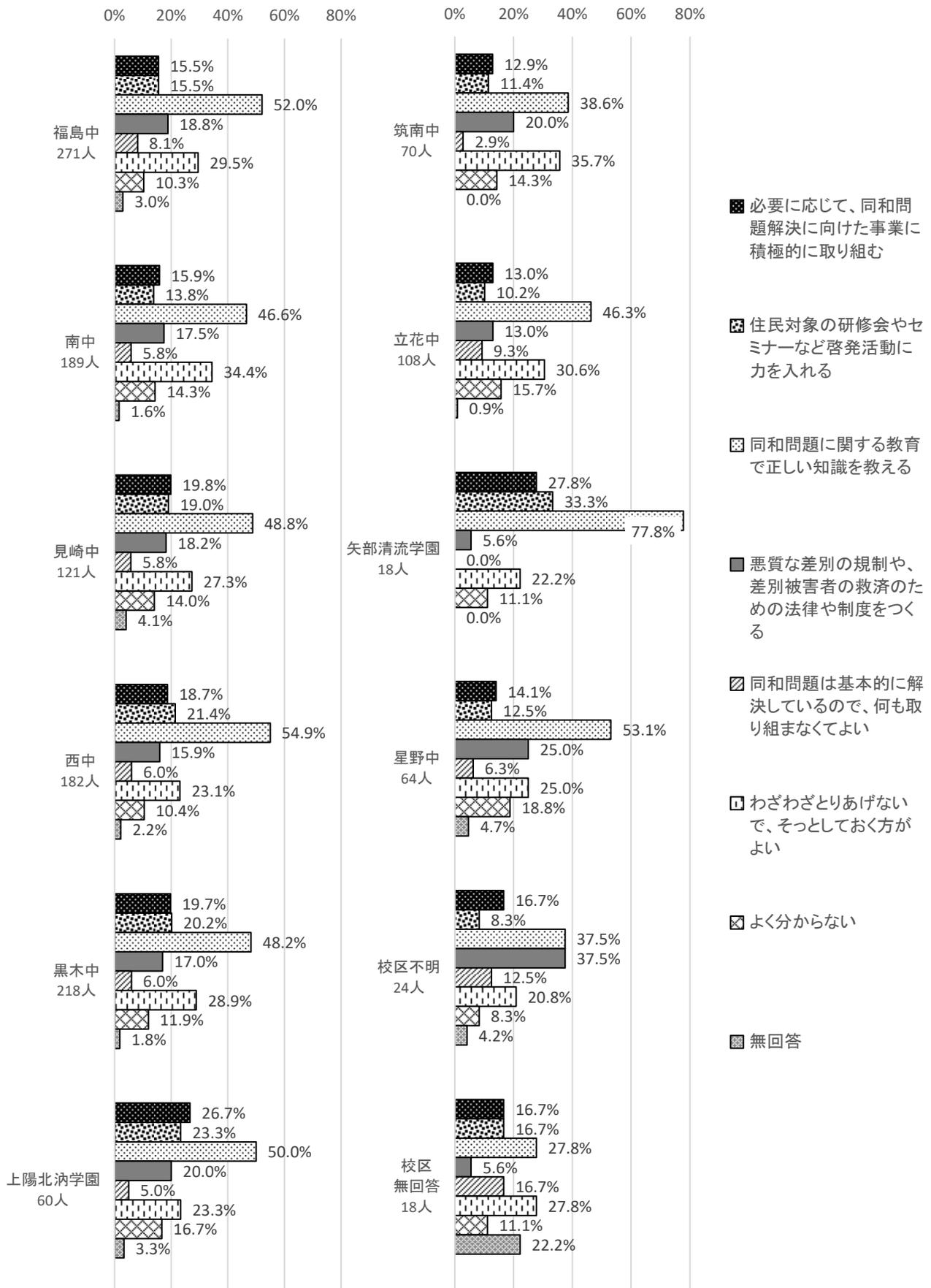
問15 同和問題を解決するための施策(性別)



問15 同和問題を解決するための施策(年齢別)



問15 同和問題を解決するための施策(校区別)



< 同和問題に関するまとめ >

- ① 同和問題に関する知識や情報を、「家族や親族を通して」と回答した者の割合が20.4%（前回23.6%）、「友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して」と回答した者の割合が19.1%（前回24.0%）と減少しているのに対し、予断や偏見を含まない「学校教育を通して」と回答した者の割合が56.2%（前回52.1%）と増加しており、「同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない」と回答した者の割合も6.3%（前回8.5%）とやや減少している。このように、同和教育の広がりによって、同和問題に関する予断や偏見が、私的關係の中で受け継がれていくといった悪循環を断つことができるようになってきていることは確かである。しかし、同和問題解決のための同和教育から、多くの人権課題を対象とする人権教育への移行により、同和問題に関する知識を学校教育の中で得る機会が減少している可能性があることに留意する必要がある。
- ② 同和地区住民の人権に関することで、特に問題であると思うものとして、上位に選ばれるものは、「結婚に際して不利な取り扱いを受ける」「就職に際して不利な取り扱いを受ける」「地域社会の付き合いの中で不公平な取り扱いを受ける」等、いずれも、同和問題解決のための取り組みが始まった頃から、教育や啓発を通して課題とされ続けてきたものばかりであるが、近年新たな課題として取り上げられるようになってきた「同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書き」「土地や住居等の取引の中で、人権侵害調査」「インターネット上に部落差別を助長するような情報や書き込み」等の新たな課題についても、前回と比べ市民の認知度が高まり、県民意識調査の結果を上回る数字になっていることが分かる。
- ③ 同和地区出身ではない者と同和地区出身者との結婚に関して、「何も気にしない」を選んだ者の割合が63.5%（前回57.8%）と過半数に達しており、前回よりも5.7ポイント増加している。一方、「反対はしないが、心情的には反対である」を選んだ者の割合は11.5%（前回17.1%）と、前回より5.6ポイント減少している。また、年齢別の回答傾向を見ると、「何も気にしない」を選んだ者の割合は、「18～30歳」の77.4%（前回74.5%）から「66歳以上」の54.2%（前回49.1%）まで減少してはいるが、どの年代においても「何も気にしない」を選んだ者の割合が増加していることが分かる。県民意識調査の結果と比べてみても、八女市民の意識の高さは明らかで、これは、八女市の教育・啓発の成果であると言える。
- ④ 同和問題を解決するための施策や取組について、いわゆる「寝た子を起こすな」論に当たる「そっとしておく方がよい」が6.0ポイント減少している点は、成果と言える。また、「18～30歳」で「そっとしておく方がよい」を選んだ者の割合が9.7%（前回20.4%）に減少しており、最大値の「66歳以上」でも39.6%（前回46.0%）にとどまっていたことから、「寝た子を起こすな」論の減少が、各年代に共通して起こっていることが分かる。

Ⅲ さまざまな人権問題についておたずねします。

問 16 女性の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

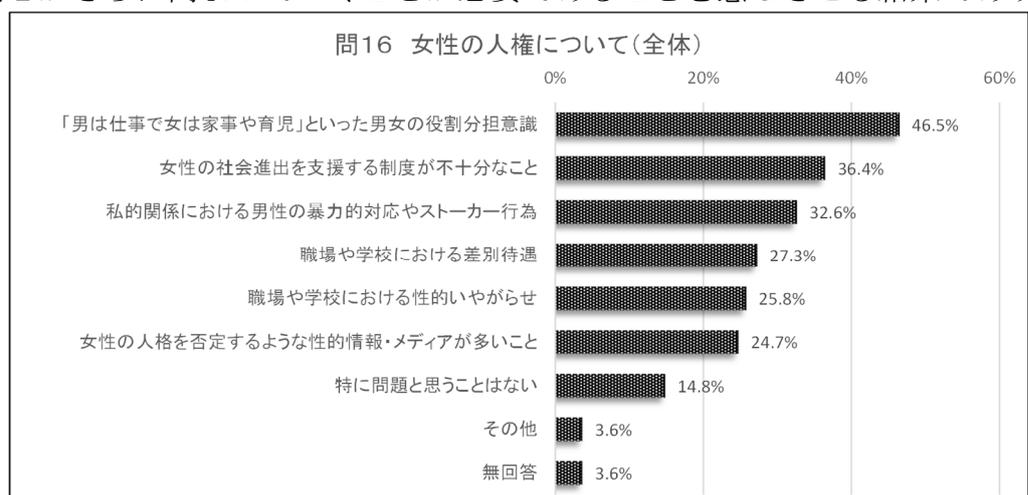
「『男は仕事で女は家事や育児』といった男女の役割分担意識」を選んだ者の割合が46.5%(前回 40.2%)が最も多く、次いで、「女性の社会進出を支援する制度が不十分なこと」の36.4%(前回 34.6%)、「私的関係における男性の暴力的対応やストーカー行為」の32.6%(前回 32.1%)となっている。

性別の回答傾向で、女性の選択割合が、5.0ポイント以上高かったのは、「『男は仕事で女は家事や育児』といった男女の役割分担意識」(女性54.8%・男性36.8%)の18.0ポイント(前回13.6ポイント)と、「女性の人格を否定するような性的情報・メディアが多いこと」の(女性28.8%・男性20.2%)の8.6ポイント(前回2.7ポイント)で、前回6.5ポイントの差があった「私的関係における男性の暴力的対応やストーカー行為」は、今回は0.7ポイントの差しかなかった。他の問題については、やや女性の選択割合が高いものの、大きな差は見られなかった。

六つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30歳」が最大値を示していたのが「『男は仕事で女は家事や育児』といった男女の役割分担意識」の65.2%(全体46.5%)、「私的関係における男性の暴力的対応やストーカー行為」の40.0%(全体32.6%)で、「31～40歳」が最大値を示していたのが「職場や学校における性的いやがらせ」の36.4%(全体25.8%)、「41～50歳」が最大値を示していたのが「女性の社会進出を支援する制度が未整備なこと」の45.6%(全体36.4%)、「職場や学校における差別待遇」の35.2%(全体27.3%)、「51～65歳」が最大値を示していたのが「女性の人格を否定するような性的情報・メディアが多いこと」の27.0%(全体24.7%)で、「66歳以上」が最大値のものはない。

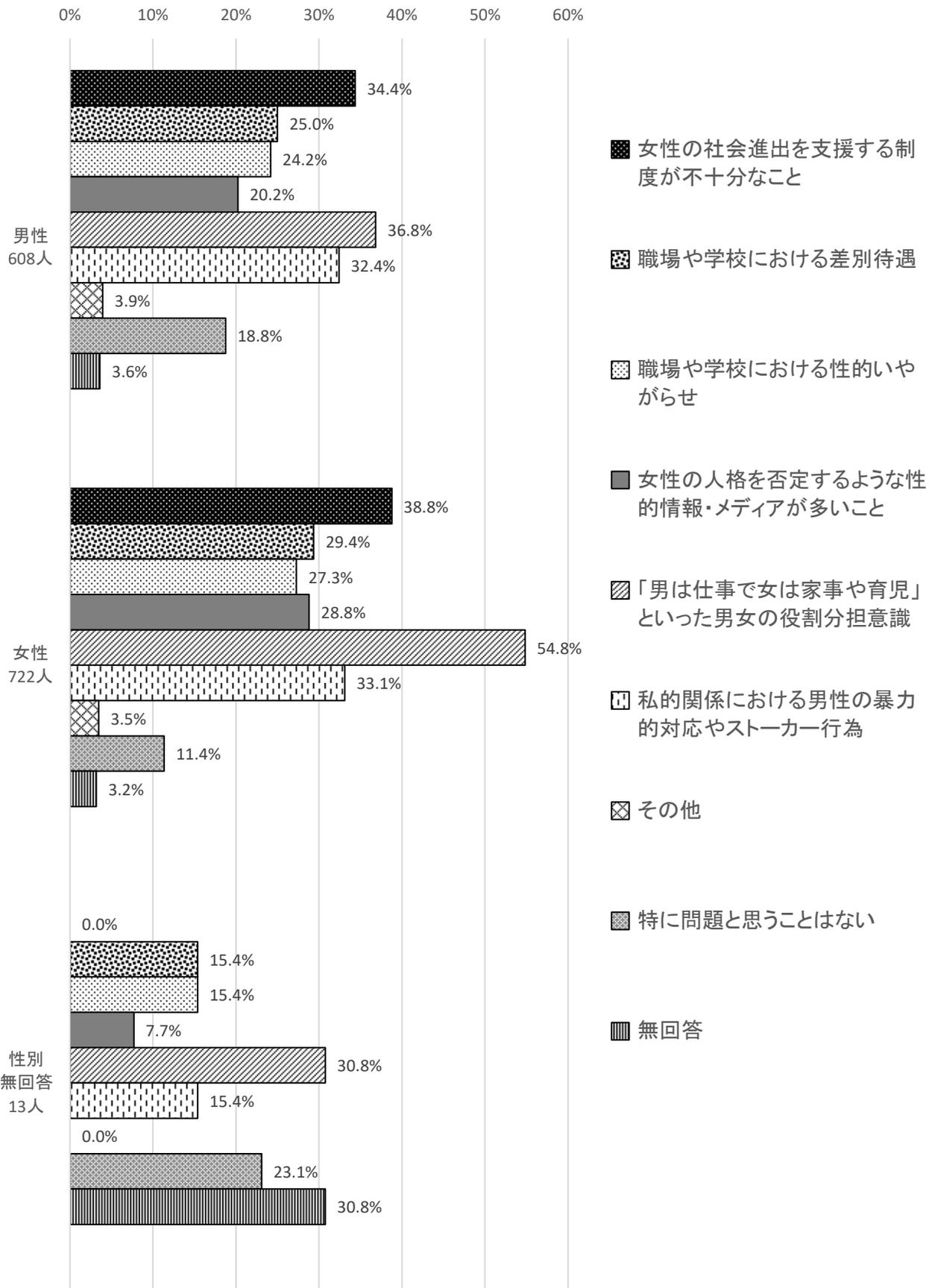
「特に問題と思うことはない」と回答した者は、全体で14.8%(前回18.1%)であるが、性別で見ると、男性18.8%(前回23.5%)に対し、女性11.4%(前回13.5%)で、7.4ポイント(前回10ポイント)の差があった。また、「66歳以上」の年代で「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は23.3%(前回28.4%)で、全体より8.5ポイント(前回10.3ポイント)高かった。男女共同参画社会の実現のためには、男性の「女性の人権」に対する意識や関心がさらに高まっていくことが必要であることを感じさせる結果であり、

この設問における性別の回答傾向の差異が、さらに縮まっていくことが求められていると言える。

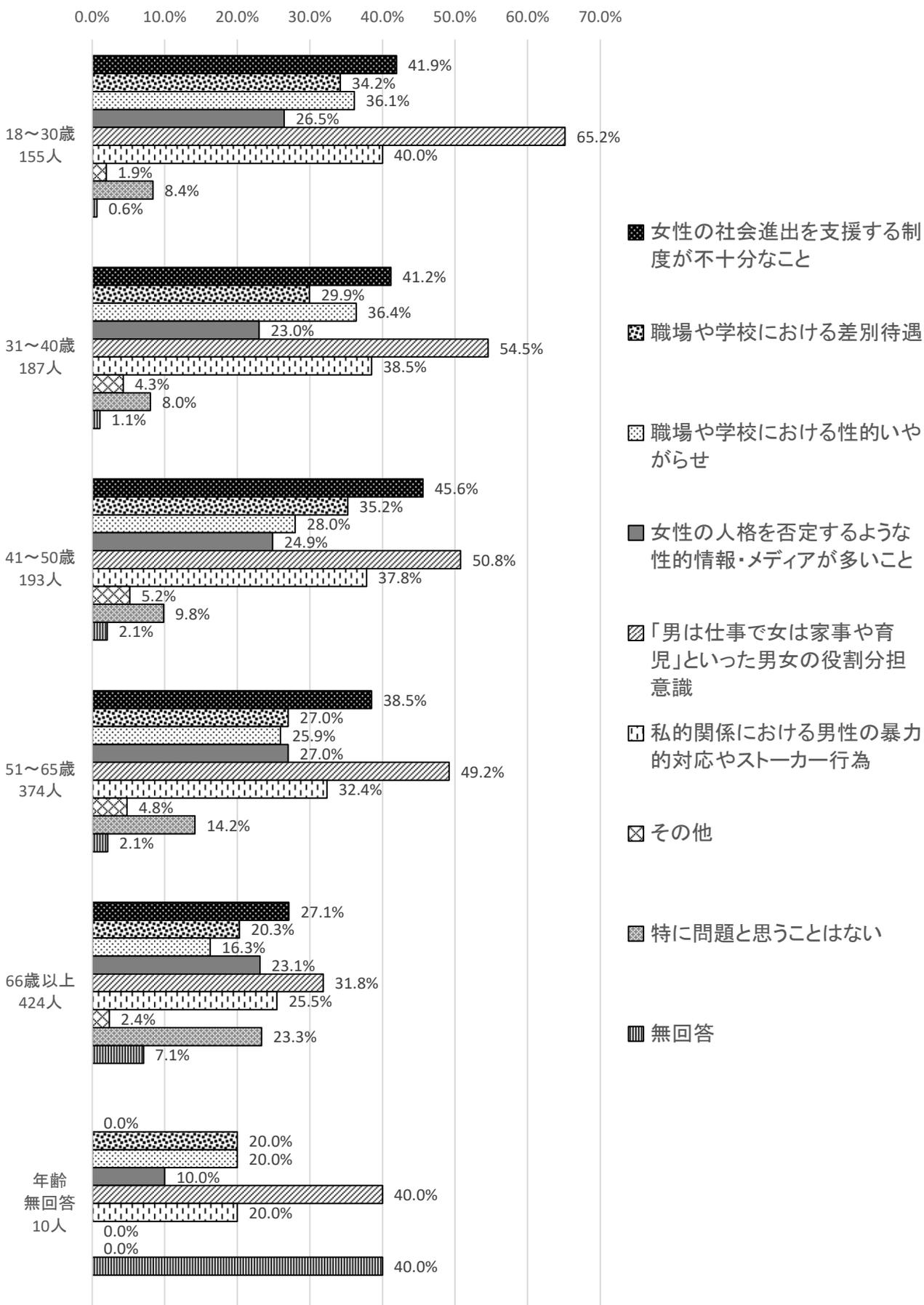


問16 複数回答			女性の人権問題								
			女性の社会進出を支援する制度が不十分なこと	職場や学校における差別待遇	職場や学校における性的いやがらせ	女性の人格を否定するような性的情報・メディアが多いこと	「男は仕事で女は家事や育児」といった男女の役割分担意識	私的関係における男性の暴力的対応やストーカー行為	その他	特に問題としない	無回答
性別	男性 608人	回答人数	209	152	147	123	224	197	24	114	22
		性別 内の割合	34.4%	25.0%	24.2%	20.2%	36.8%	32.4%	3.9%	18.8%	3.6%
		問16 内の割合	42.7%	41.5%	42.5%	37.0%	35.9%	45.0%	49.0%	57.3%	44.9%
	女性 722人	回答人数	280	212	197	208	396	239	25	82	23
性別 内の割合		38.8%	29.4%	27.3%	28.8%	54.8%	33.1%	3.5%	11.4%	3.2%	
問16 内の割合		57.3%	57.9%	56.9%	62.7%	63.5%	54.6%	51.0%	41.2%	46.9%	
性別 無回答 13人	回答人数	0	2	2	1	4	2	0	3	4	
	性別 内の割合	0.0%	15.4%	15.4%	7.7%	30.8%	15.4%	0.0%	23.1%	30.8%	
	問16 内の割合	0.0%	0.5%	0.6%	0.3%	0.6%	0.5%	0.0%	1.5%	8.2%	
年齢	18～30歳 155人	回答人数	65	53	56	41	101	62	3	13	1
		年齢 内の割合	41.9%	34.2%	36.1%	26.5%	65.2%	40.0%	1.9%	8.4%	0.6%
		問16 内の割合	13.3%	14.5%	16.2%	12.3%	16.2%	14.2%	6.1%	6.5%	2.0%
	31～40歳 187人	回答人数	77	56	68	43	102	72	8	15	2
		年齢 内の割合	41.2%	29.9%	36.4%	23.0%	54.5%	38.5%	4.3%	8.0%	1.1%
		問16 内の割合	15.7%	15.3%	19.7%	13.0%	16.3%	16.4%	16.3%	7.5%	4.1%
	41～50歳 193人	回答人数	88	68	54	48	98	73	10	19	4
		年齢 内の割合	45.6%	35.2%	28.0%	24.9%	50.8%	37.8%	5.2%	9.8%	2.1%
		問16 内の割合	18.0%	18.6%	15.6%	14.5%	15.7%	16.7%	20.4%	9.5%	8.2%
	51～65歳 374人	回答人数	144	101	97	101	184	121	18	53	8
		年齢 内の割合	38.5%	27.0%	25.9%	27.0%	49.2%	32.4%	4.8%	14.2%	2.1%
		問16 内の割合	29.4%	27.6%	28.0%	30.4%	29.5%	27.6%	36.7%	26.6%	16.3%
66歳以上 424人	回答人数	115	86	69	98	135	108	10	99	30	
	年齢 内の割合	27.1%	20.3%	16.3%	23.1%	31.8%	25.5%	2.4%	23.3%	7.1%	
	問16 内の割合	23.5%	23.5%	19.9%	29.5%	21.6%	24.7%	20.4%	49.7%	61.2%	
年齢 無回答 10人	回答人数	0	2	2	1	4	2	0	0	4	
	年齢 内の割合	0.0%	20.0%	20.0%	10.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	
	問16 内の割合	0.0%	0.5%	0.6%	0.3%	0.6%	0.5%	0.0%	0.0%	8.2%	
校区	福島中 271人	回答人数	100	70	72	71	121	94	9	34	15
		校区 内の割合	36.9%	25.8%	26.6%	26.2%	44.6%	34.7%	3.3%	12.5%	5.5%
		問16 内の割合	20.4%	19.1%	20.8%	21.4%	19.4%	21.5%	18.4%	17.1%	30.6%
	南中 189人	回答人数	74	54	56	47	89	65	8	32	5
		校区 内の割合	39.2%	28.6%	29.6%	24.9%	47.1%	34.4%	4.2%	16.9%	2.6%
		問16 内の割合	15.1%	14.8%	16.2%	14.2%	14.3%	14.8%	16.3%	16.1%	10.2%
	見崎中 121人	回答人数	53	33	33	29	56	36	6	19	4
		校区 内の割合	43.8%	27.3%	27.3%	24.0%	46.3%	29.8%	5.0%	15.7%	3.3%
		問16 内の割合	10.8%	9.0%	9.5%	8.7%	9.0%	8.2%	12.2%	9.5%	8.2%
	西中 182人	回答人数	67	56	46	52	92	66	4	19	5
		校区 内の割合	36.8%	30.8%	25.3%	28.6%	50.5%	36.3%	2.2%	10.4%	2.7%
		問16 内の割合	13.7%	15.3%	13.3%	15.7%	14.7%	15.1%	8.2%	9.5%	10.2%
	黒木中 218人	回答人数	84	55	54	44	101	74	8	32	6
		校区 内の割合	38.5%	25.2%	24.8%	20.2%	46.3%	33.9%	3.7%	14.7%	2.8%
		問16 内の割合	17.2%	15.0%	15.6%	13.3%	16.2%	16.9%	16.3%	16.1%	12.2%
	上陽北浜学園 60人	回答人数	15	17	16	15	25	22	2	14	4
		校区 内の割合	25.0%	28.3%	26.7%	25.0%	41.7%	36.7%	3.3%	23.3%	6.7%
		問16 内の割合	3.1%	4.6%	4.6%	4.5%	4.0%	5.0%	4.1%	7.0%	8.2%
	筑南中 70人	回答人数	21	20	18	20	29	17	2	12	1
		校区 内の割合	30.0%	28.6%	25.7%	28.6%	41.4%	24.3%	2.9%	17.1%	1.4%
問16 内の割合		4.3%	5.5%	5.2%	6.0%	4.6%	3.9%	4.1%	6.0%	2.0%	
立花中 108人	回答人数	37	27	23	22	52	32	2	15	2	
	校区 内の割合	34.3%	25.0%	21.3%	20.4%	48.1%	29.6%	1.9%	13.9%	1.9%	
	問16 内の割合	7.6%	7.4%	6.6%	6.6%	8.3%	7.3%	4.1%	7.5%	4.1%	
矢部清流学園 18人	回答人数	4	6	5	9	10	8	1	1	0	
	校区 内の割合	22.2%	33.3%	27.8%	50.0%	55.6%	44.4%	5.6%	5.6%	0.0%	
	問16 内の割合	0.8%	1.6%	1.4%	2.7%	1.6%	1.8%	2.0%	0.5%	0.0%	
星野中 64人	回答人数	20	19	15	15	31	16	5	12	2	
	校区 内の割合	31.3%	29.7%	23.4%	23.4%	48.4%	25.0%	7.8%	18.8%	3.1%	
	問16 内の割合	4.1%	5.2%	4.3%	4.5%	5.0%	3.7%	10.2%	6.0%	4.1%	
校区不明 24人	回答人数	11	6	5	6	13	5	1	5	0	
	校区 内の割合	45.8%	25.0%	20.8%	25.0%	54.2%	20.8%	4.2%	20.8%	0.0%	
	問16 内の割合	2.2%	1.6%	1.4%	1.8%	2.1%	1.1%	2.0%	2.5%	0.0%	
校区 無回答 18人	回答人数	3	3	3	2	5	3	1	4	5	
	校区 内の割合	16.7%	16.7%	16.7%	11.1%	27.8%	16.7%	5.6%	22.2%	27.8%	
	問16 内の割合	0.6%	0.8%	0.9%	0.6%	0.8%	0.7%	2.0%	2.0%	10.2%	
合計 1343人	回答人数	489	366	346	332	624	438	49	199	49	
	合計に対する割合	36.4%	27.3%	25.8%	24.7%	46.5%	32.6%	3.6%	14.8%	3.6%	

問16 女性の人権について(性別)

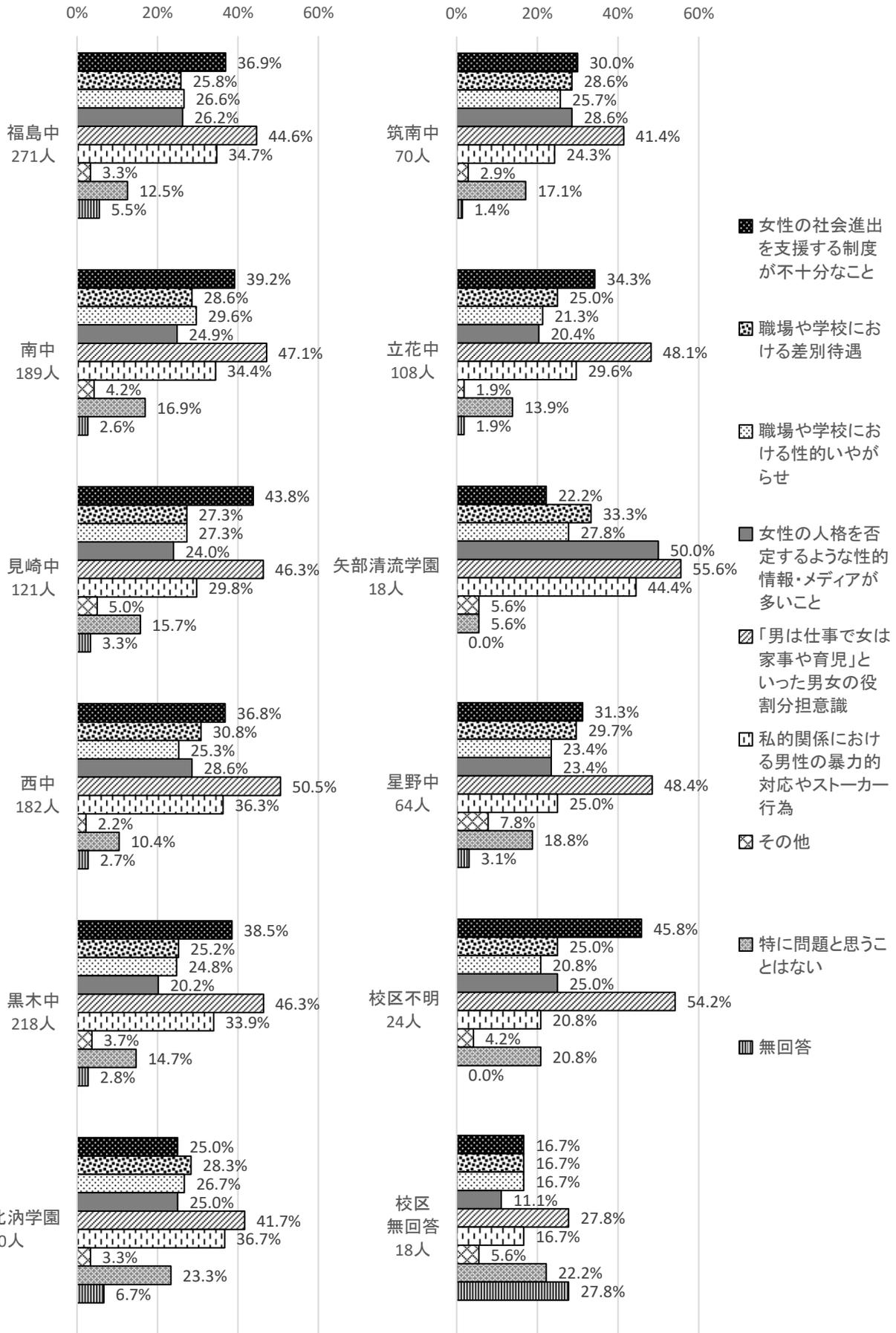


問16 女性の人権について(年齢別)



- 女性の社会進出を支援する制度が不十分なこと
- ▨ 職場や学校における差別待遇
- ▨ 職場や学校における性的いやがらせ
- 女性の人格を否定するような性的情報・メディアが多いこと
- ▨ 「男は仕事で女は家事や育児」といった男女の役割分担意識
- ▨ 私的関係における男性の暴力的対応やストーカー行為
- ▨ その他
- ▨ 特に問題と思うことはない
- ▨ 無回答

問16 女性の人権について(校別)



問17 子どもの人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

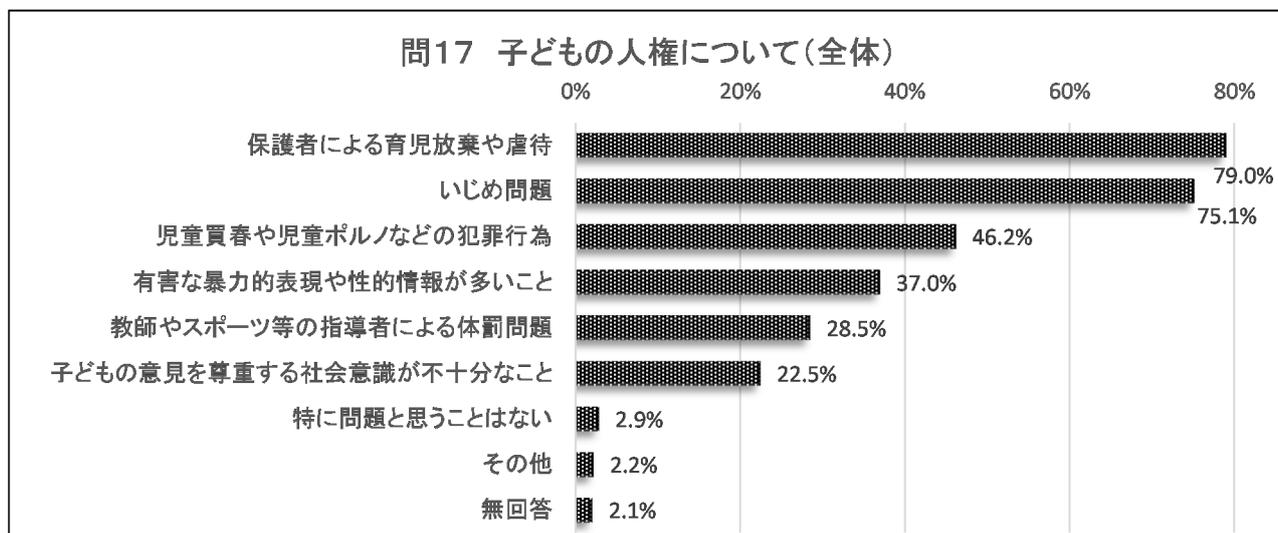
「保護者による育児放棄や虐待」を選んだ者の割合が最も多く 79.0%（前回 74.6%）に達した。「いじめ問題」を選んだ者の割合も 75.1%（前回 74.4%）と同程度存在したが、続く「児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為」を選んだ者の割合は 46.2%（前回 43.7%）にとどまっており、上位二項目の問題に対する関心の高さがうかがわれる。

性別の回答傾向を見ると、六つの課題全てで女性の選択割合の方が高くなっており、しかも 5.0 ポイント以上の差があったものが五つ（前は四つ）存在していた。具体的には、「保護者による育児放棄や虐待」（女性 82.0%・男性 76.2%）の 5.8 ポイント（前回 9.2 ポイント）、「いじめ問題」（女性 79.6%・男性 70.7%）の 8.9 ポイント（前回 9.4 ポイント）、「教師やスポーツ等の指導者による体罰問題」（女性 31.7%・男性 25.2%）の 6.5 ポイント（前回 7.9 ポイント）、「子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと」（女性 41.7%・男性 31.9%）の 9.8 ポイント（前回 6.8 ポイント）、「児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為」（女性 48.9%・男性 43.3%）の 5.6 ポイント（前回 3.9 ポイント）である。

『男は仕事で女は家事や育児』といった男女の役割分担意識の反映として、「子どもの人権」に対する、このような性別の意識格差が生まれ、維持されていることは、今後の教育啓発にとって大きな課題と言えよう。

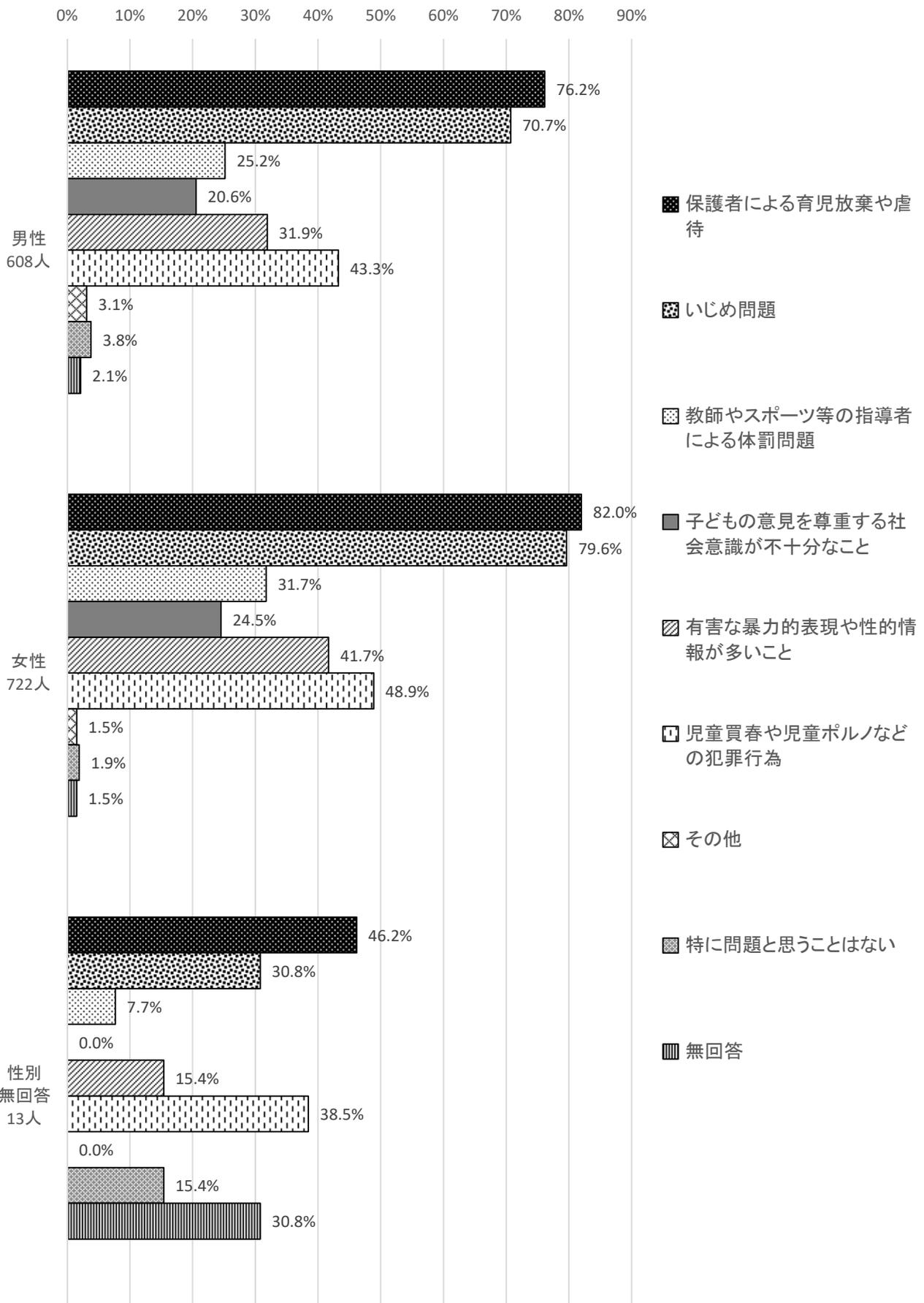
六つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「いじめ問題」81.3%（全体 75.1%）、「31～40 歳」が最大値を示していたのが、「教師やスポーツ等の指導者による体罰問題」34.8%（全体 28.5%）、「41～50 歳」が最大値を示していたのが、「保護者による育児放棄や虐待」86.0%（全体 79.0%）、「子どもの意見を尊重する社会意識が不十分なこと」28.5%（全体 22.5%）、「児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為」52.8%（全体 46.2%）、「51～65 歳」が最大値を示していたのが、「子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと」46.0%（全体 37.0%）で、「66 歳以上」が最大値のものはなかった。

「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は、全体で 2.9%（前回 3.8%）しか存在せず、「子どもの人権」に対する関心の高さが分かる。

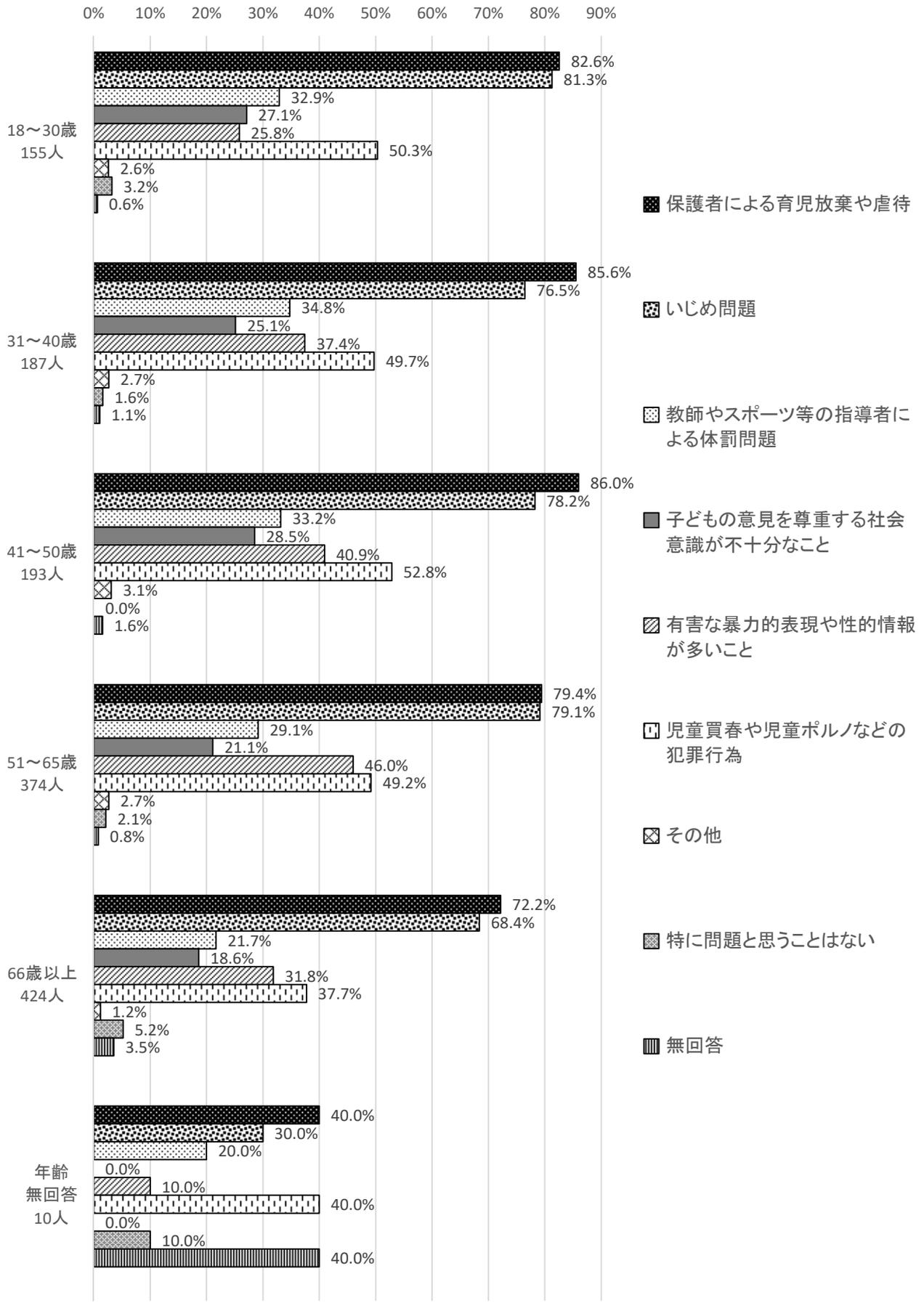


問17 複数回答			子どもの人権問題								
			保護者による育児放棄や虐待	いじめ問題	教師やスポーツ等の指導者による体罰問題	子どもの意見を尊重する社会意識が不十分なこと	有害な暴力的表現や性的情報が多いこと	児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為	その他	特に問題とすることは無い	無回答
性別	男性 608人	回答人数	463	430	153	125	194	263	19	23	13
		性別 内の割合	76.2%	70.7%	25.2%	20.6%	31.9%	43.3%	3.1%	3.8%	2.1%
		問17 内の割合	43.6%	42.6%	39.9%	41.4%	39.0%	42.4%	63.3%	59.0%	46.4%
性別	女性 722人	回答人数	592	575	229	177	301	353	11	14	11
		性別 内の割合	82.0%	79.6%	31.7%	24.5%	41.7%	48.9%	1.5%	1.9%	1.5%
		問17 内の割合	55.8%	57.0%	59.8%	58.6%	60.6%	56.8%	36.7%	35.9%	39.3%
性別	無回答 13人	回答人数	6	4	1	0	2	5	0	2	4
		性別 内の割合	46.2%	30.8%	7.7%	0.0%	15.4%	38.5%	0.0%	15.4%	30.8%
		問17 内の割合	0.6%	0.4%	0.3%	0.0%	0.4%	0.8%	0.0%	5.1%	14.3%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	128	126	51	42	40	78	4	5	1
		年齢 内の割合	82.6%	81.3%	32.9%	27.1%	25.8%	50.3%	2.6%	3.2%	0.6%
		問17 内の割合	12.1%	12.5%	13.3%	13.9%	8.0%	12.6%	13.3%	12.8%	3.6%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	160	143	65	47	70	93	5	3	2
		年齢 内の割合	85.6%	76.5%	34.8%	25.1%	37.4%	49.7%	2.7%	1.6%	1.1%
		問17 内の割合	15.1%	14.2%	17.0%	15.6%	14.1%	15.0%	16.7%	7.7%	7.1%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	166	151	64	55	79	102	6	0	3
		年齢 内の割合	86.0%	78.2%	33.2%	28.5%	40.9%	52.8%	3.1%	0.0%	1.6%
		問17 内の割合	15.6%	15.0%	16.7%	18.2%	15.9%	16.4%	20.0%	0.0%	10.7%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	297	296	109	79	172	184	10	8	3
		年齢 内の割合	79.4%	79.1%	29.1%	21.1%	46.0%	49.2%	2.7%	2.1%	0.8%
		問17 内の割合	28.0%	29.3%	28.5%	26.2%	34.6%	29.6%	33.3%	20.5%	10.7%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	306	290	92	79	135	160	5	22	15
		年齢 内の割合	72.2%	68.4%	21.7%	18.6%	31.8%	37.7%	1.2%	5.2%	3.5%
		問17 内の割合	28.8%	28.7%	24.0%	26.2%	27.2%	25.8%	16.7%	56.4%	53.6%
年齢	無回答 10人	回答人数	4	3	2	0	1	4	0	1	4
		年齢 内の割合	40.0%	30.0%	20.0%	0.0%	10.0%	40.0%	0.0%	10.0%	40.0%
		問17 内の割合	0.4%	0.3%	0.5%	0.0%	0.2%	0.6%	0.0%	2.6%	14.3%
校区	福島中 271人	回答人数	228	219	82	60	112	141	2	0	6
		校区 内の割合	84.1%	80.8%	30.3%	22.1%	41.3%	52.0%	0.7%	0.0%	2.2%
		問17 内の割合	21.5%	21.7%	21.4%	19.9%	22.5%	22.7%	6.7%	0.0%	21.4%
校区	南中 189人	回答人数	154	146	52	44	66	91	5	3	6
		校区 内の割合	81.5%	77.2%	27.5%	23.3%	34.9%	48.1%	2.6%	1.6%	3.2%
		問17 内の割合	14.5%	14.5%	13.6%	14.6%	13.3%	14.7%	16.7%	7.7%	21.4%
校区	見崎中 121人	回答人数	99	91	39	27	44	51	5	3	2
		校区 内の割合	81.8%	75.2%	32.2%	22.3%	36.4%	42.1%	4.1%	2.5%	1.7%
		問17 内の割合	9.3%	9.0%	10.2%	8.9%	8.9%	8.2%	16.7%	7.7%	7.1%
校区	西中 182人	回答人数	143	134	53	45	68	81	3	6	3
		校区 内の割合	78.6%	73.6%	29.1%	24.7%	37.4%	44.5%	1.6%	3.3%	1.6%
		問17 内の割合	13.5%	13.3%	13.8%	14.9%	13.7%	13.0%	10.0%	15.4%	10.7%
校区	黒木中 218人	回答人数	169	155	59	45	74	92	4	9	3
		校区 内の割合	77.5%	71.1%	27.1%	20.6%	33.9%	42.2%	1.8%	4.1%	1.4%
		問17 内の割合	15.9%	15.4%	15.4%	14.9%	14.9%	14.8%	13.3%	23.1%	10.7%
校区	上陽北浜学園 60人	回答人数	47	41	14	11	23	26	2	3	1
		校区 内の割合	78.3%	68.3%	23.3%	18.3%	38.3%	43.3%	3.3%	5.0%	1.7%
		問17 内の割合	4.4%	4.1%	3.7%	3.6%	4.6%	4.2%	6.7%	7.7%	3.6%
校区	筑南中 70人	回答人数	54	54	23	20	27	39	1	1	1
		校区 内の割合	77.1%	77.1%	32.9%	28.6%	38.6%	55.7%	1.4%	1.4%	1.4%
		問17 内の割合	5.1%	5.4%	6.0%	6.6%	5.4%	6.3%	3.3%	2.6%	3.6%
校区	立花中 108人	回答人数	77	79	27	20	37	40	1	5	1
		校区 内の割合	71.3%	73.1%	25.0%	18.5%	34.3%	37.0%	0.9%	4.6%	0.9%
		問17 内の割合	7.3%	7.8%	7.0%	6.6%	7.4%	6.4%	3.3%	12.8%	3.6%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	15	14	5	9	10	13	0	1	0
		校区 内の割合	83.3%	77.8%	27.8%	50.0%	55.6%	72.2%	0.0%	5.6%	0.0%
		問17 内の割合	1.4%	1.4%	1.3%	3.0%	2.0%	2.1%	0.0%	2.6%	0.0%
校区	星野中 64人	回答人数	48	49	19	12	26	31	5	5	1
		校区 内の割合	75.0%	76.6%	29.7%	18.8%	40.6%	48.4%	7.8%	7.8%	1.6%
		問17 内の割合	4.5%	4.9%	5.0%	4.0%	5.2%	5.0%	16.7%	12.8%	3.6%
校区	校区不明 24人	回答人数	17	17	7	9	6	9	1	1	0
		校区 内の割合	70.8%	70.8%	29.2%	37.5%	25.0%	37.5%	4.2%	4.2%	0.0%
		問17 内の割合	1.6%	1.7%	1.8%	3.0%	1.2%	1.4%	3.3%	2.6%	0.0%
校区	無回答 18人	回答人数	10	10	3	0	4	7	1	2	4
		校区 内の割合	55.6%	55.6%	16.7%	0.0%	22.2%	38.9%	5.6%	11.1%	22.2%
		問17 内の割合	0.9%	1.0%	0.8%	0.0%	0.8%	1.1%	3.3%	5.1%	14.3%
合計	1343人	回答人数	1061	1009	383	302	497	621	30	39	28
		合計に対する割合	79.0%	75.1%	28.5%	22.5%	37.0%	46.2%	2.2%	2.9%	2.1%

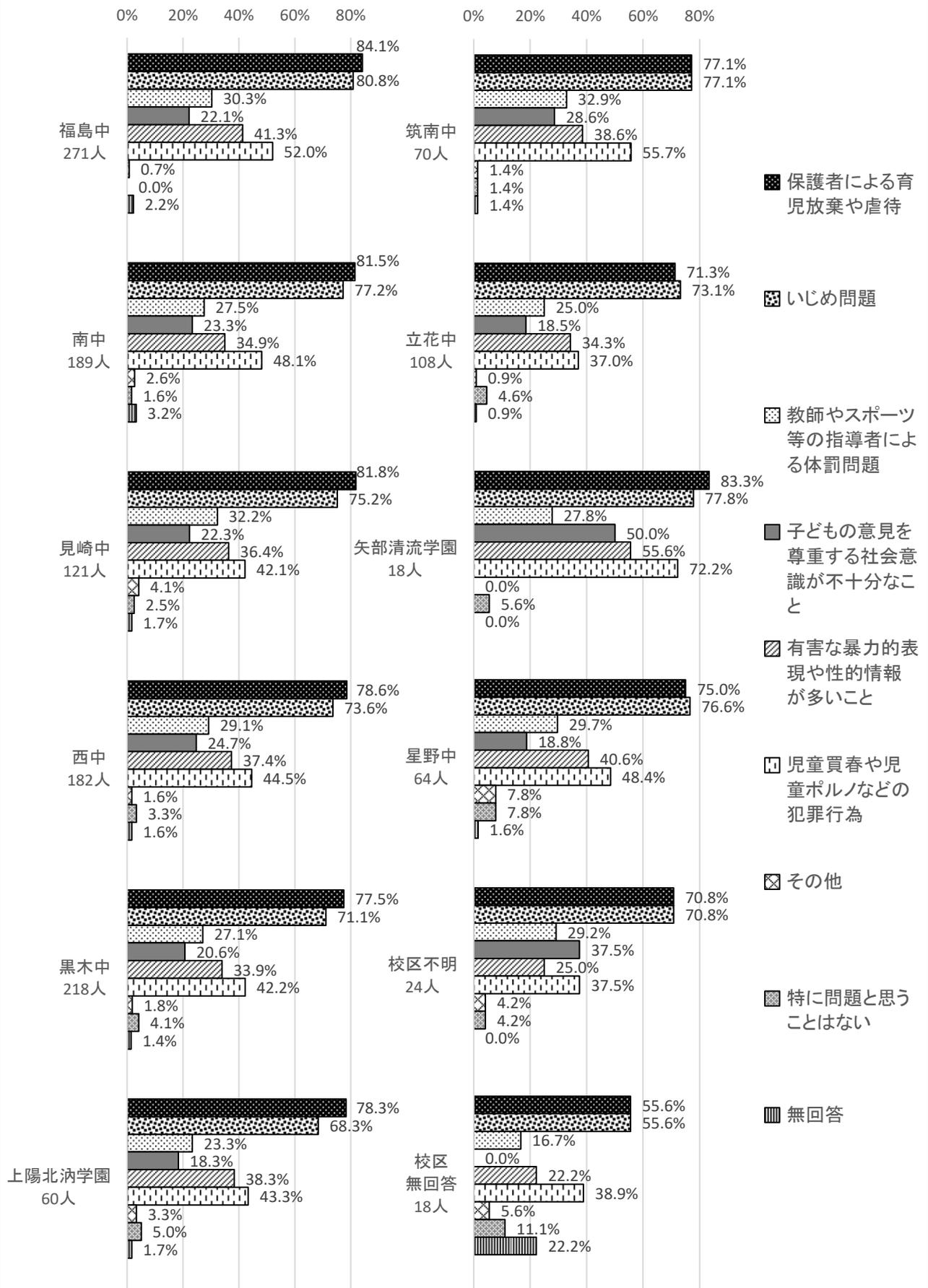
問17 子どもの人権について(性別)



問17 子どもの人権について(年齢別)



問17 子どもの人権について(校区別)



問 18 高齢者の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

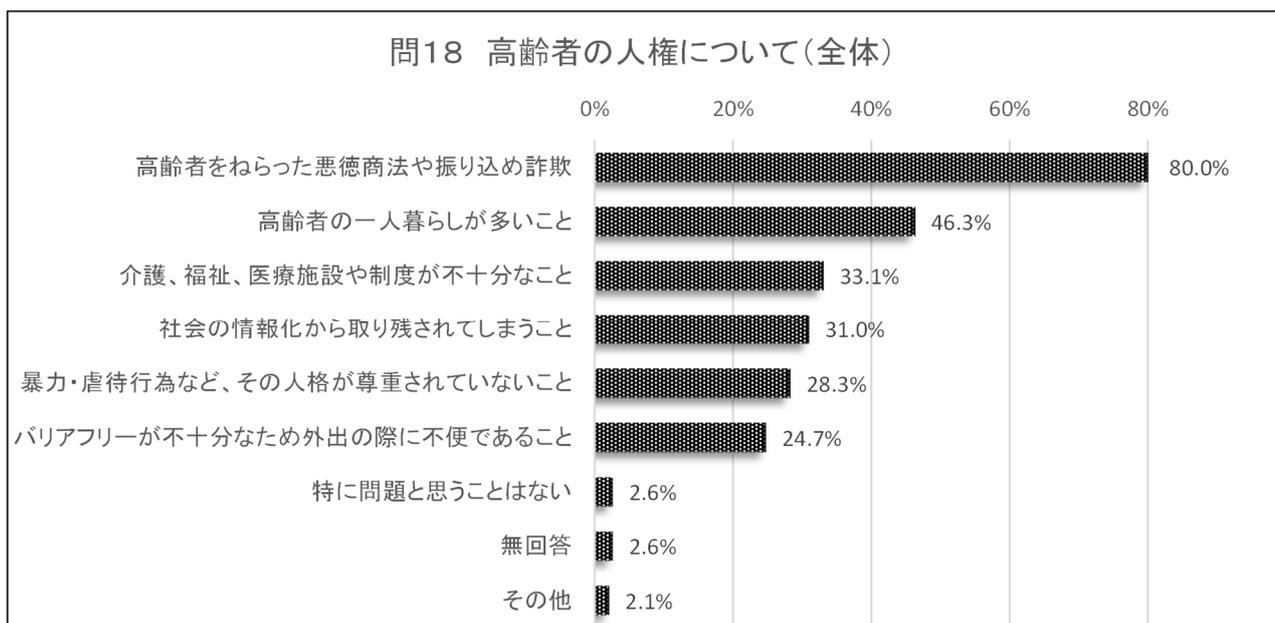
「高齢者をねらった悪徳商法や振り込め詐欺」を選んだ者の割合が最も多く 80.0% (前回 75.9%) に達した。次いで「高齢者の一人暮らしが多いこと」の 46.3% (前回 57.8%)、「高齢者を対象とした介護・福祉・医療施設や制度が不十分なこと」の 33.1% (前回 41.8%) となっている。

性別の回答傾向を見ると、「高齢者の一人暮らしが多いこと」を除く五つの課題で女性の選択割合の方が高くなっており、しかも 5.0 ポイント以上の差があったものが三つ (前は二つ) 存在していた。具体的には、「高齢者に対する暴力・虐待行為など、その人格が尊重されていないこと」(女性 33.2%・男性 22.7%) の 10.5 ポイント (前回 9.2 ポイント)、「バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること」(女性 28.8%・男性 20.2%) の 8.6 ポイント (前回 2.8 ポイント)、「社会の情報化から取り残されてしまうこと」(女性 33.7%・男性 27.8%) の 5.9 ポイント (前は男性の方が 0.6 ポイント高かった) である。

六つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「高齢者に対する暴力・虐待行為など、その人格が尊重されていないこと」40.0% (全体 28.3%)、「31～40 歳」が最大値を示していたのが、「バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること」32.1% (全体 24.7%)、「41～50 歳」が最大値を示していたのが「高齢者を狙った悪徳商法や振り込め詐欺」85.5% (全体 80.0%)、「高齢者を対象とした介護・福祉・医療施設や制度が不十分なこと」36.3% (全体 33.1%)、「社会の情報化から取り残されてしまうこと」37.3% (全体 31.0%)、「66 歳以上」が「高齢者の一人暮らしが多いこと」52.1% (全体 46.3%) で、「51～65 歳」が最大値のものはない。

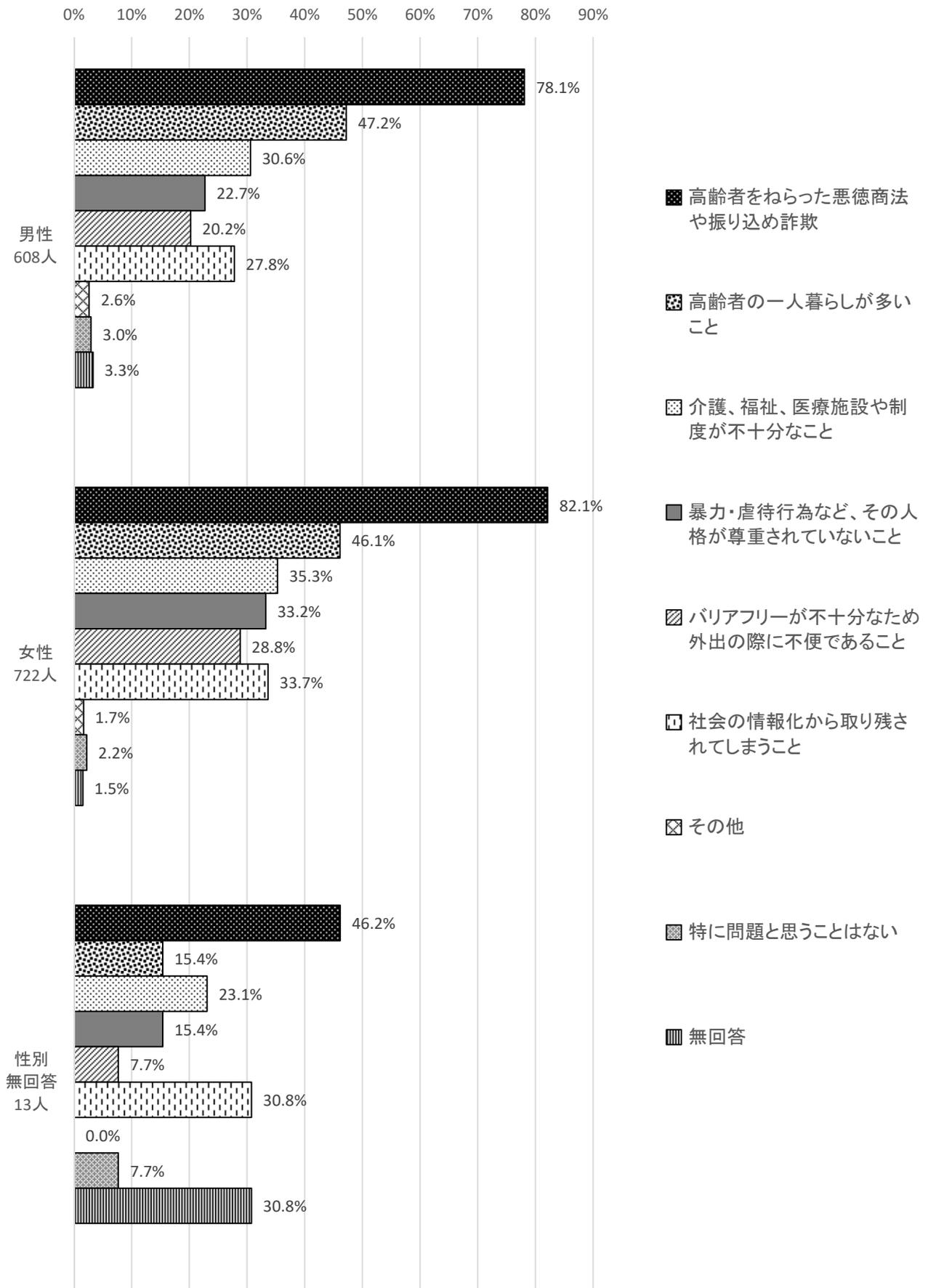
当事者としての関心、高齢者を見守る立場にある子ども世代、孫世代の関心、それぞれの違いがうかがわれる結果と言える。

「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は、全体で 2.6% (前回 3.2%) しか存在せず、「高齢者の人権」に対する関心の高さが分かる。

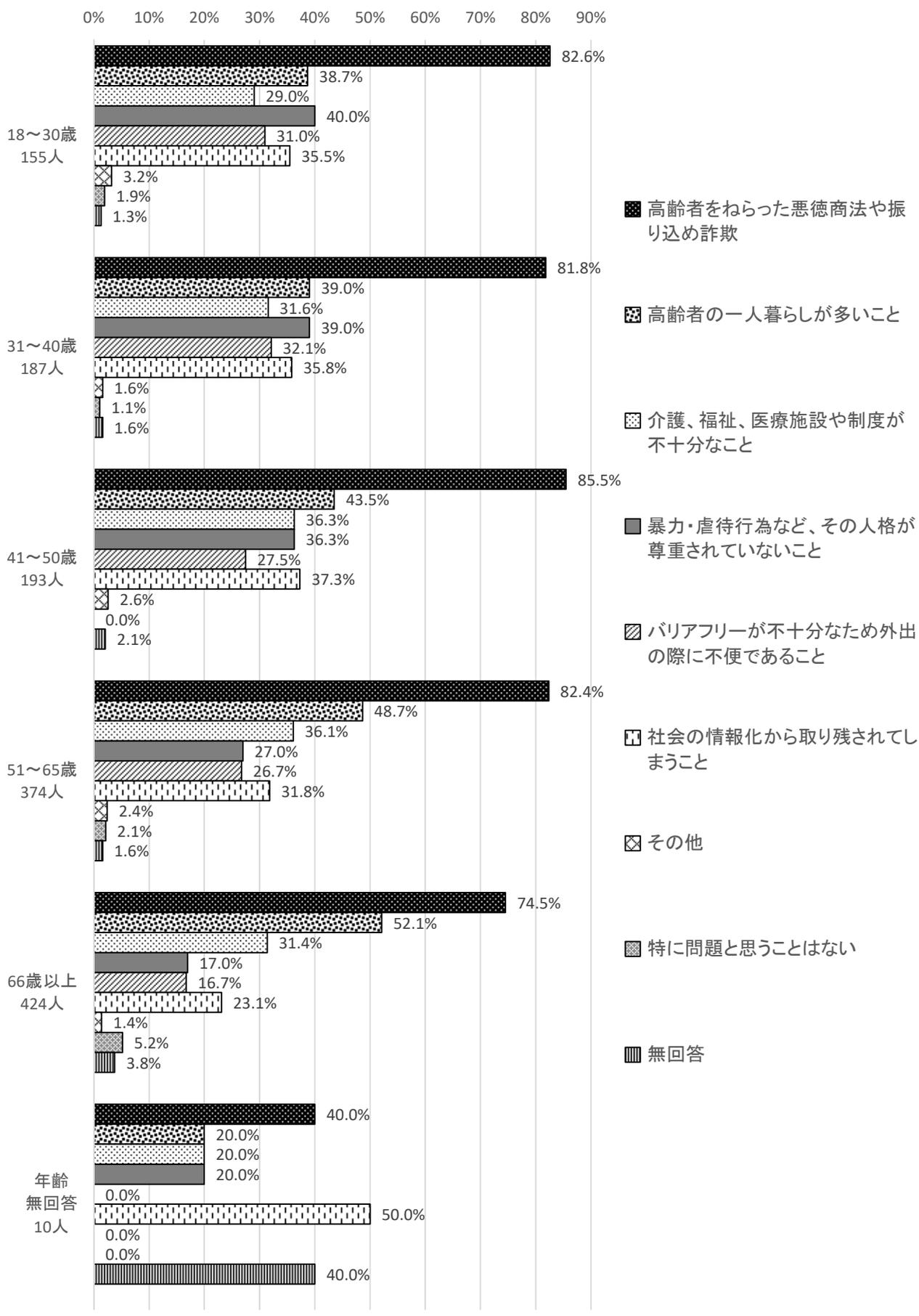


問18 複数回答		高齢者の人権問題									
		高齢者をねらった悪徳商法や振り込め詐欺	高齢者の一人暮らしが多いこと	介護、福祉、医療施設や制度が不十分なこと	暴力・虐待行為など、その人格が尊重されていないこと	バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること	社会の情報化から取り残されてしまうこと	その他	特に問題とすることは無い	無回答	
性別	男性	回答人数	475	287	186	138	123	169	16	18	20
	608人	性別 内の割合	78.1%	47.2%	30.6%	22.7%	20.2%	27.8%	2.6%	3.0%	3.3%
		問18 内の割合	44.2%	46.1%	41.9%	36.3%	37.0%	40.6%	57.1%	51.4%	57.1%
女性	回答人数	593	333	255	240	208	243	12	16	11	
	722人	性別 内の割合	82.1%	46.1%	35.3%	33.2%	28.8%	33.7%	1.7%	2.2%	1.5%
		問18 内の割合	55.2%	53.5%	57.4%	63.2%	62.7%	58.4%	42.9%	45.7%	31.4%
性別 無回答	回答人数	6	2	3	2	1	4	0	1	4	
	13人	性別 内の割合	46.2%	15.4%	23.1%	15.4%	7.7%	30.8%	0.0%	7.7%	30.8%
		問18 内の割合	0.6%	0.3%	0.7%	0.5%	0.3%	1.0%	0.0%	2.9%	11.4%
年齢	18~30歳	回答人数	128	60	45	62	48	55	5	3	2
	155人	年齢 内の割合	82.6%	38.7%	29.0%	40.0%	31.0%	35.5%	3.2%	1.9%	1.3%
		問18 内の割合	11.9%	9.6%	10.1%	16.3%	14.5%	13.2%	17.9%	8.6%	5.7%
	31~40歳	回答人数	153	73	59	73	60	67	3	2	3
	187人	年齢 内の割合	81.8%	39.0%	31.6%	39.0%	32.1%	35.8%	1.6%	1.1%	1.6%
		問18 内の割合	14.2%	11.7%	13.3%	19.2%	18.1%	16.1%	10.7%	5.7%	8.6%
	41~50歳	回答人数	165	84	70	70	53	72	5	0	4
	193人	年齢 内の割合	85.5%	43.5%	36.3%	36.3%	27.5%	37.3%	2.6%	0.0%	2.1%
		問18 内の割合	15.4%	13.5%	15.8%	18.4%	16.0%	17.3%	17.9%	0.0%	11.4%
	51~65歳	回答人数	308	182	135	101	100	119	9	8	6
	374人	年齢 内の割合	82.4%	48.7%	36.1%	27.0%	26.7%	31.8%	2.4%	2.1%	1.6%
		問18 内の割合	28.7%	29.3%	30.4%	26.6%	30.1%	28.6%	32.1%	22.9%	17.1%
	66歳以上	回答人数	316	221	133	72	71	98	6	22	16
	424人	年齢 内の割合	74.5%	52.1%	31.4%	17.0%	16.7%	23.1%	1.4%	5.2%	3.8%
		問18 内の割合	29.4%	35.5%	30.0%	18.9%	21.4%	23.6%	21.4%	62.9%	45.7%
年齢 無回答	回答人数	4	2	2	2	0	5	0	0	4	
10人	年齢 内の割合	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	40.0%	
	問18 内の割合	0.4%	0.3%	0.5%	0.5%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	11.4%	
校区	福島中	回答人数	221	124	87	89	63	91	3	4	9
	271人	校区 内の割合	81.5%	45.8%	32.1%	32.8%	23.2%	33.6%	1.1%	1.5%	3.3%
		問18 内の割合	20.6%	19.9%	19.6%	23.4%	19.0%	21.9%	10.7%	11.4%	25.7%
	南中	回答人数	146	94	62	57	51	61	5	7	5
	189人	校区 内の割合	77.2%	49.7%	32.8%	30.2%	27.0%	32.3%	2.6%	3.7%	2.6%
		問18 内の割合	13.6%	15.1%	14.0%	15.0%	15.4%	14.7%	17.9%	20.0%	14.3%
	見崎中	回答人数	98	57	48	32	29	34	3	3	3
	121人	校区 内の割合	81.0%	47.1%	39.7%	26.4%	24.0%	28.1%	2.5%	2.5%	2.5%
		問18 内の割合	9.1%	9.2%	10.8%	8.4%	8.7%	8.2%	10.7%	8.6%	8.6%
	西中	回答人数	144	72	68	54	45	51	1	5	3
	182人	校区 内の割合	79.1%	39.6%	37.4%	29.7%	24.7%	28.0%	0.5%	2.7%	1.6%
		問18 内の割合	13.4%	11.6%	15.3%	14.2%	13.6%	12.3%	3.6%	14.3%	8.6%
	黒木中	回答人数	180	104	70	57	51	61	7	4	3
	218人	校区 内の割合	82.6%	47.7%	32.1%	26.1%	23.4%	28.0%	3.2%	1.8%	1.4%
		問18 内の割合	16.8%	16.7%	15.8%	15.0%	15.4%	14.7%	25.0%	11.4%	8.6%
	上陽北浜学園	回答人数	50	30	24	15	13	20	1	2	1
	60人	校区 内の割合	83.3%	50.0%	40.0%	25.0%	21.7%	33.3%	1.7%	3.3%	1.7%
		問18 内の割合	4.7%	4.8%	5.4%	3.9%	3.9%	4.8%	3.6%	5.7%	2.9%
	筑南中	回答人数	60	40	23	26	18	20	1	1	3
	70人	校区 内の割合	85.7%	57.1%	32.9%	37.1%	25.7%	28.6%	1.4%	1.4%	4.3%
		問18 内の割合	5.6%	6.4%	5.2%	6.8%	5.4%	4.8%	3.6%	2.9%	8.6%
立花中	回答人数	81	45	30	20	24	34	0	5	2	
108人	校区 内の割合	75.0%	41.7%	27.8%	18.5%	22.2%	31.5%	0.0%	4.6%	1.9%	
	問18 内の割合	7.5%	7.2%	6.8%	5.3%	7.2%	8.2%	0.0%	14.3%	5.7%	
矢部清流学園	回答人数	13	7	6	7	5	7	1	1	1	
18人	校区 内の割合	72.2%	38.9%	33.3%	38.9%	27.8%	38.9%	5.6%	5.6%	5.6%	
	問18 内の割合	1.2%	1.1%	1.4%	1.8%	1.5%	1.7%	3.6%	2.9%	2.9%	
星野中	回答人数	50	34	14	10	21	17	5	2	1	
64人	校区 内の割合	78.1%	53.1%	21.9%	15.6%	32.8%	26.6%	7.8%	3.1%	1.6%	
	問18 内の割合	4.7%	5.5%	3.2%	2.6%	6.3%	4.1%	17.9%	5.7%	2.9%	
校区不明	回答人数	20	8	8	8	9	11	1	1	0	
24人	校区 内の割合	83.3%	33.3%	33.3%	33.3%	37.5%	45.8%	4.2%	4.2%	0.0%	
	問18 内の割合	1.9%	1.3%	1.8%	2.1%	2.7%	2.6%	3.6%	2.9%	0.0%	
校区 無回答	回答人数	11	7	4	5	3	9	0	0	4	
18人	校区 内の割合	61.1%	38.9%	22.2%	27.8%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	22.2%	
	問18 内の割合	1.0%	1.1%	0.9%	1.3%	0.9%	2.2%	0.0%	0.0%	11.4%	
合計	回答人数	1074	622	444	380	332	416	28	35	35	
1343人	合計に対する割合	80.0%	46.3%	33.1%	28.3%	24.7%	31.0%	2.1%	2.6%	2.6%	

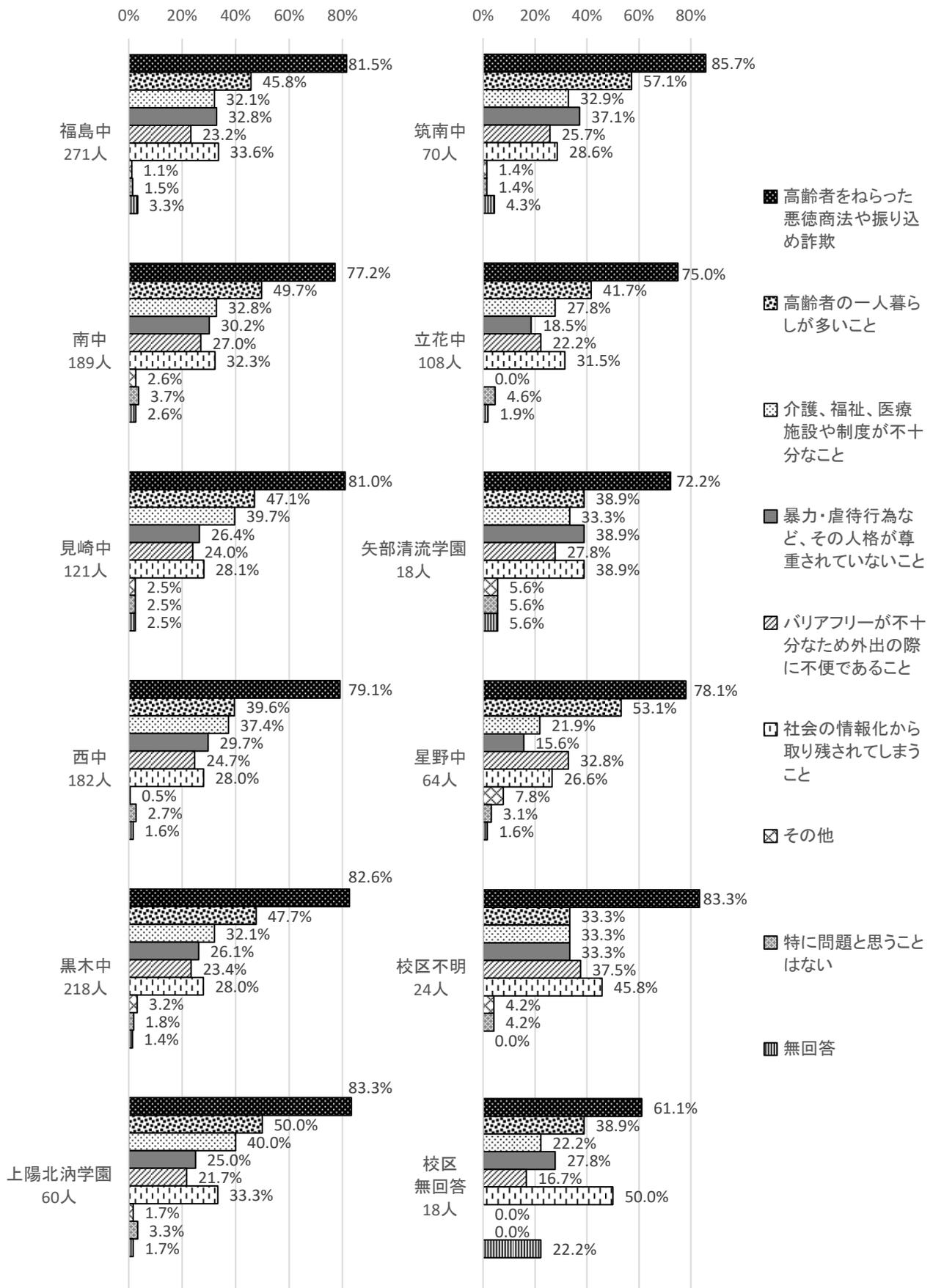
問18 高齢者の人権について(性別)



問18 高齢者の人権について(年齢別)



問18 高齢者の人権について(校区别)



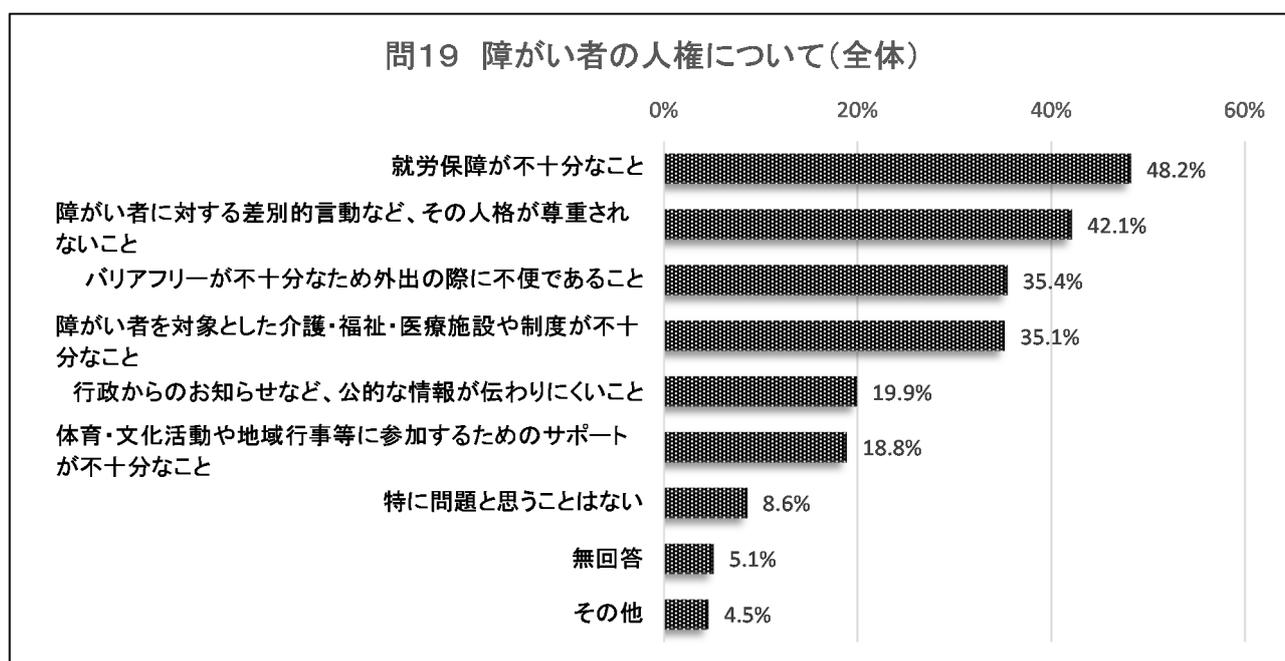
問 19 障がい者の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

「就労保障が不十分なこと」を選んだ者の割合が最も多く 48.2% (前回 47.8%)、次いで「障がい者に対する差別的言動など、その人格が尊重されないこと」の 42.1% (前回 41.9%)、「バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること」35.4%(前回 32.9%)であった。

性別の回答傾向を見ると、「障がい者に対する差別的言動など、その人格が尊重されないこと」(女性 45.8%・男性 38.0%)を選んだ者の割合で 7.8 ポイント (前回 3.8 ポイント)、「バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること」(女性 39.5%・男性 31.1%)を選んだ者の割合で 8.4 ポイント (前回 5.9 ポイント) 女性の方が高かったが、それ以外の課題について大きな差は見られなかった。

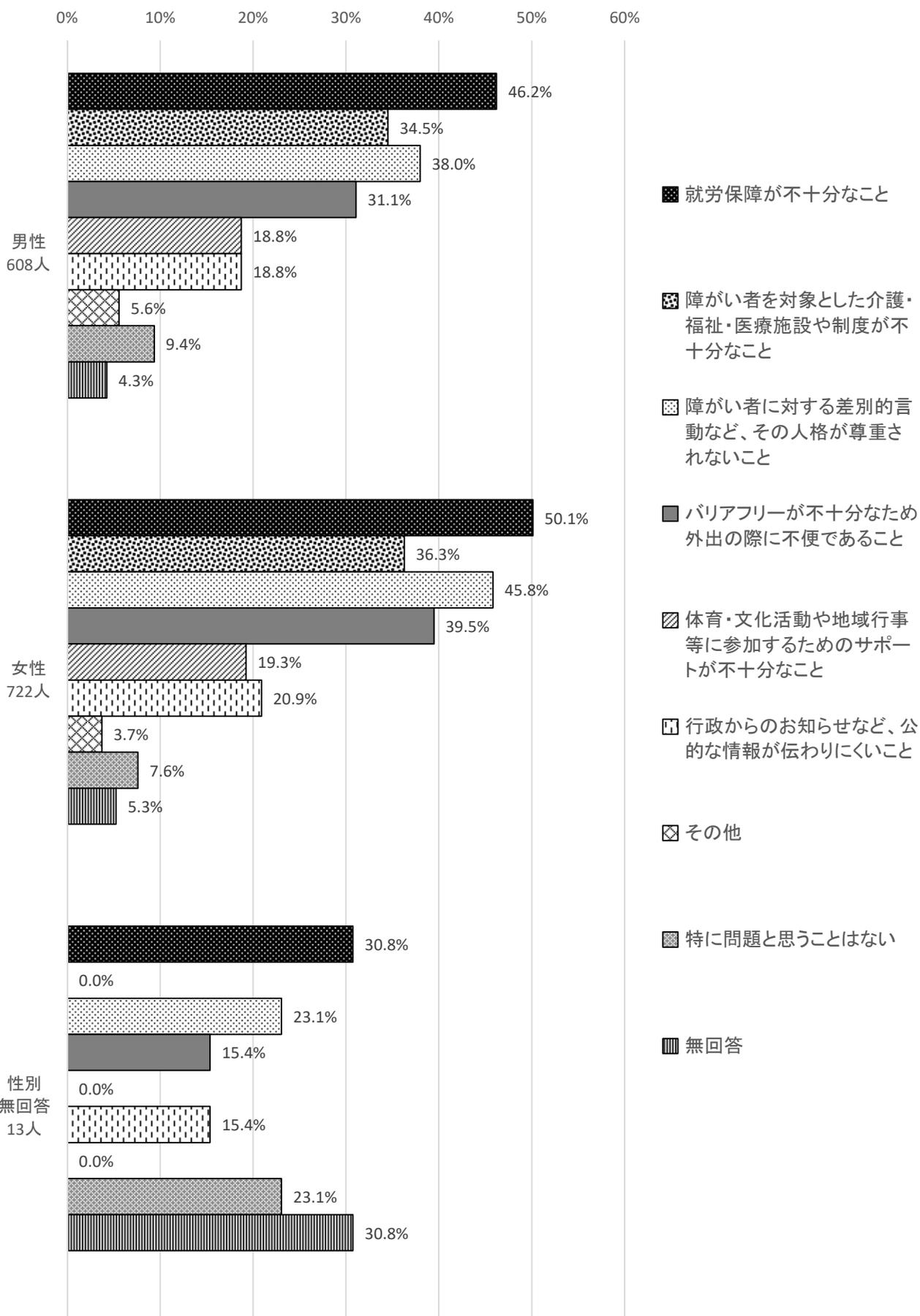
6つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「障がい者に対する差別的言動など、その人格が尊重されないこと」55.5% (全体 42.1%)、「体育・文化活動や地域行事等に参加するためのサポートが不十分なこと」25.8% (全体 18.8%)、「41～50 歳」が最大値を示していたのが「就労保障が不十分なこと」57.0% (全体 48.2%)、「バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること」43.0% (全体 35.4%)、「行政からのお知らせなど、公的な情報が伝わりにくいこと」24.9% (全体 19.9%)、「51～65 歳」が最大値を示していたのが「障がい者を対象とした介護・福祉・医療施設や制度が不十分なこと」40.9% (全体 35.1%) で、「31～40 歳」及び「66 歳以上」の年代が最大値を示していたものはなかった。

「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は、全体では 8.6% (前回 10.6%)であったが、「66 歳以上」の年代では 13.9% (前回 18.1%) と高くなっており、前回調査より改善はされているものの、年代による「障がい者の人権」に対する関心の違いが明らかとなっている。

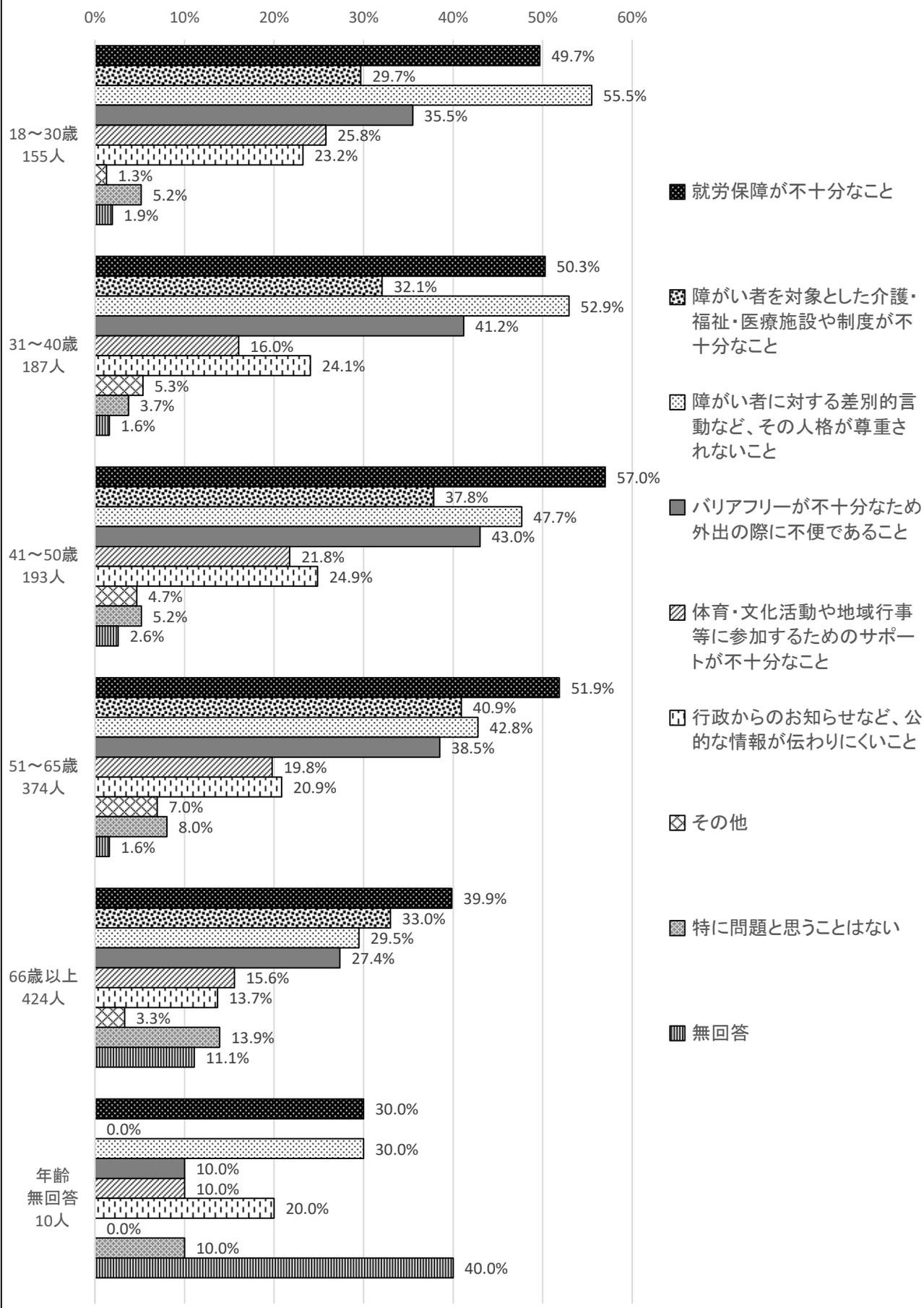


問19 複数回答			障がい者の人権問題								
			就労保障が 不十分なこ と	障がい者を 対象とした 介護・福 祉・医療施 設や制度が 不十分なこ と	障がい者に 対する差別 的言動など、 その人格が 尊重されな いこと	バリアフリ ーが不十分 なため外出 の際に不便 であること	体育・文化 活動や地域 行事等に参 加するため のサポート が不十分な こと	行政からの お知らせな ど、公的な 情報が伝わ りにくいこ と	その他	特に問題と 思うことは ない	無回答
性別	男性 608人	回答人数	281	210	231	189	114	114	34	57	26
		性別 内の割合	46.2%	34.5%	38.0%	31.1%	18.8%	18.8%	5.6%	9.4%	4.3%
		問19 内の割合	43.4%	44.5%	40.9%	39.7%	45.1%	42.7%	55.7%	49.6%	38.2%
性別	女性 722人	回答人数	362	262	331	285	139	151	27	55	38
		性別 内の割合	50.1%	36.3%	45.8%	39.5%	19.3%	20.9%	3.7%	7.6%	5.3%
		問19 内の割合	56.0%	55.5%	58.6%	59.9%	54.9%	56.6%	44.3%	47.8%	55.9%
性別	無回答 13人	回答人数	4	0	3	2	0	2	0	3	4
		性別 内の割合	30.8%	0.0%	23.1%	15.4%	0.0%	15.4%	0.0%	23.1%	30.8%
		問19 内の割合	0.6%	0.0%	0.5%	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	2.6%	5.9%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	77	46	86	55	40	36	2	8	3
		年齢 内の割合	49.7%	29.7%	55.5%	35.5%	25.8%	23.2%	1.3%	5.2%	1.9%
		問19 内の割合	11.9%	9.7%	15.2%	11.6%	15.8%	13.5%	3.3%	7.0%	4.4%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	94	60	99	77	30	45	10	7	3
		年齢 内の割合	50.3%	32.1%	52.9%	41.2%	16.0%	24.1%	5.3%	3.7%	1.6%
		問19 内の割合	14.5%	12.7%	17.5%	16.2%	11.9%	16.9%	16.4%	6.1%	4.4%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	110	73	92	83	42	48	9	10	5
		年齢 内の割合	57.0%	37.8%	47.7%	43.0%	21.8%	24.9%	4.7%	5.2%	2.6%
		問19 内の割合	17.0%	15.5%	16.3%	17.4%	16.6%	18.0%	14.8%	8.7%	7.4%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	194	153	160	144	74	78	26	30	6
		年齢 内の割合	51.9%	40.9%	42.8%	38.5%	19.8%	20.9%	7.0%	8.0%	1.6%
		問19 内の割合	30.0%	32.4%	28.3%	30.3%	29.2%	29.2%	42.6%	26.1%	8.8%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	169	140	125	116	66	58	14	59	47
		年齢 内の割合	39.9%	33.0%	29.5%	27.4%	15.6%	13.7%	3.3%	13.9%	11.1%
		問19 内の割合	26.1%	29.7%	22.1%	24.4%	26.1%	21.7%	23.0%	51.3%	69.1%
年齢	無回答 10人	回答人数	3	0	3	1	1	2	0	1	4
		年齢 内の割合	30.0%	0.0%	30.0%	10.0%	10.0%	20.0%	0.0%	10.0%	40.0%
		問19 内の割合	0.5%	0.0%	0.5%	0.2%	0.4%	0.7%	0.0%	0.9%	5.9%
校区	福島中 271人	回答人数	130	105	123	96	50	59	9	14	16
		校区 内の割合	48.0%	38.7%	45.4%	35.4%	18.5%	21.8%	3.3%	5.2%	5.9%
		問19 内の割合	20.1%	22.2%	21.8%	20.2%	19.8%	22.1%	14.8%	12.2%	23.5%
校区	南中 189人	回答人数	102	65	75	73	47	46	8	14	11
		校区 内の割合	54.0%	34.4%	39.7%	38.6%	24.9%	24.3%	4.2%	7.4%	5.8%
		問19 内の割合	15.8%	13.8%	13.3%	15.3%	18.6%	17.2%	13.1%	12.2%	16.2%
校区	見崎中 121人	回答人数	54	41	47	42	19	21	9	10	6
		校区 内の割合	44.6%	33.9%	38.8%	34.7%	15.7%	17.4%	7.4%	8.3%	5.0%
		問19 内の割合	8.3%	8.7%	8.3%	8.8%	7.5%	7.9%	14.8%	8.7%	8.8%
校区	西中 182人	回答人数	89	68	79	62	38	35	6	12	8
		校区 内の割合	48.9%	37.4%	43.4%	34.1%	20.9%	19.2%	3.3%	6.6%	4.4%
		問19 内の割合	13.8%	14.4%	14.0%	13.0%	15.0%	13.1%	9.8%	10.4%	11.8%
校区	黒木中 218人	回答人数	118	72	92	79	40	40	8	23	7
		校区 内の割合	54.1%	33.0%	42.2%	36.2%	18.3%	18.3%	3.7%	10.6%	3.2%
		問19 内の割合	18.2%	15.3%	16.3%	16.6%	15.8%	15.0%	13.1%	20.0%	10.3%
校区	上陽北浜学園 60人	回答人数	29	25	22	22	11	12	3	7	4
		校区 内の割合	48.3%	41.7%	36.7%	36.7%	18.3%	20.0%	5.0%	11.7%	6.7%
		問19 内の割合	4.5%	5.3%	3.9%	4.6%	4.3%	4.5%	4.9%	6.1%	5.9%
校区	筑南中 70人	回答人数	28	28	37	22	10	9	4	7	4
		校区 内の割合	40.0%	40.0%	52.9%	31.4%	14.3%	12.9%	5.7%	10.0%	5.7%
		問19 内の割合	4.3%	5.9%	6.5%	4.6%	4.0%	3.4%	6.6%	6.1%	5.9%
校区	立花中 108人	回答人数	50	33	38	34	15	19	4	11	4
		校区 内の割合	46.3%	30.6%	35.2%	31.5%	13.9%	17.6%	3.7%	10.2%	3.7%
		問19 内の割合	7.7%	7.0%	6.7%	7.1%	5.9%	7.1%	6.6%	9.6%	5.9%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	9	8	7	7	7	5	1	2	1
		校区 内の割合	50.0%	44.4%	38.9%	38.9%	38.9%	27.8%	5.6%	11.1%	5.6%
		問19 内の割合	1.4%	1.7%	1.2%	1.5%	2.8%	1.9%	1.6%	1.7%	1.5%
校区	星野中 64人	回答人数	24	18	28	24	9	9	7	9	3
		校区 内の割合	37.5%	28.1%	43.8%	37.5%	14.1%	14.1%	10.9%	14.1%	4.7%
		問19 内の割合	3.7%	3.8%	5.0%	5.0%	3.6%	3.4%	11.5%	7.8%	4.4%
校区	校区不明 24人	回答人数	8	7	11	10	6	8	2	2	0
		校区 内の割合	33.3%	29.2%	45.8%	41.7%	25.0%	33.3%	8.3%	8.3%	0.0%
		問19 内の割合	1.2%	1.5%	1.9%	2.1%	2.4%	3.0%	3.3%	1.7%	0.0%
校区	無回答 18人	回答人数	6	2	6	5	1	4	0	4	4
		校区 内の割合	33.3%	11.1%	33.3%	27.8%	5.6%	22.2%	0.0%	22.2%	22.2%
		問19 内の割合	0.9%	0.4%	1.1%	1.1%	0.4%	1.5%	0.0%	3.5%	5.9%
合計	1343人	回答人数	647	472	565	476	253	267	61	115	68
		合計に対する割合	48.2%	35.1%	42.1%	35.4%	18.8%	19.9%	4.5%	8.6%	5.1%

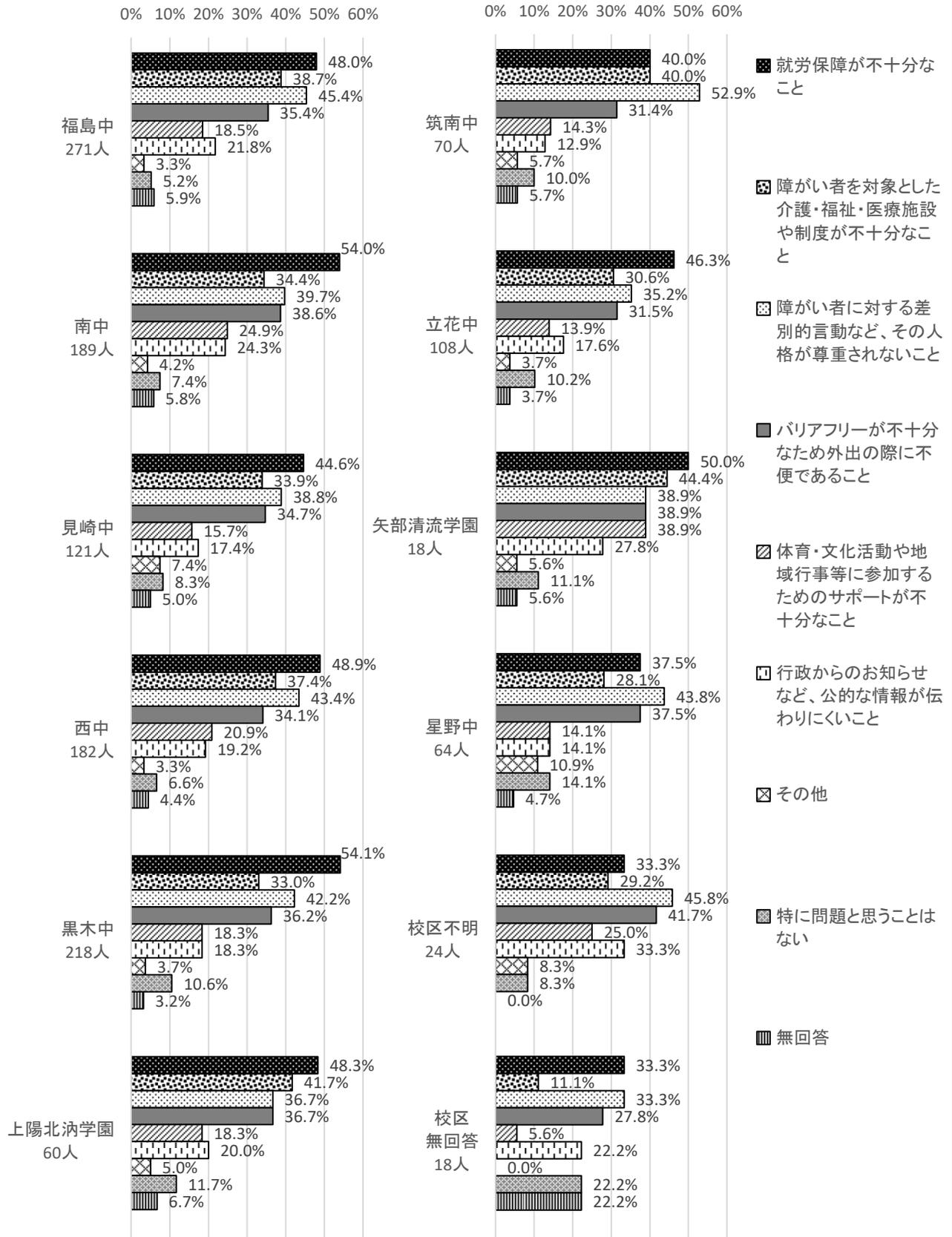
問19 障がい者の人権について(性別)



問19 障がい者の人権について(年齢別)



問19 障がい者の人権について(校区別)



問 20 外国人の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。なお、1～3の選択肢は、日本で生まれ育った外国籍の方に関する人権問題、4～6は、就労や就学のために新たに来日した外国人に関する人権問題としてご回答ください。

「結婚の際に周囲から反対を受けること」を選んだ者の割合は、14.5%（前回、同様の選択肢なし）であったが、残りの五つの課題を選んだ者の割合は、「外国人に対する差別的言動（ヘイトスピーチ）があること」31.2%（前回17.9%）、「教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること」34.9%（前回23.8%）、「習慣等が異なるため地域社会で受け入れられにくいこと」34.3%（前回37.3%）、「施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること」35.4%（前回25.0%）、「行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと」32.1%（前回18.6%）と、ほぼ同程度の数字であった。

また、四つの課題で、選んだ者の割合が前回調査より、10.0ポイント以上増加しており、「外国人の人権」に対する関心が、高まってきていることが分かる結果となっている。

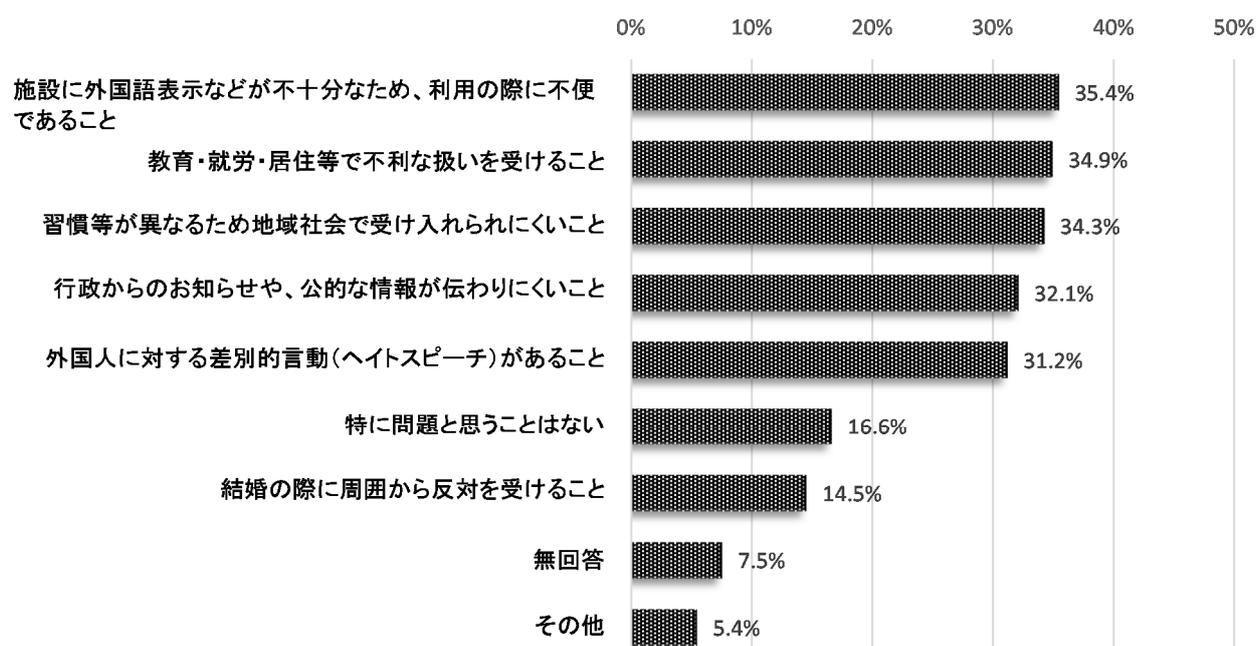
性別の回答傾向を見ると、1.2ポイント差（前回同様の選択肢なし）であった「結婚の際に周囲から反対を受けること」を除く五つの課題で、女性の選択割合の方が高くなっており、しかも5.0ポイント以上の差があったものが四つ（前回はなし）存在していた。具体的には、「教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること」（女性37.7%・男性32.1%）を選んだ者の割合で5.6ポイント（前回3.8ポイント）、「習慣等が異なるため地域社会で受け入れられにくいこと」（女性37.0%・男性31.3%）を選んだ者の割合で5.7ポイント（前回0.5ポイント）、「施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること」（女性38.6%・男性32.1%）を選んだ者の割合で6.5ポイント（前回1.0ポイント）、「行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと」（女性36.6%・男性27.3%）を選んだ者の割合で9.3ポイント（前回は男性の方が0.1ポイント高かった）である。

このことから、前回調査と比べ、特に女性の「外国人の人権」に対する関心が、高まってきている様子がうかがえる。

六つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30歳」が最大値を示していたのが、「外国人に対する差別的言動（ヘイトスピーチ）があること」43.9%（全体31.2%）、「習慣等が異なるため地域社会で受け入れられにくいこと」41.3%（全体34.3%）、「31～40歳」が最大値を示していたのが、「教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること」42.8%（全体34.9%）、「結婚の際に周囲から反対を受けること」20.3%（全体14.5%）、「41～50歳」が最大値を示していたのが「施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること」45.1%（全体35.4%）、「行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと」39.4%（全体32.1%）で、「51～65歳」及び「66歳以上」が最大値を示していた項目はなく、六つの課題全てについて、選んだ割合が最も低いのが「66歳以上」であった。

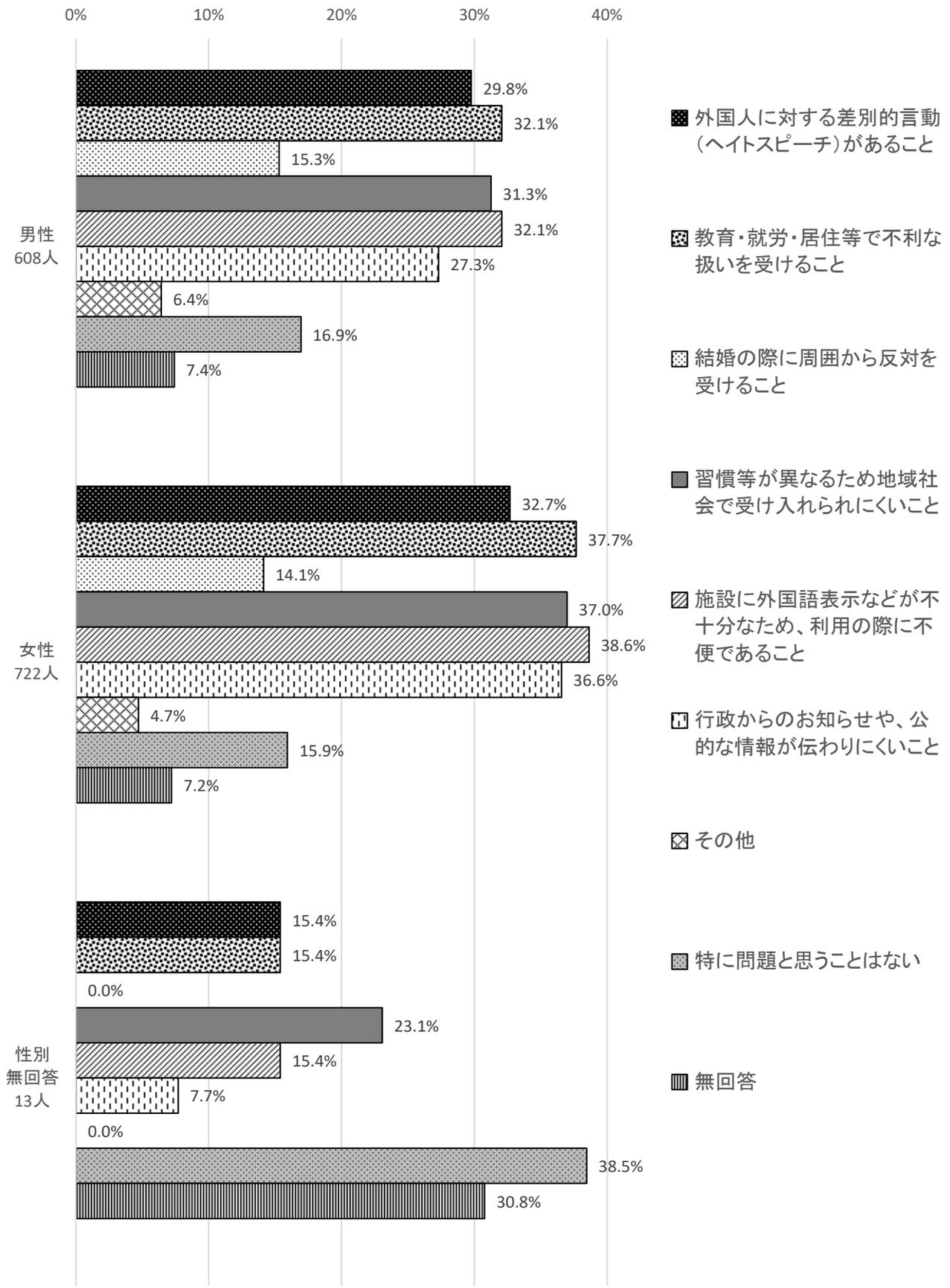
一方、「特に問題と思うことはない」と回答した者が16.6%（前回20.5%）存在しており、「外国人の人権」に関する関心が高くはない市民も、減少してはいるものの、「66歳以上」の22.4%を始め、各年代ともにまだ10%以上存在していることは課題である。

問20 外国人の人権について(全体)

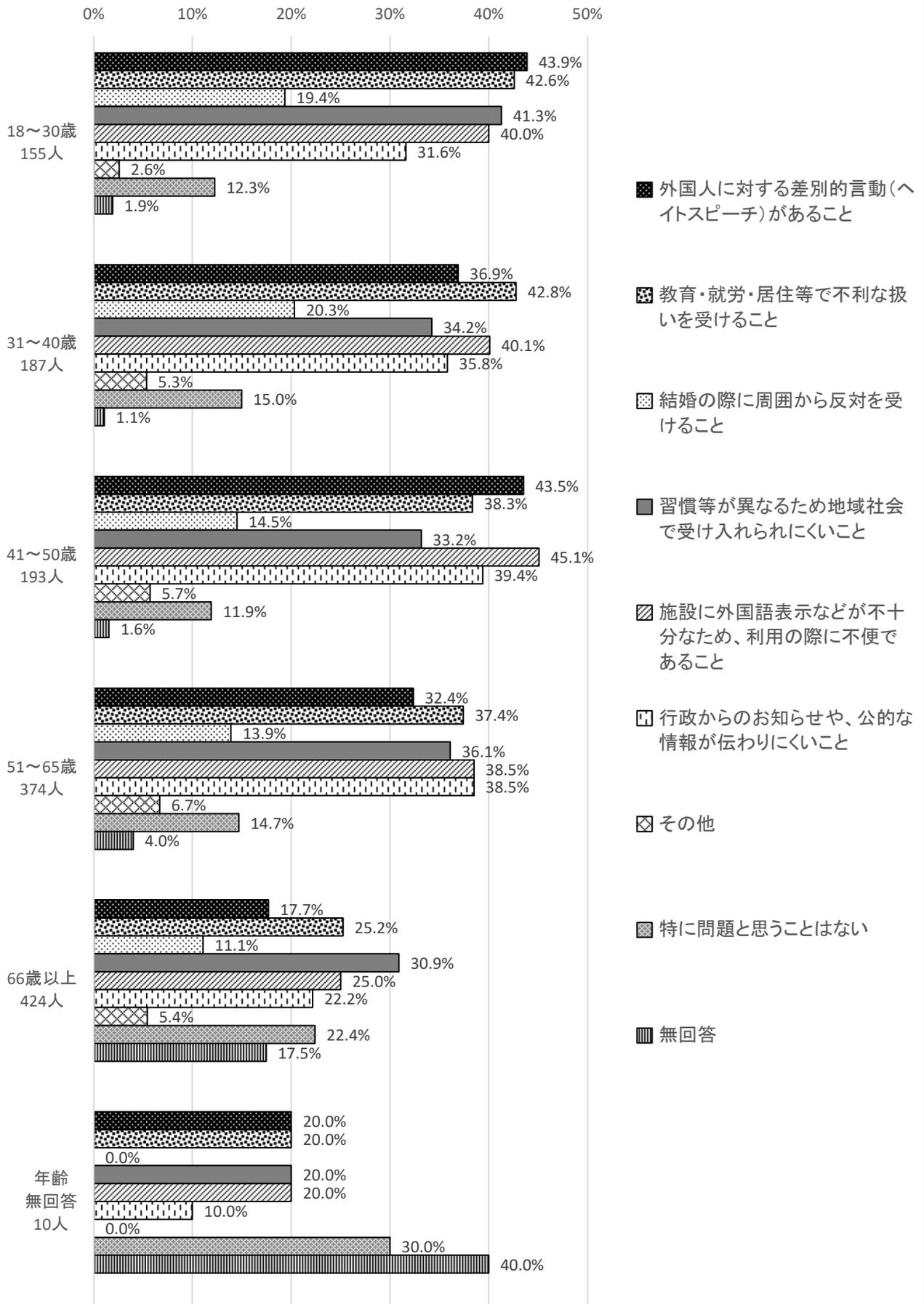


問20 複数回答			外国人の人権問題								
			外国人に対する差別的言動（ヘイトスピーチ）があること	教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること	結婚の際に周囲から反対を受けること	習慣等が異なるため地域社会で受け入れられにくいこと	施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること	行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと	その他	特に問題と思うことはない	無回答
性別	男性 608人	回答人数	181	195	93	190	195	166	39	103	45
		性別 内の割合	29.8%	32.1%	15.3%	31.3%	32.1%	27.3%	6.4%	16.9%	7.4%
		問20 内の割合	43.2%	41.6%	47.7%	41.3%	41.0%	38.5%	53.4%	46.2%	44.6%
性別	女性 722人	回答人数	236	272	102	267	279	264	34	115	52
		性別 内の割合	32.7%	37.7%	14.1%	37.0%	38.6%	36.6%	4.7%	15.9%	7.2%
		問20 内の割合	56.3%	58.0%	52.3%	58.0%	58.6%	61.3%	46.6%	51.6%	51.5%
性別	無回答 13人	回答人数	2	2	0	3	2	1	0	5	4
		性別 内の割合	15.4%	15.4%	0.0%	23.1%	15.4%	7.7%	0.0%	38.5%	30.8%
		問20 内の割合	0.5%	0.4%	0.0%	0.7%	0.4%	0.2%	0.0%	2.2%	4.0%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	68	66	30	64	62	49	4	19	3
		年齢 内の割合	43.9%	42.6%	19.4%	41.3%	40.0%	31.6%	2.6%	12.3%	1.9%
		問20 内の割合	16.2%	14.1%	15.4%	13.9%	13.0%	11.4%	5.5%	8.5%	3.0%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	69	80	38	64	75	67	10	28	2
		年齢 内の割合	36.9%	42.8%	20.3%	34.2%	40.1%	35.8%	5.3%	15.0%	1.1%
		問20 内の割合	16.5%	17.1%	19.5%	13.9%	15.8%	15.5%	13.7%	12.6%	2.0%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	84	74	28	64	87	76	11	23	3
		年齢 内の割合	43.5%	38.3%	14.5%	33.2%	45.1%	39.4%	5.7%	11.9%	1.6%
		問20 内の割合	20.0%	15.8%	14.4%	13.9%	18.3%	17.6%	15.1%	10.3%	3.0%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	121	140	52	135	144	144	25	55	15
		年齢 内の割合	32.4%	37.4%	13.9%	36.1%	38.5%	38.5%	6.7%	14.7%	4.0%
		問20 内の割合	28.9%	29.9%	26.7%	29.3%	30.3%	33.4%	34.2%	24.7%	14.9%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	75	107	47	131	106	94	23	95	74
		年齢 内の割合	17.7%	25.2%	11.1%	30.9%	25.0%	22.2%	5.4%	22.4%	17.5%
		問20 内の割合	17.9%	22.8%	24.1%	28.5%	22.3%	21.8%	31.5%	42.6%	73.3%
年齢	無回答 10人	回答人数	2	2	0	2	2	1	0	3	4
		年齢 内の割合	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	10.0%	0.0%	30.0%	40.0%
		問20 内の割合	0.5%	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.2%	0.0%	1.3%	4.0%
校区	福島中 271人	回答人数	86	102	47	95	109	96	10	41	17
		校区 内の割合	31.7%	37.6%	17.3%	35.1%	40.2%	35.4%	3.7%	15.1%	6.3%
		問20 内の割合	20.5%	21.7%	24.1%	20.7%	22.9%	22.3%	13.7%	18.4%	16.8%
校区	南中 189人	回答人数	62	71	28	75	72	72	4	32	9
		校区 内の割合	32.8%	37.6%	14.8%	39.7%	38.1%	38.1%	2.1%	16.9%	4.8%
		問20 内の割合	14.8%	15.1%	14.4%	16.3%	15.1%	16.7%	5.5%	14.3%	8.9%
校区	見崎中 121人	回答人数	38	41	15	34	43	33	10	16	12
		校区 内の割合	31.4%	33.9%	12.4%	28.1%	35.5%	27.3%	8.3%	13.2%	9.9%
		問20 内の割合	9.1%	8.7%	7.7%	7.4%	9.0%	7.7%	13.7%	7.2%	11.9%
校区	西中 182人	回答人数	57	56	26	68	62	56	10	26	12
		校区 内の割合	31.3%	30.8%	14.3%	37.4%	34.1%	30.8%	5.5%	14.3%	6.6%
		問20 内の割合	13.6%	11.9%	13.3%	14.8%	13.0%	13.0%	13.7%	11.7%	11.9%
校区	黒木中 218人	回答人数	72	77	25	64	76	71	12	40	13
		校区 内の割合	33.0%	35.3%	11.5%	29.4%	34.9%	32.6%	5.5%	18.3%	6.0%
		問20 内の割合	17.2%	16.4%	12.8%	13.9%	16.0%	16.5%	16.4%	17.9%	12.9%
校区	上陽北学園 60人	回答人数	16	21	12	21	17	23	7	15	5
		校区 内の割合	26.7%	35.0%	20.0%	35.0%	28.3%	38.3%	11.7%	25.0%	8.3%
		問20 内の割合	3.8%	4.5%	6.2%	4.6%	3.6%	5.3%	9.6%	6.7%	5.0%
校区	筑南中 70人	回答人数	23	23	11	27	29	20	4	12	9
		校区 内の割合	32.9%	32.9%	15.7%	38.6%	41.4%	28.6%	5.7%	17.1%	12.9%
		問20 内の割合	5.5%	4.9%	5.6%	5.9%	6.1%	4.6%	5.5%	5.4%	8.9%
校区	立花中 108人	回答人数	30	34	9	35	33	27	5	17	10
		校区 内の割合	27.8%	31.5%	8.3%	32.4%	30.6%	25.0%	4.6%	15.7%	9.3%
		問20 内の割合	7.2%	7.2%	4.6%	7.6%	6.9%	6.3%	6.8%	7.6%	9.9%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	7	11	4	9	8	6	1	2	2
		校区 内の割合	38.9%	61.1%	22.2%	50.0%	44.4%	33.3%	5.6%	11.1%	11.1%
		問20 内の割合	1.7%	2.3%	2.1%	2.0%	1.7%	1.4%	1.4%	0.9%	2.0%
校区	星野中 64人	回答人数	16	20	12	18	15	13	9	13	7
		校区 内の割合	25.0%	31.3%	18.8%	28.1%	23.4%	20.3%	14.1%	20.3%	10.9%
		問20 内の割合	3.8%	4.3%	6.2%	3.9%	3.2%	3.0%	12.3%	5.8%	6.9%
校区	校区不明 24人	回答人数	7	9	1	8	7	10	1	5	0
		校区 内の割合	29.2%	37.5%	4.2%	33.3%	29.2%	41.7%	4.2%	20.8%	0.0%
		問20 内の割合	1.7%	1.9%	0.5%	1.7%	1.5%	2.3%	1.4%	2.2%	0.0%
校区	無回答 18人	回答人数	5	4	5	6	5	4	0	4	5
		校区 内の割合	27.8%	22.2%	27.8%	33.3%	27.8%	22.2%	0.0%	22.2%	27.8%
		問20 内の割合	1.2%	0.9%	2.6%	1.3%	1.1%	0.9%	0.0%	1.8%	5.0%
合計	1343人	回答人数	419	469	195	460	476	431	73	223	101
		合計に対する割合	31.2%	34.9%	14.5%	34.3%	35.4%	32.1%	5.4%	16.6%	7.5%

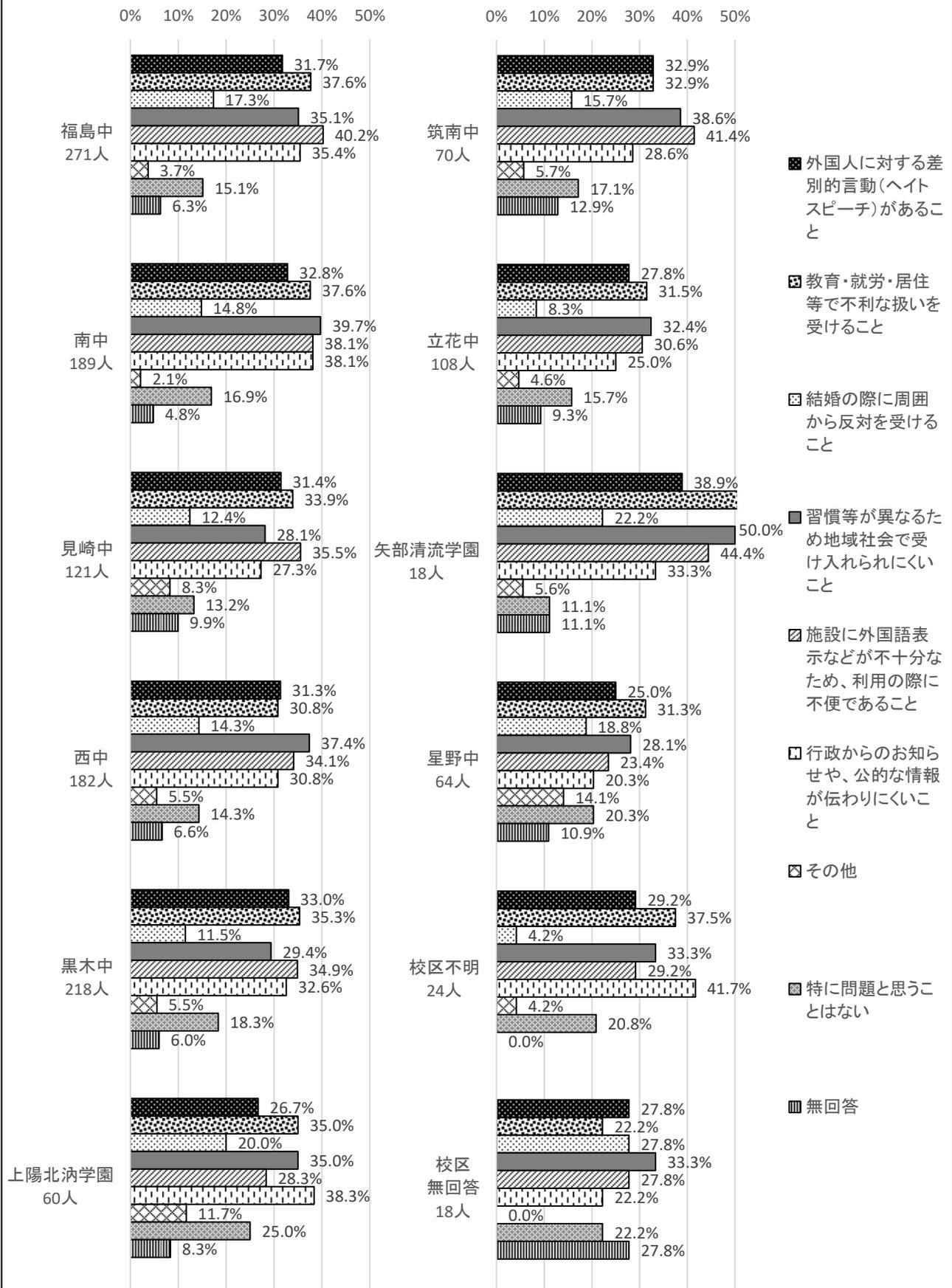
問20 外国人の人権について(性別)



問20 外国人の人権について(年齢別)



問20 外国人の人権について(校区別)



問 21 インターネット上の人権侵害に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

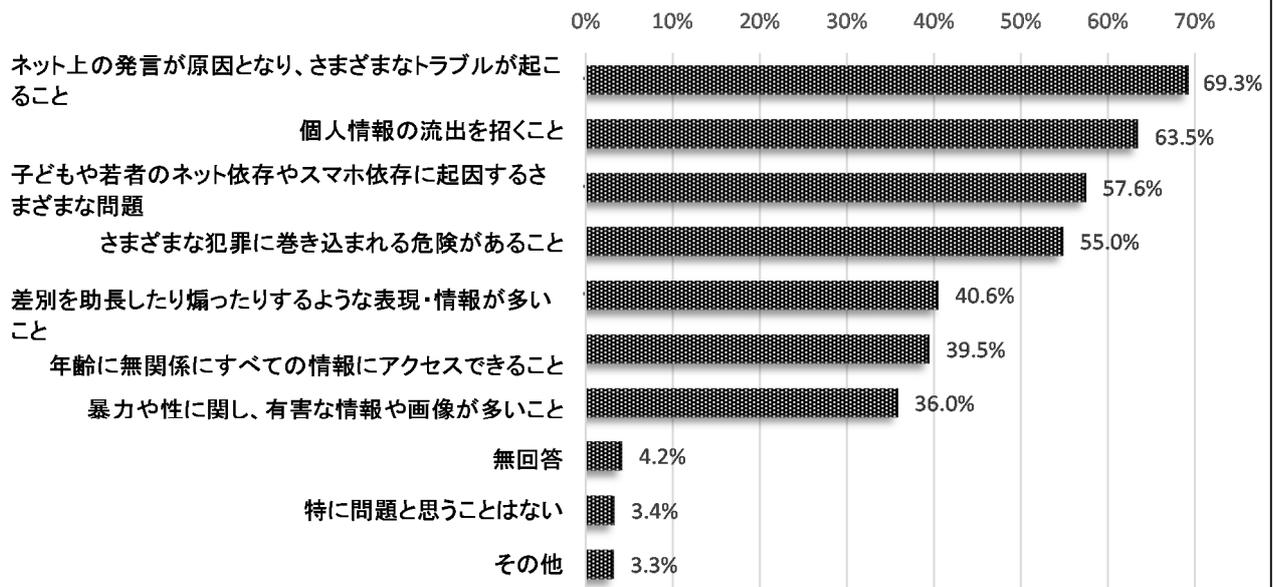
「ネット上の発言が原因となり、さまざまなトラブルが起ること」を選んだ者の割合が 69.3% (前回 59.0%) と最も多く、次いで「個人情報の流出を招くこと」の 63.5% (前回 66.5%)、「子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題」の 57.6% (前回、同様の選択肢なし)、「さまざまな犯罪に巻き込まれる危険があること」の 55.0% (前回 55.5%) という結果であった。

性別の回答傾向を見ると、七つの課題全てで女性の選択割合の方が高くなっており、しかも 5.0 ポイント以上の差があったものが六つ (前は六つの課題中四つ) 存在していた。具体的には、「ネット上の発言が原因となり、さまざまなトラブルが起ること」(女性 72.0%・男性 66.8%) を選んだ者の割合で 5.2 ポイント (前回 5.9 ポイント)、「個人情報の流出を招くこと」(女性 69.3%・男性 57.4%) を選んだ者の割合で 11.9 ポイント (前回 6.3 ポイント)、「さまざまな犯罪に巻き込まれる危険があること」(女性 60.1%・男性 49.7%) を選んだ者の割合で 10.4 ポイント (前回 9.8 ポイント)、「暴力や性に関し、有害な情報や画像が多いこと」(女性 39.2%・男性 32.6%) を選んだ者の割合で 6.6 ポイント (前回 4.1 ポイント)、「年齢に無関係にすべての情報にアクセスできること」(女性 44.7%・男性 33.7%) を選んだ者の割合で 11.0 ポイント (前回 6.5 ポイント)、「子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題」(女性 62.5%・男性 52.1%) を選んだ者の割合で 10.4 ポイント (前回、同様の選択肢なし) である。

七つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが「差別を助長したりあおったりするような表現・情報が多いこと」52.3% (同率 1 位・全体 40.6%)、「41～50 歳」が最大値を示していたのが、「ネット上の発言が原因となり、さまざまなトラブルが起ること」82.9% (全体 69.3%)、「個人情報の流出を招くこと」77.2% (全体 63.5%)、「さまざまな犯罪に巻き込まれる危険があること」65.3% (全体 55.0%)、「暴力や性に関し、有害な情報や画像が多いこと」48.2% (全体 36.0%)、「差別を助長したりあおったりするような表現・情報が多いこと」52.3% (同率 1 位・全体 40.6%) 「年齢に無関係にすべての情報にアクセスできること」46.6% (全体 39.5%) の六項目であり、「51～65 歳」が最大値を示していたのが「子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題」64.4% (全体 57.6%) で、「31～40 歳」と「66 歳以上」が最大値を示していた項目はなく、「子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題」を除く六つの課題全てについて、選んだ割合が最も低いのが「66 歳以上」であった。

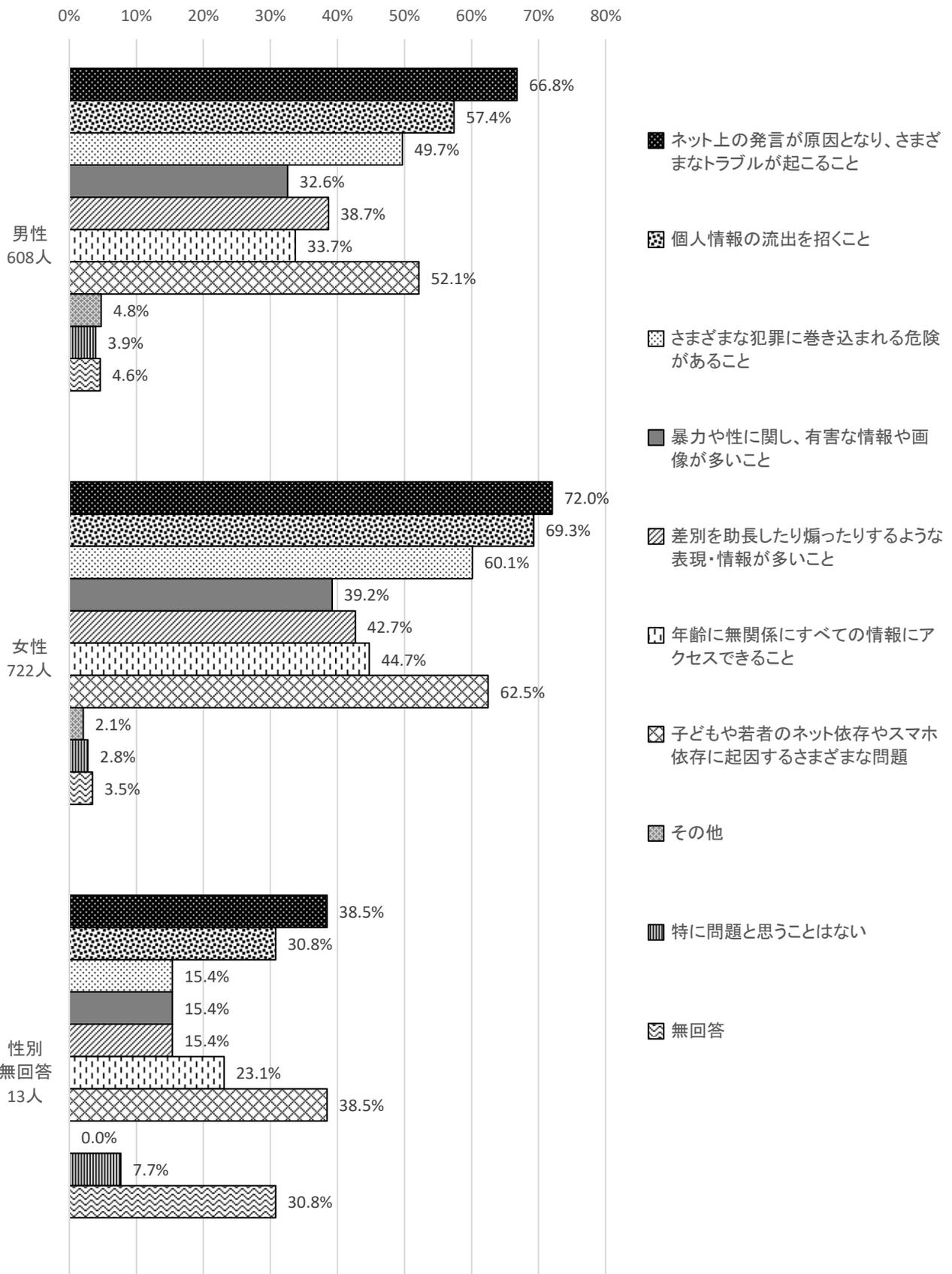
「66 歳以上」の年代の、ネットとの距離が感じられる結果ではあるが、一方で、「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は全体で 3.4% (前回 4.6%)、最大値を示した「66 歳以上」以上の年代でも 6.6% (前回 7.0%) であることから、ネット社会の影響が、全ての年代に広がりつつあることもうかがわせる結果と言える。

問21 インターネット上の人権について(全体)

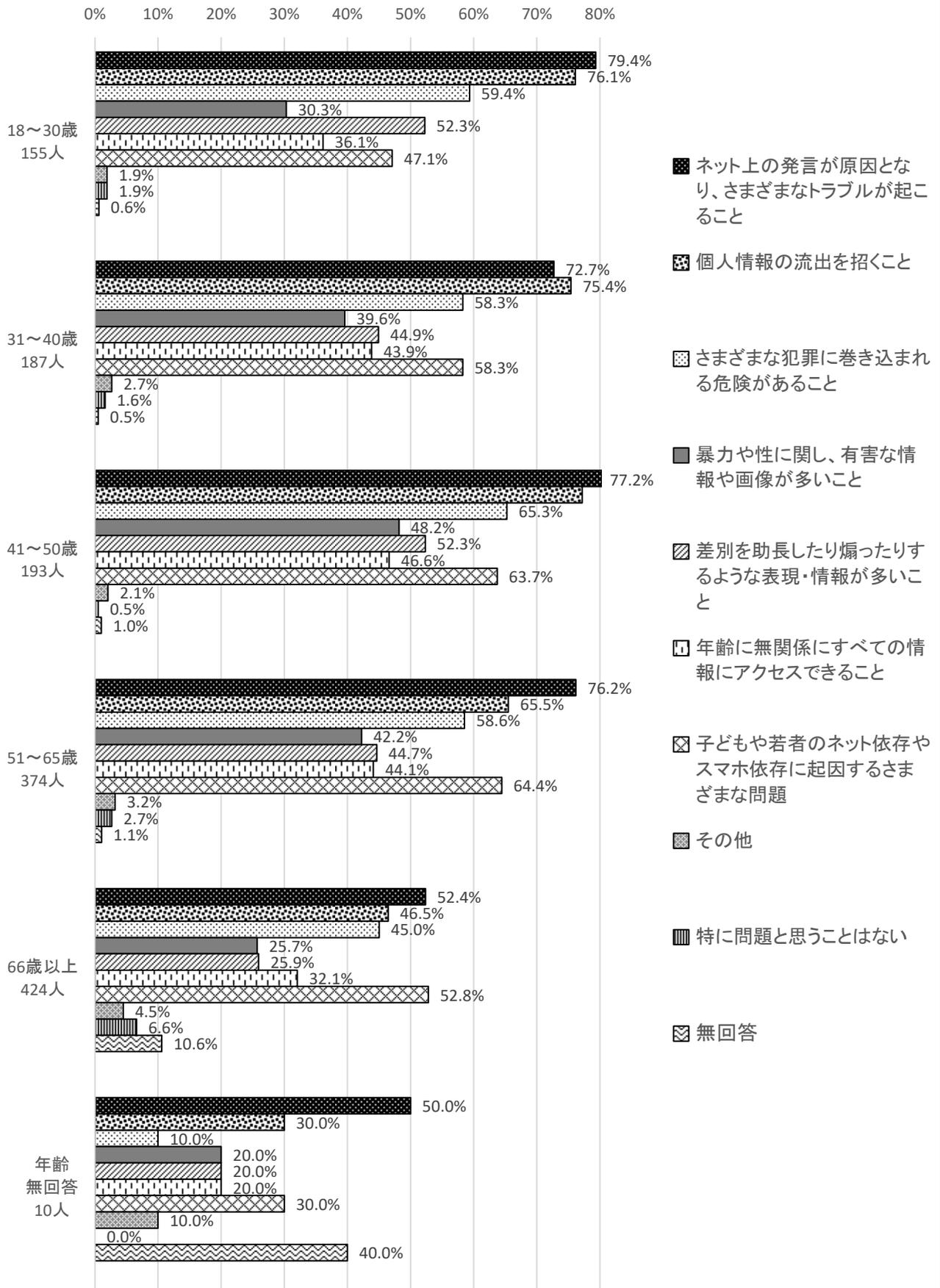


問2 1 複数回答		インターネット上の人権侵害										
		ネット上の発言が原因となり、さまざまなトラブルが起ること	個人情報の流出を招くこと	さまざまな犯罪に巻き込まれる危険があること	暴力や性に関し、有害な情報や画像が多いこと	差別を助長したり煽ったりするような表現・情報が多いこと	年齢に無関係にすべての情報にアクセスできること	子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題	その他	特に問題とすることはない	無回答	
性別	男性	回答人数	406	349	302	198	235	205	317	29	24	28
	608人	性別 内の割合	66.8%	57.4%	49.7%	32.6%	38.7%	33.7%	52.1%	4.8%	3.9%	4.6%
		問21 内の割合	43.6%	40.9%	40.9%	41.0%	43.1%	38.6%	41.0%	65.9%	53.3%	49.1%
女性	回答人数	520	500	434	283	308	323	451	15	20	25	
	722人	性別 内の割合	72.0%	69.3%	60.1%	39.2%	42.7%	44.7%	62.5%	2.1%	2.8%	3.5%
		問21 内の割合	55.9%	58.6%	58.8%	58.6%	56.5%	60.8%	58.3%	34.1%	44.4%	43.9%
性別 無回答	回答人数	5	4	2	2	2	3	5	0	1	4	
	13人	性別 内の割合	38.5%	30.8%	15.4%	15.4%	15.4%	23.1%	38.5%	0.0%	7.7%	30.8%
		問21 内の割合	0.5%	0.5%	0.3%	0.4%	0.4%	0.6%	0.6%	0.0%	2.2%	7.0%
年齢	18～30歳	回答人数	123	118	92	47	81	56	73	3	3	1
	155人	年齢 内の割合	79.4%	76.1%	59.4%	30.3%	52.3%	36.1%	47.1%	1.9%	1.9%	0.6%
		問21 内の割合	13.2%	13.8%	12.5%	9.7%	14.9%	10.5%	9.4%	6.8%	6.7%	1.8%
	31～40歳	回答人数	136	141	109	74	84	82	109	5	3	1
	187人	年齢 内の割合	72.7%	75.4%	58.3%	39.6%	44.9%	43.9%	58.3%	2.7%	1.6%	0.5%
		問21 内の割合	14.6%	16.5%	14.8%	15.3%	15.4%	15.4%	14.1%	11.4%	6.7%	1.8%
	41～50歳	回答人数	160	149	126	93	101	90	123	4	1	2
	193人	年齢 内の割合	82.9%	77.2%	65.3%	48.2%	52.3%	46.6%	63.7%	2.1%	0.5%	1.0%
		問21 内の割合	17.2%	17.5%	17.1%	19.3%	18.5%	16.9%	15.9%	9.1%	2.2%	3.5%
	51～65歳	回答人数	285	245	219	158	167	165	241	12	10	4
	374人	年齢 内の割合	76.2%	65.5%	58.6%	42.2%	44.7%	44.1%	64.4%	3.2%	2.7%	1.1%
		問21 内の割合	30.6%	28.7%	29.7%	32.7%	30.6%	31.1%	31.2%	27.3%	22.2%	7.0%
66歳以上	回答人数	222	197	191	109	110	136	224	19	28	45	
424人	年齢 内の割合	52.4%	46.5%	45.0%	25.7%	25.9%	32.1%	52.8%	4.5%	6.6%	10.6%	
	問21 内の割合	23.8%	23.1%	25.9%	22.6%	20.2%	25.6%	29.0%	43.2%	62.2%	78.9%	
年齢 無回答	回答人数	5	3	1	2	2	2	3	1	0	4	
	10人	年齢 内の割合	50.0%	30.0%	10.0%	20.0%	20.0%	20.0%	30.0%	10.0%	0.0%	40.0%
		問21 内の割合	0.5%	0.4%	0.1%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	2.3%	0.0%	7.0%
校区	福島中	回答人数	199	184	155	112	118	115	163	5	3	12
	271人	校区 内の割合	73.4%	67.9%	57.2%	41.3%	43.5%	42.4%	60.1%	1.8%	1.1%	4.4%
		問21 内の割合	21.4%	21.6%	21.0%	23.2%	21.7%	21.7%	21.1%	11.4%	6.7%	21.1%
	南中	回答人数	142	125	112	68	83	75	105	8	6	4
	189人	校区 内の割合	75.1%	66.1%	59.3%	36.0%	43.9%	39.7%	55.6%	4.2%	3.2%	2.1%
		問21 内の割合	15.3%	14.7%	15.2%	14.1%	15.2%	14.1%	13.6%	18.2%	13.3%	7.0%
	見崎中	回答人数	81	73	63	36	41	47	66	4	3	4
	121人	校区 内の割合	66.9%	60.3%	52.1%	29.8%	33.9%	38.8%	54.5%	3.3%	2.5%	3.3%
		問21 内の割合	8.7%	8.6%	8.5%	7.5%	7.5%	8.9%	8.5%	9.1%	6.7%	7.0%
	西中	回答人数	125	112	105	68	78	67	107	4	9	8
	182人	校区 内の割合	68.7%	61.5%	57.7%	37.4%	42.9%	36.8%	58.8%	2.2%	4.9%	4.4%
		問21 内の割合	13.4%	13.1%	14.2%	14.1%	14.3%	12.6%	13.8%	9.1%	20.0%	14.0%
	黒木中	回答人数	153	134	105	74	90	79	122	9	10	7
	218人	校区 内の割合	70.2%	61.5%	48.2%	33.9%	41.3%	36.2%	56.0%	4.1%	4.6%	3.2%
		問21 内の割合	16.4%	15.7%	14.2%	15.3%	16.5%	14.9%	15.8%	20.5%	22.2%	12.3%
	上陽北浜学園	回答人数	39	35	34	27	23	28	41	4	1	4
	60人	校区 内の割合	65.0%	58.3%	56.7%	45.0%	38.3%	46.7%	68.3%	6.7%	1.7%	6.7%
		問21 内の割合	4.2%	4.1%	4.6%	5.6%	4.2%	5.3%	5.3%	9.1%	2.2%	7.0%
	筑南中	回答人数	45	48	45	32	35	36	41	1	2	4
	70人	校区 内の割合	64.3%	68.6%	64.3%	45.7%	50.0%	51.4%	58.6%	1.4%	2.9%	5.7%
		問21 内の割合	4.8%	5.6%	6.1%	6.6%	6.4%	6.8%	5.3%	2.3%	4.4%	7.0%
	立花中	回答人数	71	68	57	28	30	39	58	1	4	4
	108人	校区 内の割合	65.7%	63.0%	52.8%	25.9%	27.8%	36.1%	53.7%	0.9%	3.7%	3.7%
		問21 内の割合	7.6%	8.0%	7.7%	5.8%	5.5%	7.3%	7.5%	2.3%	8.9%	7.0%
矢部清流学園	回答人数	13	11	11	9	10	4	13	1	1	1	
18人	校区 内の割合	72.2%	61.1%	61.1%	50.0%	55.6%	22.2%	72.2%	5.6%	5.6%	5.6%	
	問21 内の割合	1.4%	1.3%	1.5%	1.9%	1.8%	0.8%	1.7%	2.3%	2.2%	1.8%	
星野中	回答人数	42	40	37	19	26	26	39	5	4	3	
64人	校区 内の割合	65.6%	62.5%	57.8%	29.7%	40.6%	40.6%	60.9%	7.8%	6.3%	4.7%	
	問21 内の割合	4.5%	4.7%	5.0%	3.9%	4.8%	4.9%	5.0%	11.4%	8.9%	5.3%	
校区不明	回答人数	12	15	9	5	7	9	10	2	2	0	
24人	校区 内の割合	50.0%	62.5%	37.5%	20.8%	29.2%	37.5%	41.7%	8.3%	8.3%	0.0%	
	問21 内の割合	1.3%	1.8%	1.2%	1.0%	1.3%	1.7%	1.3%	4.5%	4.4%	0.0%	
校区 無回答	回答人数	9	8	5	5	4	6	8	0	0	6	
18人	校区 内の割合	50.0%	44.4%	27.8%	27.8%	22.2%	33.3%	44.4%	0.0%	0.0%	33.3%	
	問21 内の割合	1.0%	0.9%	0.7%	1.0%	0.7%	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%	10.5%	
合計	回答人数	931	853	738	483	545	531	773	44	45	57	
1343人	合計に対する割合	69.3%	63.5%	55.0%	36.0%	40.6%	39.5%	57.6%	3.3%	3.4%	4.2%	

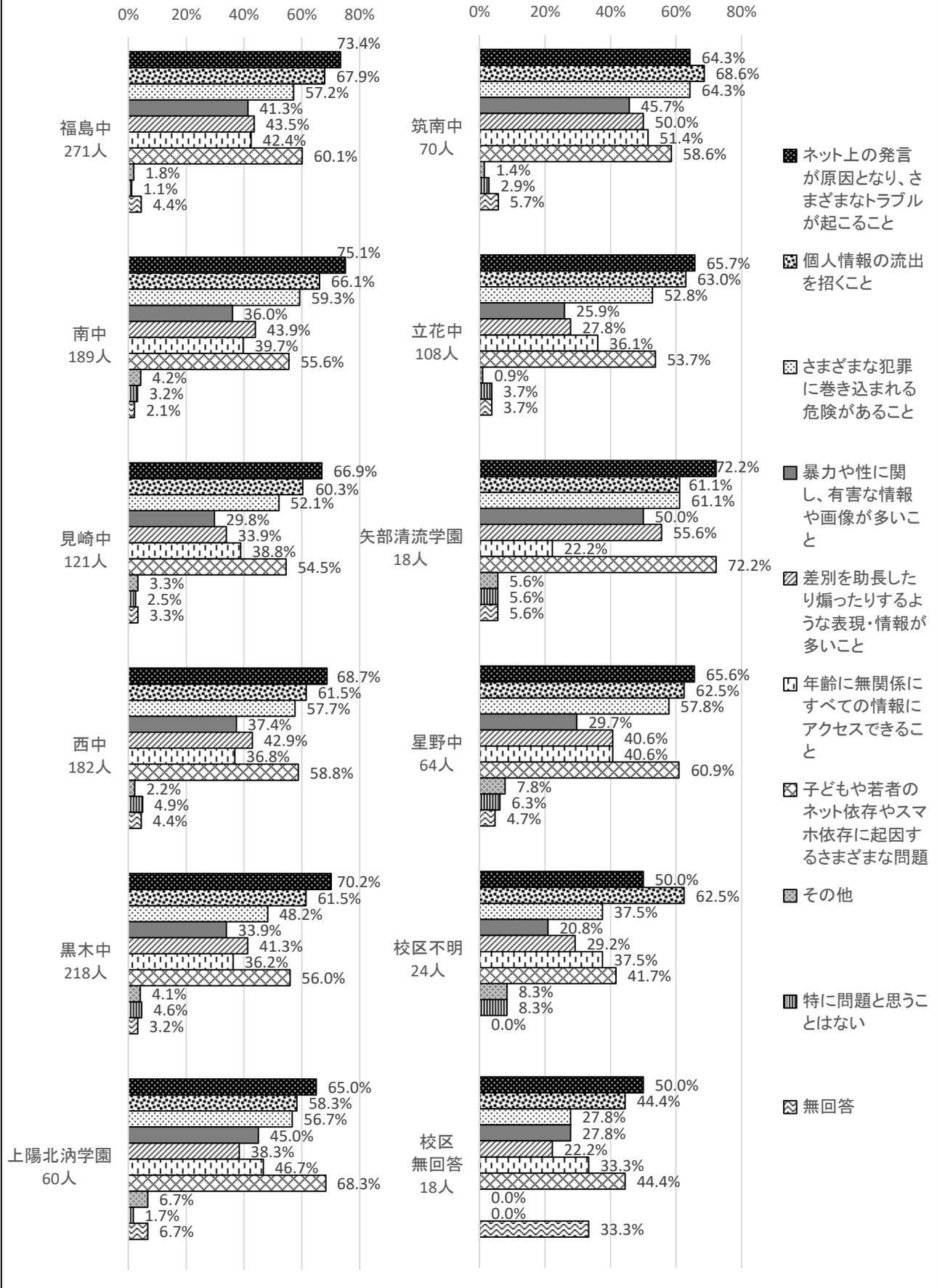
問21 インターネット上の人権について(性別)



問21 インターネット上の人権について(年齢別)



問21 インターネット上の人権について(校区别)



問 22 「性自認（こころの性）」や「性的指向（異性愛・同性愛・両性愛等）」に起因する、性的少数者の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

今回の調査で、新たに加えられた設問である。

「性的少数者の問題に関する正しい知識を得る機会が存在しないこと」を選んだ者の割合が 46.3%と最も多く、次いで「当事者が自身の問題について相談できる人や場所が存在しないことが多いこと」の 40.3%、「性的少数者への理解を広げるような啓発や教育が不十分なこと」の 32.7%、「家族や学校の先生が、性的少数者の問題に無理解な場合が多いこと」の 30.7%であった。

「正しい知識を得る機会」として、あるいは、「家族や学校の先生」が「相談できる人」であるための「啓発や教育」の重要性を、ここから読み取ることができる。

性別の回答傾向を見ると、八つの課題全てで女性の選択割合の方が高くなっており、しかも 5.0 ポイント以上の差があったものが六つ存在していた。具体的には、「当事者が自身の問題について相談できる人や場所が存在しないことが多いこと」（女性 43.9%・男性 36.5%）を選んだ者の割合で 7.4 ポイント、「当事者の成長過程において役割モデルとなる人が存在しないことが多いこと」（女性 20.6%・男性 13.2%）を選んだ者の割合で 7.4 ポイント、「家族や学校の先生が、性的少数者の問題に無理解な場合が多いこと」（女性 34.8%・男性 26.2%）を選んだ者の割合で 8.6 ポイント、「性的少数者は、病気や異常だと誤解している人が多いこと」（女性 32.0%・男性 24.5%）を選んだ者の割合で 7.5 ポイント、「性的少数者への理解を広げるような啓発や教育が不十分なこと」（女性 36.1%・男性 28.8%）を選んだ者の割合で 7.3 ポイント、「性的少数者の人権を保障するための法律や制度が整備されていないこと」（女性 33.1%・男性 25.2%）を選んだ者の割合で 7.9 ポイントである。

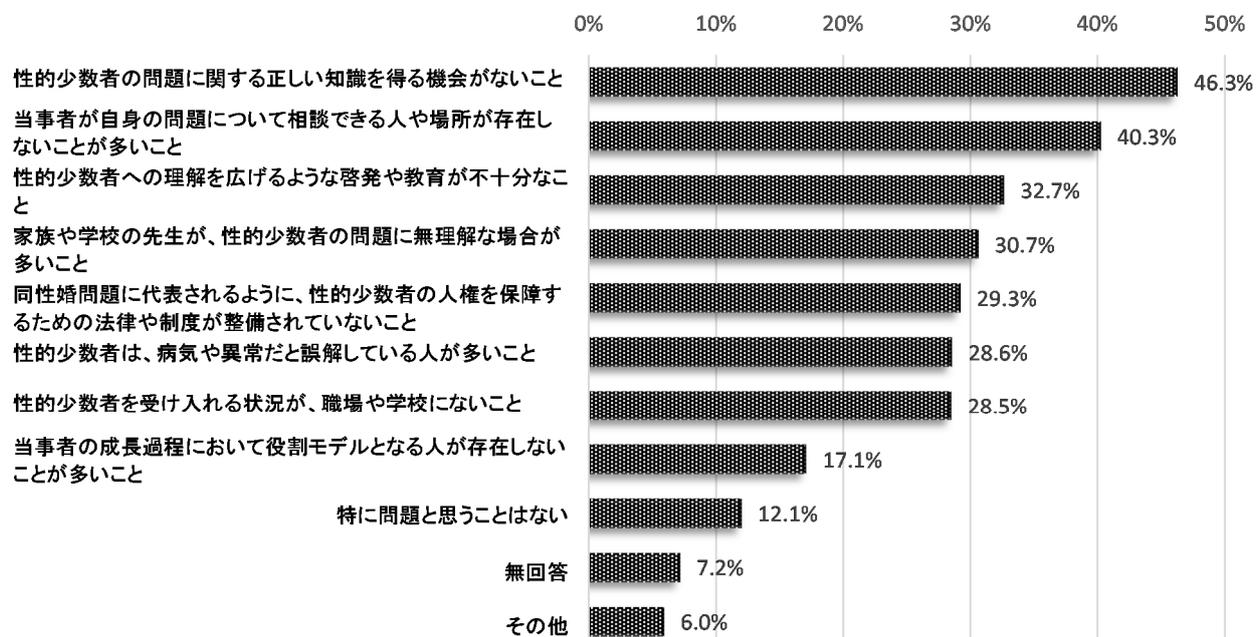
「性的少数者の人権」に関わる問題は、「女性の人権」とりわけ「ジェンダー」の問題とも深く関連していることもあって、このような関心の違いが生まれているものと思われる。

八つの具体的課題を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「性的少数者は、病気や異常だと誤解している人が多いこと」36.1%（全体 28.6%）、「性的少数者の人権を保障するための法律や制度が整備されていないこと」39.4%（全体 29.3%）、「31～40 歳」が最大値を示していたのが、「当事者の成長過程において役割モデルとなる人が存在しないことが多いこと」21.9%（全体 17.1%）、「家族や学校の先生が、性的少数者の問題に無理解な場合が多いこと」42.2%（全体 30.7%）、「性的少数者を受け入れる状況が、職場や学校にないこと」38.5%（全体 28.5%）、「性的少数者への理解を広げるような啓発や教育が不十分なこと」43.9%（全体 32.7%）、「41～50 歳」が最大値を示していたのが、「当事者が自身の問題について相談できる人や場所が存在しないことが多いこと」52.8%（全体 40.3%）、「性的少数者の問題に関する正しい知識を得る機会が存在しないこと」55.4%（全体 46.3%）で、「51～65 歳」と「66 歳以上」が最大値を示していた項目はなく、八つの課題全てについて、選んだ割合が最も低いのが「66 歳以上」であった。年代による関心の高低を、はっきりと示している結果である。

また、「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合は全体で 12.1%、最小値を示した「31～40 歳」の年代でも 8.0%、最大値を示した「66 歳以上」以上の年代では 16.5%で

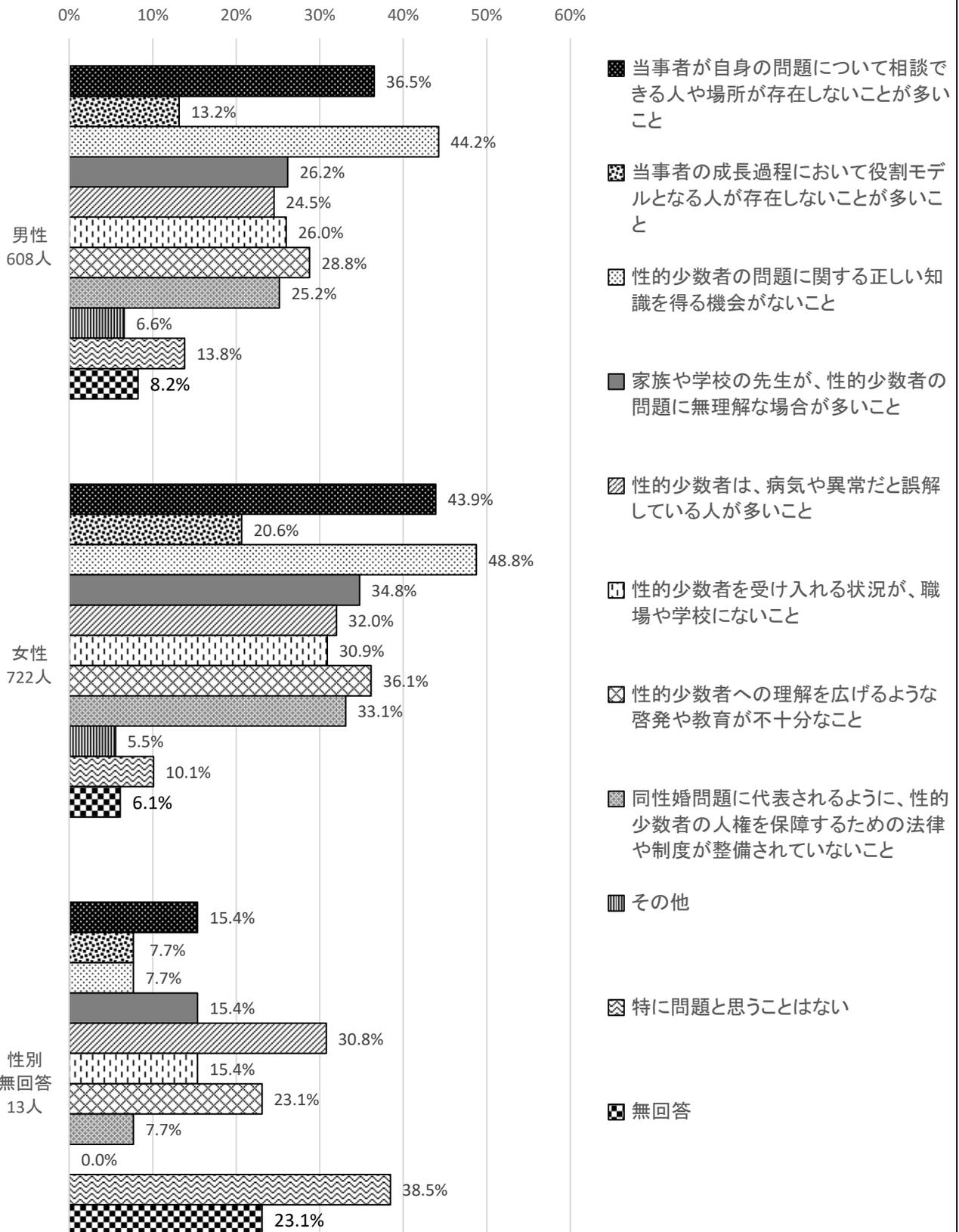
あることから、市民全体の関心を高め、基本的知識や理解を広めていくための教育や啓発に、しっかりと取り組む必要があると言える。

問22 性的少数者の人権について(全体)

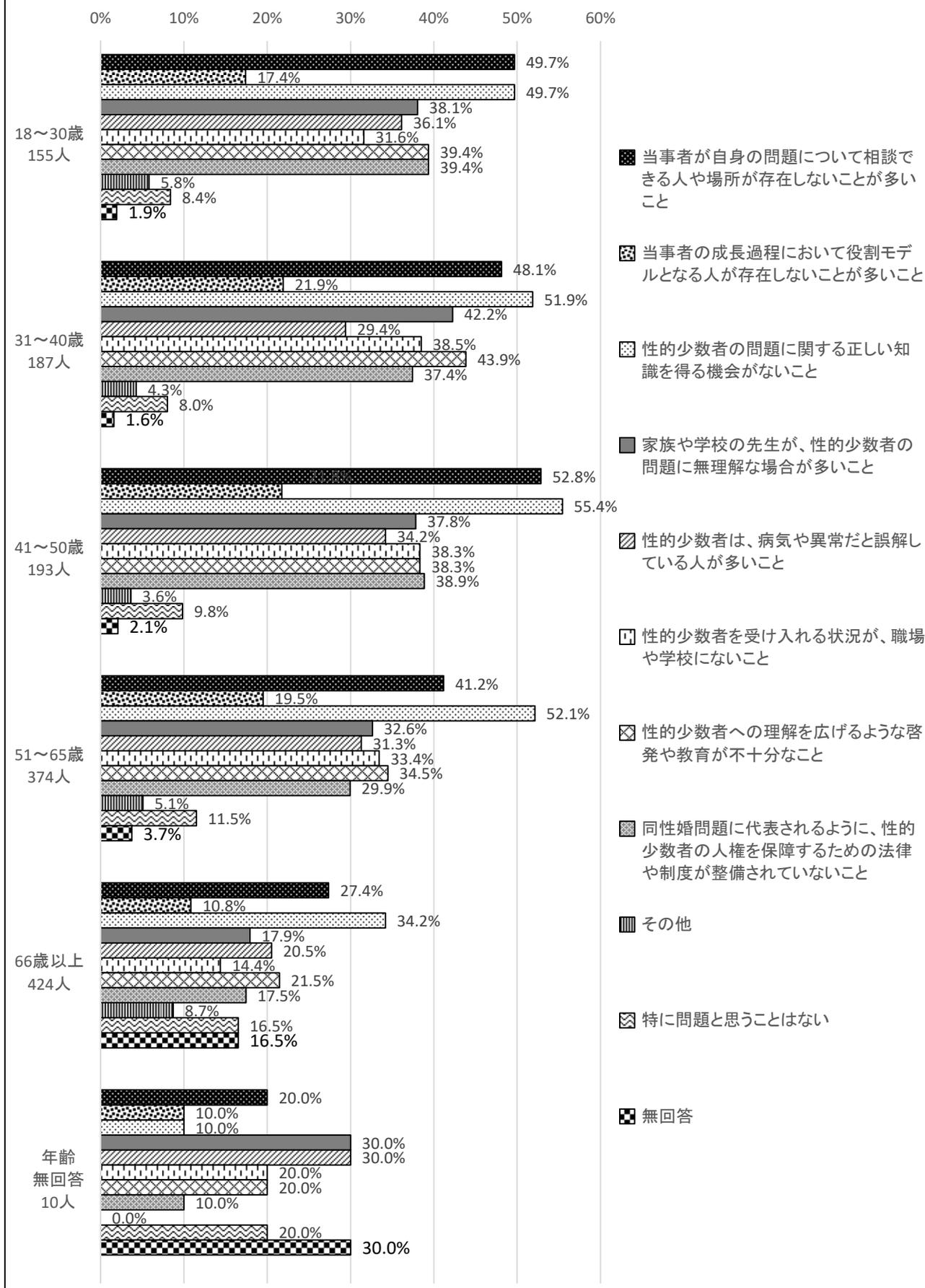


問2 2 複数回答			性的少数者の人権問題										
			当事者が自身の問題について相談できる人や場所が存在しないことが多いこと	当事者の成長過程において役割モデルとなる人が存在しないことが多いこと	性的少数者の問題に関する正しい知識を得る機会がないこと	家族や学校の先生が、性的少数者の問題に理解がないことが多いこと	性的少数者は、病気や異常だと誤解している人が多いこと	性的少数者を受け入れる状況が、職場や学校にないこと	性的少数者への理解を広げるような啓発や教育が不十分なこと	同性婚問題に代表されるように、性的少数者の人権を保障するための法律や制度が整備されていないこと	その他	特に問題と思うことはない	無回答
性別	男性	回答人数	222	80	269	159	149	158	175	153	40	84	50
	608人	性別内の割合	36.5%	13.2%	44.2%	26.2%	24.5%	26.0%	28.8%	25.2%	6.6%	13.8%	8.2%
		問22内の割合	41.0%	34.8%	43.2%	38.6%	38.8%	41.3%	39.9%	38.9%	50.0%	51.9%	51.5%
女性	回答人数	317	149	352	251	231	223	261	239	40	73	44	
	722人	性別内の割合	43.9%	20.6%	48.8%	34.8%	32.0%	30.9%	36.1%	33.1%	5.5%	10.1%	6.1%
		問22内の割合	58.6%	64.8%	56.6%	60.9%	60.2%	58.2%	59.5%	60.8%	50.0%	45.1%	45.4%
性別 無回答	回答人数	2	1	1	2	4	2	3	1	0	5	3	
	13人	性別内の割合	15.4%	7.7%	7.7%	15.4%	30.8%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%	38.5%	23.1%
		問22内の割合	0.4%	0.4%	0.2%	0.5%	1.0%	0.5%	0.7%	0.3%	0.0%	3.1%	3.1%
年齢	18～30歳	回答人数	77	27	77	59	56	49	61	61	9	13	3
	155人	年齢内の割合	49.7%	17.4%	49.7%	38.1%	36.1%	31.6%	39.4%	39.4%	5.8%	8.4%	1.9%
		問22内の割合	14.2%	11.7%	12.4%	14.3%	14.6%	12.8%	13.9%	15.5%	11.3%	8.0%	3.1%
	31～40歳	回答人数	90	41	97	79	55	72	82	70	8	15	3
	187人	年齢内の割合	48.1%	21.9%	51.9%	42.2%	29.4%	38.5%	43.9%	37.4%	4.3%	8.0%	1.6%
		問22内の割合	16.6%	17.8%	15.6%	19.2%	14.3%	18.8%	18.7%	17.8%	10.0%	9.3%	3.1%
	41～50歳	回答人数	102	42	107	73	66	74	74	75	7	19	4
	193人	年齢内の割合	52.8%	21.8%	55.4%	37.8%	34.2%	38.3%	38.3%	38.9%	3.6%	9.8%	2.1%
		問22内の割合	18.9%	18.3%	17.2%	17.7%	17.2%	19.3%	16.9%	19.1%	8.8%	11.7%	4.1%
	51～65歳	回答人数	154	73	195	122	117	125	129	112	19	43	14
	374人	年齢内の割合	41.2%	19.5%	52.1%	32.6%	31.3%	33.4%	34.5%	29.9%	5.1%	11.5%	3.7%
		問22内の割合	28.5%	31.7%	31.4%	29.6%	30.5%	32.6%	29.4%	28.5%	23.8%	26.5%	14.4%
	66歳以上	回答人数	116	46	145	76	87	61	91	74	37	70	70
	424人	年齢内の割合	27.4%	10.8%	34.2%	17.9%	20.5%	14.4%	21.5%	17.5%	8.7%	16.5%	16.5%
		問22内の割合	21.4%	20.0%	23.3%	18.4%	22.7%	15.9%	20.7%	18.8%	46.3%	43.2%	72.2%
年齢 無回答	回答人数	2	1	1	3	3	2	2	1	0	2	3	
10人	年齢内の割合	20.0%	10.0%	10.0%	30.0%	30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	0.0%	20.0%	30.0%	
	問22内の割合	0.4%	0.4%	0.2%	0.7%	0.8%	0.5%	0.5%	0.3%	0.0%	1.2%	3.1%	
校区	福島中	回答人数	120	40	140	87	78	86	103	80	11	30	17
	271人	校区内の割合	44.3%	14.8%	51.7%	32.1%	28.8%	31.7%	38.0%	29.5%	4.1%	11.1%	6.3%
		問22内の割合	22.2%	17.4%	22.5%	21.1%	20.3%	22.5%	23.5%	20.4%	13.8%	18.5%	17.5%
	南中	回答人数	82	38	83	69	59	58	70	61	12	18	12
	189人	校区内の割合	43.4%	20.1%	43.9%	36.5%	31.2%	30.7%	37.0%	32.3%	6.3%	9.5%	6.3%
		問22内の割合	15.2%	16.5%	13.3%	16.7%	15.4%	15.1%	15.9%	15.5%	15.0%	11.1%	12.4%
	見崎中	回答人数	53	24	56	37	33	36	39	44	8	9	10
	121人	校区内の割合	43.8%	19.8%	46.3%	30.6%	27.3%	29.8%	32.2%	36.4%	6.6%	7.4%	8.3%
		問22内の割合	9.8%	10.4%	9.0%	9.0%	8.6%	9.4%	8.9%	11.2%	10.0%	5.6%	10.3%
	西中	回答人数	67	33	78	44	50	38	57	56	10	24	14
	182人	校区内の割合	36.8%	18.1%	42.9%	24.2%	27.5%	20.9%	31.3%	30.8%	5.5%	13.2%	7.7%
		問22内の割合	12.4%	14.3%	12.5%	10.7%	13.0%	9.9%	13.0%	14.2%	12.5%	14.8%	14.4%
	黒木中	回答人数	90	38	105	69	69	63	61	55	12	36	11
	218人	校区内の割合	41.3%	17.4%	48.2%	31.7%	31.7%	28.9%	28.0%	25.2%	5.5%	16.5%	5.0%
		問22内の割合	16.6%	16.5%	16.9%	16.7%	18.0%	16.4%	13.9%	14.0%	15.0%	22.2%	11.3%
	上陽北浜学園	回答人数	23	13	28	18	15	22	17	16	6	11	6
	60人	校区内の割合	38.3%	21.7%	46.7%	30.0%	25.0%	36.7%	28.3%	26.7%	10.0%	18.3%	10.0%
		問22内の割合	4.3%	5.7%	4.5%	4.4%	3.9%	5.7%	3.9%	4.1%	7.5%	6.8%	6.2%
	筑南中	回答人数	30	10	37	19	19	19	22	26	4	5	6
	70人	校区内の割合	42.9%	14.3%	52.9%	27.1%	27.1%	27.1%	31.4%	37.1%	5.7%	7.1%	8.6%
		問22内の割合	5.5%	4.3%	5.9%	4.6%	4.9%	5.0%	5.0%	6.6%	5.0%	3.1%	6.2%
	立花中	回答人数	35	16	43	30	24	28	30	20	7	8	10
	108人	校区内の割合	32.4%	14.8%	39.8%	27.8%	22.2%	25.9%	27.8%	18.5%	6.5%	7.4%	9.3%
		問22内の割合	6.5%	7.0%	6.9%	7.3%	6.3%	7.3%	6.8%	5.1%	8.8%	4.9%	10.3%
	矢部清流学園	回答人数	8	1	7	4	9	6	8	8	0	2	2
	18人	校区内の割合	44.4%	5.6%	38.9%	22.2%	50.0%	33.3%	44.4%	44.4%	0.0%	11.1%	11.1%
		問22内の割合	1.5%	0.4%	1.1%	1.0%	2.3%	1.6%	1.8%	2.0%	0.0%	1.2%	2.1%
星野中	回答人数	18	10	29	19	17	15	22	18	8	9	5	
64人	校区内の割合	28.1%	15.6%	45.3%	29.7%	26.6%	23.4%	34.4%	28.1%	12.5%	14.1%	7.8%	
	問22内の割合	3.3%	4.3%	4.7%	4.6%	4.4%	3.9%	5.0%	4.6%	10.0%	5.6%	5.2%	
校区不明	回答人数	10	5	12	12	6	9	7	7	1	6	0	
24人	校区内の割合	41.7%	20.8%	50.0%	50.0%	25.0%	37.5%	29.2%	29.2%	4.2%	25.0%	0.0%	
	問22内の割合	1.8%	2.2%	1.9%	2.9%	1.6%	2.3%	1.6%	1.8%	1.3%	3.7%	0.0%	
校区 無回答	回答人数	5	2	4	4	5	3	3	2	1	4	4	
18人	校区内の割合	27.8%	11.1%	22.2%	22.2%	27.8%	16.7%	16.7%	11.1%	5.6%	22.2%	22.2%	
	問22内の割合	0.9%	0.9%	0.6%	1.0%	1.3%	0.8%	0.7%	0.5%	1.3%	2.5%	4.1%	
合計	回答人数	541	230	622	412	384	383	439	393	80	162	97	
1343人	合計に対する割合	40.3%	17.1%	46.3%	30.7%	28.6%	28.5%	32.7%	29.3%	6.0%	12.1%	7.2%	

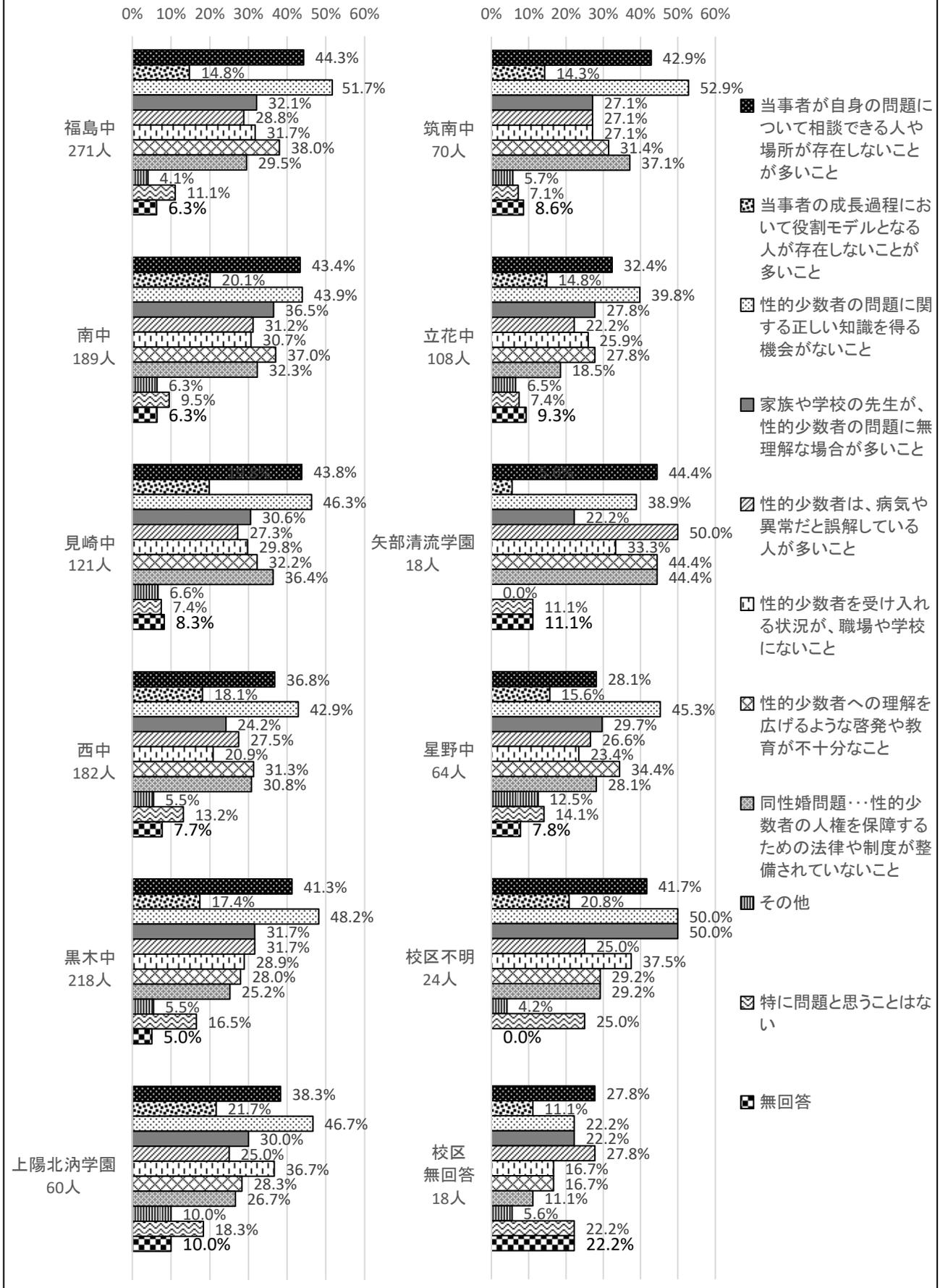
問22 性的少数者の人権について(性別)



問22 性的少数者の人権について(年齢別)



問22 性的少数者の人権について(校区別)



＜ さまざまな人権問題に関するまとめ ＞

- ① 同和問題も含め、それぞれの人権問題に関する興味・関心の高さは、下記のように「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合を比較するとよく分かる。また、「無回答」者の多少は、その問題に関する情報の多少に影響されていると思われる。

	問題なし		無回答	
	今回	前回	今回	前回
「同和問題」	20.2%	21.6%	3.6%	5.3%
「女性の人権」	14.8%	18.1%	3.6%	5.7%
「子どもの人権」	2.9%	3.8%	2.1%	3.1%
「高齢者の人権」	2.6%	3.2%	2.6%	3.3%
「障がい者の人権」	8.6%	10.6%	5.1%	7.0%
「外国人の人権」	16.6%	20.5%	7.5%	10.5%
「インターネット上の人権」	3.4%	4.6%	4.2%	7.2%
「性的少数者の人権」	12.1%	未調査	7.2%	未調査

- ② 「問題であること」を問う設問で「特に問題と思うことはない」と回答した者の性別の割合は、下記のようになっている。

	男 性		女 性	
	今回	前回	今回	前回
「同和問題」	23.5%	25.0%	17.2%	18.9%
「女性の人権」	18.8%	23.5%	11.4%	13.5%
「子どもの人権」	3.8%	5.5%	1.9%	2.5%
「高齢者の人権」	3.0%	4.4%	2.2%	2.2%
「障がい者の人権」	9.4%	12.9%	7.6%	8.7%
「外国人の人権」	16.9%	23.0%	15.9%	18.2%
「インターネット上の人権」	3.9%	5.6%	2.8%	3.8%
「性的少数者の人権」	13.8%	未調査	10.1%	未調査

- ③ 「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合が、男女ともに減少しており、無回答者の割合もまた減少している。また、人権問題に対する関心は、女性の方が高い傾向にあるのだが、その性差も徐々に縮まりつつあることから、市民の人権問題に対する

関心が、確実に高まってきていることが分かる。この要因としては、人権・同和教育を受けて育った世代と、そうでない世代の世代交代が徐々に進んでいること、社会全体の人権意識の高まりとともに、マスコミ等を通じて人権問題に関する知識や情報に接することが日常化してきたこと（マスコミで取り上げられる頻度の差が、それぞれの人権課題の数字に反映している）、行政による啓発の取組の蓄積といったことが考えられる。

したがって、「特に問題と思うことはない」と回答した者の割合が多い人権課題、性別の回答傾向の差が大きい人権課題を意識して、今後の教育や啓発に取り組むことが、重要である。

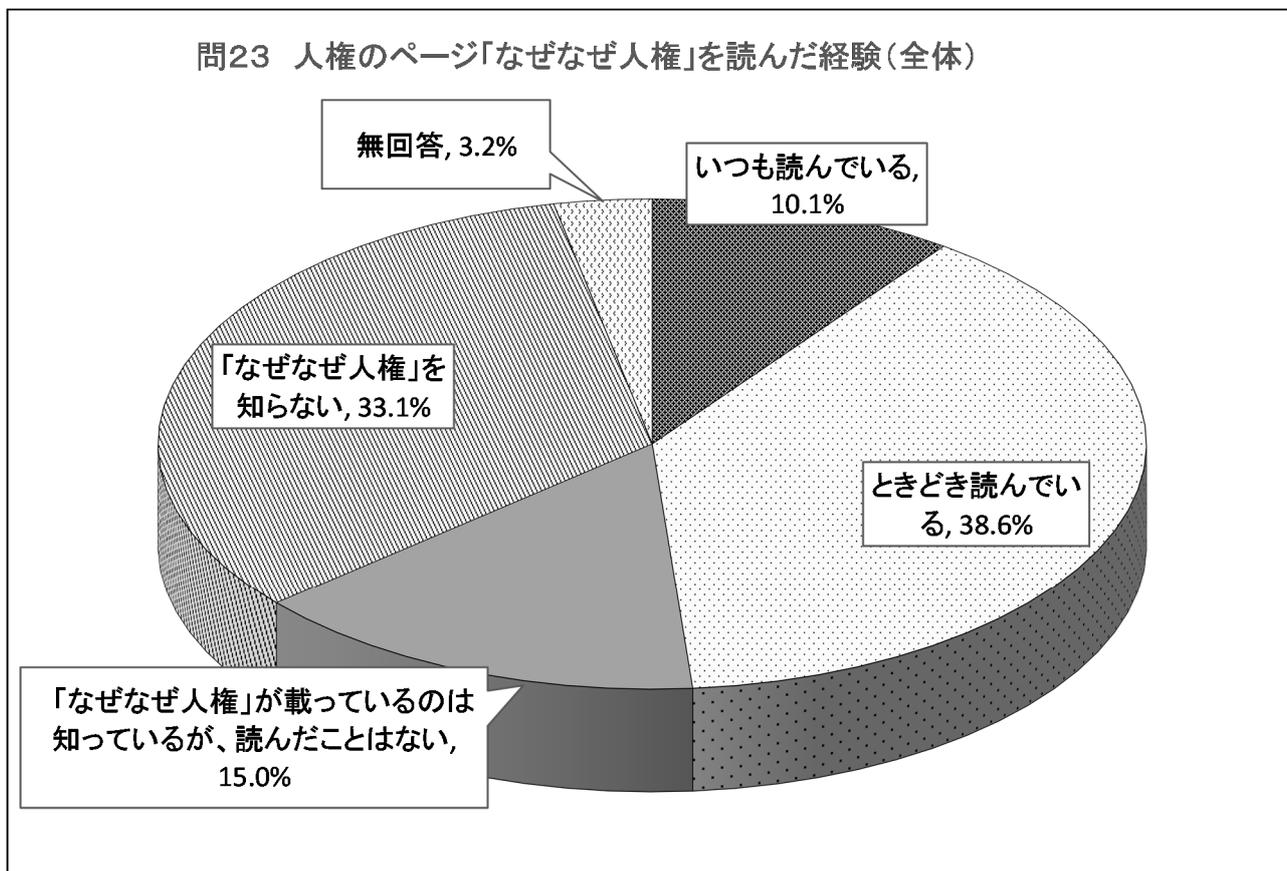
Ⅳ 市が行っている啓発活動についておたずねします。

問 23 あなたは、市が発行している「広報八女」に掲載されている人権のページ「なぜなぜ人権」を読んだことがありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

「知っているが、読んだことはない」と回答した者の割合が 15.0% (前回 14.2%)、『「なぜなぜ人権」を知らない』と回答した者の割合が 33.1% (前回 33.0%) あった。無回答の 3.2% (前回 3.7%) を合わせて考えると、「なぜなぜ人権」を読んでいる者は、市民のほぼ半数ということになる。これは、前回とほぼ同じ結果である。

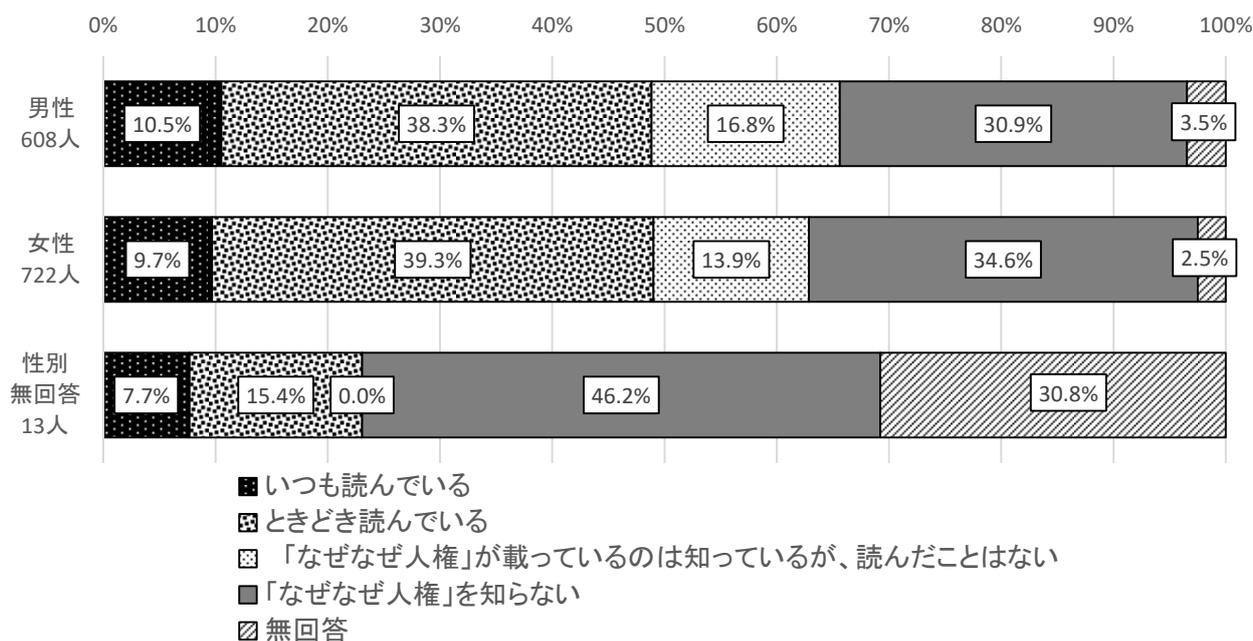
性別の回答傾向に大きな差は見られないが、年齢別の回答傾向を見ると、『「なぜなぜ人権」を知らない』と回答した者の割合が「18～30 歳」が 60.0% (前回 64.3%)、「31～40 歳」が 51.9% (前回 49.5%) と高くなっており、その分「なぜなぜ人権」を「いつも読んでいる」と「ときどき読んでいる」と回答した者の合計の割合が、「18～30 歳」では 26.4% (前回 23.6%)、「31～40 歳」が 34.2% (前回 37.9%) にとどまっている。この状況も、前回と同じである。

デジタル化も含めた、若い年代に対する広報活動について、さらなる工夫が必要であろう。

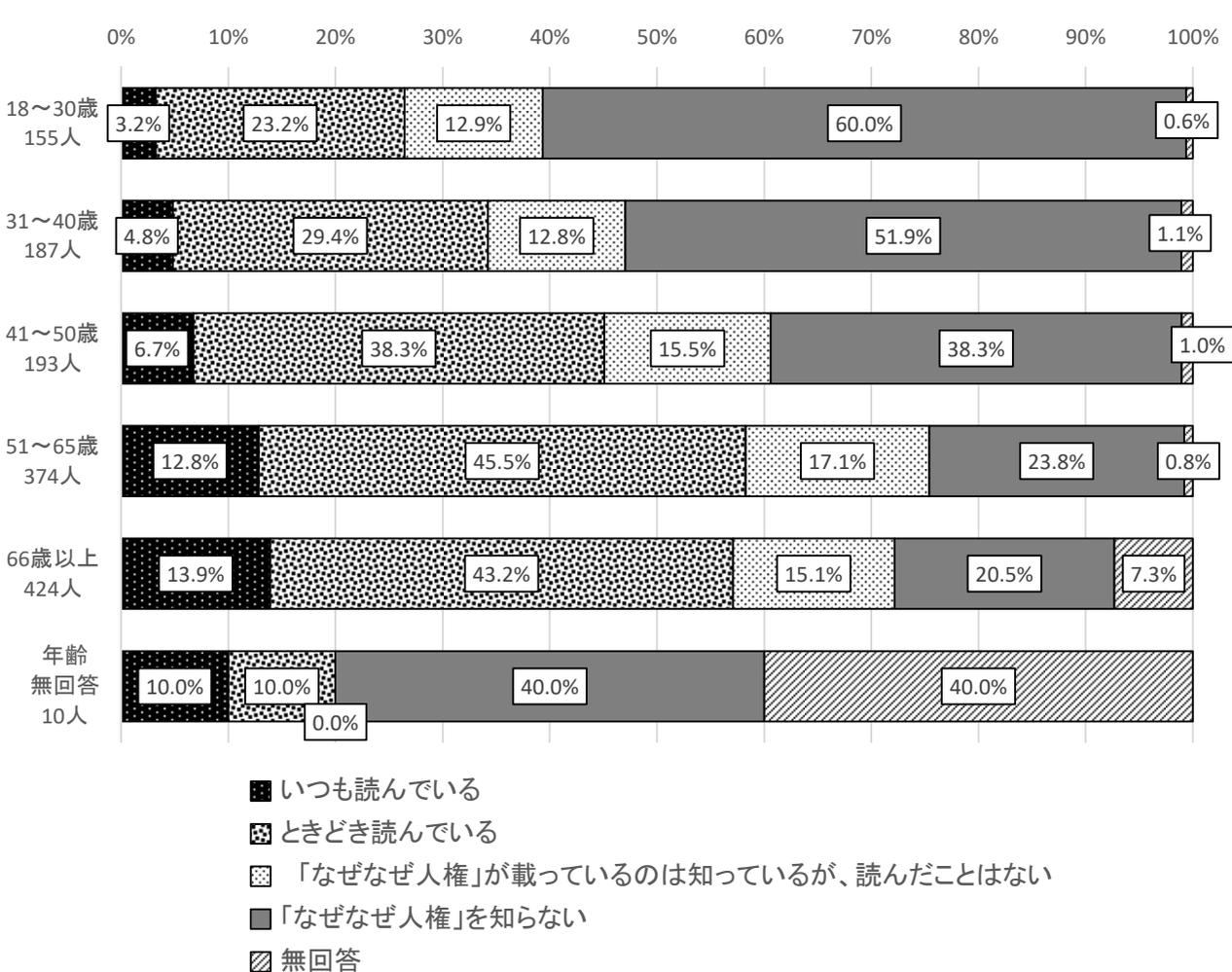


問23		人権のページ「なぜなぜ人権」を読んだ経験					
		いつも読んでいる	ときどき読んでいる	「なぜなぜ人権」が載っているのは知っているが、読んだことはない	「なぜなぜ人権」を知らない	無回答	
性別	男性	回答人数	64	233	102	188	21
	608人	性別 内の割合	10.5%	38.3%	16.8%	30.9%	3.5%
		問23 内の割合	47.4%	44.9%	50.5%	42.3%	48.8%
女性	女性	回答人数	70	284	100	250	18
	722人	性別 内の割合	9.7%	39.3%	13.9%	34.6%	2.5%
		問23 内の割合	51.9%	54.7%	49.5%	56.3%	41.9%
性別 無回答	無回答	回答人数	1	2	0	6	4
	13人	性別 内の割合	7.7%	15.4%	0.0%	46.2%	30.8%
		問23 内の割合	0.7%	0.4%	0.0%	1.4%	9.3%
年齢	18～30歳	回答人数	5	36	20	93	1
	155人	年齢 内の割合	3.2%	23.2%	12.9%	60.0%	0.6%
		問23 内の割合	3.7%	6.9%	9.9%	20.9%	2.3%
	31～40歳	回答人数	9	55	24	97	2
	187人	年齢 内の割合	4.8%	29.4%	12.8%	51.9%	1.1%
		問23 内の割合	6.7%	10.6%	11.9%	21.8%	4.7%
	41～50歳	回答人数	13	74	30	74	2
	193人	年齢 内の割合	6.7%	38.3%	15.5%	38.3%	1.0%
		問23 内の割合	9.6%	14.3%	14.9%	16.7%	4.7%
	51～65歳	回答人数	48	170	64	89	3
	374人	年齢 内の割合	12.8%	45.5%	17.1%	23.8%	0.8%
		問23 内の割合	35.6%	32.8%	31.7%	20.0%	7.0%
	66歳以上	回答人数	59	183	64	87	31
	424人	年齢 内の割合	13.9%	43.2%	15.1%	20.5%	7.3%
		問23 内の割合	43.7%	35.3%	31.7%	19.6%	72.1%
年齢 無回答	無回答	回答人数	1	1	0	4	4
	10人	年齢 内の割合	10.0%	10.0%	0.0%	40.0%	40.0%
		問23 内の割合	0.7%	0.2%	0.0%	0.9%	9.3%
校区	福島中	回答人数	28	105	39	92	7
	271人	校区 内の割合	10.3%	38.7%	14.4%	33.9%	2.6%
		問23 内の割合	20.7%	20.2%	19.3%	20.7%	16.3%
	南中	回答人数	18	81	27	60	3
	189人	校区 内の割合	9.5%	42.9%	14.3%	31.7%	1.6%
		問23 内の割合	13.3%	15.6%	13.4%	13.5%	7.0%
	見崎中	回答人数	8	56	18	35	4
	121人	校区 内の割合	6.6%	46.3%	14.9%	28.9%	3.3%
		問23 内の割合	5.9%	10.8%	8.9%	7.9%	9.3%
	西中	回答人数	22	81	26	45	8
	182人	校区 内の割合	12.1%	44.5%	14.3%	24.7%	4.4%
		問23 内の割合	16.3%	15.6%	12.9%	10.1%	18.6%
	黒木中	回答人数	22	79	32	80	5
	218人	校区 内の割合	10.1%	36.2%	14.7%	36.7%	2.3%
		問23 内の割合	16.3%	15.2%	15.8%	18.0%	11.6%
	上陽北浜学園	回答人数	9	20	8	21	2
	60人	校区 内の割合	15.0%	33.3%	13.3%	35.0%	3.3%
		問23 内の割合	6.7%	3.9%	4.0%	4.7%	4.7%
	筑南中	回答人数	9	22	12	23	4
	70人	校区 内の割合	12.9%	31.4%	17.1%	32.9%	5.7%
		問23 内の割合	6.7%	4.2%	5.9%	5.2%	9.3%
	立花中	回答人数	11	40	20	34	3
	108人	校区 内の割合	10.2%	37.0%	18.5%	31.5%	2.8%
		問23 内の割合	8.1%	7.7%	9.9%	7.7%	7.0%
	矢部清流学園	回答人数	2	8	1	6	1
	18人	校区 内の割合	11.1%	44.4%	5.6%	33.3%	5.6%
		問23 内の割合	1.5%	1.5%	0.5%	1.4%	2.3%
星野中	回答人数	5	21	12	25	1	
64人	校区 内の割合	7.8%	32.8%	18.8%	39.1%	1.6%	
	問23 内の割合	3.7%	4.0%	5.9%	5.6%	2.3%	
校区不明	回答人数	0	3	5	16	0	
24人	校区 内の割合	0.0%	12.5%	20.8%	66.7%	0.0%	
	問23 内の割合	0.0%	0.6%	2.5%	3.6%	0.0%	
校区 無回答	無回答	回答人数	1	3	2	7	5
18人	校区 内の割合	5.6%	16.7%	11.1%	38.9%	27.8%	
	問23 内の割合	0.7%	0.6%	1.0%	1.6%	11.6%	
合計	回答人数	135	519	202	444	43	
1343人	合計に対する割合	10.1%	38.6%	15.0%	33.1%	3.2%	

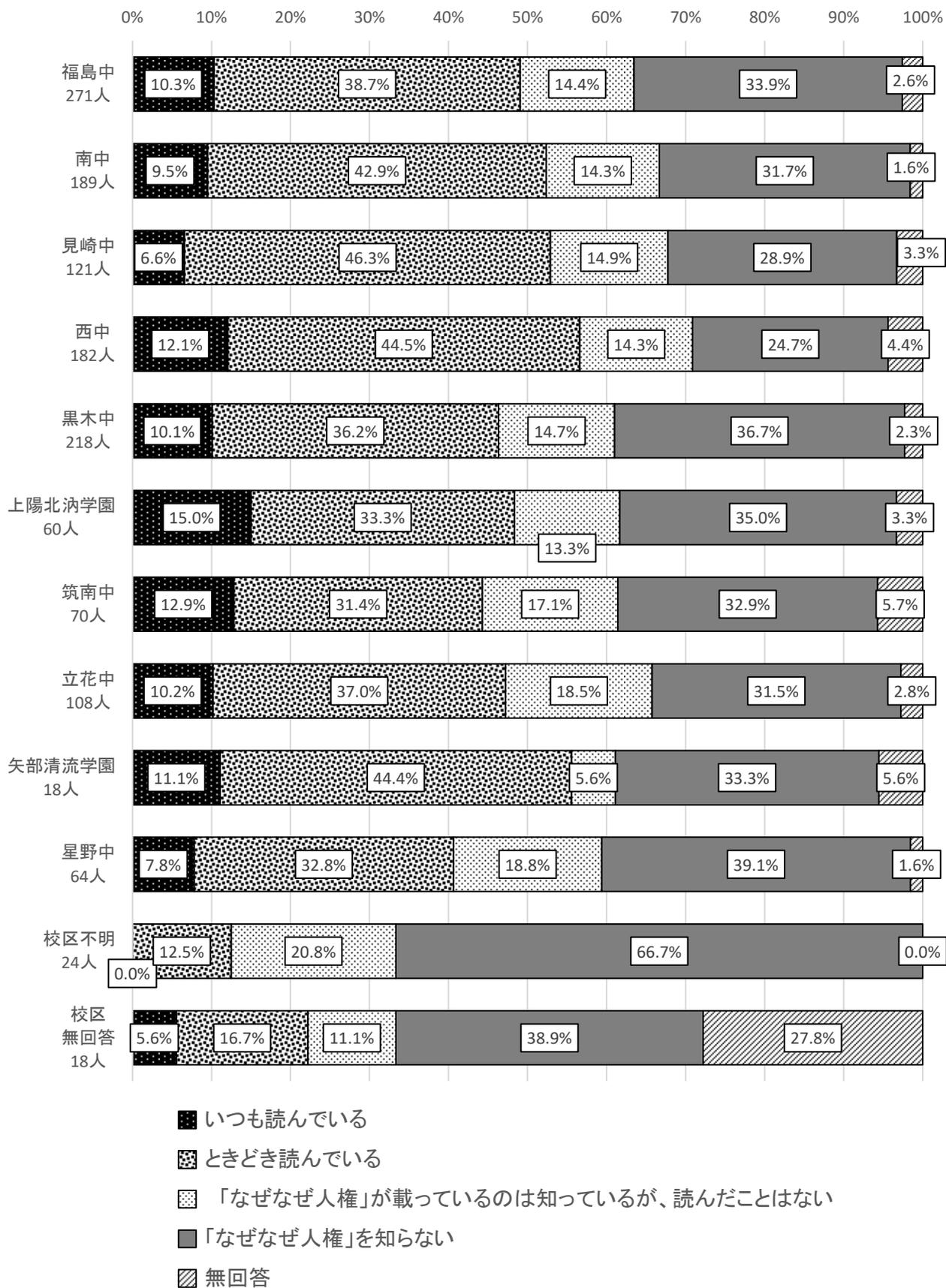
問23 人権のページ「なぜなぜ人権」を読んだ経験(性別)



問23 人権のページ「なぜなぜ人権」を読んだ経験(年齢別)



問23 人権のページ「なぜなぜ人権」を読んだ経験(校区别)



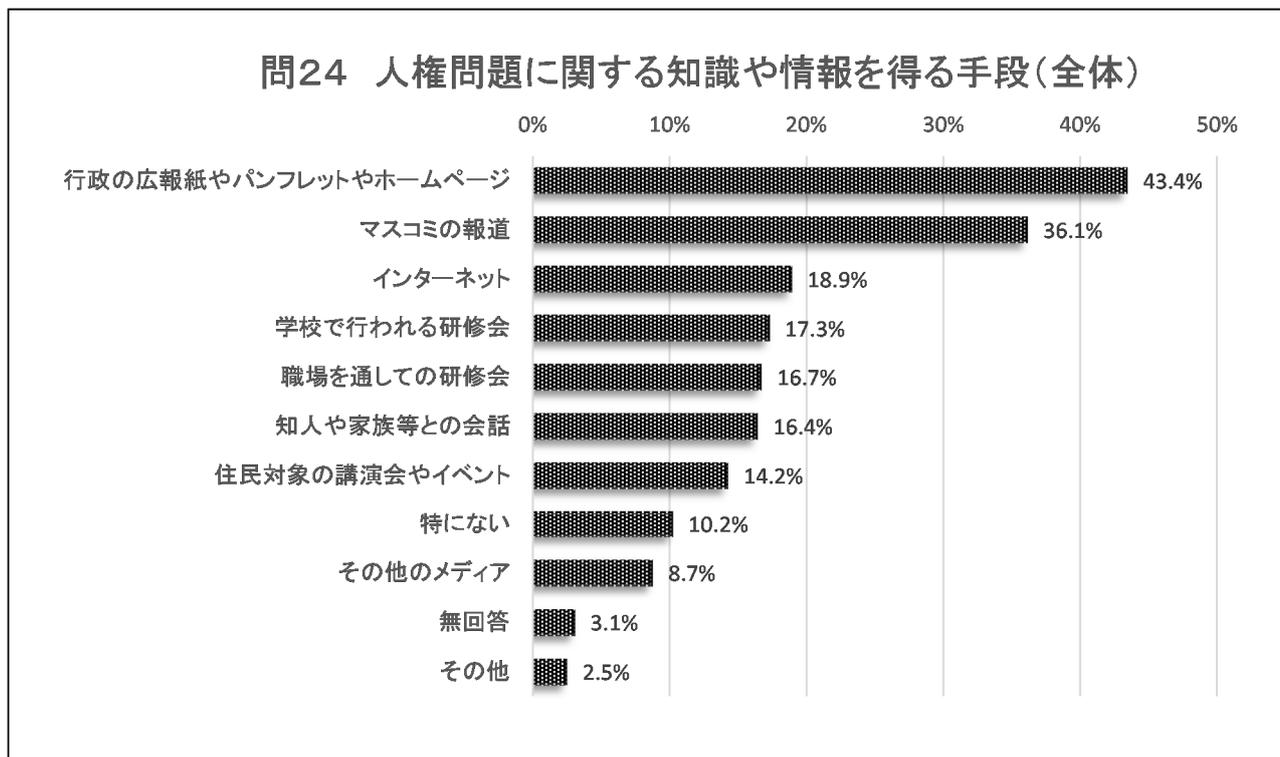
問 24 あなたが人権問題に関する知識や情報を得る上で、役に立っていると思うものすべてに○をつけてください。

「行政の広報紙やパンフレット・ホームページ」を選んだ者の割合が 43.4% (前回 45.8%) と最も多く、次いで「マスコミの報道」の 36.1% (前回 30.7%) であったが、予断や偏見が含まれやすい「知人や家族等との会話」も 16.4% (前回 20.3%)、「特にない」も 10.2% (前回 16.0%) 存在している。

性別の回答傾向を見ると、前回調査では、女性の方が「行政の広報紙やパンフレット」を選んだ割合で 9.0 ポイント、「学校で行われる研修会」を選んだ割合で 7.6 ポイント、「知人や家族等との会話」を選んだ割合で 6.3 ポイント高かったのだが、今回は大きな性別の回答傾向差は見られなかった。

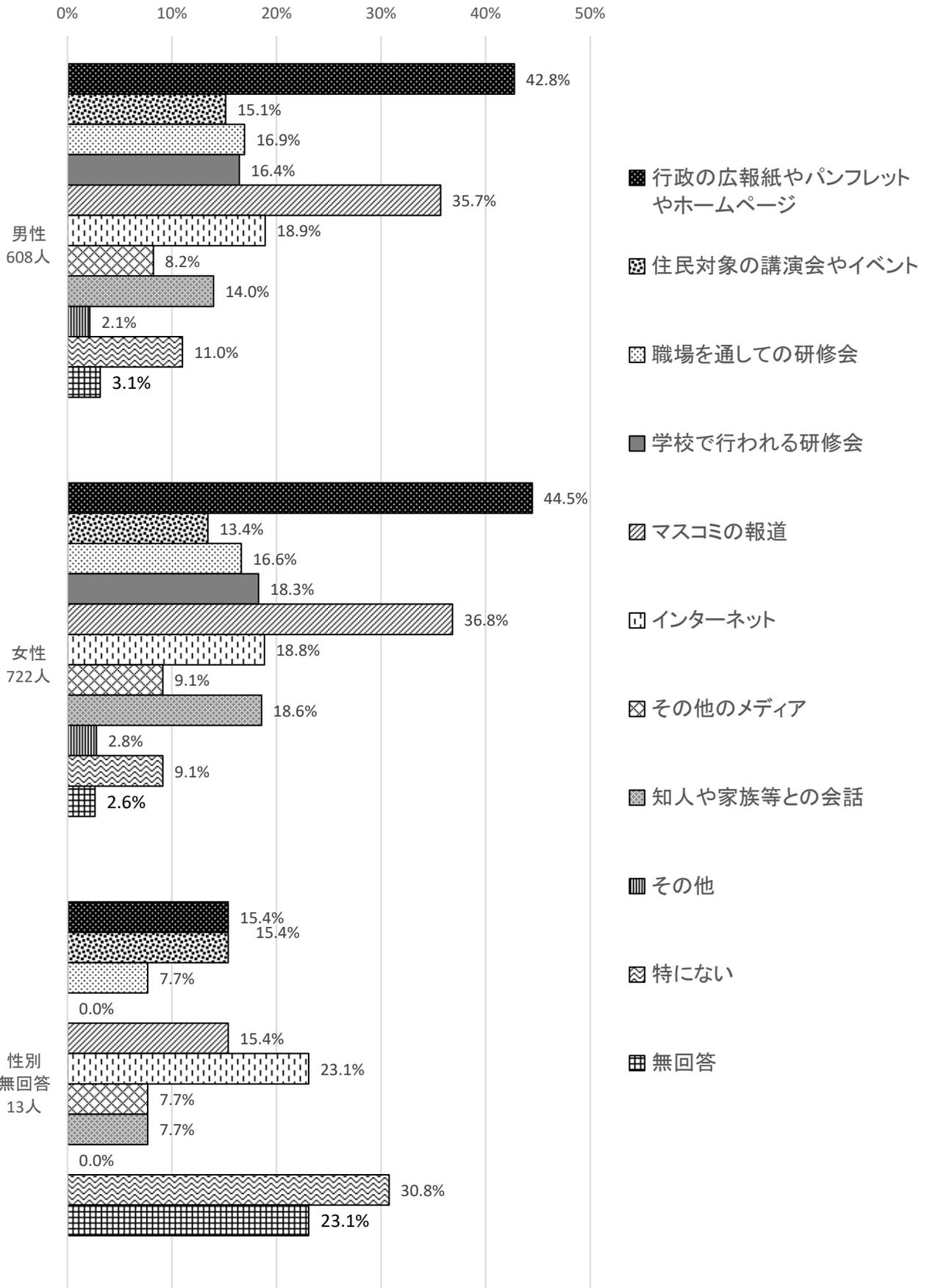
「特にない」と八つの具体的情報源を選んだ割合を年齢別に比較すると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「学校で行われる研修会」31.0% (全体 17.3%)、「インターネット」43.2% (全体 18.9%)、「その他のメディア」15.5% (全体 8.7%)、「41～50 歳」が最大値を示していたのが、「住民対象の講演会やイベント」20.2% (全体 14.2%)、「職場での研修会」23.3% (全体 16.7%)、「特にない」11.9% (全体 10.2%)、「51～65 歳」が最大値を示していたのが、「マスコミの報道」40.6% (全体 36.1%)、「66 歳以上」が最大値を示していたのが、「行政の広報紙やパンフレット・ホームページ」58.5% (全体 43.4%)、「知人や家族等との会話」20.3% (全体 16.4%) で、「31～40 歳」の年代が最大値を示していたものはなかった。

年代による情報源の違いが、よく表れている結果であり、年代に応じた啓発手法を考える上で、大いに活用すべき数字であると思われる。

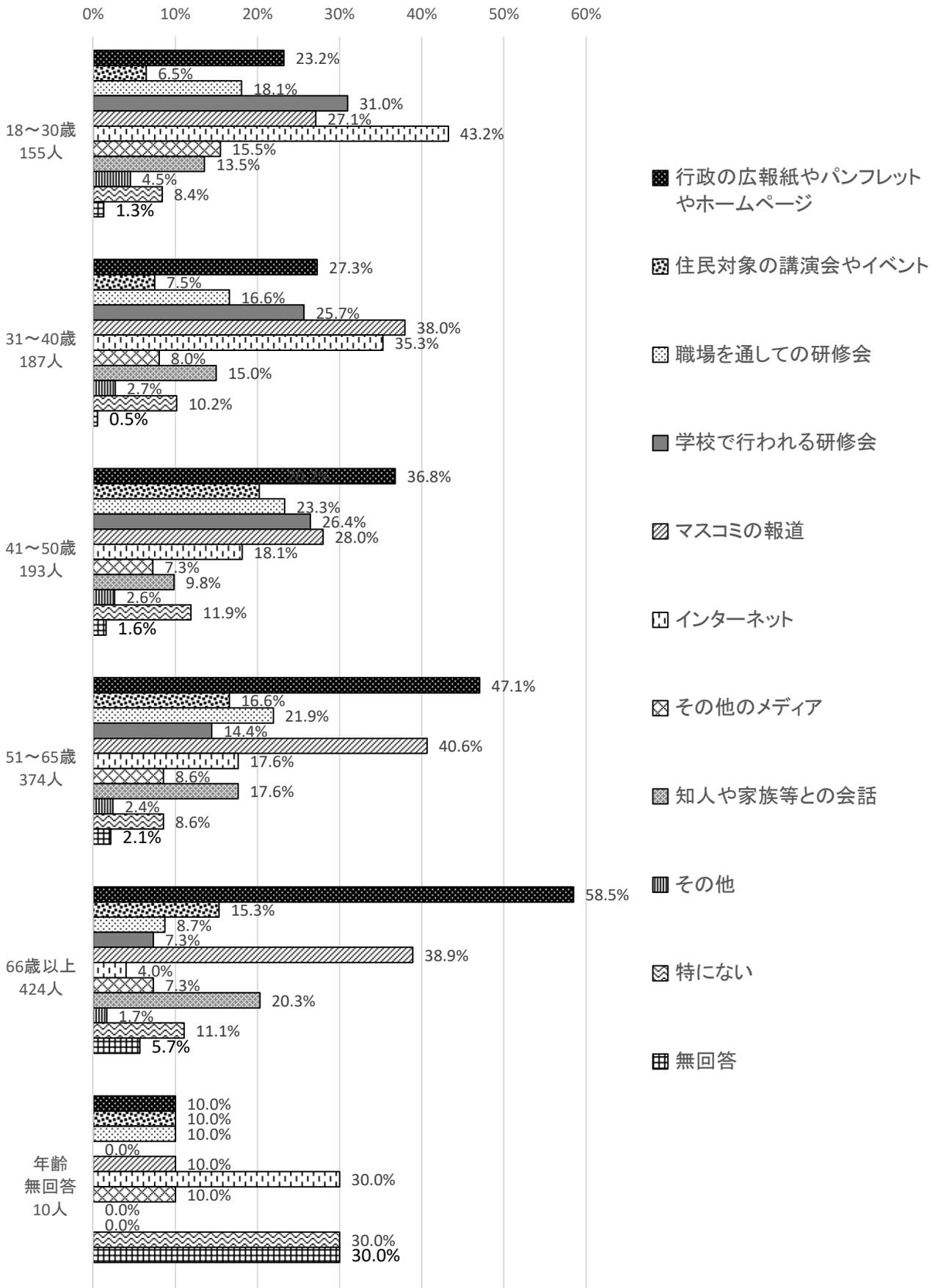


問24 複数回答			人権問題に関する知識や情報を得る手段										
			行政の広報紙やパンフレットやホームページ	住民対象の講演会やイベント	職場を通じた研修会	学校で行われる研修会	マスコミの報道	インターネット	その他のメディア	知人や家族等との会話	その他	特になし	無回答
性別	男性 608人	回答人数	260	92	103	100	217	115	50	85	13	67	19
		性別 内の割合	42.8%	15.1%	16.9%	16.4%	35.7%	18.9%	8.2%	14.0%	2.1%	11.0%	3.1%
		問24 内の割合	44.6%	48.2%	46.0%	43.1%	44.7%	45.3%	42.7%	38.6%	39.4%	48.9%	46.3%
性別	女性 722人	回答人数	321	97	120	132	266	136	66	134	20	66	19
		性別 内の割合	44.5%	13.4%	16.6%	18.3%	36.8%	18.8%	9.1%	18.6%	2.8%	9.1%	2.6%
		問24 内の割合	55.1%	50.8%	53.6%	56.9%	54.8%	53.5%	56.4%	60.9%	60.6%	48.2%	46.3%
性別	無回答 13人	回答人数	2	2	1	0	2	3	1	1	0	4	3
		性別 内の割合	15.4%	15.4%	7.7%	0.0%	15.4%	23.1%	7.7%	7.7%	0.0%	30.8%	23.1%
		問24 内の割合	0.3%	1.0%	0.4%	0.0%	0.4%	1.2%	0.9%	0.5%	0.0%	2.9%	7.3%
年齢	18～30歳 155人	回答人数	36	10	28	48	42	67	24	21	7	13	2
		年齢 内の割合	23.2%	6.5%	18.1%	31.0%	27.1%	43.2%	15.5%	13.5%	4.5%	8.4%	1.3%
		問24 内の割合	6.2%	5.2%	12.5%	20.7%	8.7%	26.4%	20.5%	9.5%	21.2%	9.5%	4.9%
年齢	31～40歳 187人	回答人数	51	14	31	48	71	66	15	28	5	19	1
		年齢 内の割合	27.3%	7.5%	16.6%	25.7%	38.0%	35.3%	8.0%	15.0%	2.7%	10.2%	0.5%
		問24 内の割合	8.7%	7.3%	13.8%	20.7%	14.6%	26.0%	12.8%	12.7%	15.2%	13.9%	2.4%
年齢	41～50歳 193人	回答人数	71	39	45	51	54	35	14	19	5	23	3
		年齢 内の割合	36.8%	20.2%	23.3%	26.4%	28.0%	18.1%	7.3%	9.8%	2.6%	11.9%	1.6%
		問24 内の割合	12.2%	20.4%	20.1%	22.0%	11.1%	13.8%	12.0%	8.6%	15.2%	16.8%	7.3%
年齢	51～65歳 374人	回答人数	176	62	82	54	152	66	32	66	9	32	8
		年齢 内の割合	47.1%	16.6%	21.9%	14.4%	40.6%	17.6%	8.6%	17.6%	2.4%	8.6%	2.1%
		問24 内の割合	30.2%	32.5%	36.6%	23.3%	31.3%	26.0%	27.4%	30.0%	27.3%	23.4%	19.5%
年齢	66歳以上 424人	回答人数	248	65	37	31	165	17	31	86	7	47	24
		年齢 内の割合	58.5%	15.3%	8.7%	7.3%	38.9%	4.0%	7.3%	20.3%	1.7%	11.1%	5.7%
		問24 内の割合	42.5%	34.0%	16.5%	13.4%	34.0%	6.7%	26.5%	39.1%	21.2%	34.3%	58.5%
年齢	無回答 10人	回答人数	1	1	1	0	1	3	1	0	0	3	3
		年齢 内の割合	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	30.0%
		問24 内の割合	0.2%	0.5%	0.4%	0.0%	0.2%	1.2%	0.9%	0.0%	0.0%	2.2%	7.3%
校区	福島中 271人	回答人数	119	44	45	36	111	43	28	41	2	27	3
		校区 内の割合	43.9%	16.2%	16.6%	13.3%	41.0%	15.9%	10.3%	15.1%	0.7%	10.0%	1.1%
		問24 内の割合	20.4%	23.0%	20.1%	15.5%	22.9%	16.9%	23.9%	18.6%	6.1%	19.7%	7.3%
校区	南中 189人	回答人数	77	20	36	37	61	34	17	37	7	23	8
		校区 内の割合	40.7%	10.6%	19.0%	19.6%	32.3%	18.0%	9.0%	19.6%	3.7%	12.2%	4.2%
		問24 内の割合	13.2%	10.5%	16.1%	15.9%	12.6%	13.4%	14.5%	16.8%	21.2%	16.8%	19.5%
校区	見崎中 121人	回答人数	58	10	20	17	41	19	3	23	3	14	3
		校区 内の割合	47.9%	8.3%	16.5%	14.0%	33.9%	15.7%	2.5%	19.0%	2.5%	11.6%	2.5%
		問24 内の割合	9.9%	5.2%	8.9%	7.3%	8.5%	7.5%	2.6%	10.5%	9.1%	10.2%	7.3%
校区	西中 182人	回答人数	84	29	34	42	64	34	16	21	6	16	9
		校区 内の割合	46.2%	15.9%	18.7%	23.1%	35.2%	18.7%	8.8%	11.5%	3.3%	8.8%	4.9%
		問24 内の割合	14.4%	15.2%	15.2%	18.1%	13.2%	13.4%	13.7%	9.5%	18.2%	11.7%	22.0%
校区	黒木中 218人	回答人数	95	39	35	42	88	40	17	38	4	19	5
		校区 内の割合	43.6%	17.9%	16.1%	19.3%	40.4%	18.3%	7.8%	17.4%	1.8%	8.7%	2.3%
		問24 内の割合	16.3%	20.4%	15.6%	18.1%	18.1%	15.7%	14.5%	17.3%	12.1%	13.9%	12.2%
校区	上陽北学園 60人	回答人数	23	10	9	9	24	14	9	9	2	4	3
		校区 内の割合	38.3%	16.7%	15.0%	15.0%	40.0%	23.3%	15.0%	15.0%	3.3%	6.7%	5.0%
		問24 内の割合	3.9%	5.2%	4.0%	3.9%	4.9%	5.5%	7.7%	4.1%	6.1%	2.9%	7.3%
校区	筑南中 70人	回答人数	33	8	9	14	25	18	5	11	4	8	2
		校区 内の割合	47.1%	11.4%	12.9%	20.0%	35.7%	25.7%	7.1%	15.7%	5.7%	11.4%	2.9%
		問24 内の割合	5.7%	4.2%	4.0%	6.0%	5.2%	7.1%	4.3%	5.0%	12.1%	5.8%	4.9%
校区	立花中 108人	回答人数	55	14	19	15	34	17	7	16	1	12	2
		校区 内の割合	50.9%	13.0%	17.6%	13.9%	31.5%	15.7%	6.5%	14.8%	0.9%	11.1%	1.9%
		問24 内の割合	9.4%	7.3%	8.5%	6.5%	7.0%	6.7%	6.0%	7.3%	3.0%	8.8%	4.9%
校区	矢部清流学園 18人	回答人数	8	4	3	5	9	6	3	5	0	0	0
		校区 内の割合	44.4%	22.2%	16.7%	27.8%	50.0%	33.3%	16.7%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%
		問24 内の割合	1.4%	2.1%	1.3%	2.2%	1.9%	2.4%	2.6%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
校区	星野中 64人	回答人数	24	11	10	11	19	15	8	9	3	6	3
		校区 内の割合	37.5%	17.2%	15.6%	17.2%	29.7%	23.4%	12.5%	14.1%	4.7%	9.4%	4.7%
		問24 内の割合	4.1%	5.8%	4.5%	4.7%	3.9%	5.9%	6.8%	4.1%	9.1%	4.4%	7.3%
校区	校区不明 24人	回答人数	2	0	2	4	6	9	3	6	1	5	0
		校区 内の割合	8.3%	0.0%	8.3%	16.7%	25.0%	37.5%	12.5%	25.0%	4.2%	20.8%	0.0%
		問24 内の割合	0.3%	0.0%	0.9%	1.7%	1.2%	3.5%	2.6%	2.7%	3.0%	3.6%	0.0%
校区	無回答 18人	回答人数	5	2	2	0	3	5	1	4	0	3	3
		校区 内の割合	27.8%	11.1%	11.1%	0.0%	16.7%	27.8%	5.6%	22.2%	0.0%	16.7%	16.7%
		問24 内の割合	0.9%	1.0%	0.9%	0.0%	0.6%	2.0%	0.9%	1.8%	0.0%	2.2%	7.3%
合計	1343人	回答人数	583	191	224	232	485	254	117	220	33	137	41
		合計に対する割合	43.4%	14.2%	16.7%	17.3%	36.1%	18.9%	8.7%	16.4%	2.5%	10.2%	3.1%

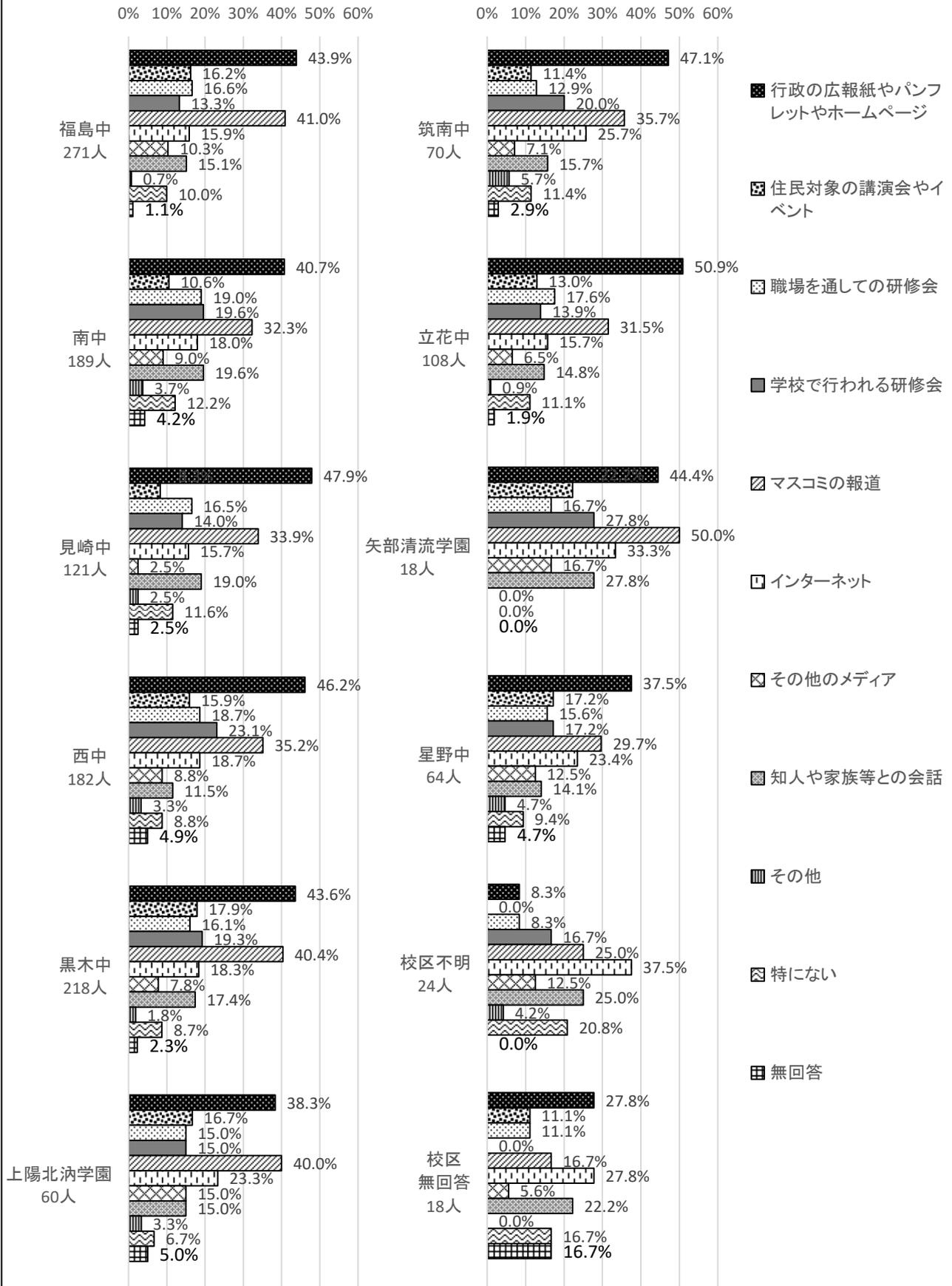
問24 人権問題に関する知識や情報を得る手段(性別)



問24 人権問題に関する知識や情報を得る手段(年齢別)



問24 人権問題に関する知識や情報を得る手段(校区别)



問 25 あなたが今後の行政施策として特に重要であると思うものすべてに○をつけてください。

選んだ者の割合が 30.0%以上であった施策を、順に挙げていくと以下のようになる。

「人権教育や啓発の充実」	37.2% (前回 33.4%)
「人権侵害を受けた人に対する救済手段の確立」	35.0% (前回 31.9%)
「人権問題に関する相談窓口の充実や開設」	33.1% (前回 29.5%)
「福祉や教育・行政関係者等に対する研修の徹底」	32.9% (前回 34.8%)
「バリアフリーのまちづくりの推進」	31.2% (前回 26.7%)

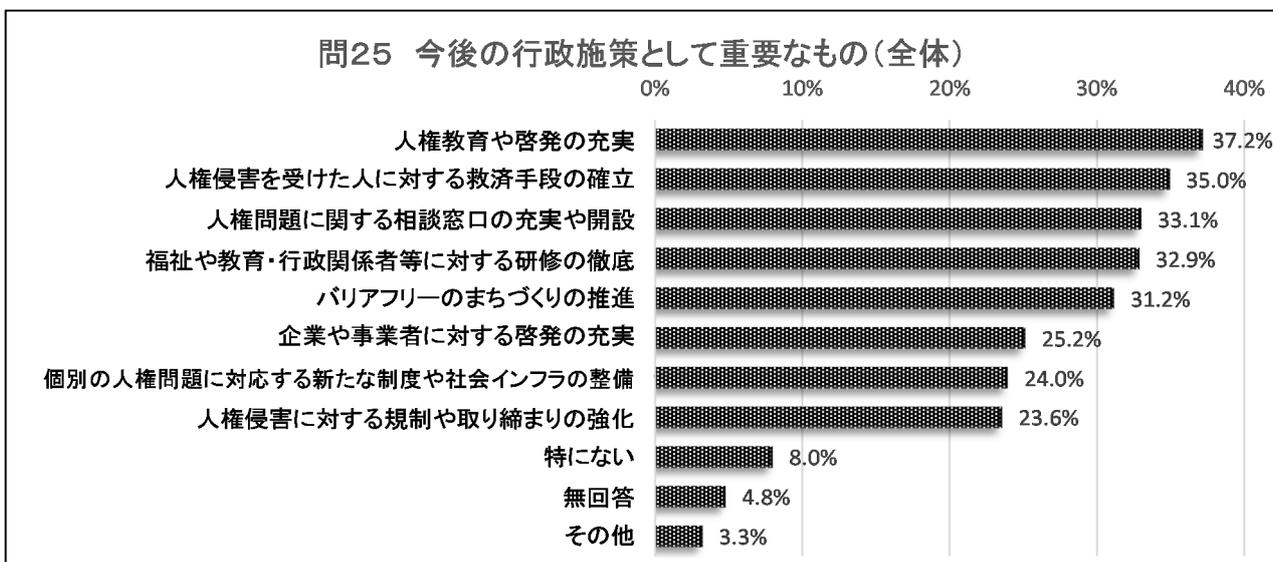
順位の入替わりはあるが、この五つの施策は、前回調査の上位施策と同じである。

性別の回答傾向で 5.0 ポイント以上の差があった施策を見ると、前回調査では「個別の人権課題に対応する新たな制度や社会インフラの整備」を選んだ割合で 5.8 ポイント男性の方が高かったが、今回の調査で 5.0 ポイント以上男性の方が高い施策はなく、「人権問題に関する相談窓口の充実や開設」(女性 35.6%・男性 30.4%)を選んだ者の割合で 5.2 ポイント(前回 2.4 ポイント)、「バリアフリーのまちづくりの推進」(女性 36.4%・男性 25.3%)を選んだ者の割合で 11.1 ポイント(前回 6.7 ポイント)、女性の方が高くなっていた。

年齢別に八つの具体的施策を選んだ割合を見ると、「18～30 歳」が最大値を示していたのが、「人権教育や啓発の充実」46.5% (全体 37.2%)、「個別の人権課題に対応する新たな制度や社会インフラの整備」29.7% (全体 24.0%)、「人権侵害に対する規制や取り締まりの強化」38.7% (全体 23.6%)、「バリアフリーのまちづくりの推進」37.4% (全体 31.2%)、

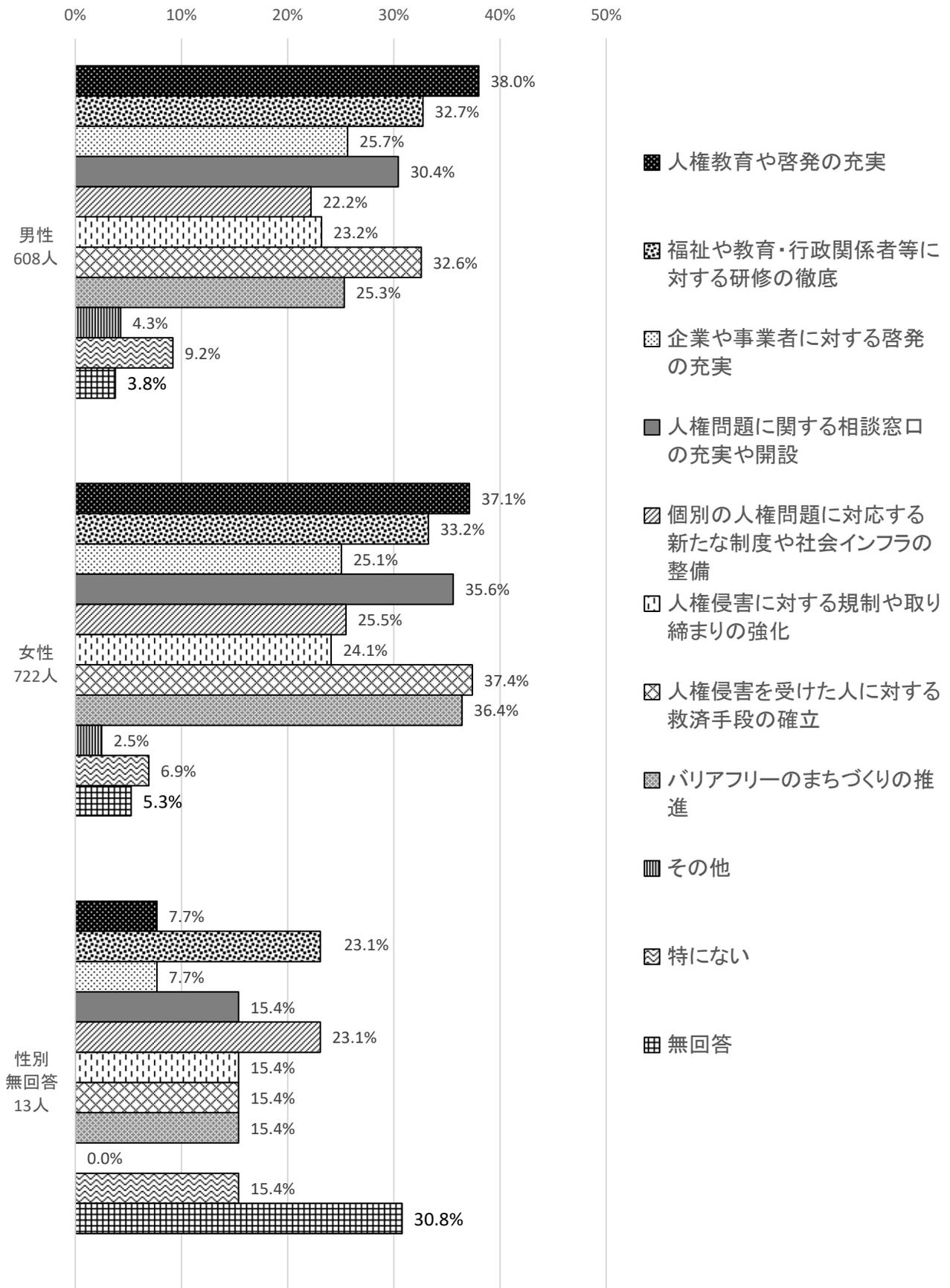
「41～50 歳」の年代が最大値を示していたものが、「福祉や教育・行政関係者等に対する研修の徹底」38.9% (全体 32.9%)、「企業や事業者に対する啓発の充実」31.1% (全体 25.2%)、「人権問題に関する相談窓口の充実や開設」36.3% (全体 33.1%)、「人権侵害を受けた人に対する救済手段の確立」41.5% (全体 35.0%) で、「31～40 歳」「51～65 歳」

「66 歳以上」の年代が最大値を示していたものはなく、「66 歳以上」の年代が全ての施策において、最小値を示していた。また、「特にない」と回答した者の割合は、「66 歳以上」12.0% (前回 19.3%) が最大で、「18～30 歳」の 3.9% (前回 14.0%) が最小であった。若い年代の、行政施策に対する関心の高まりがうかがえる結果である。

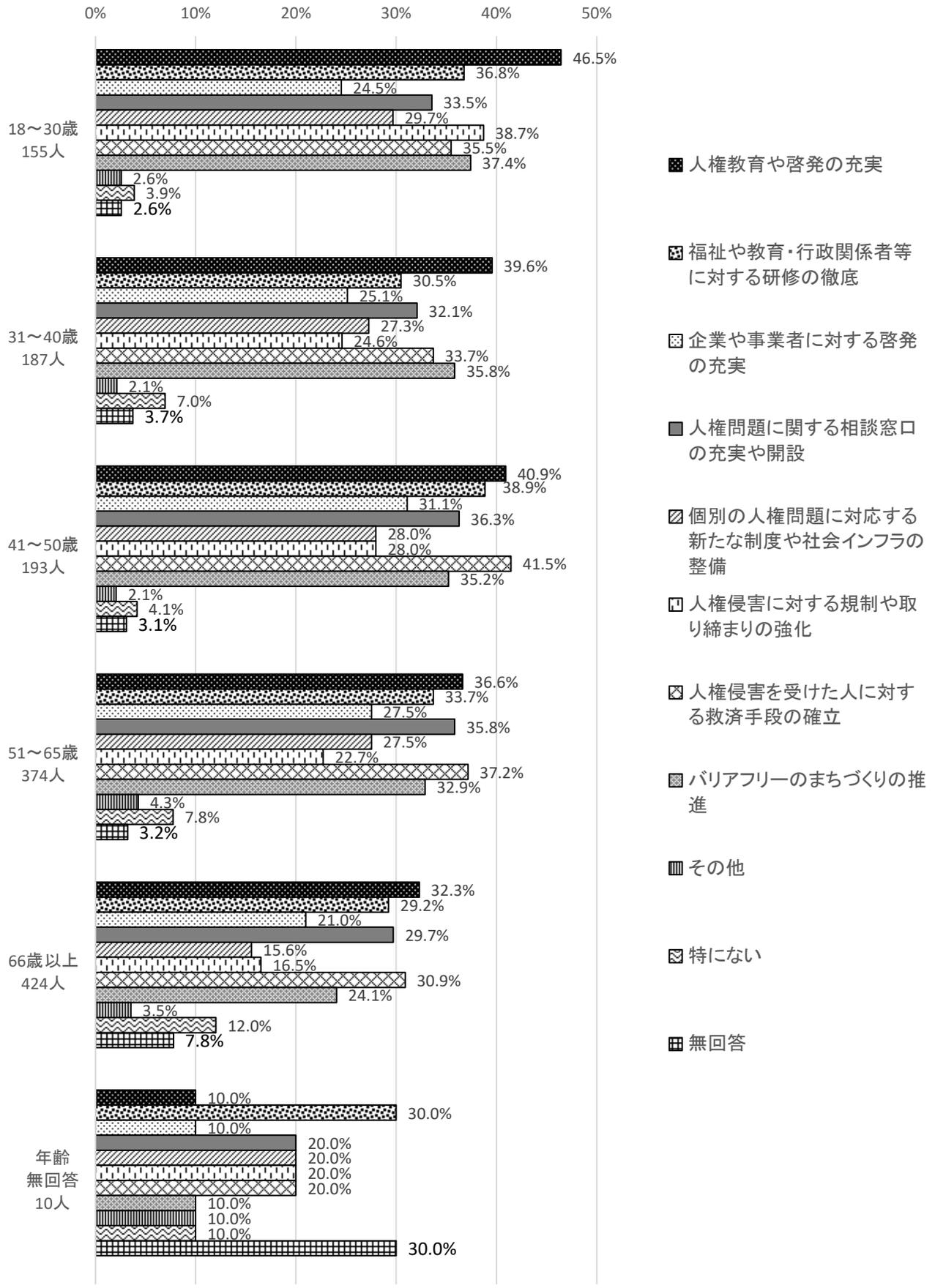


問25 複数回答			今後の行政施策として重要なもの									
			人権教育 や啓発の 充実	福祉や教 育・行政 関係者等 に対する 研修の徹 底	企業や事 業者に対 する啓発 の充実	人権問題 に関する 相談窓口 の充実や 開設	個別の人 権問題に 対応する 新たな制 度や社会 インフラ の整備	人権侵害 に対する 規制や取 り締まり の強化	人権侵害 を受けた 人に対す る救済手 段の確立	バリアフ リーのま ちづくり の推進	その他	特にな い
性別 男性 608人	回答人数	231	199	156	185	135	141	198	154	26	56	23
	性別 内の割合	38.0%	32.7%	25.7%	30.4%	22.2%	23.2%	32.6%	25.3%	4.3%	9.2%	3.8%
	問25 内の割合	46.2%	45.0%	46.2%	41.7%	41.9%	44.5%	42.1%	36.8%	59.1%	51.9%	35.4%
女性 722人	回答人数	268	240	181	257	184	174	270	263	18	50	38
	性別 内の割合	37.1%	33.2%	25.1%	35.6%	25.5%	24.1%	37.4%	36.4%	2.5%	6.9%	5.3%
	問25 内の割合	53.6%	54.3%	53.6%	57.9%	57.1%	54.9%	57.4%	62.8%	40.9%	46.3%	58.5%
性別 無回答 13人	回答人数	1	3	1	2	3	2	2	2	0	2	4
	性別 内の割合	7.7%	23.1%	7.7%	15.4%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	0.0%	15.4%	30.8%
	問25 内の割合	0.2%	0.7%	0.3%	0.5%	0.9%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	1.9%	6.2%
年齢 18～30歳 155人	回答人数	72	57	38	52	46	60	55	58	4	6	4
	年齢 内の割合	46.5%	36.8%	24.5%	33.5%	29.7%	38.7%	35.5%	37.4%	2.6%	3.9%	2.6%
	問25 内の割合	14.4%	12.9%	11.2%	11.7%	14.3%	18.9%	11.7%	13.8%	9.1%	5.6%	6.2%
31～40歳 187人	回答人数	74	57	47	60	51	46	63	67	4	13	7
	年齢 内の割合	39.6%	30.5%	25.1%	32.1%	27.3%	24.6%	33.7%	35.8%	2.1%	7.0%	3.7%
	問25 内の割合	14.8%	12.9%	13.9%	13.5%	15.8%	14.5%	13.4%	16.0%	9.1%	12.0%	10.8%
41～50歳 193人	回答人数	79	75	60	70	54	54	80	68	4	8	6
	年齢 内の割合	40.9%	38.9%	31.1%	36.3%	28.0%	28.0%	41.5%	35.2%	2.1%	4.1%	3.1%
	問25 内の割合	15.8%	17.0%	17.8%	15.8%	16.8%	17.0%	17.0%	16.2%	9.1%	7.4%	9.2%
51～65歳 374人	回答人数	137	126	103	134	103	85	139	123	16	29	12
	年齢 内の割合	36.6%	33.7%	27.5%	35.8%	27.5%	22.7%	37.2%	32.9%	4.3%	7.8%	3.2%
	問25 内の割合	27.4%	28.5%	30.5%	30.2%	32.0%	26.8%	29.6%	29.4%	36.4%	26.9%	18.5%
66歳以上 424人	回答人数	137	124	89	126	66	70	131	102	15	51	33
	年齢 内の割合	32.3%	29.2%	21.0%	29.7%	15.6%	16.5%	30.9%	24.1%	3.5%	12.0%	7.8%
	問25 内の割合	27.4%	28.1%	26.3%	28.4%	20.5%	22.1%	27.9%	24.3%	34.1%	47.2%	50.8%
年齢 無回答 10人	回答人数	1	3	1	2	2	2	2	1	1	1	3
	年齢 内の割合	10.0%	30.0%	10.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	30.0%
	問25 内の割合	0.2%	0.7%	0.3%	0.5%	0.6%	0.6%	0.4%	0.2%	2.3%	0.9%	4.6%
校区 福島中 271人	回答人数	111	99	83	89	69	74	102	79	4	18	12
	校区 内の割合	41.0%	36.5%	30.6%	32.8%	25.5%	27.3%	37.6%	29.2%	1.5%	6.6%	4.4%
	問25 内の割合	22.2%	22.4%	24.6%	20.0%	21.4%	23.3%	21.7%	18.9%	9.1%	16.7%	18.5%
南中 189人	回答人数	68	66	48	70	49	49	65	68	4	14	10
	校区 内の割合	36.0%	34.9%	25.4%	37.0%	25.9%	25.9%	34.4%	36.0%	2.1%	7.4%	5.3%
	問25 内の割合	13.6%	14.9%	14.2%	15.8%	15.2%	15.5%	13.8%	16.2%	9.1%	13.0%	15.4%
見崎中 121人	回答人数	41	45	32	38	30	25	48	41	7	8	5
	校区 内の割合	33.9%	37.2%	26.4%	31.4%	24.8%	20.7%	39.7%	33.9%	5.8%	6.6%	4.1%
	問25 内の割合	8.2%	10.2%	9.5%	8.6%	9.3%	7.9%	10.2%	9.8%	15.9%	7.4%	7.7%
西中 182人	回答人数	63	50	49	59	43	39	63	58	6	15	12
	校区 内の割合	34.6%	27.5%	26.9%	32.4%	23.6%	21.4%	34.6%	31.9%	3.3%	8.2%	6.6%
	問25 内の割合	12.6%	11.3%	14.5%	13.3%	13.4%	12.3%	13.4%	13.8%	13.6%	13.9%	18.5%
黒木中 218人	回答人数	86	69	48	62	51	43	68	58	12	20	8
	校区 内の割合	39.4%	31.7%	22.0%	28.4%	23.4%	19.7%	31.2%	26.6%	5.5%	9.2%	3.7%
	問25 内の割合	17.2%	15.6%	14.2%	14.0%	15.8%	13.6%	14.5%	13.8%	27.3%	18.5%	12.3%
上陽北浜学園 60人	回答人数	24	18	16	24	11	14	23	19	1	5	4
	校区 内の割合	40.0%	30.0%	26.7%	40.0%	18.3%	23.3%	38.3%	31.7%	1.7%	8.3%	6.7%
	問25 内の割合	4.8%	4.1%	4.7%	5.4%	3.4%	4.4%	4.9%	4.5%	2.3%	4.6%	6.2%
筑南中 70人	回答人数	24	23	16	25	18	15	24	17	0	8	4
	校区 内の割合	34.3%	32.9%	22.9%	35.7%	25.7%	21.4%	34.3%	24.3%	0.0%	11.4%	5.7%
	問25 内の割合	4.8%	5.2%	4.7%	5.6%	5.6%	4.7%	5.1%	4.1%	0.0%	7.4%	6.2%
立花中 108人	回答人数	34	34	22	37	24	24	33	34	1	9	4
	校区 内の割合	31.5%	31.5%	20.4%	34.3%	22.2%	22.2%	30.6%	31.5%	0.9%	8.3%	3.7%
	問25 内の割合	6.8%	7.7%	6.5%	8.3%	7.5%	7.6%	7.0%	8.1%	2.3%	8.3%	6.2%
矢部清流学園 18人	回答人数	10	11	5	8	5	3	9	7	0	0	1
	校区 内の割合	55.6%	61.1%	27.8%	44.4%	27.8%	16.7%	50.0%	38.9%	0.0%	0.0%	5.6%
	問25 内の割合	2.0%	2.5%	1.5%	1.8%	1.6%	0.9%	1.9%	1.7%	0.0%	0.0%	1.5%
星野中 64人	回答人数	28	14	10	21	14	21	24	24	6	4	1
	校区 内の割合	43.8%	21.9%	15.6%	32.8%	21.9%	32.8%	37.5%	37.5%	9.4%	6.3%	1.6%
	問25 内の割合	5.6%	3.2%	3.0%	4.7%	4.3%	6.6%	5.1%	5.7%	13.6%	3.7%	1.5%
校区不明 24人	回答人数	9	8	7	5	5	7	7	11	3	4	0
	校区 内の割合	37.5%	33.3%	29.2%	20.8%	20.8%	29.2%	29.2%	45.8%	12.5%	16.7%	0.0%
	問25 内の割合	1.8%	1.8%	2.1%	1.1%	1.6%	2.2%	1.5%	2.6%	6.8%	3.7%	0.0%
校区 無回答 18人	回答人数	2	5	2	6	3	3	4	3	0	3	4
	校区 内の割合	11.1%	27.8%	11.1%	33.3%	16.7%	16.7%	22.2%	16.7%	0.0%	16.7%	22.2%
	問25 内の割合	0.4%	1.1%	0.6%	1.4%	0.9%	0.9%	0.7%	0.7%	0.0%	2.8%	6.2%
合計 1343人	回答人数	500	442	338	444	322	317	470	419	44	108	65
	合計に対する割合	37.2%	32.9%	25.2%	33.1%	24.0%	23.6%	35.0%	31.2%	3.3%	8.0%	4.8%

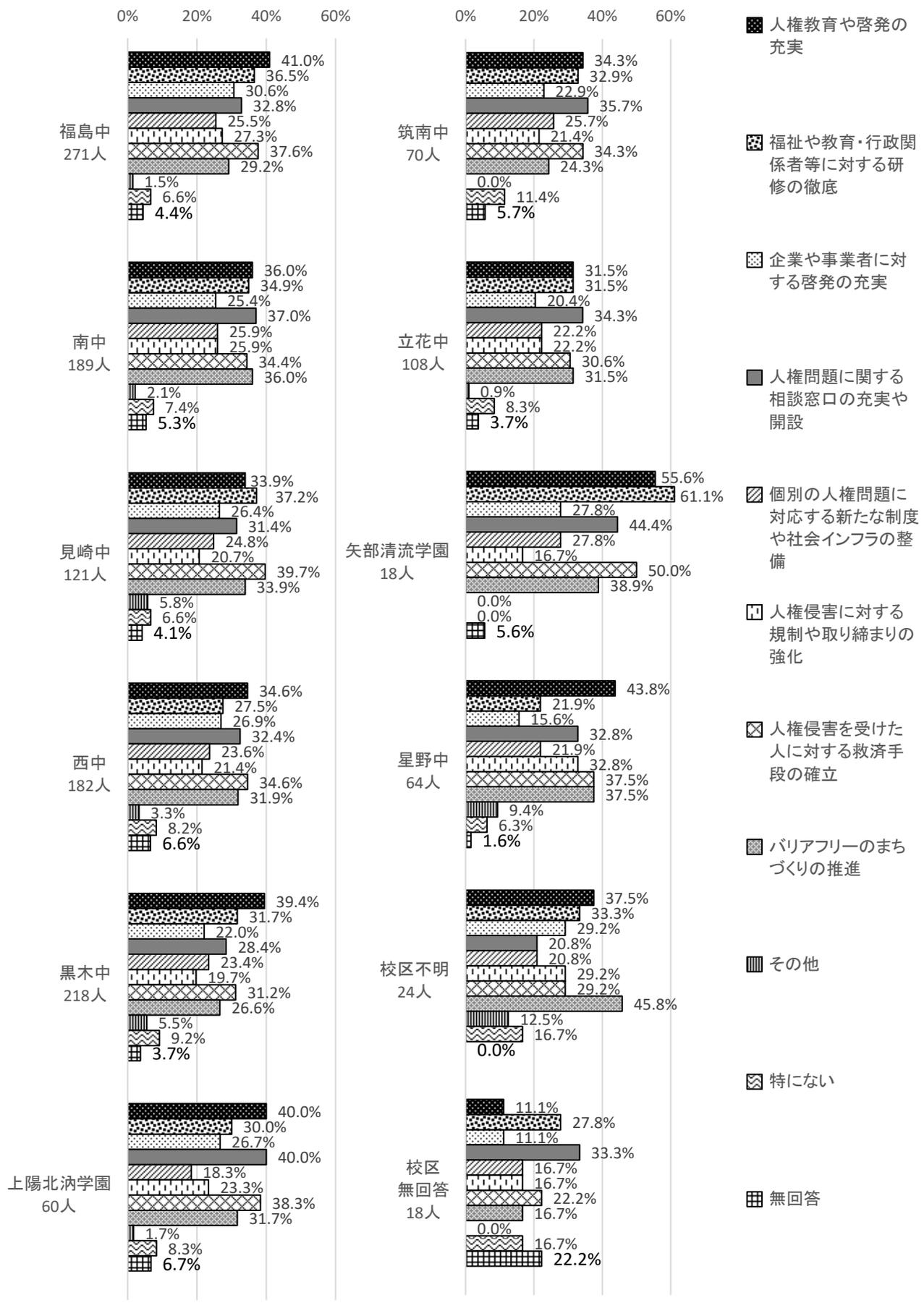
問25 今後の行政施策として重要なもの(性別)



問25 今後の行政施策として重要なもの(年齢別)



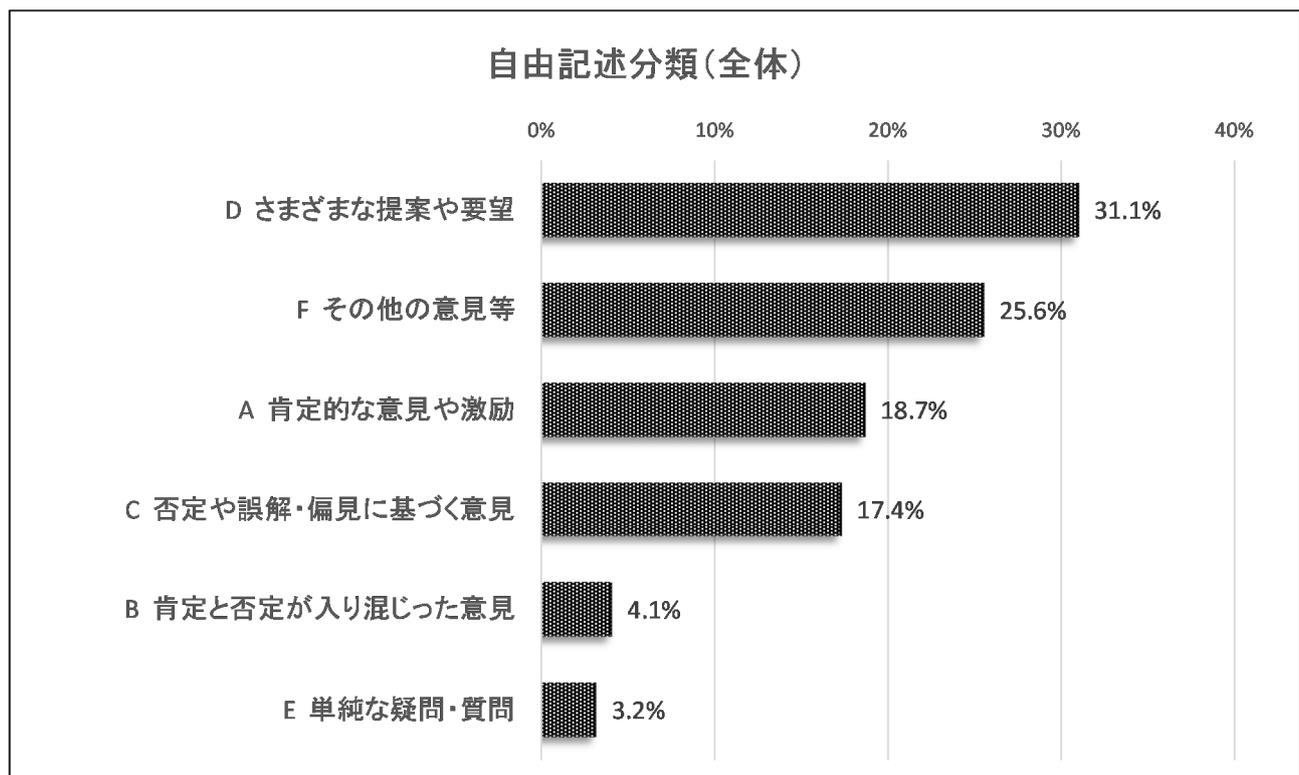
問25 今後の行政施策として重要なもの(校区別)



これまでいろいろおたずねしましたが、回答の「その他」に関することや人権問題、人権行政に関して、ご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

記述内容は多岐にわたり、一概にパターン化することはできないが、概ね次の6つのタイプの意見に分類し、その傾向を見ることにする。

- A：人権教育や啓発等に対し、肯定的な意見や激励
- B：肯定と否定が入り混じった意見
- C：否定的意見や誤解・偏見に基づく意見
- D：さまざまな提案や要望
- E：単純な疑問・質問
- F：その他の意見等



			自由記述分類						合計
			A 肯定的な 意見や激励	B 肯定と否定 が入り混じっ た意見	C 否定や誤 解・偏見に基 づく意見	D さまざまな 提案や要望	E 単純な疑 問・質問	F その他の 意見等	
性別	男性	回答人数	19	4	25	36	3	24	111
		性別 内の割合	17.1%	3.6%	22.5%	32.4%	2.7%	21.6%	100.0%
		記述分類 内の割合	46.3%	44.4%	65.8%	52.9%	42.9%	42.9%	50.7%
	女性	回答人数	22	5	12	32	4	30	105
		性別 内の割合	21.0%	4.8%	11.4%	30.5%	3.8%	28.6%	100.0%
		記述分類 内の割合	53.7%	55.6%	31.6%	47.1%	57.1%	53.6%	47.9%
	性別無回答	回答人数	0	0	1	0	0	2	3
		性別 内の割合	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%
		記述分類 内の割合	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	3.6%	1.4%
年齢	18～30歳	回答人数	7	0	3	8	2	2	22
		年齢 内の割合	31.8%	0.0%	13.6%	36.4%	9.1%	9.1%	100.0%
		記述分類 内の割合	17.1%	0.0%	7.9%	11.8%	28.6%	3.6%	10.0%
	31～40歳	回答人数	2	2	6	10	0	8	28
		年齢 内の割合	7.1%	7.1%	21.4%	35.7%	0.0%	28.6%	100.0%
		記述分類 内の割合	4.9%	22.2%	15.8%	14.7%	0.0%	14.3%	12.8%
	41～50歳	回答人数	7	0	1	13	1	6	28
		年齢 内の割合	25.0%	0.0%	3.6%	46.4%	3.6%	21.4%	100.0%
		記述分類 内の割合	17.1%	0.0%	2.6%	19.1%	14.3%	10.7%	12.8%
	51～65歳	回答人数	10	4	13	23	2	16	68
		年齢 内の割合	14.7%	5.9%	19.1%	33.8%	2.9%	23.5%	100.0%
		記述分類 内の割合	24.4%	44.4%	34.2%	33.8%	28.6%	28.6%	31.1%
	66歳以上	回答人数	15	3	15	14	2	22	71
		年齢 内の割合	21.1%	4.2%	21.1%	19.7%	2.8%	31.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	36.6%	33.3%	39.5%	20.6%	28.6%	39.3%	32.4%
	年齢無回答	回答人数	0	0	0	0	0	2	2
		年齢 内の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.9%
校区	福島中	回答人数	8	1	6	18	0	6	39
		校区 内の割合	20.5%	2.6%	15.4%	46.2%	0.0%	15.4%	100.0%
		記述分類 内の割合	19.5%	11.1%	15.8%	26.5%	0.0%	10.7%	17.8%
	南中	回答人数	10	3	9	10	0	10	42
		校区 内の割合	23.8%	7.1%	21.4%	23.8%	0.0%	23.8%	100.0%
		記述分類 内の割合	24.4%	33.3%	23.7%	14.7%	0.0%	17.9%	19.2%
	見崎中	回答人数	4	0	1	6	1	7	19
		校区 内の割合	21.1%	0.0%	5.3%	31.6%	5.3%	36.8%	100.0%
		記述分類 内の割合	9.8%	0.0%	2.6%	8.8%	14.3%	12.5%	8.7%
	西中	回答人数	2	4	4	10	2	10	32
		校区 内の割合	6.3%	12.5%	12.5%	31.3%	6.3%	31.3%	100.0%
		記述分類 内の割合	4.9%	44.4%	10.5%	14.7%	28.6%	17.9%	14.6%
	黒木中	回答人数	5	0	8	12	1	9	35
		校区 内の割合	14.3%	0.0%	22.9%	34.3%	2.9%	25.7%	100.0%
		記述分類 内の割合	12.2%	0.0%	21.1%	17.6%	14.3%	16.1%	16.0%
	上陽北浜学園	回答人数	3	0	1	0	0	1	5
		校区 内の割合	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	7.3%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	1.8%	2.3%
	筑南中	回答人数	1	0	1	1	1	4	8
		校区 内の割合	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%	50.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	2.4%	0.0%	2.6%	1.5%	14.3%	7.1%	3.7%
	立花中	回答人数	5	1	5	4	1	2	18
		校区 内の割合	27.8%	5.6%	27.8%	22.2%	5.6%	11.1%	100.0%
		記述分類 内の割合	12.2%	11.1%	13.2%	5.9%	14.3%	3.6%	8.2%
	矢部清流学園	回答人数	1	0	0	2	0	0	3
		校区 内の割合	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	2.4%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	1.4%
	星野中	回答人数	1	0	2	2	1	3	9
		校区 内の割合	11.1%	0.0%	22.2%	22.2%	11.1%	33.3%	100.0%
		記述分類 内の割合	2.4%	0.0%	5.3%	2.9%	14.3%	5.4%	4.1%
	校区不明	回答人数	1	0	1	2	0	1	5
		校区 内の割合	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	2.4%	0.0%	2.6%	2.9%	0.0%	1.8%	2.3%
	校区無回答	回答人数	0	0	0	1	0	3	4
		校区 内の割合	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	100.0%
		記述分類 内の割合	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	5.4%	1.8%
合計	回答人数	41	9	38	68	7	56	219	
	合計に対する割合	18.7%	4.1%	17.4%	31.1%	3.2%	25.6%	100.0%	

A 「肯定的意見」

特徴的だったのは、まず、「行政施策への理解や支持・積極的推進を望む声」や「人権教育への期待」を表す意見が、以下のように、多かったことである。

- ・「人権に関する講演会や研修会をさらに増やしてほしいです」（男性・18～31歳）
- ・「設問の内容について、しっかり調べた上でつくってあるなという印象を受けました。色々な状況をかかえた人が自然に周囲もそれをあたり前として受け入れられる社会になることを祈っております」（女性・18～30歳）
- ・「後期高齢者の年齢である祖父母と同居しています。会話の中で、外国の方や性的少数者の方などを遠回しに否定する様な事が話題に上がる時があり、世代間での人権に対する意識の差を感じています。どんな世代の方でも、国籍や性別、職業や肩書きに囚われず、個人がありのまま認められる様な、そんな風通しの良い八女市作りを、どうかお願い致します」（男性・31～40歳）
- ・「思っている以上に人権問題は、複雑なものなので、もっとさまざまな分野の意見を聞いて、少しでも解決の糸口を見つけていく必要があるだろう」（男性・41～50歳）
- ・「人権に関する事に、どの人も皆、逃げ腰です。関わらなければ害がないと見て見ぬふりをする人たちばかりです。八女市が今後、日本や世界のモデルケースとなれば、最高に素晴らしい市となると思います。問題は今、おきています。困っている方々を、今すぐ助けてあげて下さい」（女性・41～50歳）
- ・「いろいろな考えを持っている人が集まり社会というものがあり、日々生活をしている中で、少しでも頭をやわらかく人の意見を聞き入れる事ができればなと思います。外国人の方、子供達に関する事に力を入れていただきたいです」（女性・41～50歳）
- ・「広報紙、学校から頂いてくる職員の方々の勉強会の報告を見していますが、とても学習してあると感心しています。職場では全くふれない、勉強会などありません。いつも参考、勉強させて頂いています。ありがとうございます。社会全体の（一人一人が）意識がもっと高まると良いなと思います」（女性・41～50歳）
- ・「講演会や研修会を行っても、なかなか参加者は少ないのでは…。それでも何らかの形で、人権問題を考える機会を増やすことが必要だと思います。集まりがある時は、必ず一つの人権に関する話題を出し、考える機会とするなど」（男性・51～65歳）
- ・「今後も生きている間、色々な人権に関する問題、出来事があると思います。その時その時で、自分自身に問いかけ、どうするべきか、行動したいと思います。一人で出来なくても、周りの力を借り、取りくんでいきたいです。市、県、国の力がとても必要だと思います」（男性・51～65歳）
- ・「日頃から考える事で人権が守られると思います。なかなか仕事をしている中で気持ちの余裕を持てる時が少ないように思います。このアンケートは考える時間をもてた1日でした」（女性・51～65歳）
- ・「様々な問題があると思いますが、それぞれ根深い。短期で改善するものではないところもあります。個人で改善もできません。行政の力が必要です。一人一人の普通の幸せが

得られるように、ずっと、取り組んでいってほしいと願います。いつも、ありがとうございます」(女性・51～65歳)

- ・「基本的に差別をすることを感じません。同和地区の方、障がい者の方、皆さんとても良い人が多いと思います。一緒に行動をしてみる事が大事だと思います」(女性・66歳以上)
- ・「学校教育で子どものうちから人権問題にふれることが大事だと思う。(同和問題は教育があつて正しい知識を身につけられたが、他の人権問題については詳しいことはあまり知らない) 社会人になると簡単に考えは変わらない。パンフレットやイベントは興味ある人、意識高い人はみたり行くが、知らない人、意識低い人はみたり、行ったりしないので格差がでてしまう」(女性・18～30歳)
- ・「小学生の頃に立花町の差別ハガキ事件についてくり返し勉強になりました。残念な結果でしたけど、部落差別があるということの勉強になりました。変な差別意識が根づく前の子供の頃に様々な差別の存在を教育することはとても大事だと思います。がんばって下さい！！」(男性・18～30歳)
- ・「学校の現場で人種差別はしっかりダメだと教育すべき。インターネットを開けば、そういった書き込みが多いので正しい理解を促すべきである」(男性・18～30歳)
- ・「一度根付いた価値観を変えるのは、大変なので初期段階の教育が大事。また教育や研修を行なう人の人権問題に対する姿勢が重要」(男性・18～30歳)
- ・「無関心こそが一番のハードルだと思います。差別に関する歴史と現状を分かり易く伝える機会と教育が今まで以上に必要な時期だと思います」(男性・41～50歳)
- ・「全ては職場のパワハラ、セクハラ、アルハラが社会の歪みの原因。主従関係を強要する社会をあたりまえと思っている人間が多すぎる。違いを否定せず尊重し合う己の自立した人間を育てる教育が一番大切」(男性・41～50歳)
- ・「全ての問題に関しては、道徳教育の不備及び無関心さ、人としての思いやりが欠けて自己中心的心情が、蔓延している現状を変えて行く事。教育現場に於いて、時間をかけゆっくりとしたスピードで、視線を同じ高さで進める事が肝要」(男性・51～65歳)
- ・「小中で、学校で学ぶ時間を増す、親子で参加する授業や講演を行う、など、“知る”ことの機会を企画して欲しい。誰れにもある差別の心と向き合う&その心を認める&正しい情報で解決できるような教育が大切だと思う」(女性・51～65歳)
- ・「小学校の生徒達への判りやすい教育が必要。又、学校で習った事と家庭に帰って来た時のギャップが大きい。子どもの時の教育が大人になった時その成果が出るのでは」(男性・66歳以上)
- ・「教育や指導以外に確立出来ないと思う。事有る事に教育に徹してもらいたい。知識があれば問題はずすことはないのでは」(男性・66歳以上)

B 「肯定と否定が入り混じった意見」

人権・同和問題に関する啓発や教育の必要性を全否定するわけではないものの、啓発や教育の内容や方法、取組のバランス等に対する問題提起を行っているものが、少数見受けられた。

- ・「人権問題は同和問題ばかりに力をいれてきたように思える。同和問題以外の方が問題としては、大きいものがたくさんある」（男性・51～65歳）
- ・「同和問題等の社会的弱者の立場について理解はしていますが、権利を主張されるばかりでお互い歩みよろうという姿勢がなかったり、特別扱いしてもらって当然という態度に応じる必要はないのではと思っています。行政の刊行物についての点字や音声コード対応も必要だと思いますが、全て対応していると市側の業務が増えるばかりです。効果的でお互い納得できるもの（ライン）を模索していただきたいです」（女性・31～40歳）

C 「否定的意見や誤解・偏見に基づく意見」

この意見の傾向としては、差別される側の言動にも差別の原因があるとする「部落責任論」も少数存在した。

このような市民意識の現状は、前回調査にも同様に見られたものであり、大きな改善はみられていない。したがって、改めて、同和对策事業の過去や現在について、啓発を通じて正しい情報を発信していくことや「寝た子を起こすな」論・「部落責任論」等の誤った考え方の根絶を重点とした啓発や教育を行っていくこと、そのためにも、教育や啓発に携わる者の、部落問題に対する知識・理解を深めるための研修を、重点的に行うこと等の取り組みが必要と思われる。

「寝た子を起こすな」論

- ・「同和地区等の言葉の形がある以上無くならないと思う」（男性・18～30歳）
- ・「同和問題は、とても難しい事ですが、今の子供達はあまり気にしていない為、わざわざ大人が同和問題を大々的に扱いすぎると、これまで知らなかった子供達まで考えだしてしまう。「何も気にしない社会を作ってほしい」というのが一つの目的かと思う」（男性・31～40歳）
- ・「同和問題を子供達へ研修等をする事は大切な事とは思いますが、同和地区が八女市にもある事を伝えていくべきでしょうか？何も知らない子供達に伝えていったら、同和地区はなくならないと思います。大人、学校行政が、口先だけの人権教育はするべきではないと思います」（女性・51～65歳）
- ・「自分も昔、同和問題で結婚を反対される事があった。自分は、自分の考えで結婚はしなかった。その時同和問題についての知識もなかったので、今からの子供達にわざわざとりあげないでほしいと思います」（女性・51～65歳）
- ・「人権問題は個人の問題であると思う事から行政があれこれ言う事が正しい事なのか分かりません 又人権教育を行う人間が絶対的正しいとも思いません 今の時代個人が強い意志を持てる様な教育又同和問題がまだあるとは驚きです」（女性・51～65歳）
- ・「住民対象の講演会などすると差別がおきる。何も知らないとは差別はない」（男性・51～65歳）
- ・「なぜ。同和のことを学校で教える必要があるのかわからない！！」（男性・51～65歳）
- ・「同和問題については、わざわざ取り上げなくてもいいのでは。ほかにもっと目をむけて

ほしい。こまっている人は、たくさんいます」(男性・51～65歳)

- ・「同和問題は解決していると思うので、あまりこの問題は取り上げない方が良いのではないかと思う。同和地区の人は、かなり優遇されていると聞いています」(男性・66歳以上)
- ・「問15の答えのとおり、わざわざ取り上げずにそっとしておく方がよいと思います」(男性・66歳以上)
- ・「同和問題について、現在のやり方だと永遠に続いていくと思う！自然消滅させた方が一番いいと思う！知らない人まで知ってしまった。今の行政のやり方だと）又、逆差別も有ると聞いている。(差別されている人も考えるべき) これらの事を考えると卵が先か鶏が先かの論議になってしまう」(男性・66歳以上)
- ・「同和問題についてさわぎすぎでは？」(男性・66歳以上)

その他否定的意見

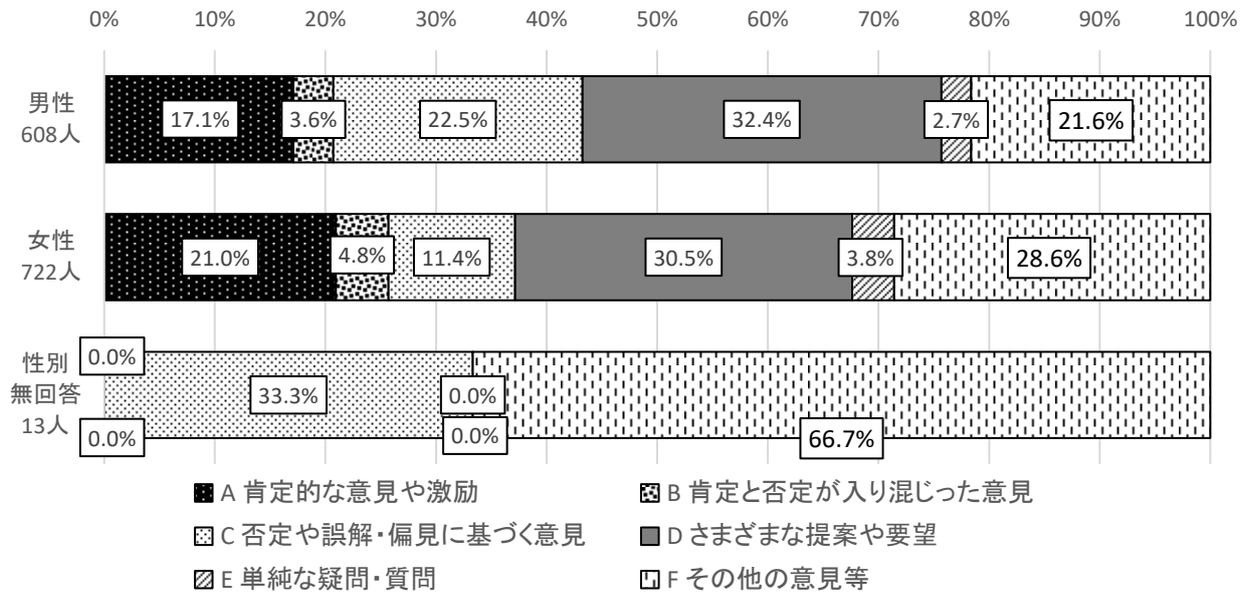
- ・「人権に税金を使わないでほしい。他に優先順位があるはず」(女性・31～40歳)
- ・「困っている人が手軽に相談出来る場所は必要と思うが、同和→補助金が出ると聞いた事がある。本当であれば、補助金を目当てとした人もいるのではないのか？」(男性・31～40歳)、
- ・「部落差別問題に関しては、現在では、ほとんどの人が、部落の存在等を知らない人ばかりではないでしょうか。部落問題について活動している人は部落の人で、補助等がなくならない様に活動しているようにしか思えない」(男性・51～65歳)、
- ・「同和地区の人たちはいろいろな補償の上であぐらをかき生活しています。出産、自動車学校、住居等々。やすい住居(家賃)に住み、高級車に乗り、行く先はパチンコです。我々市民は真面目に働き特にサラリーの中で暮らしを組み立てるのですが、彼等は何の苦労もなく、の一のーと生活している様子なのです。差別がNGと親に常々注意されていましたが、そのことだけは許せません。差別を逆手に取っている現実を見て見ぬふりをされる市役所の方々に腹がたちます」(女性・51～65歳)、
- ・「特定の地区を「同和地区」として特別扱いすることは、そのことが問題では？ 隣保館やその地区の子供達に特別に補習を行うなど、特別に対応することはやめるべきと思う」(男性・51～65歳)
- ・「八女市に存在する同和地区の住人に対して今後未来に向けて、あまり特別扱いは、避けた方がいいと思います」(男性・51～65歳)
- ・「人権は義務と権利の両立でなりたつものと思います。現在は保護の法律を利用する人々が多くいると聞きます。何となくですけど私達の中学時代までは同和は知りませんでした。別に法律のぬけ穴が有る気がします」(女性・66歳以上)
- ・「同和問題に関して、同和の人たちが自ら差別をつくっている気がします。同和の人たちは特別な支援とかを受けている」(男性・66歳以上)等、同和对策事業の歴史や現状に対する正確な情報を持たないことから生まれる不信感や偏見、部落差別解消のための運動への無理解に基づく偏見等も多く見られる。また、
- ・「同和問題について 同和の人の行動も一般の人を害していることがある」(男性・66歳以上)

D 「さまざまな提案や要望」

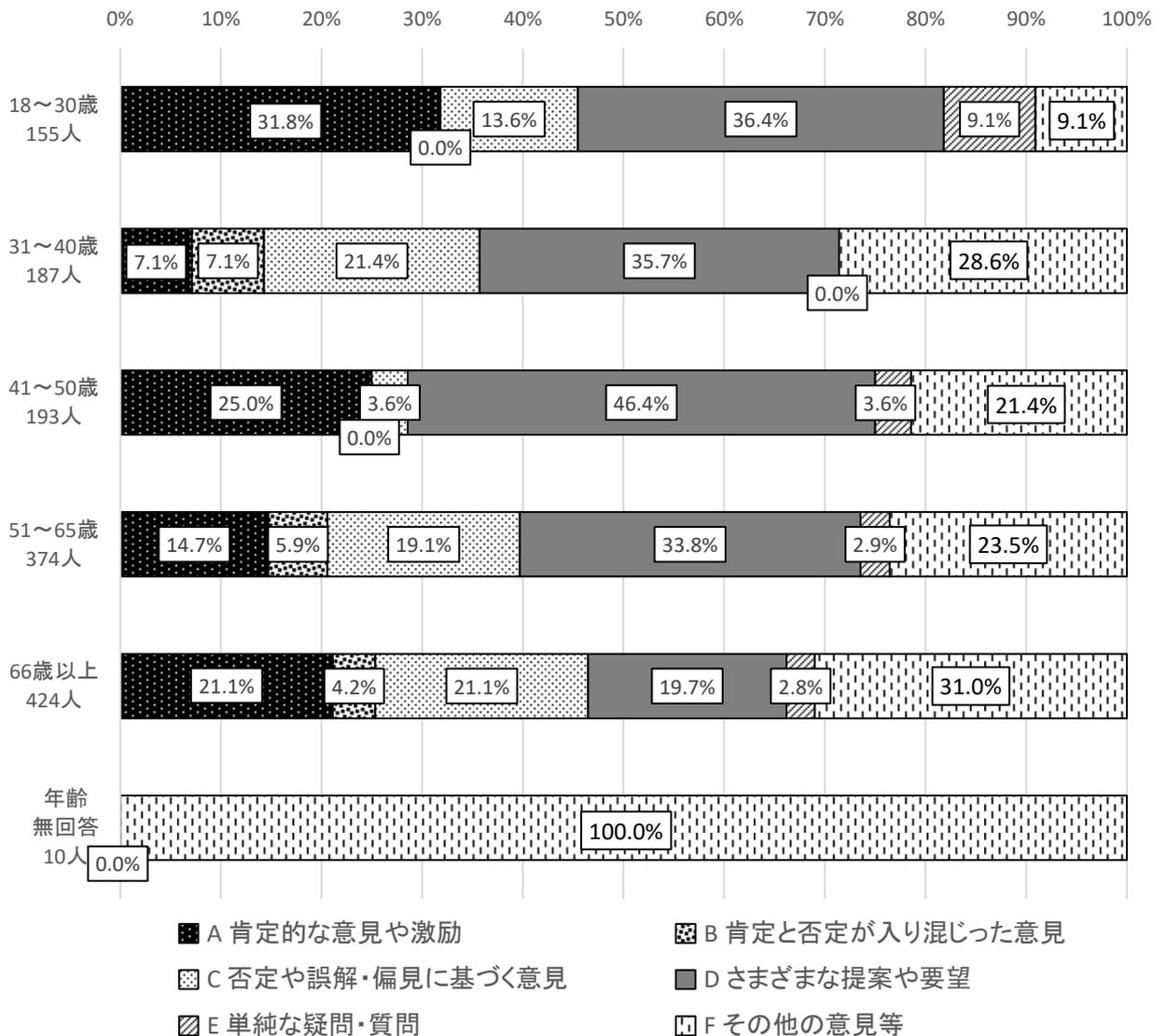
他の自治体のアンケートには見られないほど、各年代から多くの「提案や要望」が寄せられているが、個別具体的な課題を提起しているものが多く、行政として早急に対応すべきものや、今後の施策の参考にすべきものが少なくない。代表的なものは次のとおりである。その他にも、道路整備、福祉サービス、障がい者福祉、子育て等についての提案や要望が寄せられており、関係部署に通知を行い連携を図られたい。

- ・「このアンケートにありませんでしたが、もっと性教育に力を入れるべきです。性教育の充実、理解が女性や子供、性的少数者しいては男性への人権問題の解しようにつながると思います」(女性・18～30歳)
- ・「アンケートの内容の中で女性差別についての質問がありましたが男性に対する差別も少なからず存在すると思います。「女性」に固執せず「性差別」とした方が良いのではないかと思います」(男性・18～30歳)
- ・「人間として生きてゆく中で貧困で苦しんでいる人が多い。格差社会を改善しなければ安心して生活してゆけない。格差のない社会にしてほしい」(男性・66歳以上)

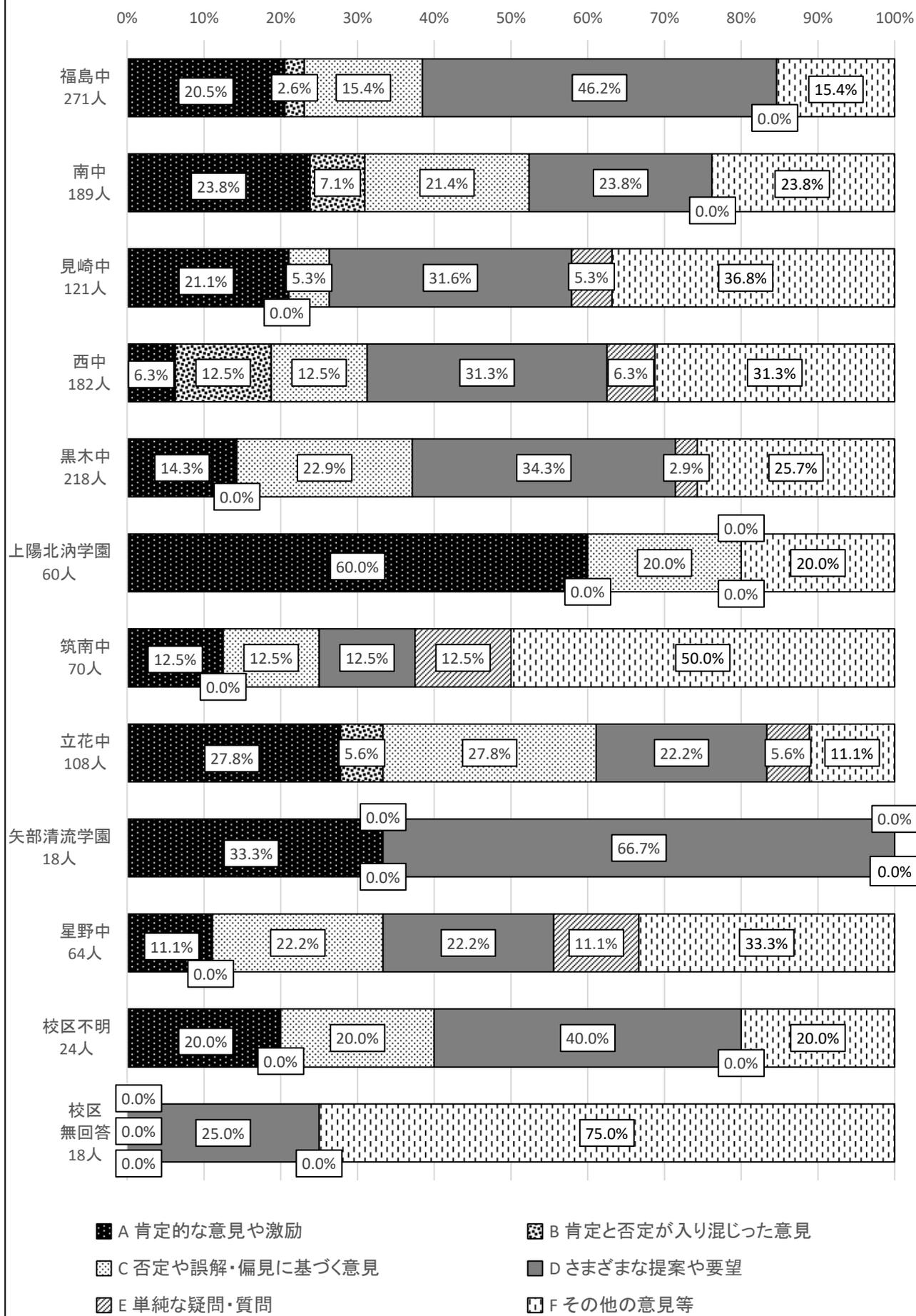
自由記述分類(性別)



自由記述分類(年齢別)



自由記述分類(校区別)



V クロス分析

問5×問14 <疑問に思う風習や習慣>×<結婚問題>

「疑問に思う風習や習慣」と、「同和地区出身者でない者が同和地区出身者と結婚しよう」とすると、「周囲から反対される」ことに対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」を選んだ者の割合が、全体（63.5%）より 5.0 ポイント以上高くなっていたのが、「方角の『吉凶』」を疑問に思うとした者の 69.9%（6.4 ポイント差）、「結婚相手の家柄」を疑問に思うとした者の 75.8%（12.3 ポイント差）で、5.0 ポイント以上低くなっていたのが、「疑問に思うものはない」を選んだ者の 52.6%（10.9 ポイント差）である。

「感情的には反対である」を選んだ者の割合では、「結婚相手の家柄」を疑問に思うとした者が 7.2%と、全体（11.5%）より 4.3 ポイント低くなっていたが、それ以外の回答傾向に大きな差は見られなかった。

「結婚は家族全員の問題なのでやめてほしい」を選んだ者の割合は、「疑問に思うものはない」を選んだ者が 4.4%と、全体（3.3%）よりわずかに高くなっていたが、それ以外の回答割合はほぼ同じであった。

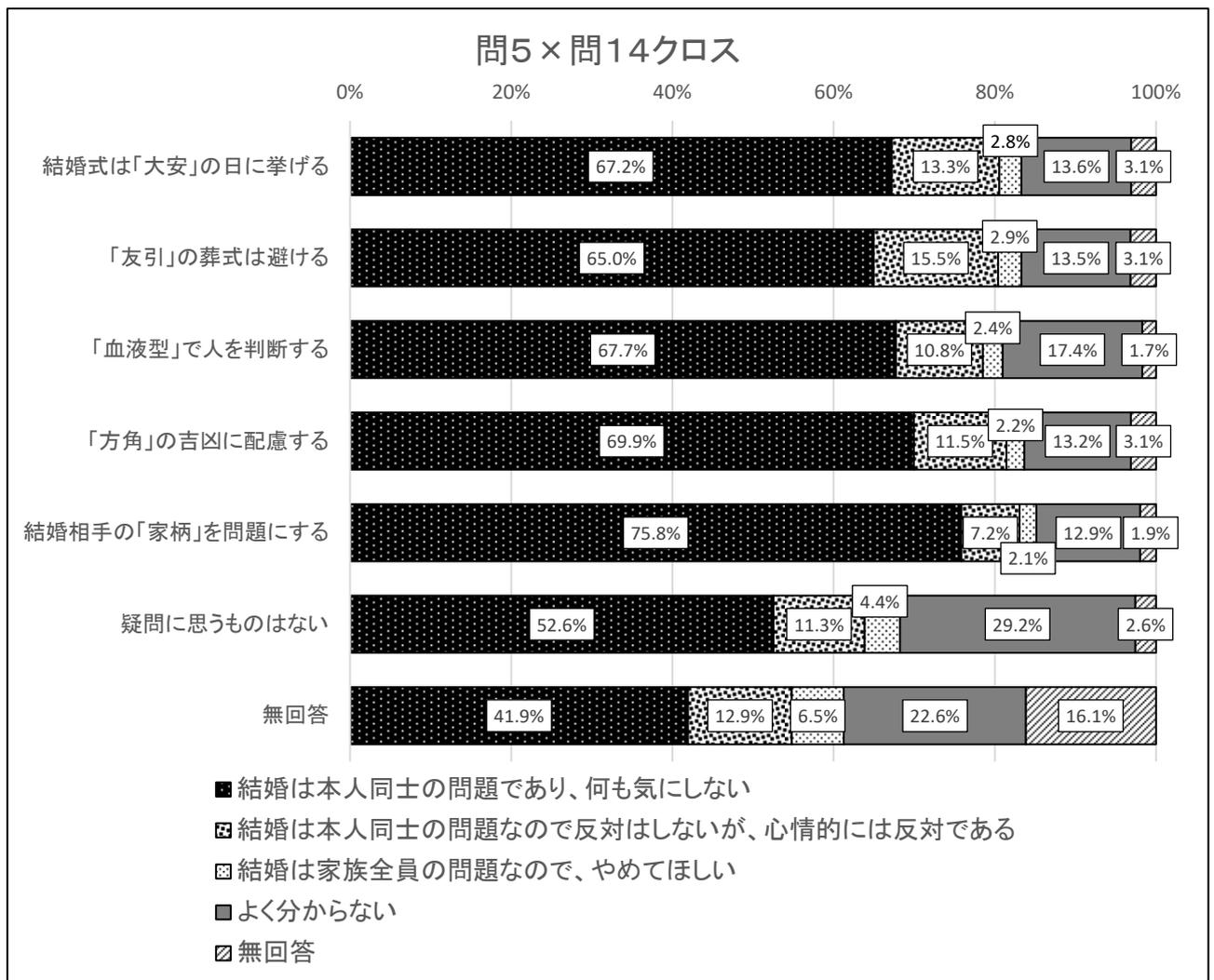
「よく分からない」を選んだ者の割合が、全体（19.1%）より 5.0 ポイント以上高くなっていたのは、「疑問に思うものはない」を選んだ者の 29.2%（10.1 ポイント差）で、『『血液型』で人を判断する』を選んだ者の 17.4%以外は、いずれも 12.9%～13.6%の回答率で、全体より 5.0 ポイント以上低くなっていた。

これらのことから、「結婚相手の家柄」を疑問に思うとした者は、当然のことではあるが、「同和地区出身者でない者」と「同和地区出身者」との結婚に対する抵抗感が他と比べて少なく、「疑問に思うものはない」を選んだ者は、抵抗感が他と比べて強いということが分かる。

その分、「疑問に思うものはない」を選んだ者は、「よく分からない」を選んだ者の割合が高くなっている。一方、「結婚は家族全員の問題なのでやめてほしい」を選んだ者は、「結婚相手の家柄」を疑問に思うとした者の中にも 2.1%存在しているという事実は、重く受け止める必要がある。

また、「大安」「友引」「血液型」「方角」といった風習や習慣を疑問に思うか否かと、「同和地区出身者でない者」と「同和地区出身者」との結婚に対する抵抗感の有無の間に、明らかな相関関係は見られなかった。

問5×問14 クロス			問14 結婚問題について					合計
			結婚は本人 同士の問題 であり、何 も気にしな い	結婚は本人 同士の問題 なので反対 はしないが、 心情的には 反対である	結婚は家族 全員の問題 なので、や めてほしい	よく分から ない	無回答	
問5 疑問に思 う風習や習慣	結婚式は「大安」 の日に挙げる	回答人数	242	48	10	49	11	360
		問5 内での割合	67.2%	13.3%	2.8%	13.6%	3.1%	
		合計数に対する割合	18.0%	3.6%	0.7%	3.6%	0.8%	26.8%
	「友引」の葬式は 避ける	回答人数	269	64	12	56	13	414
		問5 内での割合	65.0%	15.5%	2.9%	13.5%	3.1%	
		合計数に対する割合	20.0%	4.8%	0.9%	4.2%	1.0%	30.8%
	「血液型」で人を 判断する	回答人数	363	58	13	93	9	536
		問5 内での割合	67.7%	10.8%	2.4%	17.4%	1.7%	
		合計数に対する割合	27.0%	4.3%	1.0%	6.9%	0.7%	39.9%
	「方角」の吉凶に 配慮する	回答人数	249	41	8	47	11	356
問5 内での割合		69.9%	11.5%	2.2%	13.2%	3.1%		
合計数に対する割合		18.5%	3.1%	0.6%	3.5%	0.8%	26.5%	
結婚相手の「家 柄」を問題にする	回答人数	471	45	13	80	12	621	
	問5 内での割合	75.8%	7.2%	2.1%	12.9%	1.9%		
	合計数に対する割合	35.1%	3.4%	1.0%	6.0%	0.9%	46.2%	
疑問に思うものは ない	回答人数	144	31	12	80	7	274	
	問5 内での割合	52.6%	11.3%	4.4%	29.2%	2.6%		
	合計数に対する割合	10.7%	2.3%	0.9%	6.0%	0.5%	20.4%	
無回答	回答人数	13	4	2	7	5	31	
	問5 内での割合	41.9%	12.9%	6.5%	22.6%	16.1%		
	合計数に対する割合	1.0%	0.3%	0.1%	0.5%	0.4%	2.3%	
合計		回答人数	853	155	44	256	35	1343
		合計数に対する割合	63.5%	11.5%	3.3%	19.1%	2.6%	100.0%



問6×問14 <人権問題に関する研修>×<結婚問題>

「仕事を通じた人権研修の受講機会の有無」と、「同和地区出身者でない者が同和地区出身者と結婚しようとする、周囲から反対される」ことに対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている(いた)」者の63.2%(前回74.5%)、「繰り返し研修を受けている(いた)」者の74.3%(前回67.9%)、「研修を受けたことはある(あった)」者の73.9%(前回62.8%)が「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」と回答している。

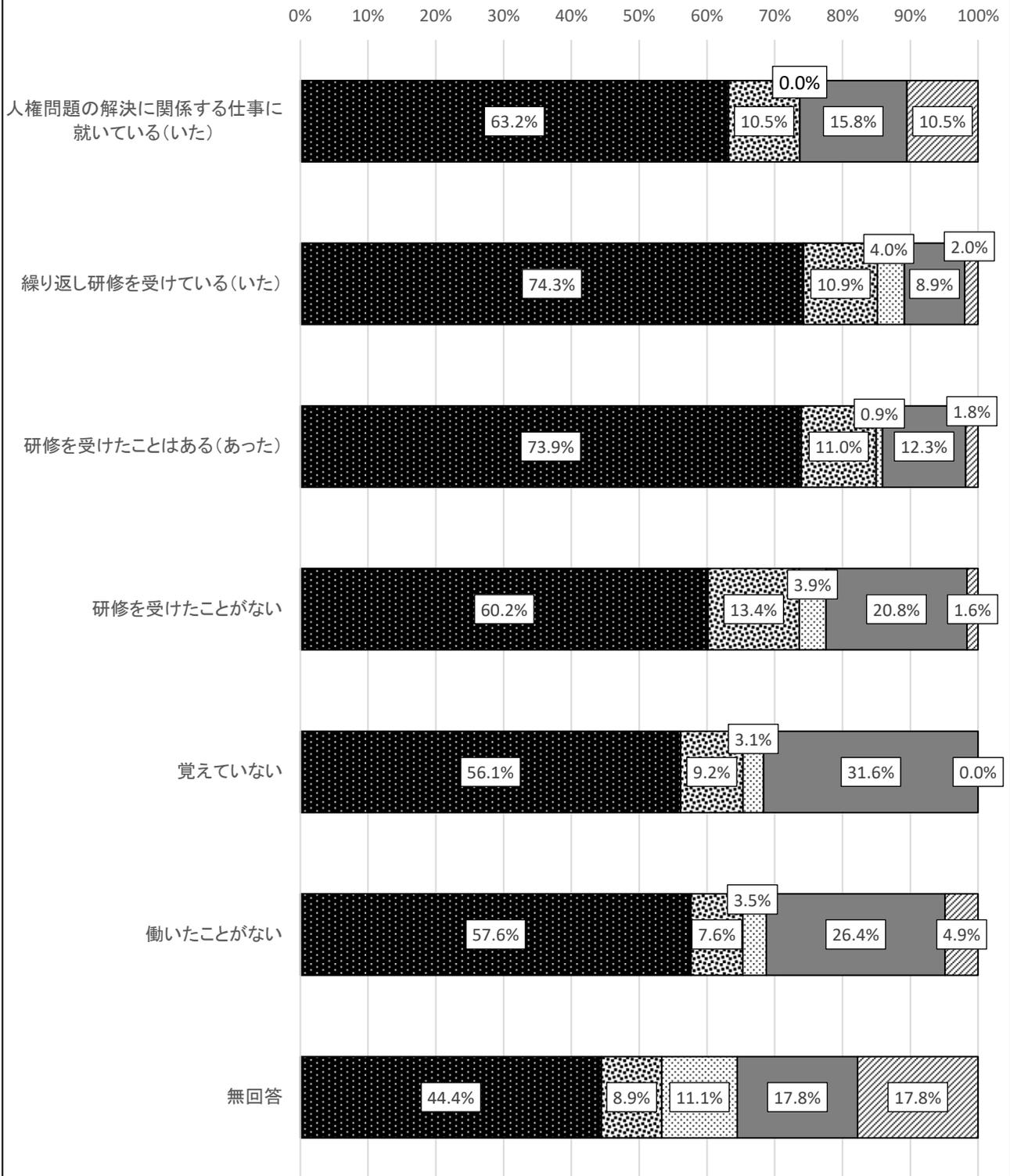
また、若い世代も多く含まれると思われる「働いたことがない」者では、57.6%(前回68.1%)が、「研修を受けたことがない」者では60.2%(前回53.5%)が、「何も気にしない」と回答している。

研修機会を多く持つ者の方が、結婚時における部落差別に否定的な態度を取る傾向があることが分かる結果ではあるが、前回と比べ、「人権問題の解決に関係する仕事に就いている(いた)」者の内、「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」と回答した者の割合が11.3ポイント減少し、その分「よく分からない」と回答した者の割合が8.0ポイント増加(今回15.8%・前回7.8%)していることは問題であろう。

なお、「人権問題の解決に関係する仕事に就いている(いた)」者の中で、「心情的には反対である」と回答した者は10.5%(前回11.8%)、「やめてほしい」と回答した者は0.0%(前回2.0%)で、「繰り返し研修を受けている(いた)」者の中で、「心情的には反対である」と回答した者が10.9%(前回17.9%)、「やめてほしい」と回答した者は4.0%(前回1.3%)である。

問6×問14クロス			問14 結婚問題について					合計
			結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない	結婚は本人同士の問題なので反対はしないが、心情的には反対である	結婚は家族全員の問題なので、やめてほしい	よく分からない	無回答	
問6 人権問題に関する研修	人権問題の解決に関係する仕事に就いている(いた)	回答人数	12	2	0	3	2	19
		問6内での割合	63.2%	10.5%	0.0%	15.8%	10.5%	
	繰り返し研修を受けている(いた)	回答人数	75	11	4	9	2	101
		問6内での割合	74.3%	10.9%	4.0%	8.9%	2.0%	
	研修を受けたことはある(あった)	回答人数	241	36	3	40	6	326
		問6内での割合	73.9%	11.0%	0.9%	12.3%	1.8%	
	研修を受けたことがない	回答人数	367	82	24	127	10	610
		問6内での割合	60.2%	13.4%	3.9%	20.8%	1.6%	
	覚えていない	回答人数	55	9	3	31	0	98
		問6内での割合	56.1%	9.2%	3.1%	31.6%	0.0%	
	働いたことがない	回答人数	83	11	5	38	7	144
		問6内での割合	57.6%	7.6%	3.5%	26.4%	4.9%	
	無回答	回答人数	20	4	5	8	8	45
		問6内での割合	44.4%	8.9%	11.1%	17.8%	17.8%	
合計	回答人数	853	155	44	256	35	1343	
	合計数に対する割合	63.5%	11.5%	3.3%	19.1%	2.6%	100.0%	

問6×問14クロス



- 結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない
- ▨ 結婚は本人同士の問題なので反対はしないが、心情的には反対である
- ▩ 結婚は家族全員の問題なので、やめてほしい
- よく分からない
- ▨ 無回答

問6×問15 <人権問題に関する研修>×<同和問題解決の施策や取組>

「仕事を通じた人権研修の受講機会の有無」と、「同和問題を解決するための施策や取組」に対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

「人権研修」を受けた経験がある三つの属性の、各施策や取組の選択傾向は、以下の通りである。

「事業に積極的に取り組む」(全体 17.3%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 31.6% (前回 16.2%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 26.7% (前回 14.5%)

「研修を受けたことはある」 24.8% (前回 8.8%)

「啓発活動に力を入れる」(全体 16.8%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 26.3% (前回 19.8%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 40.6% (前回 21.6%)

「研修を受けたことはある」 23.3% (前回 13.8%)

「同和問題に関する教育」(全体 49.3%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 63.2% (前回 36.9%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 73.3% (前回 37.0%)

「研修を受けたことはある」 58.3% (前回 35.4%)

「規制や救済のための法律や制度」(全体 17.8%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 26.3% (前回 15.3%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 26.7% (前回 12.7%)

「研修を受けたことはある」 16.6% (前回 8.3%)

「同和問題は基本的に解決」(全体 6.6%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 10.5% (前回 1.8%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 3.0% (前回 3.3%)

「研修を受けたことはある」 5.8% (前回 5.8%)

「そっとしておく方がよい」(全体 28.7%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 21.1% (前回 6.3%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 13.9% (前回 8.3%)

「研修を受けたことはある」 23.0% (前回 21.0%)

「よく分からない」(全体 12.8%)

「人権問題の解決に関係する仕事に就いている (いた)」 10.5% (前回 2.7%)

「繰り返し研修を受けている (いた)」 4.0% (前回 1.8%)

「研修を受けたことはある」 8.3% (前回 4.8%)

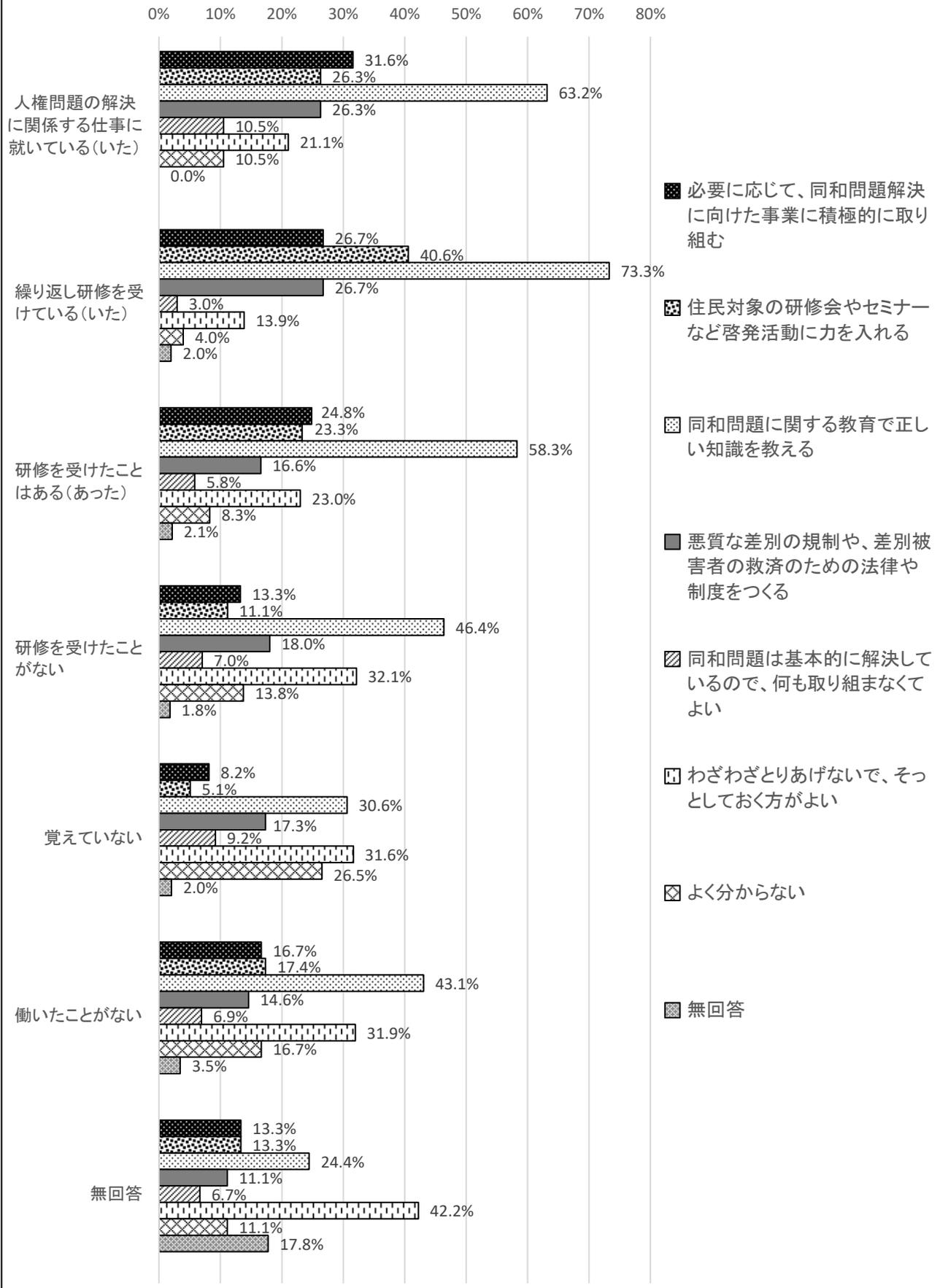
同和問題解決のための様々な施策全てに関し、積極的に取り組むべきだと考える者が、大幅に増加していることが分かる。おそらくこれは、「部落差別解消推進法」制定にともなう研修・啓発の成果ではないかと思われる。

一方、法制定による差別解消の取組の推進というアクションに対し、納得できていない「人権問題の解決に関係する仕事に就いている（いた）」者のリアクションが、消極的意見や「よく分からない」の増加という形で表れているのではないだろうか。

部落問題の現状や課題、求められている施策等に関する、より詳細な研修の必要性を示唆する結果であると思われる。

問6 × 問15クロス			問15 同和問題解決の施策や取組								
			必要に応じて、同和問題解決に向けた事業に積極的に取り組む	住民対象の研修会やセミナーなど啓発活動に力を入れる	同和問題に関する教育で正しい知識を教える	悪質な差別の規制や、差別被害者の救済のための法律や制度をつくる	同和問題は基本的には解決しているのので、何も取り組まなくてよい	わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい	よく分からない	無回答	合計
問6 人権問題に関する研修	人権問題の解決に関係する仕事に就いている（いた）	回答人数	6	5	12	5	2	4	2	0	19
		問6 内での割合	31.6%	26.3%	63.2%	26.3%	10.5%	21.1%	10.5%	0.0%	
		合計数に対する割合	0.4%	0.4%	0.9%	0.4%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	1.4%
	繰り返し研修を受けている（いた）	回答人数	27	41	74	27	3	14	4	2	101
		問6 内での割合	26.7%	40.6%	73.3%	26.7%	3.0%	13.9%	4.0%	2.0%	
		合計数に対する割合	2.0%	3.1%	5.5%	2.0%	0.2%	1.0%	0.3%	0.1%	7.5%
	研修を受けたことはある（あった）	回答人数	81	76	190	54	19	75	27	7	326
		問6 内での割合	24.8%	23.3%	58.3%	16.6%	5.8%	23.0%	8.3%	2.1%	
		合計数に対する割合	6.0%	5.7%	14.1%	4.0%	1.4%	5.6%	2.0%	0.5%	24.3%
	研修を受けたことがない	回答人数	81	68	283	110	43	196	84	11	610
		問6 内での割合	13.3%	11.1%	46.4%	18.0%	7.0%	32.1%	13.8%	1.8%	
		合計数に対する割合	6.0%	5.1%	21.1%	8.2%	3.2%	14.6%	6.3%	0.8%	45.4%
	覚えていない	回答人数	8	5	30	17	9	31	26	2	98
		問6 内での割合	8.2%	5.1%	30.6%	17.3%	9.2%	31.6%	26.5%	2.0%	
合計数に対する割合		0.6%	0.4%	2.2%	1.3%	0.7%	2.3%	1.9%	0.1%	7.3%	
働いたことがない	回答人数	24	25	62	21	10	46	24	5	144	
	問6 内での割合	16.7%	17.4%	43.1%	14.6%	6.9%	31.9%	16.7%	3.5%		
	合計数に対する割合	1.8%	1.9%	4.6%	1.6%	0.7%	3.4%	1.8%	0.4%	10.7%	
無回答	回答人数	6	6	11	5	3	19	5	8	45	
	問6 内での割合	13.3%	13.3%	24.4%	11.1%	6.7%	42.2%	11.1%	17.8%		
	合計数に対する割合	0.4%	0.4%	0.8%	0.4%	0.2%	1.4%	0.4%	0.6%	3.4%	
合計	回答人数	233	226	662	239	89	385	172	35	1343	
	合計数に対する割合	17.3%	16.8%	49.3%	17.8%	6.6%	28.7%	12.8%	2.6%	100.0%	

問6×問15クロス



問 11×問 14 <同和問題を知った時期>×<結婚問題>

「同和問題を知った時期」と、「同和地区出身者ではない者が同和地区出身者と結婚しようとする」と、周囲から反対される」ことに対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」と回答した者の割合（全体 63.5%）が、最も多かったのは、「12歳未満」の72.7%、次いで「15歳～18歳未満」の70.9%だったが、「12歳～15歳未満」では58.9%、「18歳以上」では58.4%と、全体を下回る数字となっていた。

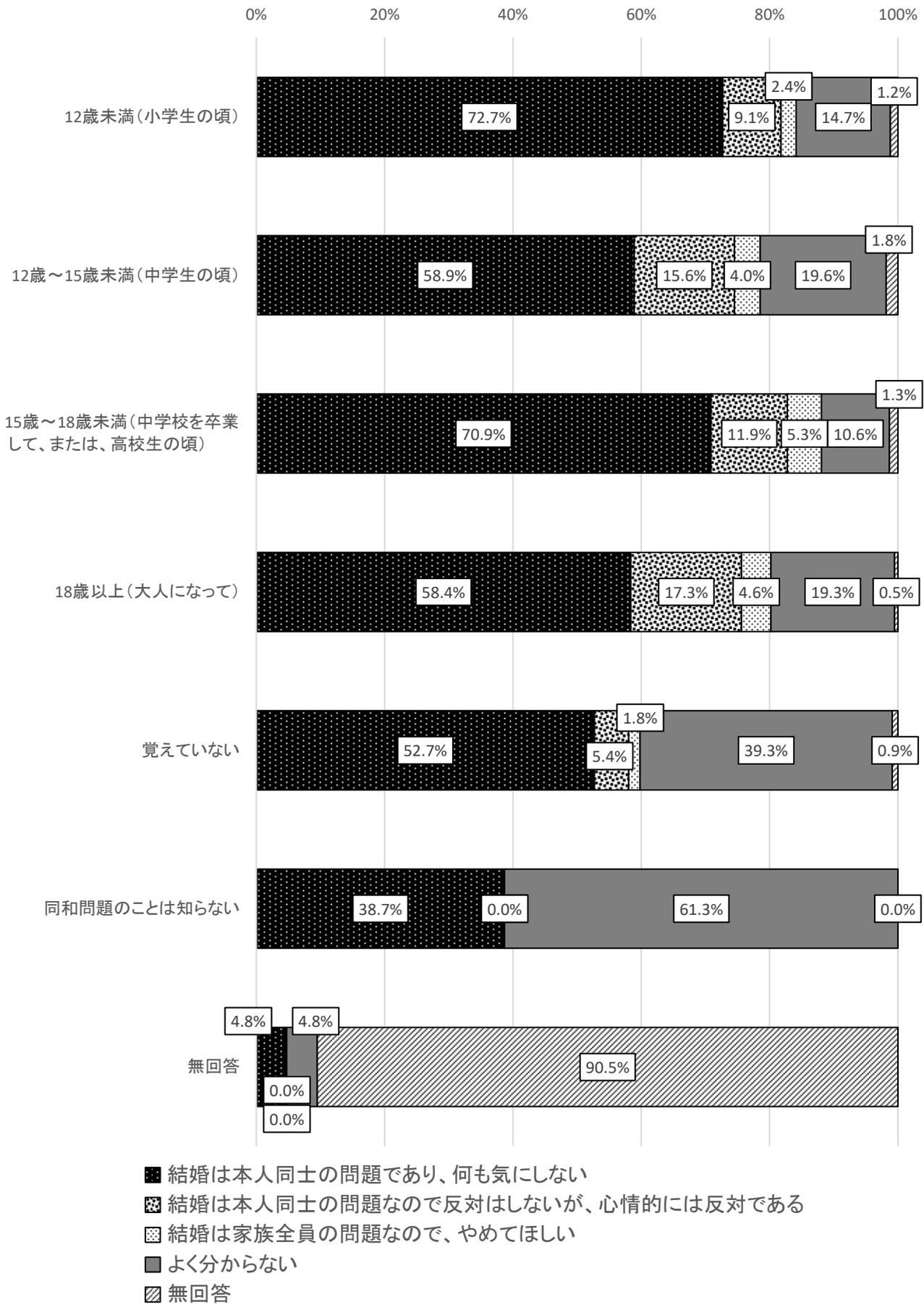
また、「心情的には反対である」と回答した者と「やめてほしい」と回答した者の割合の合計を見ると、「12歳未満」11.5%が最小で、次いで「15歳～18歳未満」17.2%、「12歳～15歳未満」19.6%、「18歳以上」21.9%となっていた。

小学校における人権・同和教育の重要性を表している結果とも考えられるが、それだけでは「12歳～15歳未満」の回答傾向が、「15歳～18歳未満」に比べ、「同和地区出身者ではない者」と「同和地区出身者」との結婚に関して、否定的なものになっている理由が説明できない。

この原因の解明については、今後の課題と言えるだろう。

問 11×問 14 クロス			問14 結婚問題について					合計
			結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない	結婚は本人同士の問題なので反対はしないが、心情的には反対である	結婚は家族全員の問題なので、やめてほしい	よく分からない	無回答	
問11 同和問題について 知った時期	12歳未満（小学生の頃）	回答人数	367	46	12	74	6	505
		問11 内での割合	72.7%	9.1%	2.4%	14.7%	1.2%	
		合計数に対する割合	27.3%	3.4%	0.9%	5.5%	0.4%	37.6%
	12歳～15歳未満（中学生の頃）	回答人数	192	51	13	64	6	326
		問11 内での割合	58.9%	15.6%	4.0%	19.6%	1.8%	
		合計数に対する割合	14.3%	3.8%	1.0%	4.8%	0.4%	24.3%
	15歳～18歳未満（中学校を卒業して、または、高校生の頃）	回答人数	107	18	8	16	2	151
		問11 内での割合	70.9%	11.9%	5.3%	10.6%	1.3%	
		合計数に対する割合	8.0%	1.3%	0.6%	1.2%	0.1%	11.2%
	18歳以上（大人になって）	回答人数	115	34	9	38	1	197
		問11 内での割合	58.4%	17.3%	4.6%	19.3%	0.5%	
		合計数に対する割合	8.6%	2.5%	0.7%	2.8%	0.1%	14.7%
	覚えていない	回答人数	59	6	2	44	1	112
		問11 内での割合	52.7%	5.4%	1.8%	39.3%	0.9%	
合計数に対する割合		4.4%	0.4%	0.1%	3.3%	0.1%	8.3%	
同和問題のことは知らない	回答人数	12	0	0	19	0	31	
	問11 内での割合	38.7%	0.0%	0.0%	61.3%	0.0%		
	合計数に対する割合	0.9%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	2.3%	
無回答	回答人数	1	0	0	1	19	21	
	問11 内での割合	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	90.5%		
	合計数に対する割合	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	1.4%	1.6%	
合計	回答人数	853	155	44	256	35	1343	
	合計数に対する割合	63.5%	11.5%	3.3%	19.1%	2.6%	100.0%	

問11×問14クロス



問12×問14 <同和問題の情報提供者>×<結婚問題>

「同和問題に関する知識を何から得ているのか」と、「同和地区出身者ではない者が同和地区出身者と結婚しようとする、周囲から反対される」ことに対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」と回答した者の割合が高かったのが、「インターネット」の83.7%（前回71.4%）、「同和地区出身者」の73.1%（前回69.9%）、「研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙」71.2%（前回67.0%）、「学校教育」の72.2%（前回64.6%）、「新聞やテレビ、本や映画」の70.3%（前回62.1%）で、低かったのが、「友人や知人、職場の同僚や地域住民」の62.1%（前回54.1%）、「家族や親族」の60.6%（前回49.8%）であった。

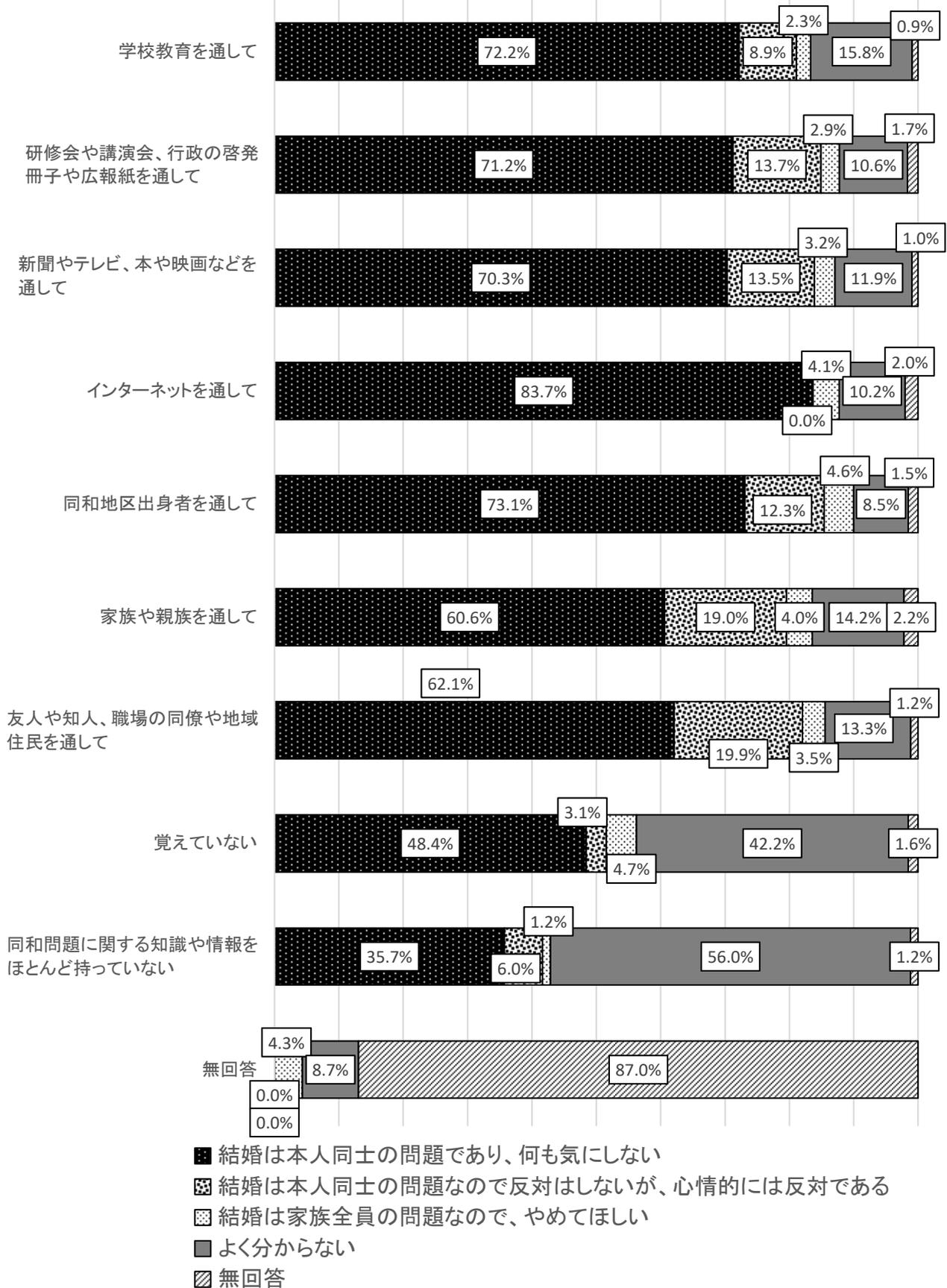
順位的には前回とほぼ同じ結果で、「友人や知人、職場の同僚や地域住民」「家族や親族」から知識を得やすい環境にある者は、部落差別意識を相対的に受容しやすい状況にあると考えられるが、「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」と回答した者の割合が、全体として大きく増加していることから、社会全体の意識が変わることにより、このような層においても部落差別意識からの脱却が進行していることが分かる。

「心情的には反対である」とした者の割合にも同様の傾向があったが、その一方で、「やめてほしい」と回答した者の割合は、いずれも3%前後にとどまっており、減少傾向は見られなかった。このことは、従来の教育や啓発では変えることが難しい、強い部落差別意識を持った層が一定存在していることを表している。

問12×問14 クロス			問14 結婚問題について					
			結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない	結婚は本人同士の問題なので反対はしないが、心情的には反対である	結婚は家族全員の問題なので、やめてほしい	よく分からない	無回答	合計
問12 同和問題に関する知識や情報	学校教育を通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	545 72.2% 40.6%	67 8.9% 5.0%	17 2.3% 1.3%	119 15.8% 8.9%	7 0.9% 0.5%	755 56.2%
	研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙を通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	297 71.2% 22.1%	57 13.7% 4.2%	12 2.9% 0.9%	44 10.6% 3.3%	7 1.7% 0.5%	417 31.0%
	新聞やテレビ、本や映画などを通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	218 70.3% 16.2%	42 13.5% 3.1%	10 3.2% 0.7%	37 11.9% 2.8%	3 1.0% 0.2%	310 23.1%
	インターネットを通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	41 83.7% 3.1%	0 0.0% 0.0%	2 4.1% 0.1%	5 10.2% 0.4%	1 2.0% 0.1%	49 3.6%
	同和地区出身者を通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	95 73.1% 7.1%	16 12.3% 1.2%	6 4.6% 0.4%	11 8.5% 0.8%	2 1.5% 0.1%	130 9.7%
	家族や親族を通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	166 60.6% 12.4%	52 19.0% 3.9%	11 4.0% 0.8%	39 14.2% 2.9%	6 2.2% 0.4%	274 20.4%
	友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	159 62.1% 11.8%	51 19.9% 3.8%	9 3.5% 0.7%	34 13.3% 2.5%	3 1.2% 0.2%	256 19.1%
	覚えていない	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	31 48.4% 2.3%	2 3.1% 0.1%	3 4.7% 0.2%	27 42.2% 2.0%	1 1.6% 0.1%	64 4.8%
	同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	30 35.7% 2.2%	5 6.0% 0.4%	1 1.2% 0.1%	47 56.0% 3.5%	1 1.2% 0.1%	84 6.3%
	無回答	回答人数 問12 内での割合 合計数に対する割合	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	1 4.3% 0.1%	2 8.7% 0.1%	20 87.0% 1.5%	23 1.7%
	合計	回答人数 合計数に対する割合	853 63.5%	155 11.5%	44 3.3%	256 19.1%	35 2.6%	1343 100.0%

問12×問14クロス

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 23×問 14 <「なぜなぜ人権」を読んだ経験>×<結婚問題>

『なぜなぜ人権』の認知状況と、「同和地区出身者ではない者が同和地区出身者と結婚しようとする、周囲から反対される」ことに対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

「結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない」と回答した者の割合（全体 63.5%）は、「いつも読んでいる」の 73.3%が最も多く、次いで「ときどき読んでいる」の 64.5%、「『なぜなぜ人権』を知らない」の 63.1%、「知っているが、読んだことはない」の 57.9%となっていた。

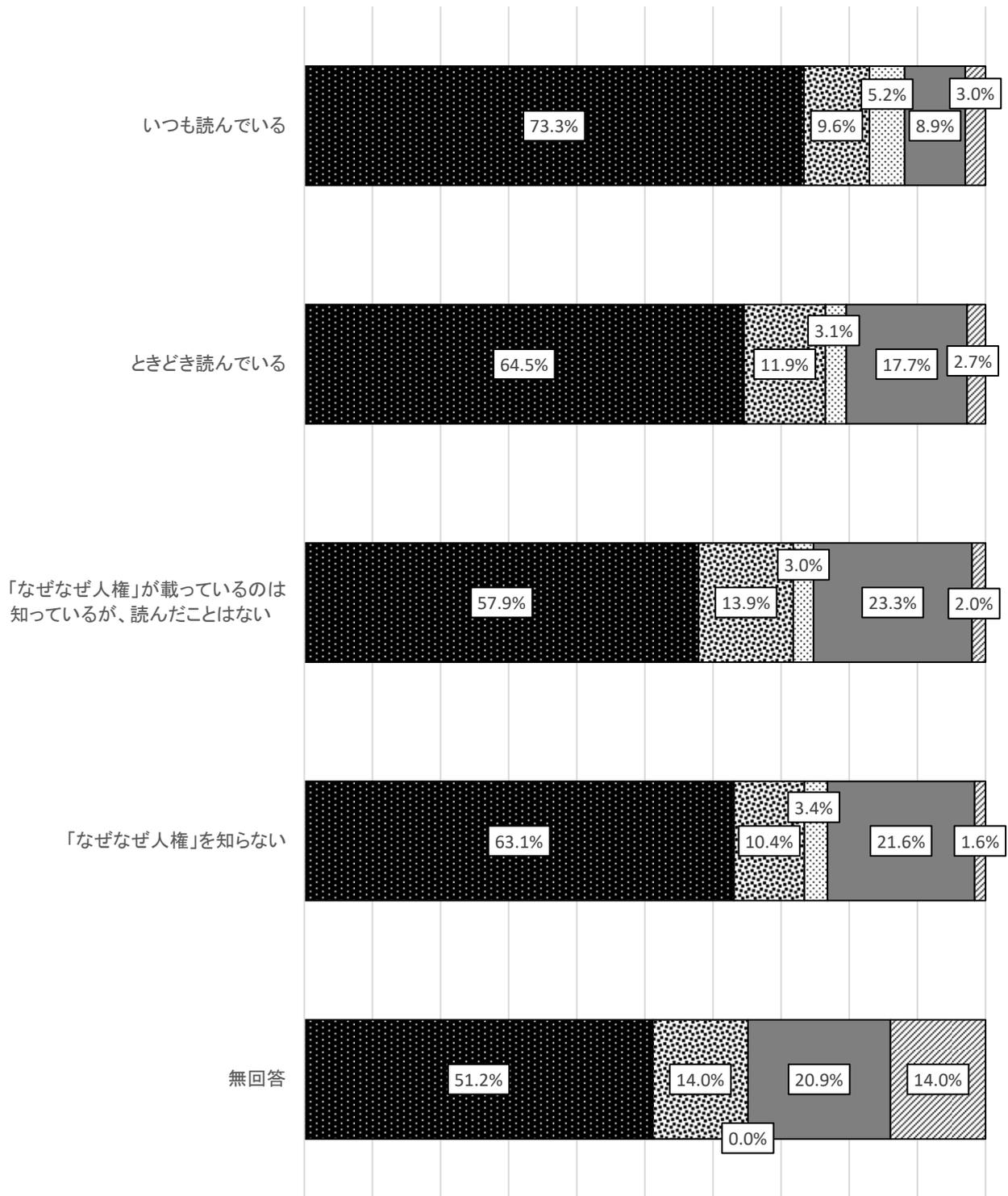
『なぜなぜ人権』を知らない」と回答した者には、人権教育の記憶が相対的に鮮明な若年層や、他地域で啓発を受けて来た新規居住者等が、一定含まれていることを考えれば、『なぜなぜ人権』への認知度や関心度は、そのまま個々の人権意識の深淺度を表す指標となっていると思われる。

したがって、『なぜなぜ人権』の認知度アップや、より市民の関心を集めるような紙面づくりを、これからも心がける必要があると思われる。

問 23 × 問 14 クロス			問14 結婚問題について					
			結婚は本人 同士の問題 であり、何 も気にしな い	結婚は本人 同士の問題 なので反対 はしない が、心情的 には反対で ある	結婚は家族 全員の問題 なので、や めてほしい	よく分か らない	無回答	合計
問23 「なぜ なぜ人権」 を読んだ経 験	いつも読んでいる	回答人数	99	13	7	12	4	135
		問23 内での割合	73.3%	9.6%	5.2%	8.9%	3.0%	
		合計数に対する割合	7.4%	1.0%	0.5%	0.9%	0.3%	10.1%
	ときどき読んで いる	回答人数	335	62	16	92	14	519
		問23 内での割合	64.5%	11.9%	3.1%	17.7%	2.7%	
		合計数に対する割合	24.9%	4.6%	1.2%	6.9%	1.0%	38.6%
	「なぜなぜ人 権」が載っている のは知っている が、読んだことは ない	回答人数	117	28	6	47	4	202
		問23 内での割合	57.9%	13.9%	3.0%	23.3%	2.0%	
		合計数に対する割合	8.7%	2.1%	0.4%	3.5%	0.3%	15.0%
	「なぜなぜ人権」 を知らない	回答人数	280	46	15	96	7	444
		問23 内での割合	63.1%	10.4%	3.4%	21.6%	1.6%	
		合計数に対する割合	20.8%	3.4%	1.1%	7.1%	0.5%	33.1%
	無回答	回答人数	22	6	0	9	6	43
		問23 内での割合	51.2%	14.0%	0.0%	20.9%	14.0%	
合計数に対する割合		1.6%	0.4%	0.0%	0.7%	0.4%	3.2%	
合計	回答人数	853	155	44	256	35	1343	
	合計数に対する割合	63.5%	11.5%	3.3%	19.1%	2.6%	100.0%	

問23×問14クロス

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない
- ▨ 結婚は本人同士の問題なので反対はしないが、心情的には反対である
- ▩ 結婚は家族全員の問題なので、やめてほしい
- よく分からない
- ▨ 無回答

問 12×問 15 <同和問題の情報提供者>×<同和問題解決の施策や取組>

「同和問題に関する知識を何から得ているのか」と、「同和問題解決のために必要と思われる施策や取組」に対する考えの相関関係を、クロス分析により調べてみた。

問 15 で「そっとしておく方がよい」と回答した 385 名・28.7%（前回 463 名・34.7%）が、「同和問題に関する知識を何から得ているのか」を見ると、多かったのが「学校教育」22.3%（前回 46.0%）、「研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙」24.0%（前回 25.7%）、「新聞やテレビ、本や映画」25.2%（前回 25.5%）、「家族や親族」34.7%（前回 25.7%）、「友人や知人、職場の同僚や地域住民」33.2%（前回 28.9%）であった。

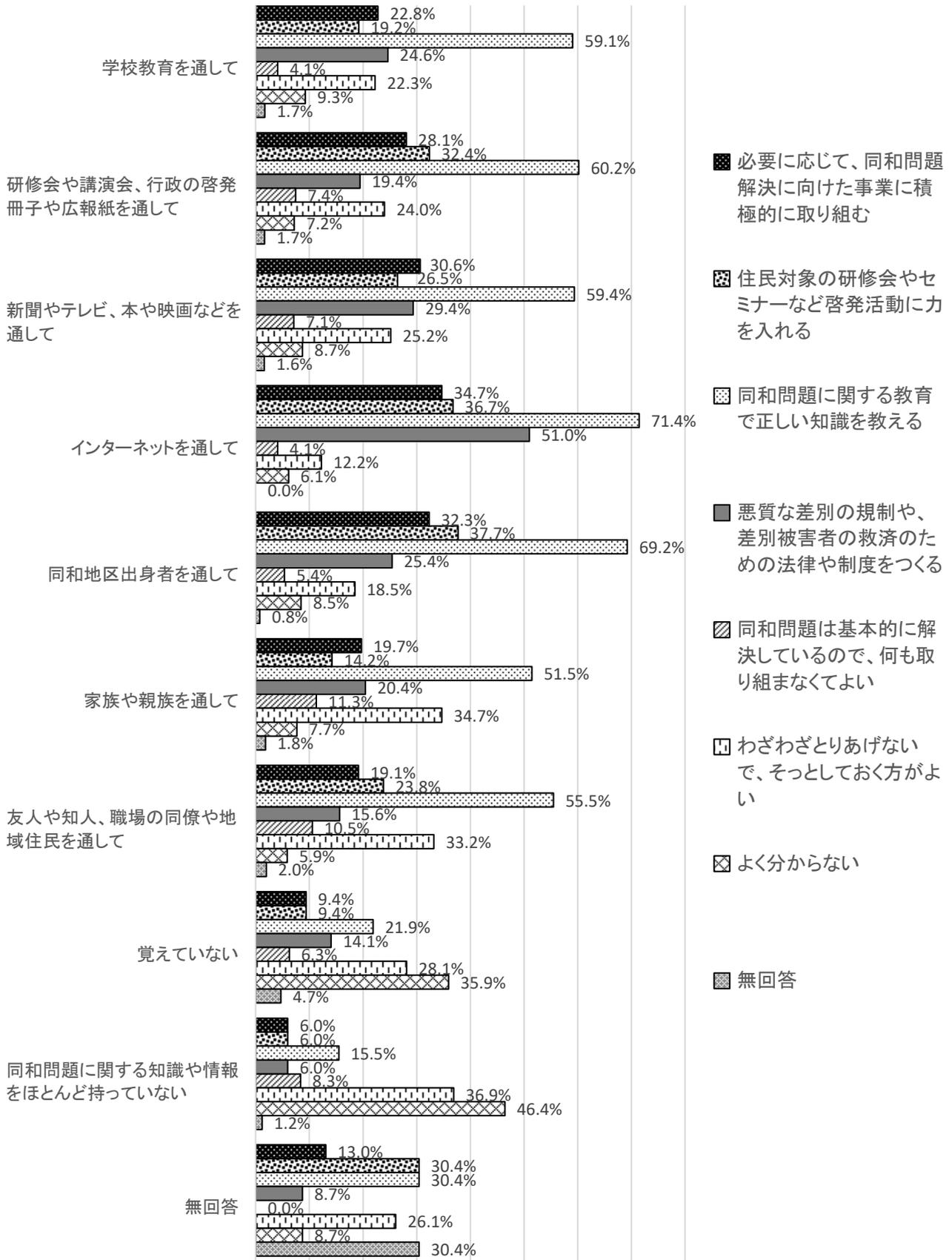
前回と比べ、「学校教育」と回答した者の割合が半減し、「家族や親族」「友人や知人、職場の同僚や地域住民」と回答した者の割合が増加することで、公的媒体を通して知識・情報を得ている者は、いわゆる「寝た子を起こすな」論に当たる「そっとしておく方がよい」を選ぶ割合が低く、私的会話を通して、知識・情報を得ている者は、「そっとしておく方がよい」を選ぶ割合が多いという傾向が、はっきりと示されている。

また、「インターネットを通して」知識を得ていると回答した者（49 名）の回答傾向を見ると、「事業に積極的に取り組む」34.7%（全体 17.3%）、「研修会や啓発活動に力を入れる」36.7%（全体 16.8%）、「教育で正しい知識を教える」71.4%（全体 49.3%）、「悪質な差別の規制や、差別被害者の救済のための法律や制度をつくる」51.0%（全体 17.8%）に対して、「解決しているので、何も取り組まなくてよい」4.1%（全体 6.6%）、「そっとしておく方がよい」12.2%（全体 28.7%）と、他の媒体・経路を選んだ者に比べ、部落問題解決に向けた積極性が目立つものとなっている。このことから、「インターネット」から知識・情報を得ることが、予断や偏見の拡散よりも、むしろ正しい知識・情報の獲得に役立っていることが分かる。

問12×問15クロス			問15 同和問題解決の施策や取組								
			必要に応じて、同和問題解決に向けた事業に積極的に取り組む	住民対象の研修会やセミナーなど啓発活動に力を入れる	同和問題に関する教育で正しい知識を教える	悪質な差別の規制や、差別被害者の救済のための法律や制度をつくる	同和問題は基本的に解決しているのので、何も取り組まなくてよい	わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい	よく分からない	無回答	合計
問12 同和問題に関する知識や情報	学校教育を通して	回答人数	172	145	446	186	31	168	70	13	755
		問12 内での割合	22.8%	19.2%	59.1%	24.6%	4.1%	22.3%	9.3%	1.7%	
		合計数に対する割合	12.8%	10.8%	33.2%	13.8%	2.3%	12.5%	5.2%	1.0%	56.2%
	研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙を通して	回答人数	117	135	251	81	31	100	30	7	417
		問12 内での割合	28.1%	32.4%	60.2%	19.4%	7.4%	24.0%	7.2%	1.7%	
		合計数に対する割合	8.7%	10.1%	18.7%	6.0%	2.3%	7.4%	2.2%	0.5%	31.0%
	新聞やテレビ、本や映画などを通して	回答人数	95	82	184	91	22	78	27	5	310
		問12 内での割合	30.6%	26.5%	59.4%	29.4%	7.1%	25.2%	8.7%	1.6%	
		合計数に対する割合	7.1%	6.1%	13.7%	6.8%	1.6%	5.8%	2.0%	0.4%	23.1%
	インターネットを通して	回答人数	17	18	35	25	2	6	3	0	49
		問12 内での割合	34.7%	36.7%	71.4%	51.0%	4.1%	12.2%	6.1%	0.0%	
		合計数に対する割合	1.3%	1.3%	2.6%	1.9%	0.1%	0.4%	0.2%	0.0%	3.6%
	同和地区出身者を通して	回答人数	42	49	90	33	7	24	11	1	130
		問12 内での割合	32.3%	37.7%	69.2%	25.4%	5.4%	18.5%	8.5%	0.8%	
合計数に対する割合		3.1%	3.6%	6.7%	2.5%	0.5%	1.8%	0.8%	0.1%	9.7%	
家族や親族を通して	回答人数	54	39	141	56	31	95	21	5	274	
	問12 内での割合	19.7%	14.2%	51.5%	20.4%	11.3%	34.7%	7.7%	1.8%		
	合計数に対する割合	4.0%	2.9%	10.5%	4.2%	2.3%	7.1%	1.6%	0.4%	20.4%	
友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して	回答人数	49	61	142	40	27	85	15	5	256	
	問12 内での割合	19.1%	23.8%	55.5%	15.6%	10.5%	33.2%	5.9%	2.0%		
	合計数に対する割合	3.6%	4.5%	10.6%	3.0%	2.0%	6.3%	1.1%	0.4%	19.1%	
覚えていない	回答人数	6	6	14	9	4	18	23	3	64	
	問12 内での割合	9.4%	9.4%	21.9%	14.1%	6.3%	28.1%	35.9%	4.7%		
	合計数に対する割合	0.4%	0.4%	1.0%	0.7%	0.3%	1.3%	1.7%	0.2%	4.8%	
同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない	回答人数	5	5	13	5	7	31	39	1	84	
	問12 内での割合	6.0%	6.0%	15.5%	6.0%	8.3%	36.9%	46.4%	1.2%		
	合計数に対する割合	0.4%	0.4%	1.0%	0.4%	0.5%	2.3%	2.9%	0.1%	6.3%	
無回答	回答人数	3	7	7	2	0	6	2	7	23	
	問12 内での割合	13.0%	30.4%	30.4%	8.7%	0.0%	26.1%	8.7%	30.4%		
	合計数に対する割合	0.2%	0.5%	0.5%	0.1%	0.0%	0.4%	0.1%	0.5%	1.7%	
合計	回答人数	233	226	662	239	89	385	172	35	1343	
	合計数に対する割合	17.3%	16.8%	49.3%	17.8%	6.6%	28.7%	12.8%	2.6%	100.0%	

問12×問15クロス

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80%



資 料

やめしじんけんもんだい かん しみんいしきちょうさ きょうりよく ねが
「八女市人権問題に関する市民意識調査」へのご協力のお願い

しみん みなさま ひ しせい りかい きょうりよく まこと
市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただきまして誠にありが
とうございます。

やめし げんざい しみんひとり じんけん たいせつ じんけんそんちょう
八女市では現在、市民一人ひとりの人権が大切にされる人権尊重のまちづくりの
すいしん じんけんもんだい かん かくしゆけいはつじぎょうとう とく
推進のため、人権問題に関する各種啓発事業等に取り組んでいます。

こんかい ぶらくさべつもんだい じんけんもんだい そうきかいけつ しみん みなさま
今回、部落差別問題をはじめあらゆる人権問題の早期解決のため、市民の皆様の
じんけんもんだい かん いしき こんご じんけんもんだい かん しさく すいしん
人権問題に関する意識をうかがい、今後の人権問題に関する施策をさらに推進してい
くん じんけんもんだい かん しみんいしきちょうさ じっし
くため、「人権問題に関する市民意識調査」を実施いたします。

しな い ざいじゅう さいじょう かつ にん むさくい えら
このアンケートは、市内に在住する18歳以上の方から3,000人を無作為に選ばせて
じっし れいわ ねん がつ にちきじゆん
いただき実施するものです。(令和2年6月1日基準)

かいとう ないよう どうけいてき しょり かいとう こじん
ご回答いただいた内容は統計的に処理しますので、回答していただいた個人が
とくてい ちょうさ もくてきがい しょう
特定されることはなく、また、調査の目的以外に使用することはありません。

いそが なか たいへんおそ い しゅし りかい きょうりよく
お忙しい中、大変恐れ入りますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力を
ねが
くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ
令和 2年 6月

やめし
八女市

やめしきょういくいんかい
八女市教育委員会

※ アンケートについてご不明な点などがありましたら、下記までお問い合わせください。

とあさき
【問い合わせ先】

やめししみんぶ じんけん どうわせいさく だんじょきょうどうさんかくすいしんか
八女市市民部 人権・同和政策・男女共同参画推進課

でんわ
電話：0943-23-1490

FAX：0943-22-2186

きにゅうじょう ねが
【記入上のお願い】

1. アンケートは封筒の宛名の方が対象ですので、ご本人が記入してください。
ご本人での記入が困難な場合は、代理の方が、ご本人の回答を確認の上、記入してください。
2. このアンケートは無記名ですので、名前を記入する必要はありません。
3. 回答の記入は、鉛筆または黒のボールペンでお願いします。
4. 回答は、該当する項目の番号を○で囲んでください。
5. 回答数については、「一つ」の場合や、「該当するものすべて」などの設問文に添って回答してください。
6. 記入が終わりましたら、同封している返信用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れて **7月31日(金)** までにポストに入れてください。

※ 基本項目

あなたの性別、年齢、お住まいの中学校区についておたずねします。

次の中から、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

ア 性別

- 1 男性 2 女性

イ 年齢……2020年（令和2年）6月1日現在でお答えください

- 1 18～30歳 2 31～40歳 3 41～50歳
4 51～65歳 5 66歳以上

ウ 現在お住まいの中学校区

- | | | |
|-----------|----------|------------|
| 1 福島中学校区 | 2 南中学校区 | 3 見崎中学校区 |
| 4 西中学校区 | 5 黒木中学校区 | 6 上陽北浜学園校区 |
| 7 筑南中学校区 | 8 立花中学校区 | 9 矢部清流学園校区 |
| 10 星野中学校区 | 11 分からない | |

1 人権問題全般についておたずねします。

問1 今の日本は、人権が尊重されている社会だと思えますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 尊重されていると思う
- 2 どちらかといえば尊重されていると思う
- 3 どちらかといえば尊重されていないと思う
- 4 尊重されていないと思う

問2 日本の社会には、基本的人権にかかわるさまざまな人権問題があります。次の中から、あなたが関心を寄せるものすべてに○をつけてください。

- 1 同和問題（部落差別問題）
- 2 女性の人権に関する問題
- 3 子どもの人権に関する問題
- 4 高齢者の人権に関する問題
- 5 障がい者の人権に関する問題
- 6 外国人の人権に関する問題
- 7 性的少数者の人権に関する問題
- 8 インターネットによる人権侵害に関する問題
- 9 その他
- 10 関心がない

とい 問3 あなたは、「差別をされた」と思ったことがありますか。ある場合、どのような事柄について差別をされたのか、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 年齢 | 2 学歴・出身校 |
| 3 職業 | 4 財産・家柄・家庭状況等 |
| 5 障がい・病気 | 6 性別 |
| 7 結婚の有無 | 8 容姿 |
| 9 同和問題に関連して | 10 人種・民族・国籍 |
| 11 思想・信条・宗教 | 12 いじめ・パワーハラスメント等 |
| 13 その他 | 14 差別されたことはない |

とい 問4 あなたは、自分の人権が侵害された場合、どのように対処しますか。次の中から、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 何もせずにごまかす
- 2 自分の力で解決する
- 3 友人・知人や家族に相談する
- 4 行政や人権擁護委員に相談する
- 5 警察・法務局、弁護士などに相談する
- 6 人権擁護団体やNPOなど、民間機関に相談する
- 7 その他
- 8 分からない

とい 問5 次の風習や習慣のうち、あなたが疑問に思うものすべてに○をつけてください。

- 1 結婚式は「大安」の日に挙げる
- 2 「友引」の葬式は避ける
- 3 「血液型」で人を判断する
- 4 「方角」の吉凶に配慮する
- 5 結婚相手の「家柄」を問題にする
- 6 疑問に思うものはない

問6 あなたは、この5年間に、仕事の中で人権問題に関する研修を受けたことがありますか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 人権問題の解決に關係する仕事に就いている (いた)
- 2 繰り返し研修を受けている (いた)
- 3 研修を受けたことはある (あった)
- 4 研修を受けたことがない
- 5 覚えていない
- 6 働いたことがない

問7 2016年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」について、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 法律があることも法律の内容もよく知っている
- 2 法律があることも法律の内容も少しは知っている
- 3 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
- 4 そういう法律があることを知らない

問8 同じく2016年に施行された「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)」について、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 法律があることも法律の内容もよく知っている
- 2 法律があることも法律の内容も少しは知っている
- 3 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
- 4 そういう法律があることを知らない

問9 同じく2016年に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」について、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 法律があることも法律の内容もよく知っている
- 2 法律があることも法律の内容も少しは知っている
- 3 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
- 4 そういう法律があることを知らない

問10 2000年に施行された「児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）」及び2006年に施行された「高齢者に対する虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」には、虐待を発見した者は、関係機関に速やかに連絡しなければならないとする「通告義務」が定められていますが、このことを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 「児童虐待」については知っていたが「高齢者虐待」については知らなかった
- 3 「高齢者虐待」については知っていたが「児童虐待」については知らなかった
- 4 知らない

2 同和問題（部落差別問題）についておたずねします。

問11 あなたが同和問題について知ったのはいつ頃ですか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 12歳未満（小学生の頃）
- 2 12歳～15歳未満（中学生の頃）
- 3 15歳～18歳未満（中学校を卒業して、または、高校生の頃）
- 4 18歳以上（大人になって）
- 5 覚えていない
- 6 同和問題のことは知らない

問12 あなたは、同和問題に関する知識や情報を、何を通して得ましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 学校教育を通して
- 2 研修会や講演会、行政の啓発冊子や広報紙を通して
- 3 新聞やテレビ、本や映画などを通して
- 4 インターネットを通して
- 5 同和地区出身者を通して
- 6 家族や親族を通して
- 7 友人や知人、職場の同僚や地域住民を通して
- 8 覚えていない
- 9 同和問題に関する知識や情報をほとんど持っていない

問13 同和地区住民の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

- 1 結婚に際して周囲の理解が得られない場合があること
- 2 就職に際して不利な取り扱いを受ける場合があること
- 3 仕事をする上で不利な取り扱いを受ける場合があること
- 4 地域社会の付き合いの中で不公平な取り扱いを受ける場合があること
- 5 同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書きがあること
- 6 土地や住居等の取引の中で、同和地区かどうかを調べたりすること
- 7 インターネット上に部落差別を助長するような情報や書き込みがあること
- 8 その他
- 9 特に問題と思うことはない

問14 「同和地区出身ではない人が同和地区出身者と結婚しようとする、周囲から反対される」という出来事について、あなたの考えと最も近いものを一つ選んで○をつけてください。

- 1 結婚は本人同士の問題であり、何も気にしない
- 2 結婚は本人同士の問題なので反対はしないが、心情的には反対である
- 3 結婚は家族全員の問題なので、やめてほしい
- 4 よく分からない

問15 あなたは、同和問題を解決するためには、どのような施策や取り組みが重要だ
とおもいますか。重要だと思ふものすべてに○をつけてください。

- 1 必要に応じて、同和問題解決に向けた事業に積極的に取り組む
- 2 住民対象の研修会やセミナーなど啓発活動に力を入れる
- 3 同和問題に関する教育で正しい知識を教える
- 4 悪質な差別の規制や、差別被害者の救済のための法律や制度をつくる
- 5 同和問題は基本的に解決しているので、何も取り組まなくてよい
- 6 わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい
- 7 よくわからない

3 さまざまな人権問題についておたずねします。

問16 女性の人権に関することで、特に問題であると思ふものすべてに○をつけて
ください。

- 1 女性の社会進出を支援する制度が不十分なこと
- 2 職場や学校における差別待遇
- 3 職場や学校における性的いやがらせ
- 4 女性の人格を否定するような性的情報・メディアが多いこと
- 5 「男は仕事で女は家事や育児」といった男女の役割分担意識
- 6 私的関係における男性の暴力的対応やストーカー行為
- 7 その他
- 8 特に問題と思ふことはない

問17 子どもの人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

- 1 保護者による育児放棄や虐待
- 2 いじめ問題
- 3 教師やスポーツ等の指導者による体罰問題
- 4 子どもの意見を尊重する社会意識が不十分なこと
- 5 子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと
- 6 児童買春や児童ポルノなどの犯罪行為
- 7 その他
- 8 特に問題と思うことはない

問18 高齢者の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

- 1 高齢者をねらった悪徳商法や振り込め詐欺
- 2 高齢者の一人暮らしが多いこと
- 3 高齢者を対象とした介護、福祉、医療施設や制度が不十分なこと
- 4 高齢者に対する暴力・虐待行為など、その人格が尊重されていないこと
- 5 バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること
- 6 社会の情報化から取り残されてしまうこと
- 7 その他
- 8 特に問題と思うことはない

問19 障がい者の人権に関することで、特に問題であると思うものすべてに○をつけてください。

- 1 就労保障が不十分なこと
- 2 障がい者を対象とした介護・福祉・医療施設や制度が不十分なこと
- 3 障がい者に対する差別的言動など、その人格が尊重されないこと
- 4 バリアフリーが不十分なため外出の際に不便であること
- 5 体育・文化活動や地域行事等に参加するためのサポートが不十分なこと
- 6 行政からのお知らせなど、公的な情報が伝わりにくいこと
- 7 その他
- 8 特に問題と思うことはない

とい 問20 がいこくじん じんけん かん 外国人の人権に関する^{とく もんだい おも}ことで、特に問題であると思うものすべてに○をつけて
ください。なお、1～3の^{せんたくし にほん う そだ がいこくせき かた かん}選択肢は、日本で生まれ育った外国籍の方に関する
じんけんもんだい じんけん 人権問題、4～6は、^{しゅうろう しゅうがく あら らいにち がいこくじん かん}就労や就学のために新たに来日した外国人に関する人権
もんだい かいとう 問題としてご回答ください。

- 1 ^{がいこくじん たい さべつてきげんどう} 外国人に対する差別的言動（ヘイトスピーチ）があること
- 2 ^{きょういく しゅうろう きょじゅうとう ふり あつか う} 教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること
- 3 ^{けっこん さい しゅうい ほんたい う} 結婚の際に周囲から反対を受けること
- 4 ^{しゅうかんと う こと ちいきしゃかい う い} 習慣等が異なるため地域社会で受け入れられにくいこと
- 5 ^{しせつ がいこくごひょうじ ふじゅうぶん りよう さい ふべん} 施設に外国語表示などが不十分なため、利用の際に不便であること
- 6 ^{ぎょうせい し こうてき じょうほう つた} 行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと
- 7 ^{ほか} その他
- 8 ^{とく もんだい おも} 特に問題と思うことはない

とい 問21 じょう じんけんしんが い かん インターネット上の人権侵害に関する^{とく もんだい おも}ことで、特に問題であると思うもの
すべてに○をつけてください。

- 1 ^{じょう はつげん げんいん お} ネット上の発言が原因となり、さまざまなトラブルが起ること
- 2 ^{こじんじょうほう りゅうしゅつ まね} 個人情報の流出を招くこと
- 3 ^{はんざい ま こ きげん} さまざまな犯罪に巻き込まれる危険があること
- 4 ^{ぼうりょく せい かん ゆうがい じょうほう がぞう おお} 暴力や性に関し、有害な情報や画像が多いこと
- 5 ^{さべつ じょちょう あお ひょうげん じょうほう おお} 差別を助長したり煽ったりするような表現・情報が多いこと
- 6 ^{ねんれい むかんけい じょうほう} 年齢とは無関係にすべての情報にアクセスできること
- 7 ^{こ わかもの いぞん いぞん きいん もんだい} 子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題
- 8 ^{ほか} その他
- 9 ^{とく もんだい おも} 特に問題と思うことはない

問22 「性自認（せいじにん）の性（せい）」や「性的指向（せいせきしこう）（異性愛（いせいあい）・同性愛（どうせいあい）・両性愛等（りょうせいあいとう）」に起因する（きいん）、性的少数者（せいせきしょうすうしや）の人権（じんけん）に関する（かん）ことで、特に問題（とく もんだい）である（おも）と思うものすべてに○をつけてください。

- 1 当事者（とうじしや）が自身（じしん）の問題（もんだい）について相談（そうだん）できる人（ひと）や場所（ばしょ）が存在（そんざい）しないこと（おお）が多いこと
- 2 当事者（とうじしや）の成長過程（せいちょうかてい）において役割モデル（やくわり）となる人（ひと）が存在（そんざい）しないこと（おお）が多いこと
- 3 性的少数者（せいせきしょうすうしや）の問題（もんだい）に関する正しい知識（ただ）を得る（ちしき）機会（え）がないこと（きかい）
- 4 家族（かぞく）や学校（がっこう）の先生（せんせい）が、性的少数者（せいせきしょうすうしや）の問題（もんだい）に無理解（むりかい）な場合（ばあい）が多いこと（おお）
- 5 性的少数者（せいせきしょうすうしや）は、病気（びょうき）や異常（いじょう）だと誤解（ごかい）している人（ひと）が多いこと（おお）
- 6 性的少数者（せいせきしょうすうしや）を受け入れる（う）状況（い）が、職場（じょうきょう）や学校（しょくば）にないこと（がっこう）
- 7 性的少数者（せいせきしょうすうしや）への理解（りかい）を広げる（ひろ）ような啓発（けいはつ）や教育（きょういく）が不十分（ふじゅうぶん）なこと
- 8 同性婚問題（どうせいこんもんだい）に代表（だいひょう）される（せいせきしょうすうしや）ように、性的少数者（じんけん）の人権（ほしょう）を保障（ほうりつ）するための法律（ほりつ）や制度（せいど）が整備（せいび）されていないこと
- 9 その他（ほか）
- 10 特に問題（とく もんだい）と思う（おも）ことはない

4 市（し）が行（おこな）っている啓発活動（けいはつかつどう）についておたずねします。

問23 あなたは、市（し）が発行（はっこう）している「広報八女（こうほう や め）」に掲載（けいさい）されている人権（じんけん）のページ「なぜなぜ人権（なぜなぜじんけん）」を読（よ）んだことがありますか。次（つぎ）の中（なか）からあてはまるもの（えら）を一つ選（えら）んで○をつけてください。

- 1 いつも読（よ）んでいる
- 2 ときどき読（よ）んでいる
- 3 「なぜなぜ人権（なぜなぜじんけん）」が載（の）っているのは知（し）っているが、読（よ）んだことはない
- 4 「なぜなぜ人権（なぜなぜじんけん）」を知ら（し）ない

問24 あなたが人権問題に関する知識や情報を得る上で、役に立っていると思うものすべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 行政の広報紙やパンフレットやホームページ | 3 職場を通しての研修会 |
| 2 住民対象の講演会やイベント | 5 マスコミの報道 |
| 4 学校で行われる研修会 | 7 その他のメディア |
| 6 インターネット | 9 その他 |
| 8 知人や家族等との会話 | 10 特にない |

問25 あなたが今後の行政施策として特に重要であると思うものすべてに○をつけてください。

- 1 人権教育や啓発の充実
- 2 福祉や教育・行政関係者等に対する研修の徹底
- 3 企業や事業者に対する啓発の充実
- 4 人権問題に関する相談窓口の充実や開設
- 5 個別の人権問題に対応する新たな制度や社会インフラの整備
- 6 人権侵害に対する規制や取り締まりの強化
- 7 人権侵害を受けた人に対する救済手段の確立
- 8 バリアフリーのまちづくりの推進
- 9 その他
- 10 特にない

※ これまでいろいろおたずねしましたが、回答の「その他」に関することや人権問題、人権行政に関して、ご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒で7月31日(金)までにご返送下さい。

